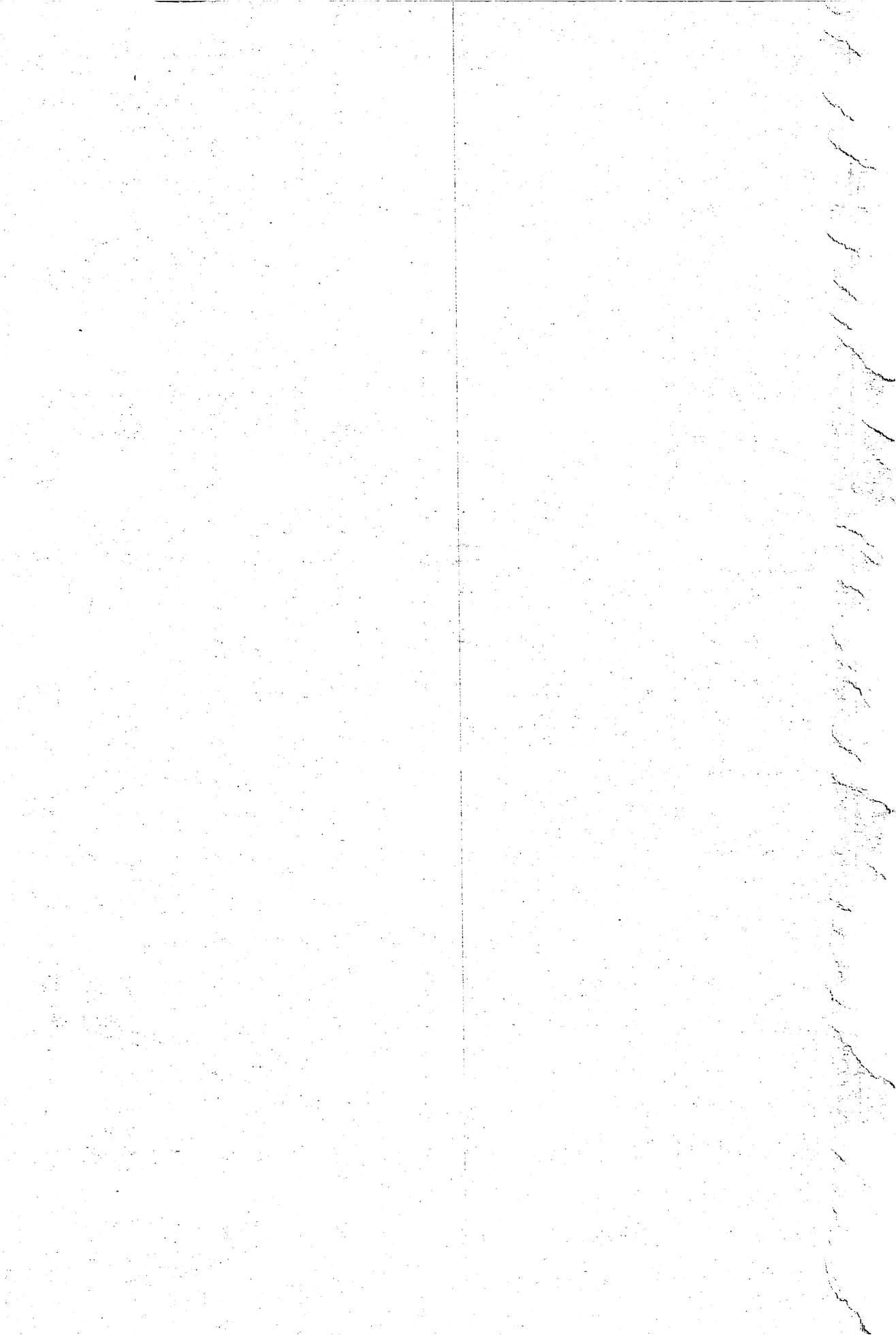


平成十六年三月  
津山郷土博物館紀要第十八号

# 津山松平藩町奉行日記 十二

寛政四年（一七九二）  
寛政五年（一七九三）

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 十二

# 目次

町奉行御用日記	寛政四年	後藤守助	松岡治部助	増見右門	.....	1
	同 五年	増見右門	松岡治部助	.....	132	
				.....	133	
				.....	166	

# 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」寛政四年および同五年正月〜三月を収録した。

一、本文の表現は、つとめて原文の形にしようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）

及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

ろ（より）、ゞ（して）、匠（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで解読できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に

残っていて文字を記してあるものは、その箇所に○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は乾康二が担当した。なお、寛政四年正月〜十二月の翻刻に関して宗森英之氏の協力を得た。

寛政四壬子年 正月ヨリ  
十二月迄

御用日記

後藤守助

四十五 松岡治部助

増見右門

(表紙)

寛政四壬子年正月御月番

御家老 永見造酒介殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大御目付渡部惣右衛門

月番大年寄

斎藤孫右衛門

朔日 曇

一五時登城年頭為御祝儀大目附三奉行於御用所月番御家老謁左之通

申述候様大御目付被申聞

東武ニおゐて上々様益御機嫌克可被遊御越歳奉恐悦候年頭御祝儀

申上候旨申上上之年頭申述之御家老中挨拶早而若殿様江も年頭御

祝儀申上候同断

右早而自分挨拶

右者御用所江三奉行席順ニ罷出事

正月二日 小雪

一御蔵米七拾匁五分町米六拾六匁五分

一御用初御祝儀ニ付五ツ半時登城三奉行并御蔵奉行御金奉行一同御

用所へ罷出筆頭之恐悦申上早而市郷御静謐之段町奉行郡代之御用

番中へ申上之退座於焼火之間御吸物御酒頂戴右御礼者大目付中へ

申達又

一大年寄札元御用達諸吟味年礼受之盃遣又

正月三日 晴

一大年寄年礼として罷越

正月四日 晴

正月五日 雪

一乃井野福居市郎左衛門白檉仙右衛門年頭祝書并去亥年中錢相庭高

之儀申来調飛脚相渡

正月六日 晴

一西川斎藤六藏倉鋪宗右衛門之祝書到来及相答

一町々年寄共年礼受之大保頭目明同断月番大年寄名披露

一下紺屋町紙屋庄五郎妻備中阿賀郡上唐松村治兵衛方へ差越人別除

願及御沙汰去歲分三人

正月七日 晴

一若菜之為御祝儀三奉行以上檜之間五半時登城謁方御振合平日之通

御用所迄御祝儀申述

正月八日 晴

一眼病氣ニ付仕御断松岡治郎助へ相頼

一来ル十六日大年寄札元其外御用所謁之儀相伺御門通行名面書中奥目付へ相達

一祇園三位御札御奏者太田舍人へ伺之上蔵合孫左衛門ヲ差上ル御門通行中奥目付へ相断

一来ル十六日御具足御祝ニ付御徒已上五時登城御留守年御礼式之内へ書入候様御奏者廻状到来

一勝山渡辺唐兵衛榊原九郎左衛門ト年頭祝書到来單返答候  
正月九日 不正

一御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分

一御近習外縁出合之儀去夏以来嚴敷御札被仰出候処或ハ文武技芸師弟出会之伺相濟居候へハ稽古哉ニも出会又ハ参合同座難詰等も無遠慮不慥之趣相聞不慎之輩江ハ可令異見御用番御年寄伊達与兵衛殿ト被申聞相達候由大目付廻状到来

一坪井庄田伊三郎年頭祝出到来及相答候

一久世御代官所ニ而旧臘牢拔逃去候盜賊弥助長吉兩人之内弥助義ハ旧臘因州鳥取ニ而被召捕久世へ引取長吉儀ハ行衛不相知間手代ト町奉行郡代連名書状到来御用番与兵衛殿江伺之上及相答候

一例年之通左義長之触書出ス

正月十日 雪  
正月十一日 晴

正月十二日 夜雪

一伏見町綿屋藤吉借家文吉勝間田ニ而旧臘江戸表出訴罷越候旨申触レ候一件遂吟味同書印形申付家主組合年寄吟味之義大年寄へ申付

正月十三日 朝雪

一材木町針屋政八方内々留置候吉兵衛備後国鞆津船中病死政八并橋本町長崎屋代助申談吉兵衛死骸押隠野原へ堀埋候一件政八義も病死ニ付懸合之者旧臘吟味之上御裁許之義泰安寺徹山も懸リ合ニ付社方引合双方ト御用番与兵衛殿へ相伺候処伺之通御差函有之日限之儀ハ追而可申談「寺社方江も申置候

一大年寄三人歳末御祝儀差上物被露相濟候段御奏者番小嶋新五右衛門岡村要助ト奉礼到来其段使へ申達ス

一宮川尻横山村河原ニ信州者之由二人連之四国遍路老人行倒死橋本町ト出会承候処兄弟連ニ而兄煩弟ハ盲人ニ而不取止事背負旅行ニ而彼之所ニ背を下シ容鉢伺候処何此之間ニやら相果候由盲人歎罷有候由申出大御目付士江も為相知猶郡代中江も達候

正月十五日 晴  
正月十六日 晴

一如嘉例御具足御祝儀ニ付諸士登城当役於宇治橋御祝儀頂戴後藤守助岸權六伊藤妥女村上清太夫植木左士頂戴御礼謁七間廊下ニおるて大目付当役三奉行迄御奏者番謁為御祝儀御用所江も罷出ル  
一大年寄札元町医御用達諸吟味御蔵元御用所謁左之通

松之間南御縁側下段北向町医

御用所松之間御敷居之内南向御出席中島宗元入口東外西向大目付

渡部惣右衛門出席同所東向入口西町奉行ヨリ年頭御祝義申上候旨  
取合

中ノ口下段北ヲ頭トシ並居大年寄札元大庄屋

御用所中ノ口御居間内西向

大年寄

御出席大目付渡部惣右衛門

斎藤孫右衛門

御居間内南御<sup>(素)</sup>際出席

玉置源五兵衛

町奉行<sup>(敬)</sup>居内北着座郡代南

札元

南向大年寄札元町奉行名披露

武田七郎兵衛

何茂年頭御祝儀申上候旨述之

茂渡藤右衛門

郡代大庄屋披露同断

玉置卯左衛門

御用所松ノ間御入座

見習

御用所松ノ間御入座

山本甚藏

御用所松ノ間御入座

妹尾新吉

御用所松ノ間御入座

諸吟味御用達

御謁振合前条之通相濟

三船八郎右衛門

為引取直ニ御用所御退出

久山勘八

御用所御退出

豊岡藤十郎

御用所御退出

豊屋喜左衛門

一不参之面々左之通御謁前御用所并大目付中へ不参書付差出当病藏

合孫左衛門茂渡庄右衛門山本平右衛門山本弥吉姫路屋彦兵衛熊野

屋文五郎

正月十七日 雨

正月十八日 小雨

一船頭町今津屋孫十郎備中国築瀬銀山ニ堀溜置候<sup>(ツ)</sup>箔石去亥年中吹立

可濟之処未相殘然ル処久世御代官所御支配西北条郡大町村五左衛

門と申者借銀為立用残り箔石相渡猶下稼<sup>(ツ)</sup>之儀者并村七郎次へ掛

合山方引退申度旨笠岡御代官所江掛合遣候様願出其段御用所同

之上願書写相添書面相認孫十郎へ相渡

一元御<sup>(中)</sup>園間嘉六去々戊秋藤掛儀兵衛退去之節不届有之牢舍申付去歲

可及裁許処相牟之者ト塵紙かけ致博奕元御家人之義別而可相慎

処無其儀右躰之及始末重々不届ニ付五十敲之上御家中住居御<sup>(ツ)</sup>排差

構候之旨去十一月相伺置候処伺之通可取計旨於御用所大目付渡部

惣右衛門出席御用番与兵衛殿を被仰渡

一諸国造酒之儀兼而三分一造被仰出猶また去歲凶作ニ付江戸廻リ酒

浦賀橋場両御番所ニおるて改印被仰付江戸何之誰何之國何之誰ト

送り状相添可申無左候而ハ入津難成旨公儀を御触達之趣大目付よ

り御書付被相渡造酒屋共へ被仰出候趣為心得相達候様大年寄共へ

申渡ス

一旧冬元勝部村利藏牢死之節悴新七於牢内孝行尽し右至孝ニ被免死

骸ハ村方親類共へ被下置可然哉之趣相伺同之通被仰出然ル処於江

戸表至孝ト有之候而ハ至之一字ニ而格段之儀孝心与可有之思召候

旨江戸表より申来御用番中其段相達候様大目付平井郷左衛門へ

御沙汰之由同人被申聞右ニ付松岡治部助を以差扣相伺候処可被仰

付候得共此節差向候御用向可有之候ニ付不及其儀旨被仰出候

一初山村善助孫治三郎堺町豊屋喜左衛門養子引受人別人引合之上承  
届ル

正月十九日 晴

一 御中間嘉六於牢家門前五十敲御家中住居徘徊差構之且又於牢内去亥九月博奕いたし候ニ付左之者共同所ニ而五十敲婦村郡代所取計従而役所立合ハ差出

二 宮村伊兵衛勘治兵助藤七院庄村伊三郎弥次郎孫右衛門廣治中島村瀬助右取計ニ付御徒目付河村市兵衛下目付老人当役所小頭書役部屋目付出番平組兩人右相濟御用番与兵衛殿江御届申達候大目付渡部惣右衛門同断

正月廿日 晴

一 材木町針屋政八方ニ内々留置候吉兵衛死骸竊野原へ取埋候一件今日左之通申付

戸ノ 橋本町長崎屋代助

追込 右同人召仕源兵衛

追込 材木町萬や才吉

借家要助

右者於役所申渡戸ノニ付同心組差出取計之上御用番与兵衛殿へ御届申達大目付同断申渡委事ハ留帳ニ有

一 西新町嘉七役介利右衛門足田左近家来ニ相成居候之処暇取町方帰住人別人承届ル

一 西新町清藏役介新右衛門近藤伊右衛門家来ニ相成居候之処暇取帰住人別人承届ル

一 船頭町川手土橋上ミ腰石垣を放レ川中磯ニ溺死者有之名所不相知候へとも及註進候旨同町年寄申出川中ハ横山村分ニ付郡代中へ申

遣尚大目付渡部惣右衛門へ相達候然ル処新魚町伊部屋八左衛門と申者之由昨日橋本町蓬菜屋孫市方ニ而大酒いたし其後不相見趣右ニ付立合見分可申付旨郡代中へ懸合其段御用番与兵衛殿并大目付中へ以手紙先相達置今八時見分差出候様郡代中申合部屋目付中村吉治差出郡代下代木村勘八立合見分遂吟味候之儀其近辺ニ取置候様村方全溺死粉無之趣親類組合一札取之溺死之儀其近辺ニ取置候様村方右申聞惣墓葬候様取極一札文段ニ籠差出郡代中江も御聞濟ニ付取置申付大御目付士江も相届ル

正月廿一日 晴

正月廿二日 晴 夜雪

正月廿三日 晴

一 今日不快ニ付当病御断松岡治部助を以御届申達

一 備前盤梨郡佐伯頭村大庄屋小国宗七郎娘すえ東新町佐伯屋与三兵衛方へ嫁ニ引取人別入及御沙汰二月三日住宅証文出ス

一 去亥十二月中町方人別生死出入左之通

出生十七人 内男八人

女九人

人別除十人

死失六人

差引而六人減

一 懐胎九人

一 吹屋町鍋屋次郎右衛門勝月村植月東村慈円寺鐘鑄被相頼二月朔日

発立廿日計逗留願承り届

(貼紙)

出生十七人	男子八人	死替菅人
人別入五人	人別除十人	死失十八人
差引六人減		
懐胎九人		

一元御中間嘉六福渡町庄兵衛借家へ人別人承届

一材木町河内屋武平方にて染地六反<sup>つマツ</sup>失断出目明共へ吟味申付猶御用番与兵衛殿江伺之上町触出ス但し廿一日ニ可書記分

正月廿四日 晴

正月廿五日 晴

正月廿六日 晴

正月廿七日 晴

一材木町屋才吉借家要助追込差免両御方へ御届申達

〔一〕油直段綿草高直ニ付只今迄之直段にてハ引合兼候ニ付直段式分上之儀申出承届両御方江も申達ス 但し四匁式分壳候処四匁式分

一鍛<sup>た</sup>町下横丁ニおゐて非人躰<sup>た</sup>之者伊藤采女長屋者之妻子見逢自分妻子之由四国遍路旅中<sup>と</sup>被奪取尋当リ妻を可捕と追欠候<sup>と</sup>処逃去

右小倅ヲ捕妻敵太郎松ヲ志候由讚州大内郡平井村善吉与申者之由三ヶ年来尋廻リ非人躰ニ身ヲやつし候之趣与人立之様子目明

孫兵衛申出仍而伊藤采女方へ申遣候処長屋者太郎松事文八最早長屋差出二階町受人忠藏江相渡し候由ニ付即刻組目付目明共へ申付

文八夫婦共召捕忠藏江預ケ右非人躰善吉并同人捕候小倅共ニ召捕善吉ハ非人小家へ預ケ右小倅ハ忠藏へ預ケ昨日以来様子糺し申付

候処善吉去亥三月同人妻召連レ四国遍路ニ罷出候処於土州妻病氣在所へ帰り度申候へ共善吉不承知然ル処同行之内在所へ帰候者有

之其者へ妻ヲ連具候様相頼善吉計<sup>と</sup>扁路いたし予州大洲御領与夫婦連レ山状幼少之男子老人つれ是又遍路同行ニ相成候処右妻子ヲ善

吉奪取備中国へ連行同人相煩候処同国□□村穢多太郎松ニ猶又

妻子ヲ奪取られ夫より一人所々袖乞いたし相廻於御当地彼妻子ニ

見逢候故頻ニ立腹之余於御城下狼籍相働恐入全ク右躰之始末ニ御座候妻敵討杯と申心底毛頭無之誤リ入候旨一札差出仍而右躰誤も

なき事故役場合切追払可然尤忠藏へ預置文八妻子共方隔ヲ分ケ同様取計可然哉之趣市中之儀昨日人立も有之候大目付渡<sup>と</sup>惣右衛門

へ及相談候処存寄も無之猶又御用番与兵衛殿及御内達候御同家ニ付為念善吉誤リ一札爪印取之目明非人へ申付御領外へ送り出ス

文八并女子共受人忠藏并組合へ申付是又御領外へ送り出ス

一林田町門屋龜藏父前原久左衛門御城代組番代町方帰住人別人承り届

一西今町玉屋吉右衛門所持旅籠屋株西新町山家屋利右衛門へ五ヶ年貸願承届

一勢州白子村形屋仁左衛門手代庄吉伊兵衛紺屋形壳堺町西川屋善助宿切手出ス

正月廿八日 晴

一今日出仕之面々麻上下着用御祝儀申上ハ無之

一旧臘町方夜廻并加廻申付置候処此節盜賊沙汰無之来月朔日夜切引取候様可申付哉之旨御用所へ相達其段下方へ申付尤郡代中申合ル

一西新町北側江見屋伝七所持家屋敷表口三間半裏行拾七間但半役五人相談之上代銀札六百匁ニ相究同町玉屋栄藏へ壳渡し願承届二月十日壳券状出ス

正月廿九日 不正

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代方来状右御支配作州櫻村西谷ニ

おるて去冬被召捕候盜賊市二郎盜取候品之内当御城下宮脇町武田屋同西今町永田屋并林田新町家名不覚当人名前偽質物ニ差入候段及白状糺之上無相違候ハ、右色品不取散猶懸合有之内質屋他国行留置候様申来可通承知之返書取計猶下方吟味申付其段御用番与兵衛殿并大目付士江相達候

二月御月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 本多左門殿

大御目附伊達頼母

月番大年寄

玉置源五兵衛

朔日 雨

一橋本町長崎屋代助下人源兵衛追込今日指免両御方へ御届申達候

二月二日

一福渡町目明皆木屋甚助去亥年安岡町坂本屋喜兵衛二宮原ニ作置候西瓜被打碎其節二宮原治右衛門方ニ而博奕いたし右一件露頭を厭内濟取組目明不似合不届ニ付役義取放牢舎申西瓜打碎候狼籍者手懸承候ハ、申出候様喜兵衛同人方之者へ申付猶目明共江も申渡一昨夕斎藤孫右衛門前ニ而行倒者有之店江引入相尋候処備前国建部杉屋忠左衛門と申者之由奉公稼ニ御当地へ罷出候処持病之疼差起行歩不叶未奉公口も不承合宿之儀申付呉候様相願候故旅籠屋頭へ申付西新町江見や伝七へ宿申付遣医療加候処今曉と差重五半時比

相果候段申出即刻其段御用番左門殿并大目付江も相達一当人在所

江も町内急飛脚指立尚為見分部屋目付中村善治遣病死相違無之一札取差出候へとも懸方之儀建部親類共不相越見分一札を以翌三日御用所へ病死相違無之趣申達置大目付士同断

一福渡町浦嶋屋伊兵衛後家くめ孤独扶持被下置有之候処左病ニ而昨今差重候趣断出早速部屋目付中山金藏病躰為見分差向一札取猶医師容躰書差出然ル処晚刻落命之段大年寄共届出ル翌三日御用所江申達大御目付同断

二月三日 晴 出仕

二月四日 晴

二月五日 晴

一伏見町大工文吉一件御裁許左之通於役所申渡ス

伏見町綿屋

藤吉借家

大工文吉

元在所南庄町へ懸り合江戸訴可致と無断他出申触し候始末不届ニ付妻子供兩人一同御領分追払

右大家綿屋

藤吉

右文吉妻人別ニも不加差置候段不埒ニ付追込三日

右藤吉組合

六人

右文吉妻人別ニ不差加差置候之段等閑ニ致置候ニ付急度叱り

右町年寄

源助

右同断乍存人別ニ不加差置候ニ付

急度叱

善兵衛

右之通取計御用番左門殿并大御目附中へ相届但文吉家内一同深峪御堺目へ追払同心組萩野嘉七石名元蔵出ル

二月六日 晴

一為年頭御祝儀大年寄三人御肴一種ツ、惣町分御肴一種献上於東武披露相濟候之段御奏者小嶋新五右衛門岡村要助より奉札到来其段申渡

一去ル二日元魚町ニ而行倒西新町江見屋善助方へ遣相果候忠左衛門備前御野郡原村権四郎悴之由相聞候ニ付右村方飛脚差立承合候処右躰之者心当無之旨名主（トク）印書差越然ル上者無宿相違無之前方当町奉行稼も致候趣も相聞候得共程を経候之儀取捨可申付懸リ無之併無宿ニ候得共一旦当人願ニ仍而宿申付候へバ非人取捨可申付ニも有之間敷ニ付惣墓へ宿より取捨候様申渡ス尤右之趣御用番左門殿他出ニ付与兵衛殿へ相伺候上申付大御目付士へも相達

二月七日 あられ雪

一東新町安永屋武助娘きく妹尾九十郎妻差出人別除承届ル  
一西今町南側京屋伝兵衛所持家屋敷表口七間裏行十五間但五分五厘役也土蔵式ヶ所建物不残外ニ開地東西五間六尺南北九間添元魚町福増屋源兵衛取次ニ而銀札貳貫五百目来ル丑正月切家質入願承届ル十五日本証文出ス

二月八日 雪

一伏見町綿屋藤吉追込差免両御方へ御届申達ス  
一土岐美濃守殿御領分英田郡北村清八紛茂吉与申者船頭町宮地屋和

吉由緒有之引請渡世為仕度人別入願承届ル二月十五日佳宅証文出ス

一東新町松本屋新六姉久世村森道順妻差遣人別除願及御沙汰候

一札元山本弥吉甥房四郎与申者堺町三津屋胡三郎方ニ罷有引取養子ニ致度願御用所及御沙汰願書大御目付士へも差出

一ニ階町鉄砲屋惣左衛門裏御堀へ端塀破損取繕御堀へ足代下シ断書并堀下石垣幅式間深サ四尺斗破損御繕場所書付別紙相添差出大御目付中相達候

一講元今尾屋忠兵衛去ル二日病死右代り人物選之儀大年寄諸吟味共へ申付候処檉野屋茂一郎申付可然旨申出勘定奉行植木左士江相談之上御用所へ相伺候処申付候様左門殿御申聞被成大年寄へ申付

一去冬三會万人講殘雖十月分卷本十一月分式本都合三本銀高三貫貳百四拾四匁七分式厘札元茂渡藤右衛門へ預御用所大御目付相達御指図請取計

一美濃職人町豊後屋宇助抱分田畑山北村ニ有之去才追放之節取上入札之儀市郷相触御代官古木義作方ニ而取計山北村落札式百三匁之御払ニ相成同人ノ銀札役へ相納□候処右田畑美濃職人町団屋甚兵衛取次銀札八拾目借用証文有之元分八拾目式百三匁之内ニ而引渡手形取殘百式拾三匁之分欠所物ニ取計其段御用所へ申達大御目付士江も達候且又藤懸義兵衛大小銀札十五匁古手屋久治落札御払取計是又同様□御沙汰候

一御使組神原庄蔵役介もの東新町安永屋武助妻引受人別入願承届正月改ニ入

一備前牛窓大工市兵衛喜右衛門五郎右衛門善助小作半右衛門宿二階

町塚屋伊右衛門切手出入 丑正月十七日掃  
届有之

二月九日 雪

二月十日 晴

一 久世御代官所ニ而被召捕候無宿市太郎盜物当御城下西今町永田屋  
喜七宮脇町武田屋山三郎東新町佐伯屋与三兵衛方へ質物ニ去亥五  
月名前偽近郷者之由ニ而質物ニ差入其外質屋共方々右偽之名前を  
以質物無之哉相糺質物ニ不取□追而差図有之迄他国出行御差留置  
同所手代共去月廿九日申来夫々吟味之儀質屋頭へ申付一札取之  
写相廻候様可取計哉之旨去月八日御用所へ伺置候処今日御差図有  
之大御目付中へ達之上明日立飛脚久世役所へ差遣右一札扣一袋ニ  
入

二月十一日 晴

一 橋本町長崎屋代助戸ノ昨日迄廿日ニ相成今日差免申渡呼出ニ付大  
工耆人差向為裁許同心組耆人出ル取計之上兩御方へ御届申達候  
一 堀田相模守殿御領分勝北郡庄加茂東原分百姓儀右衛門与申者去亥  
五月当御領分川辺村音右衛門外耆人へ相懸り牛代差滞濟方之儀ニ  
付西吉田役人中添状を以郡代所へ訴訟ニ罷越元魚町紙屋助右衛門  
義一泊式匆つゝ宿賃相極同人宿いたし数日逗留宿賃一錢も不相払  
罷歸其後及催促候而も一向筋立不申無抛西吉田役所致出訴度添輪  
之義相願依之其段御用所へ去月八日伺置候処承届之様御用番左門  
殿御申聞被成大御目付中へ達添輪相渡

二月十二日 快晴

一 伊勢山御被屋四郎太夫代今西専次郎上下式人且廻二階町塚屋伊右

衛門宿切手出入

一 御藏米七拾五匁町米七拾壹匁

一 昨朝立久世へ遣候飛脚罷歸差出候書付落手之由猶可申聞旨返書到  
来

二月十三日 快晴

一 御藏米七拾式匁五分町米六拾八匁五分

一 玉置卯左衛門妻昨日出産血忌引込其段御用所大御目付士江も及御  
沙汰候

一 正米不自由備前ニ而も米相庭俄ニ引上ケ過分ニ米引下いたし下地  
町方有米無数処右之通ニ而下方取統無覺東米津留之義御用所へ相  
伺候処伺之通御差図ニ付今日右船積牛馬并歩荷たり共正米津出差  
留町触出又大御目付士へ達□

一 造酒屋受酒屋共申立候ハ近来無株ニ而他領酒取寄内々商候もの  
有之趣及難渋町触之儀相願先役井上弥三兵衛相勉候砌も町触取計  
候先例も有之候ニ付御用所へ相伺町触出又大御目付士江も達候

一 西今町かと屋吉兵衛姉并同人紛共ニ去月寅才久世村引越然ル処勝  
手ニ付此度帰住相願及御沙汰候

一 新職人町高角屋千吉借家丸山や又八後家倅熊吉西川領宮部下村覚  
治与申者養子差遣人別除願及御沙汰

一 東新町松本屋茂右衛門三丁目三善屋与三左衛門西新町淀屋正七甲  
州身延参数日四五十日逗留茂右衛門義ハ武州池上本門寺江も參詣

ニ付八十日計逗留願聞届西新町備前屋市右衛門身延參詣右同断  
一 東新町年寄長助病身ニ付粉長次郎名代差出度願先例も有之承届ル

一茅町南側打穴屋乘吉家屋敷表口式間裏行四間半但二步半役同町魚  
町同人家屋敷表口五間式尺裏行七間御役五步五厘役代銀札四百目  
ニ相極立具屋理兵衛へ壳渡申度相願承届ル 同廿八日壳券扶出ス

一京都烏丸四条上ル所中川晶達与申医師新魚町鳥屋与兵衛内縁ニ付  
五十日計逗留仕度願承届ル

二月十四日 晴

二月十五日 晓雨朝晴

一橋本町豊後や和助旧冬博奕一件咎牢舍申付置候処百日相立今日差  
免両御方へ御届申達候

二月十六日 晴

一南新座小田中村分和助助利助方ニ而去ル六日夜博奕参会いたし趣  
相聞町方心当り之者昨夜来夜廻へ出番る相糺今日左之者とも役所  
へ呼出逐吟味片付候分ハ手鎖懸組合へ預ケ申付宿利助糺之儀郡代  
中へ及懸合

新職人町塗師(マヤ)や辰助小姓町田中や甚助

右兩人博奕宿寄集り候者左之通

坪井町長門や新吉同町高砂や金次郎上紺屋町中津屋五三郎戸川町  
吉田や卯之助船頭町鍋屋岩吉事平蔵小性町安治新魚町磯之丞安岡  
町いたや佐助右拾人博奕いたし候義相違無之ニ付先吟味中手錠懸  
預ケニ申付

桶屋町庄藏鍛冶町桂屋源次二丁目富屋多吉無宿才吉小性町長吉右  
吟味呼出候処他出ニ付尋申付無宿者八日明共へ召捕申付右之趣御  
用番左門殿并大御目付中へ以手紙相達置

一二階町職人新吉借屋片山真丈妻去ル十二日男子出生之処去ル十五  
日死去七夜之内ニ付大年寄諸吟味見分之上別条無之書付出ス同十  
八日御用所へ相達

一小麦川下改屋廻る取計書付取之差出ス

二月十七日 雨

二月十八日 晴

一東新町中野屋平助妻子共三人林田村茂兵衛方へ引越人別除引合之  
上承届候

一院庄村伊助娘二階町きせる屋長兵衛方へ引受人別入引合之上承届

正月改ニ入

一及井野御預り所英田郡倉敷村長兵衛悻松次郎二階町山本屋固右衛  
門借家品屋恵十郎養子引受人別入及御沙汰 同廿八日住宅証文出ス

一札元茂渡藤右衛門甲州身延山武州池上本門寺参詣八十日逗留願及

御沙汰

二月十九日 雨

一船頭町今津屋孫十郎備中国築瀬銀山山稼之儀町役人共る差留候処  
押而罷越其上彼地御見分公辺御役人所書へ御名等書載差出始末不  
届ニ付百日戸ノ相伺候御用所思召も無御座今日申渡又両御方へ  
御届申達又但例之通貫釘作事方へ申達受取右取計ニ付同心組一人  
大工一人持歩老人差出ス

一御家中ニ而非人共ニ歌舞技芸為致候者有之前々も御停止之儀右跡  
之儀無之様御用番御申聞之由大目付廻状到来為心得組中牢屋三軒  
家へも相達ス

一 銀札五拾九匁四分式厘孤独扶持受取玉置源五兵衛へ相渡

一 今般博奕一件吟味呼出候内二丁目富や太吉桶屋町庄藏他行候処今日罷掃呼出遂吟味候処博奕御法度相背致参会之義相違無之右参会同類西今町磯屋勤治元魚町ろく路や要助新魚町清右衛門も参会之連中之由申口ニ付何<sup>茂</sup>呼出申勤治<sup>者</sup>罷出遂吟味候処偽候而有躰不申依之吟味中手錠懸組合へ預置要助清右衛門此兩人ハ近在へ商ニ参候由早々呼返シ候様組合へ申付

二月廿日 晴

一 西今町磯や勤治再吟味今日呼出右博奕宿新職人町塗師辰助新魚町磯之丞桶や町元藏呼出打合及吟味候処弥勤治儀携無相違旨及白状候ニ付口書申付

一新穀川下ニ付同心組昼廻る改手形取指出

二月廿一日 晴

一 植村正助昨日到着春分ハ郷中先へ可致順講候処去才悪作ニ付当二月限皆済ニ相成当月中在方ニ而ハ順講等難相成趣郡代中被申聞依而明廿二日夕々京町使者屋敷ニおいて講釋相始可申旨御用番左門殿へ伺之上申付尤大御目付士<sup>江</sup>も相達候

一去才同心組四月一宮市町警固出役衆組之出合之儀ニ付申立有之去亥才市町後大目付月番小須賀貢<sup>江</sup>申達候処未差凶無之猶又先日及催促候処当月月番伊達頼母<sup>江</sup>も前廉御差凶も被下度旨委細申達置候

廿二日 曇

一小姓町小菊屋藤藏借屋広瀬屋治助妻子共家内五人雲州広瀬魚町増

平方へ引越人別除及御沙汰候

一 土井<sup>大</sup>炊頭殿御領分久米南条郡荒神山村十次郎忩喜代八茅町藤本屋太右衛門方へ引請人別人願及御沙汰候 閏二月四日住宅証文出

廿三日 曇

一 不快ニ付不参  
一 正月人別出入書上左之通

出生拾四人 男七人 女七人 人別入八人

人別除咎人 死失拾三人 臙胎六人

差引而八人増

一 城州宇治黄檗山門前三原友章内用ニ付武田七郎兵衛方へ罷越<sup>閏</sup>二月中逗留為仕度願承届ル

一 御藏米七拾四匁五分 町米七拾匁五分

一 一場茂右衛門長屋新兵衛家内四人新魚町野田屋栄藏方へ人別人願承届ル

一 西新町福屋忠次郎甲州身延山参日数七十日計逗留願承届ル

一 備中玉野中買町戎屋善左衛門与申者西新町玉屋栄藏縁類ニ付来ル  
一 三月中逗留為仕度願承届ル

一 茅町打穴屋長兵衛東隣借屋軒口を焚上近辺相集早速消留夜廻同心組馳付遂吟味候処付火ニ相見ハ猶大年寄共出役同様申出早速揉消候ニ付出役者不致候一通御用番中并大御目付中へ以手紙相達

一 松岡治部御取箇之儀ニ付無調法有之本多左門殿宅ニおゐて立会

之上遠慮被仰付依之郡代仮役被仰付候今日不参ニ付植木左士へ被仰渡同人ら其段被相達御取ケ之儀者左士へ被仰付候由右ニ付郡代下役三浦大助相招其段申達

二月廿四日 曇

一近來端々火付有之様相聞へ今夕ら金棒引夜廻可申付哉之趣御用番左門殿へ相同触書出之大御目附士へも相達

二月廿五日 晴

二月廿六日 晴

一新魚町海布屋源次郎借屋作人伝吉悻喜兵衛内藤右近將監殿御領分久米北条郡坪井下村百姓与兵衛方へ養子差遣度人別除願 同廿八日及

御沙汰

一大久保加賀守殿御領分久米南条郡藤原村久〔〕衛門娘志ゆう鍛冶町

かち伝五郎妻ニ引請人別人願 三月廿日住宅 証文出又

一森対馬守殿御預り所英田郡倉鋪村三倉屋伝三郎娘しな鍛冶町かち

喜平次悻喜之助妻ニ引請人別人願 三月廿日住宅 証文出又

一大久保加賀守殿御領分久米北条郡神代村百姓林太娘かめ材木町徳

屋太三郎縁類之者ニ付養女ニ引請申度人別人願 閏二月六日住宅 証文出又 壬戌十一月廿九日離縁

一茅町南側■さく屋友治持分家屋敷表口三間半裏行拾七間但巷歩五

厘役五人組相談之上代銀札百五拾匁相極同町今出屋庄助へ売渡申

度願承届ル同廿八日売券状出又

一美濃職人町北側ニ而乗物屋左吉家屋敷表口式間半裏行拾七間〔御役〕

歩之処右之内西之方ニて表口間半裏行拾七間巷歩役之処五人組相

談之上代銀札三拾匁相極町内南屋龜藏へ売渡申度願承届ル 同廿八

日売券状出又

一美濃職人町北側憲法屋伝八家屋敷表口三間半裏行拾七間但六

歩役五人組相談之上代銀札三百目ニ相極町内南屋龜藏へ売渡申度

願承届ル 同廿八日売券状出又

一西新町北側ニ而伊崎屋金右衛門家屋敷表〔〕七間裏行拾七間但大溝

切巷軒式歩役也〔右之内西之〕方五間日本役也土藏巷ヶ所同町冲屋

庄助取次ニ而銀札壹貫三百六拾匁来ル十二月迄質入願承届ル

閏二月廿四日 本証文出

一佐々木清見下家敷石右衛門与申者同人娘家内式人堺町福元屋勘七

借家源太郎内縁之者付引請申度人別人願承届候

二月廿七日 晴

二月廿八日 晴

二月廿九日 雨

二月三十日 晴

一元魚町紙屋助右衛門西吉田へ出訴一件相済候段西山伝六返事出

来此段及御沙汰

一船頭町今津屋孫十郎借屋小桁屋次助同人妻家内〔〕人久米南条郡

小桁村庄屋惣助方へ引請人別除承届ル二改ニ入

一雲州秋鹿郡上伊野村善五郎家八人桶屋町作人坂之丞方へ引請役介

ニ仕度人別人願来ル二日及御沙汰

〔〕新魚町姫路屋彦兵衛近年病身ニ相成〔〕今般撰州大坂西国橋筋和

泉屋三郎兵衛方へ罷越医師相頼療治仕度尤五十日計之逗留仕度願

承届ル

一細工町年寄長左衛門病身ニ付悴平次名代差出度願先例も有之承届

一西今町井口屋利助娘きり心願有之西国三拾三所へ参詣為仕度日数

八十日計承届ル

一摂州大坂嶋之内大宝町万屋善次郎与申もの卷人かわ足袋すいのふ

金とらし売宿勝間田町山形屋喜兵衛宿切手出ス

一京町北山修斎借屋味噌屋広松弟吉蔵久米北条郡一方村伊右衛門養

子ニ差遣申遣人別除願承届ル

一林田町かち伝四郎娘かね茅町木屋六右衛門方引請申度人別人願承

届ル

閏

二月御月番

御家老 永見造酒助殿

月番大年寄

御年寄 伊達与兵衛殿

蔵合孫左衛門

大御目付 黒田織江

朔日 晴

一御蔵米七拾七匁 町米七拾三匁

閏二月二日 雨

一博奕宿并参会之者御裁許此間伺置候処御指図有之左之通今日取計

新職人町ぬし辰助

小性町田中屋甚治

右博奕宿咎之牢舎申付 但日数  
百五拾日伺

坪井町高砂屋金次郎

同町長門屋新吉

桶屋町庄蔵

新魚町磯之丞

西今町磯屋勘治

式丁目富屋多吉

安岡町綿屋世助

上紺屋町中津屋五三郎

小性町安次

船頭町鍋屋岩吉事

戸川町吉田屋宇之助

日数百日窺

右之者共於所々博奕参為咎牢舎申付

塗師辰助両隣組合咎左之通

過料五百文宛

追込五日

右同断

千吉

八郎右衛門

十二月番年寄

長右衛門

正月番同

佐右衛門

右両月共博奕参会ニ付兩人とも追込三日

小性町田中屋甚次兩隣組合咎左之通

過料五百文ツ、

追込五日

兩隣 常蔵

利助

はつ

喜平次

伊助

庄助

助右衛門

仁助

平蔵

月番年寄

喜助

追込三日

今般博奕一件ニ付目明共々

内監ニ申付差遣骨折ニ付

鳥目貳貫文被下之

西今町三倉屋

栄次

一 東新町山崎屋藤兵衛酒株所持無之官部酒取寄せ少数たり共酒商イ

いたし候段不届ニ付追込十日申付ル

右之通取計御用番伊達与兵衛殿へ御届申達大御目付黒田織江同断

一 博奕宿<sup>小</sup>田中村分南新坐利助入牢申付同心組立合ニ出ス

一 入村伊三郎方へ押取盜賊入込盜取候品々例之通町方質屋頭古道具屋頭へ相達候様大年寄へ申渡尤来ル八日迄ニ有無共書付書付指出候様ニ申付色目委細触出留ニ有之

閏二月三日 曇

今日眼病氣ニ付不参

三 京町檜物屋源四郎娘くら勝南郡川辺村儀助方へ養女ニ指遣度人別除願承届ル

一 豊岡藤十郎悴音四郎義伊勢参宮日数四十五日計逗留承届ル

一 玉置卯左衛門悴忠四郎右同断逗留三十五日計

一 山本甚蔵兼而持病有之播州有馬へ入湯願尤往来日数四十日計逗留

仕度願出同八日及御沙汰候

一 元魚町紙屋助右衛門義先頃西吉田へ<sup>添</sup>指遣懸リ合一件相済添口

一 札指出ス

閏二月四日 曇

一 東新町南側因幡屋茂市家屋敷表口三間裏行拾七間但五步役也五人組相談ヲ以代銀札壹貫五百目ニ相究メ同町水口屋茂兵衛へ売渡申度願承届同十日売券状出ス

閏二月五日 雨 小雪

一 新職人町年寄二人小性町老人追込差免御届申達

閏二月六日 曇

一 森対馬守殿御預り所久米南条郡神目中村源右衛門悴喜兵衛<sup>吹</sup>屋町

忠助養子ニ引請人別人同八日及御沙汰候 同廿八日住宅証文出

一 堀田相模守殿御領分西々条郡貞永寺村権兵衛娘たけ安岡町高屋喜

八郎妻ニ引請人別入同八日及御沙汰候 同十六日住宅証文出ス

一久世御代官所御支配西北条郡寺和田村喜右衛門弟喜兵衛同人妻家内式人福渡町阿かや借屋喜齋養子引請人別入同八日及御沙汰

同十二日住宅証文出

一久世御代官所御支配大庭郡上河内中村市右衛門弟栄助美濃職人町团屋甚兵衛内縁之者ニ付引請渡世為致度人別入同八日及御沙汰候

同廿五日住宅証文出

一鍛冶町鍛冶庄助養子儀三郎久世御代官所御支配大庭郡久世村赤野屋夫兵衛方へ差返シ人別除願同八日及御沙汰候 二月改ニ入

一大坂立売堀二町目播磨屋惣吉与申者小間物売ニ昨日参中之町小山屋与三郎宿切手出

閏二月七日 晴

一新職人町塗師辰助組合追込差免并小性町田中屋甚次組合同断両両方へ御届申達

一茅町岡嶋屋幸助借家定吉瘡毒相煩母者眼病相煩盲人同様尤弟共有之候得共未幼年ニ而養育も得不致他へ奉公ニ差遣罷在母子及飢候ニ付少々快気仕候迄孤独御救被下置候様御用番与兵衛殿へ相親

閏二月八日 晴

一不快ニ付今日出仕御断近藤伊左衛門ヲ以申達候

一坪井町鍛柄屋吉右衛門悴寿三此度京都大仏正面通問屋町伊勢屋又兵衛方へ罷越医道為仕度依之当月る来ル寅ノ年迄三ヶ年之間逗留為仕度旨願出承届候

一福渡町南側ニ而中嶋屋亀吉家屋敷表口四間裏行拾七間本役也五人

組相談之上ヲ以代銀札四百五拾匁ニ相極安岡町岡崎屋岩之助へ売渡願承届ル 同十二日売券状出ス

一撰州大坂北野町喜久屋忠兵衛与申もの前々より植木売ニ参来候処近年中絶右縁類同州有馬郡湯之山町喜久屋喜兵衛与申者竹細工売参宿元魚町かミ屋助右衛門ノ願出承届ル

一東北条郡上横野村孫一郎娘ふゆ細工町作人善兵衛妻ニ引請人別入願承届ル

一東新町鍋屋宗兵衛妻姪召連四国遍路仕度日数八十日計逗留承届

一右同町作人源助右同断承届

一去ル二日触達候入村伊三郎盜取られ候品々質屋并古道具屋共遂吟吟候処心懸リ之品無之旨頭共一札指出候

閏二月九日 雨

一町方造酒屋共例歳之通運上相納候旨酒改共申出ル

一於宮尾村芝居興行有之ニ付兼而停止申付置候得共猶又不参候様市郷共相触哉之旨伺之上取計目明共老人ツ、右場所へ忍なから差遣候事申付ル

閏二月十日 晴

一元魚町伊勢屋長右衛門商売用事ニ付大坂心齋橋筋升屋藤蔵方へ往来三十日計之逗留罷越度願承届

一東新町年寄肥後屋長助四国遍路往来八十日計之逗留夫婦連ニ而罷越度願尤留守中町内年寄役倅長次郎へ相勸させ候断承届

一三丁目福永屋助右衛門商売用事ニ付因州鳥取四丁目橋本屋平左衛門方へ往来三十日斗逗留ニ而罷越度願承届

閏二月十一日 晴

一 茅町木屋亀之助旧冬博奕一件咎牢舍申付置候処百日相立今日指免  
両御方へ御届申達候

一 二階町南側茂渡市之助家屋敷表口貳間半裏行拾七間五步役也五人  
組相談之上代銀札壹貫目ニ相極元魚町豊屋喜兵衛へ壳渡申度願承  
届ル 同十六日壳券証文出ス

一 材木町広瀬屋久八娘りへ与申者新田広原分鉄砲町新六忰文吉妻ニ  
指遣度人別除承届ル

一 堀田相模守殿御領分西々条郡久田土生村与七郎娘いち与申もの吹  
屋町作人忠助養女ニ引受申度人別人願同十三日及御沙汰候 同廿八  
証文出  
日住宅

一 森对馬守殿御預り所勝北郡上野田村忠藏娘りよ与申もの安岡町鍛  
冶屋次郎左衛門妻ニ引請置候処今般離縁仕度人別除願同十三日及  
御沙汰候

一 上紺屋町南側作人伊三郎家屋敷表口五間裏行拾四間但半役町内津  
嶋屋源右衛門へ銀札壹〆勿借用来十二月切家賃入願承届ル

同廿七日  
本証文出ス

一 安岡町村永屋 (馬) 恵助借 屋菜罐屋与七与申もの乃井野御預り所英田  
郡倉鋪村入田屋和右衛門内縁有之引越人別除願同十三日及御沙汰  
候

一 元魚町灰屋佐右衛門母ふき堺町稻実屋義七郎母心願有之甲州身延  
參詣往来日数八十日計逗留願承届ル

一 上紺屋町浅屋幸右衛門母さよ同町金川屋太吉同町畳屋勘六右同断

一 久世代官所御支配西々条郡奥津川西村平藏妹はな与申者材木町竹

屋勘兵衛妻ニ引受人別人願同十三日及御沙汰候 同十八日住宅  
証文出ス

一 中之町藁屋兵藏妻此度離縁大久保加賀守殿御領分久米北条郡下打  
穴西下村礮八方へ指返人別除願 同十三日及御沙汰候

一 元魚町轆轤屋要吉先頃博奕一件吟味之節立去百日尋申付置候処此  
度罷帰今日於大年寄宅為致吟味之処博奕携之段相違無之ニ付吟味  
中手鎖預ケニ申付尤小頭又六部屋目付金藏出番元藏加七指遣候右  
之趣両御方へ御届申達候

閏二月十二日 晴

一 西新町伊木屋源右衛門下人庄吉と申者昨夜町内夜廻リニ罷出候処  
途中ニて東新町延屋岩藏弟乙吉与申もの理不尽ニ打擲いたし相番  
字兵衛と申者へ取懸り候処脇引分ケ庄吉儀も気分不相勝早速箕  
作文庵へ療治相頼服薬仕罷在候得共惣身痛強候由源右衛門訴出  
候右乙吉与申もの帳外者ニ付目明非人共へ召捕候様申付猶岩藏へ  
立入候哉吟味大年寄孫左衛門へ申付置候十三日及御沙汰

閏二月十三日 晴

一 今日不参ニ付御用向ハ近藤伊左衛門へ相頼

一 松岡治部助今日遠慮御免ニ付郡代仮役今日御免

一 二月廿五日怡丸様寿丸様御袴召初昌丸様御百々日御箸初御色直御  
祝儀被為濟候ニ付来ル十八日四ツ時為御歡三奉行已上登城

一 戸川町打穴屋長七郎借屋佐七与申者宿願有之四国遍路仕度往来日  
数百日計逗留願承届ル

一 元魚町桶屋伊助借家木綿屋長七娘春与申もの東北条郡下横野村三

四郎方へ養女ニ引越人別除承届ル

閏二月十四日 不正

閏二月十五日 雨

一上紺屋町片岡屋清兵衛甲州身延参詣往来日数八十日計逗留願承届ル

一久世御代官所手代貝塚五郎蔵芳賀右門内藤大右衛門より来状先達而向方にて被召捕候無宿市太郎盜物当御城下西今町永田屋喜七宮脇町武田屋山三郎東新町佐伯屋与三兵衛方へ近郷ものと名前を偽質ニ置候由市太郎及白状依之質ニ取候始末相糺申度銘々質物持参来ル十八日右三人并町役人とも指添差出呉候様申来り御用番与兵衛殿へ相伺相応及返簡候

閏二月十六日 晴

一元魚町轆轤屋要吉博奕参会咎之牢舍申付両御方へ御届申達候

一明朝久世へ指向候もの共夫々手配申付候

閏二月十七日 晴

一今朝五ツ時東新町佐伯屋与三兵衛宮脇町武田屋山三郎西今町永田屋喜七質物銘々持参東新町年寄玉屋伊右衛門宮脇町年寄煩代同町土佐屋金一郎西今町年寄野々口屋七郎右衛門慌久世へ出立同心組三船孫八兩具持老人御徒目付河村市兵衛拵若堂老人草り取老人尤当役所る書状差遣候右出立為致候趣両御方へ御届申達候

一德守宮神主支配裏門前西角地子居家ニ居申候中村屋吉兵衛与申者家内三人福渡町森原屋宇兵衛方へ引請人別入寺社引合承届ル

一安岡町網屋きよ借屋中田屋弥助家内三人此度德守宮神主支配裏門

前西角地子居家へ引越人別除寺社引合之上承届候

閏二月十八日 晴

一今日も不快ニ付不参松岡治部助へ相頼

一東南条郡高野山西村儀八同人妻子家内四人此度二階町三保屋十右衛門借家河本屋清助方へ引請人別入願承届

一京町甲斐屋源蔵借屋志津屋彦兵衛妻子諸共家内四人東南条郡林田村久五郎へ引越人別除願承届ル

一松田亀助長屋善蔵与申者二階町作人嘉兵衛借屋いち方へ引請人別入願承届ル

一無宿忠左衛門与申者旅籠屋にて病死入用大御目付士へ達之上今日銀札五拾式匆九分欠所銀之内る取計蔵合孫左衛門へ相渡候

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤右衛門与申者老人紺屋形売ニ参勝間田町山形屋喜兵衛宿切手出ス

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛与申者老人例年之通小間ものおろし売ニ参同人宿切手出ス

閏二月十九日 晴

閏二月廿日 晴

閏二月廿一日 晴

一大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源助与申もの兩人例年之通小間物売ニ参坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手出

一船頭町北側作人善五郎家屋敷表口三間卷尺五寸裏行三間六寸但卷軒役也五人組相談之上代銀札五拾匆ニ相極同町大工菊右衛門へ売

渡願承届ル

一清水九八郎長屋安右衛門同人妻諸共戸川町岩見屋岩次郎内縁有之引受申度人別入願承届

一二階町豊屋喜左衛門借屋源兵衛同人悴源助此度尾上八十七長家へ引越人別除願承届

一土井大炊頭殿御領分久米南条郡上神目村諸助悴安兵衛与申者吹屋町吹屋八左衛門借家作人大五郎方へ養子ニ引受人別入願同廿三日及御沙汰候同廿八日住宅証文出

一久世早川八郎左衛門殿御支配大庭郡湯本村善左衛門悴善兵衛与申もの宮脇町角屋庄助内縁有之引受渡世為致度人別入願同廿三日及御沙汰候同廿八日住宅証文出

一二階町豊屋儀助裏堀覆破損ニ付繕仕度御堀へ足代おろし申度願大目付士へ相達

一土屋能登守殿御領分勝北郡妙原村善五郎役介喜兵衛与申もの二階町名木屋喜助後家方へ養子ニ引受人別入願同廿三日及御沙汰

一下紺屋町大溝こみ関破損いたし候趣町内年寄より届出大目付士相達候

閏二月廿二日 晴

閏二月廿三日 晴

一今日不参松岡治部助を以御断申達候

一学文武芸を始諸芸修行之儀者壮年之急務候間一張之時を不失精々可致出精候

一御道中御供之面々浴衣等着用之向も有之趣ニ候元来右躰之振合ハ足輕以下庶人之事ニ而御合印を附候槍もたせ候以上等不忍節有間

敷風躰ニて自分道中たり共御外間ニ相懸リ候儀向後可相止候尤長途之義ニ候間白依之儀者非番之儀者御用捨被成候若堂不召連向何方見違之義も可有之候得共御時節柄之義候間綿服之義ハ勝手次第候事

右之趣大目付士御触書到来

一此間久世へ差立候東新町佐伯屋与三兵衛宮脇町武田屋山三郎西今町永田屋喜七右町役人共今日罷帰并河村市兵衛同心組三船孫八相添帰着然ル処江戸表伺ニ相成近日御指図有之候迄右質物者右町役人三人へ御預ケ一札被取候趣河村与兵衛承尤右懸り合中三人もの共他国参留申付置候様申来大年寄孫左衛門へ右三人他参留申付候様申渡尤手代来状御用所へ指出候

一福渡町北側米屋佐太郎家屋敷表口四間裏行拾七間老軒役也五人組相談之上を以代銀札四百八拾匁ニ相極町内河内屋太助へ売渡申度願承届 同廿六日売券状出

一福渡町南側河内屋太助家屋敷表口三間裏行拾七間老軒役五人組之上代銀札百五拾匁ニ相極町内久幾屋惣十郎へ売渡申度願承届ル

同廿六日売券状出

閏二月廿四日 晴

閏二月廿五日 晴

閏二月廿六日 曇

一森対馬守殿御領分播州細月鳴津友三郎伯父藤右衛門同人妻子召連三人斎藤孫右衛門縁類之処今般藤左衛門眼病為療養妻子召連罷越来ル五月迄逗留為仕度願承届ル

一坪井町南側蔵屋嘉吉家屋敷表口式間裏行拾七間但半役也五人組相

談之上代銀札六百匁相極同町三船八郎右衛門へ売渡申度願承届

同廿九日  
家売券状出

一宮脇町北側房屋利左衛門所持之家屋敷表口四間裏行町並拾壹間但

式歩五厘役也右家屋鋪裏有来り立物五人組相談之上質物ニ書入銀

札壹貫匁安岡町古川屋太兵衛取次ニ而借用来ル丑ノ二月切巻ヶ月

壹歩ツ、同廿九日本証文出又

一豆腐屋共る大豆高直ニ付豆腐直段上ケ願出井油上ケ直段上ケ相願

相伺置候処願之通被仰付孫左衛門へ申達候

一早川八郎左衛門殿御支配所大庭郡湯本村平右衛門弟茂吉与申者上

紺屋町はつ屋与右衛門役介ニ引請申度人別入願同廿八日及御沙汰

候三月朔日住宅証文出又

一雲州秋鹿郡上伊野村文吉同人母同人弟伊三郎右三人之者共戸川町

作人孫吉縁類ニ付引請申度人別入願同廿八日及御沙汰候三月廿三日  
住宅証文出又

一福渡町福渡屋儀助弟善助与申者日蓮宗ニ而候処心願有之千ヶ寺参

詣為仕度依之往来式百日計逗留願承届ル

一河原町作人茂平次悴助蔵同人妻子諸共家内四人内縁ニ付東北条郡

上横野村甚蔵方へ引越人別除承届ル

一石田新次長屋藤七同人妻子家内三人美濃職人町南屋龜蔵親類ニ付

引請人別入承届ル

一去月町方人別出入生死書上左之通

一出生 式拾人男子拾三人  
女子七人

外二老人七夜之内死

一人別入 式拾四人

一人別除 七人

一死失 拾式人

差引而式拾五人 増

一贖胎 拾壹人

二月廿七日 晴

二月廿八日 晴

一今日不快出仕御断松岡治部助へ相願

一東南条郡太田村辰蔵与申者船頭町松永屋清兵衛方へ引請人別入承

届ル

一下紺屋町南側野山正新家屋敷表口式間小半裏行拾七間半役也五人

組相談之上代銀札百目ニ相極町内大工藤助へ売渡申度願承届

同廿九日  
売券状出又

一新職人町南側増田屋茂兵衛家屋敷表口四間裏行九間本役也五人組

相談之上代銀札三百五拾匁ニ相究町内豊屋藤三郎へ売渡承届候

三月廿日  
売券状出又

一鍛冶町南側兼先彦太郎家屋敷表口三間半裏行十七間七步役五人組

相談之上ヲ以代銀札七百目ニ相極同町かち平吉へ売渡申度願承届

ル三月朔日売券状出又

一二階町西側高田屋治三郎所持之家屋敷表口五間裏行拾七間但壹軒

役右之内南之方ニて表口三間裏行拾七間七步役付五人組相談之上

代銀札百式拾匁ニ相極町内作人伊八へ売渡願承届候同廿九日  
売券状出又

一信州木曾筑磨郡藪原宿古屋善吉と申者壹人例年之通木櫛おろし売

ニ昨日参候由中之町小山屋与三右衛門宿切手出

一播州網干平松屋惣九郎与申もの老人例年之通小間物并晒臘売ニ昨日参中之町小山屋与三右衛門宿切手出

一橋本町黒茶屋りん兄伊之助与申もの七年巳前午ノ十二月ニ少々借金指支手抜いたしかたく由ニ而不凶罷帰帰不申行衛相知不申人別除帳相願候処當時右借銀濟方いたし懸り合少も無之依而帰住為致度願及御沙汰候御聞届ニ付其段孫左衛門へ申達候

閏二月廿九日 晴

一郡代所より入牢もの兩人手形相廻り立合同心組神田定次指出候  
一先頃博奕一件ニ付逃去候小性町長吉百日尋申付置候処罷帰候由訴出大年寄孫左衛門宅ニおゐて小頭又六部屋目付善次出番新次指遣吟味為致候処博奕参会相違無之申口ニ付先吟味中手鎖預ケニ申付御用番大御目付士へ例之通御届申達候

三月御月番

月番大年寄

御家老 安藤丹後殿

齋藤孫右衛門

御年寄 本多左門殿

大御目付小須賀貢

朔日 晴晚方雨

一安岡町作人岩松伯母ひやく東北条郡下横野村兵八妻ニ指遣人別除承届候  
一材木町おけ屋忠右衛門忤十右衛門妻家風ニ入不申御中間新六方へ指返人別離承届候

一播州網干余陸屋惣七与申もの老人例年之通八百屋物おろし売ニ参中之町高尾屋勘七宿切手出又

三月二日 不正

一当二月十三日夜武州比企郡鎌形村ニ而養祖父并養母へ手疵負逃去り候医師玄正養子玄味人相書を以従公儀御尋被仰出依之遂吟味来ル八日ニ証文指出候様御案詞を以御触達有之惣町并組中牢屋三軒屋来ル六日迄ニ証文出候様触達候

一野介様御先触到来当月十一日御在所広瀬御免駕被成来ル十二日勝山御泊にて同十三日当所御通行被成本馬拾九疋軽尻馬四疋人足八拾式人宿駕老挺右之趣御用番大御目付士へ相達

三月三日 曇

一不快不参松岡治部助へ相頼

三月四日 晴

三月五日 晴

三月六日 曇

一小性町長吉当春田中屋甚治方ニ而博奕参会いたし依之咎メ牢舎可申付哉之旨相伺置候御指図有之今日牢舎申付但百日〔〕右之趣両御方へ御届申達候

一此間御触達有之卜人相書ヲ以町方遂吟味候処心懸り之儀無之旨証文出猶又組中牢屋三軒屋番高石垣番人らも証文出又

一備前国赤坂郡石上村才三郎弟清七郎与申者上紺屋町作人市太郎縁類ニ付引請渡世為仕度人別入願同八日及御沙汰候 住宅証文 三月十七日出ル

一土屋能登守殿御領分勝北郡平村彦七忤勝次郎与申者吹屋町山城屋

善左衛門養子ニ引請申度人別入願同八日及御沙汰候 住宅証文 三月十九日出ス

閏二月 改二入

一堀田相模守殿御領分勝南郡長内村伝藏娘きよ橋本町松田屋世助妻

ニ引請人別入願同八日御沙汰候 住宅証文 十三日ニ指出ス

一土屋能登守殿御領分勝北郡堀坂村芳平倅岩吉与申者京町石井屋弁

藏借屋倉敷屋源助養子ニ引受申度人別入願 四月廿八日 住宅証文出ル

一森対馬守殿御預り所英田郡倉鋪村平吉娘きく橋本町広瀬屋喜助倅

和吉妻ニ引受申度人別入願同八日及御沙汰候 十三日住宅証文 指出

一京都烏丸四条上ル所中川晶達与申医師新魚町鳥屋与三兵衛内縁有

之去ル二月罷越五十日計逗留願指出候処未用事向相濟不申今四十

日計逗留願承届候

一上野介様来ル十三日御通りニ付先例之通町触出ス文言扣帳有之

一右ニ付今日御道見分小頭川端又六大年寄藏合孫左衛門諸吟味役豊

岡藤十郎罷出候

一右ニ付御通行之節寄せ馬三疋申出郡代中へ懸ケ合置候

一伯州相見郡四ヶ市村金右衛門与申者日本廻国修行之由右之者播州

宍粟郡岩野辺村と両足難叶ニ付同所より順々相送り他領新田村と

川辺村迄来り候由郡代中と通用有之尚又町分へ送り来候ハ、可送

遣候旨大年寄へ申達

三月七日 雨

一例年之通馬見分大年寄玉置源五兵衛宅ニおゐて取計依之小頭又六

部屋目付金藏指出毛付帳面出ス

一備中国川上郡宇治村養福寺弟子祖見と申僧之由播州佐用郡才元村

ニ而病氣付右同所願々送り来他領新田村と川辺村へ送り来候由  
郡代所と通用有之町分へ送来候ハ、尚又可送遣旨大年寄へ申達

三月八日 不正風

一不快ニ付出仕御断松岡治部助へ相頼

一此間御触達有之候人相書を以支配方遂吟味候処心懸り義無之段夫々

証文取置今日大目付中へ証文三通指出文言扣帳ニ有之

一中之町福寿屋喜左衛門父要助并妻召連百日計逗留ニ而西国順礼仕

度旨願承届ル

一新魚町なたや弥十郎倅弥太郎三浦伴左衛門供ニ而江戸表へ罷越往

来百日計之逗留願承届候

一松嶋万吉長屋伊兵衛妻子家内三人細工町鍛柄屋十三郎親類ニ付引

受人別入願承届候

一土井大炊頭殿御領分久米南条郡原田西村庄助娘ふさ牢番和田儀右

衛門妻ニ引請願承届ル

一鍛冶町かち吉右衛門後家役介きひ家内四人妙願寺長屋へ引越人別

除ケ神社引合之上承届候 閏二月改二入

三月九日 晴

同 十日 晴

一後藤守助昨日一紙指出御聞届相濟候依之町奉行仮役被仰付候間引

請相勤候様に大目付小須賀貢と被相達候

右之趣小頭江申渡夫々相知らせ可申旨申付候

一同心組不残書役等罷及対面候

一大年寄月番斎藤孫右衛門諸吟味豊岡藤十郎罷出右同断

松岡治部助

三月十一日 晴

一 播州網干塩屋伊兵衛塩もの阿ら物おろし売昨日罷越候旨中ノ町高尾屋勘七宿切手指出ス

同 十二日 晴

一 元魚町糘屋伊助妻心願有之西国順拜三拾三所参詣仕らせ度旨承り届候

一 桶屋町勘右衛門家屋敷四間半裏行拾貳間壹軒役右家及大破候処困窮ニ付家作得不仕姉聲京町桶屋勘左衛門忰市之丞へ相讓申度願出承り届候

一 播州網干丸尾屋六三郎塩もの卸売昨日罷越中ノ町小山屋与三右衛門宿切手指出ス

一 播州網干余陸屋武兵衛与申者八百屋もの并鯉節売ニ昨日罷越候段同所ノ宿切手指出ス

同 十三日 晴

一 上野介様御通行ニ付出役近藤伊左衛門罷出候御先弘川端又六三船新次三船源八馬駅中村善次萩野嘉七伊左衛門他ニ室井重助神田定次石名元蔵右三人之内より大目付江之住進申付ル

一 御通行ニ付人馬入用書付出ル本馬廿三疋人足百三十九人

一 山本弥吉ハ札元ニ候哉札元などハ養子願等差出候哉之儀御手紙を以御尋申来り先日伊達頼母ヲ尋ニ付寛政元年酉ノ十二月札元本役被仰付大年寄札元等ハ養子願指出候旨武田七郎兵衛蔵合猪三郎川口藤左衛門等養子相願近例書抜今日左士江相頼頼母へ指出候  
一 早川八郎左衛門殿支配所大庭郡久世村利助娘とよ西今町野々口屋

八十郎家守彦助妻ニ引受申度人別入願今日伺相済大目付へ申達承

り届候 三月廿八日 住宅証文出ス

一 備前津高郡建部村藤太夫娘久米京町豊屋宇三郎妻之処離縁人別除願出右同断

此両条も左士江相頼候事

一 高雄屋藤助姉かよ宿願ニ付当月十五日出立往来百日計之逗留ニ而西国順礼為仕度願出承り届候

一 林田町川のせ屋若右衛門役介忠八林田上町ニ而御蔵番上原忠兵衛親類ニ付引越申度人別除願出承り届候

一 播州網干新在家伊部屋清六塩物并鯉節卸売昨日罷越中ノ町甲屋幸助宿切手指出

一 播州網干余子浜菊屋弥七郎忰源次郎小間物卸売昨日罷越甲屋幸助同断

三月十四日 晴

一 姫路屋恵三郎大豆空豆船積致し候ニ付見分萩野嘉七指出ス

同 十五日 晴

一 尾州長田郡嶋崎之内寺元村高橋伊豆与申者二人陰陽師昨日罷越候旨例之通元魚町豊嶋屋伝次宿切手指出

一 京町植月玄孝医道為修行京都堀川丸太町上ル所山脇道作方へ当子ノ三月ろ来丑年迄ニケ手逗留願出承り届候

一 林田町門屋久左衛門一宮村中嶋主水妹房当子廿八歳先達而離縁致候処今般帰縁致候度願出承り届候寺社并在方引合相済

一 斎藤孫右衛門忰治郎左衛門要用ニ付去月廿三日播州龍野住吉屋清

藏方へ罷越廿日計リ逗留相願候処追々用事出来ニ付猶又四月迄逗留日延願書玉置源五兵衛指出し承り届候

一京町高栄仲心願有之西国順礼来ル十六日出立往来八十日計逗留願出承り届候

一中ノ町檜物屋伝助俸八十八右同断

一元魚町<sup>(ツ)</sup>糶屋伊助右同断

一斎藏孫右衛門罷出玉置源五兵衛義用事有之四五日逗留ニ而近在罷越申度旨申出承届候

三月十六日 曇

一材木町福中屋多助後家心願有之西国順礼十七日出立八十日計リ逗留願出承り届候

三月十七日 雨

同 十八日 晴

一森对馬守殿御預り所久米南条郡福渡村通松弟八十八元魚町紙屋茂右衛門家守新職人町谷屋佐七役介ニ引受置候処双方勝手ニ付指返し申度人別除願出伺相済大目付相達承り届候

一京町塗師屋熊吉借屋文助後家并同人悻安次郎勝手付播州赤穂郡赤松村治兵衛方へ為引越申度人別除願出右同断

一中ノ町西新町東新町右林田上ノ町悪水拔大溝さらへ願出候付伺相済郡代方も申付下方申合取計候様申付候

一先達而願相済候升切売酒之願心得置度ニ付指出可申旨与兵衛殿之被申聞願打写し今日与兵衛殿江指出候

一下紺屋町紙屋庄五郎借屋鳥屋太兵衛妻まつ立願有之四国遍路廿一

日出立往来百日計リ之逗留願出承り届候

一船頭町新屋忠次并同人妻共宿願有之四国遍路十九日出立往来百日計リ之逗留願出承り届候

一東新町榎屋理助所持之家屋敷表口四間半裏行拾七間三步八厘四毛役五人組相談之上代銀札式貫目相極組合之内鍛冶屋忠助へ売渡し

度願出承り届候

三月廿四日  
売券状出ス

一宮川三枚橋之沼迄建札之内川殺生御停止御触大目付廻文到来例之通組中牢屋三軒屋惣町江触達候

三月十九日 晴

同 廿日 晴

一岡山ニ白賀森入牢致し居被扨候ニ付兼而頼置候目明之申越候由申出目明并非人三人明朝指越候積り申付候

三月廿一日 晴

同 廿二日 晴

一守助病氣大切ニ付御役免願指出可申ニ付植木左士申談同入加判ニ而願書指出御用番中御請取被置夫之末期跡式之願書同様さし出御請取被置晩方死去届左士之取計候

一夜分左士兩人罷越御用<sup>(ツ)</sup>单箭之内銀札之分相改置候

一明廿三日町奉行所道具引取候ニ付中間二人釣り台持之五時被相廻候様小勤者内山洞藏江申遣候

同 廿三日 晴

一右諸道具取越候事

一京町二文字屋ふき悻徳左衛門七ヶ年已前義絶勘当致し候処差免し

度呼住居相願伺濟之上大目付江申達し承り届候

一安岡町江川屋太郎市妻去十二日る懐胎之処去ル廿日流産届出遂吟味候処紛敷義無之其段左門殿江及御沙汰

一木町北側大和屋熊藏家屋敷表口二間半裏行十七間半役六ヶ年已前質物ニ書入筑後屋安右衛門之銀札百目借用致し候処今度元利共皆済相濟候旨断出承り置候

一孤独ふち代銀札九拾八匁式歩九厘九毛請取大年寄江相渡候

一小須賀貢之御達之義有之間罷越候様申来り無程罷越候処後藤守助死去ニ付町奉行役是迄之通弥引受相勤可申旨被申渡候

三月廿四日 晴

同 廿五日 晴

同 廿六日 晴

一播州網干新在家村加賀屋善七手代忠次郎与申者小間物おろし売昨

日罷越候旨勝間田町山形屋喜兵衛宿切手指出

一材木町大和屋熊藏家屋敷表口式間半裏行拾七間半役為本屋儀兵衛取次ニ而質物書入銀札百三拾目借用致し来丑三月切願出承届候

三月廿日  
家賃証文出ス

一例年之通竹の子取り申間敷旨触書指出ス

一牢内小田中村分南新座利助博奕参会之もの先達而申落し候義有之趣申候右為聞糺小頭又六部屋目付善次郡代下代指向候左之もの共先達而罷越候由申之内牢ニ罷在候先達而参会之もの共相糺左之もの共預ケ申付置候

小性町菊次 美濃職人町佐和田屋善藏 新魚町助太伴〔一〕之助

桶屋町吹屋手間長吉 同町和二郎 新職人町米屋佐七

三月廿七日 雨

一万人講々元今屋佐七先達而病死ニ付樫野屋茂市郎江講元申付右ニ付去ル己ノ十一月十八日分万人講残り雖八百八拾九匁八厘講元共預り証文仕替豊岡藤十郎之指出候由ニ付先年指出し有之候手形引替遣し候

一今日も博奕参会之もの糺として又六善藏牢内江指向候左之もの共申出候故大御目付へ申遣し支配方ニ而手当有之様取計候事

船頭野罷在候御中間八十八 大谷村ニ罷在候御中間栄藏

京町原田屋初次是ハ家出致し居候由ニ付尋申付

院庄村操山平吉是ハ在分ニ付郡代方之院庄へ申遣候

一上紺屋町いさみ屋喜兵衛娘せき并同人娘もと右両人大谷村平藏悻新助妻子ニ指遣度人別除大庄屋引合相濟願出承り届候

三月廿八日 晴

一仙石越前守殿御領分勝南郡中原村藤七弟伊八并同人妻とよ右両人小性町紀屋幸吉引請申度人別入願出今日及御沙汰候大目付へ相達ス 住宅証文四月九日指出ス

一西今町岩本屋太吉妹ミつ内藤右近將監殿御領分坪井村井兵衛方へ養女ニ指遣度人別除願出右同断

一閏二月中人別出入書上左之通

出生拾五人 男子七人 人別入三十人  
女子八人

人別除式拾二人 死失九人

差引拾四人増 懐胎式拾人

一 今昼後博奕参会之もの左之通相札

新魚町三之助 小性町菊太郎 桶屋町長吉

同町和三郎 新職人町東屋左七 美濃職人町沢田屋善藏

小性町才吉方住居帳外平吉

右之もの先達而新職人町塗師辰助小性町田中屋甚次方ニ而博奕参会仕候由ニ付吟味中手鎖懸ケ組合預リ申付左門殿貢江手紙ニ而相達候

一去ル九日御老中御連名之御奉書御到来同十日御登城可成旨申来候  
処少々御不快ニ付御名代織田出雲守様御登城被成候処兼而御願之通御下<sup>下</sup>敷御拝領被成尤所者御見立御願被成候様被仰出候旨從江戸表申来候依之為御歛来月朔日四時御徒格已上登城可有之候且又以来恐悦申上候節御用或ハ病氣等ニ而不参之面々同役同列名代ニ而恐悦申上候様被仰出候此度同役同列組合并支配方江茂可相達旨御奏者廻文到来

右知らせ恐悦罷出候様例之通組中牢屋三軒屋大年寄江相達候

三月廿九日 曇

一同日射術一覽ニ罷出御用所ニ而近来町方心懸リ之義も無御座候間夜廻り相止可申旨左門殿江申上可然取計候様御差函ニ付其段貢江申達候廻り三組江右相廻り相止候様可申達由申付大年寄江為申付候

一 西今町今田屋伊助倅佐七大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ明晦日出立三十日計り逗留願大年寄承り届其段申出候

三月廿日 曇雨

一 西新町大黒屋源右衛門弟又七来月三日出立江戸御屋敷江罷越宇多四郎兵衛供ニ而来ル五月罷帰申度願出承り届候

一 東新町肥後屋長助養子秀敬亥ノ十一月宮尾村次郎左衛門方江罷越近々商用繁多ニ付当七月迄逗留致し度日延願出承り届候

一 旅籠屋頭笹屋友次金毘羅会式ニ付止宿致し候旅人相改頭銭宿屋共ニ請取候由帳面大年寄ニ指出ス

四月小

御用番

同番大年寄

御家老永見造酒助殿

玉置源五兵衛

御年寄本多左門殿

大御目付太田舍人

朔日 雨 昼後晴

一 御屋敷御拝領ニ付恐悦申上七間廊下ニおゐて大御目付以下類役一

同申上候謁太田舍人

一 御用所江罷出恐悦申上候

同 二日 晴 同 三日 晴

一 早川八郎左衛門殿御代官所大庭郡湯本村勘十郎并同人妻娘三人桶

屋町桶屋佐助引受人別入願及御沙汰 三月改ニ入

一 近年万人講大寄ニ相成大寄者宣候へ共風与交有之候而ハいかゝニ

付取計方メリ方之義町奉行郡代相考候様御家老ニ御達し有之左門

殿ら考候様申渡被成候

一安岡町幸助後家悻と兩人孫独御救ふち右仕切内から印形取計請取

大年寄へ相渡候

一番賃銀勘定仕切内賃書面勘定所へ相頼出来印形加之裏判相濟相廻  
り候

四月四日 晴

同 五日 晴

一福渡町阿賀屋助次郎屋守忠助借屋忠助并同人妻その右兩人山田孫

四郎長屋江引越申度人別除願出承り届候

一昨今溝見分罷出相濟候段小頭部屋目付孫左衛門勘八罷出ル

一今日郡代所る入牢もの有之立会之組指出ス金吾

四月六日 晴曇 晚方風

一博奕参会之もの之義ニ付牢内ら塗師辰助新魚町磯之丞呼出し相糺

一伯州八はせ郡赤崎村市兵衛方権四郎四国遍路帰りかけ病氣ニ付播

州赤穂郡宿村ら送り出し新田村ら川辺村江送り来り郡代方ら通用

有之大年寄江申渡ス

四月七日 雨

一備前片山町渡部清次郎同東中嶋茶屋吉右衛門右兩人新魚町姫路屋

彦兵衛方へ用事有之罷越十五日計り逗留願出承り届候

一宮市町ニ付大坂上塩町八丁目ら参り懸り早川新蔵拾三人連輕業

狂言神主ら被相頼罷越世話致し度旨中之町松井屋和七願出承り届

候 八日請一札  
指出候

一中山金藏妻今朝出産男子出生致し候段小頭又六る届出承り置候

一札元茂渡藤右衛門甲州身延山ら昨日罷帰候旨大年寄ら届出候

四月八日 晴

一当冬万人講三建札願出伺相濟

一森对馬守殿御領所久米南条郡南畑村六兵衛娘志け西今町紙屋六蔵

役介ニ引請申度願出今日及御沙候 (マツ) 住宅証文  
廿三日出ル

一三浦備後守殿御領分真嶋郡江川村九右衛門福渡町森原屋宇兵衛親

類ニ付引受相応之渡世致させ度願出右同斷

一西新町今屋庄兵衛借屋丸屋半兵衛後きく当子七十六歳独身中症相

煩自由不相叶孤独御救ふち願出右同斷

一斎藤孫右衛門養子次郎左衛門播州龍野江離縁願出右同斷

牢内磯之丞辰助口書太田舍人江指出シノ中間兩人博奕参会之義支配

方ニ而糺有之候様申談置候

一一宮市町ニ付例年之通御触書出組中牢屋三軒屋へ相達候

一去亥年中人別増減書付左之通書上候

覚

一出生百六拾六人内男子九拾老人女子七拾五人

一他所ら引請百拾三人内男五拾七人女五拾六人

ノ式百七拾九人

一死失式百六拾式人内男百四拾八人女百拾四人

一他所へ引越六拾八人内男三拾六人女三拾式人

ノ三百三拾人

差引五拾老人減

一 臙胎五拾六人 成年産残り

同亥年中百八拾貳人

ノ貳百三拾八人

内

百六拾六人 出産

老人 病氣

五人 死躰出産

残六拾六人 未産分

右之通去亥年中町方人別出入臙胎之母相改書上申已上

子 四月八日

松岡次部助

一 一宮市町ニ付参り懸り播州方条九人連到来芝居神主ヲセ話被相頼罷越セ話致し度旨元魚町北原屋長七願出承り届候 四月十一日 請証文出ス

一 美濃職人町三笠屋伊右衛門家守吉兵衛借屋孤独作人善六病氣指重リ申出候ニ付部屋目付中村善次為見分指出候内致病死例之通一札取之罷帰リ候追而御用日ニ可及御沙汰候事

四月九日 晴

一 右善六取置之義大年寄ヲ相伺候ニ付勝手次第之旨及指図候

一 三軒屋番作次罷出下草苧候段申出承り置候

一 昨八日大御目付ヲ被相達候御書付左之通

一 近来諸役所勤方諸事上江もたれ日送り之様相成諸事心付候事申出候節も先者不取敢方に取扱候様之風儀も有之哉ニ被為思召候

上へもたれ不相勤候而者難相勉筋茂有之其固心付有之候ハ、聊不隠置上之被成向之事たり共無遠慮其趣意可申上候其余者猶更

前段之風儀者曾而不被為好義御政事之大弊候条同役者勿論他方之事たり共日送り様成勤向及見候におゐてハ朋友之義切々令異見若不相用候ハ、何役たりとも其段密ニ可達御聰事

一 頭支配之間引隔候方分別も相付且其格相応御威光も相立下方押

ニ茂宜と心得違引隔隔意ケ間敷取扱候族茂有之哉に思召候全く

左に有之間鋪義隔候而者自ラ御趣意茂届兼候得者随分親敷教導

可有之候

一 頭支配兼々支配内々銘々も常々心を付御用に可相立人を可致推挙義ハ勿論之事己朋友内入魂等之内たり共無遠慮義候間御用立

候人隠置不申其器量相応之御役々ニ付備り候様に被為希候御事

ニ候人を被得候義者御政事之第一之事候能々相弁心之及候程精々

相撰心付次第密に可申上候

一 重役ヲ申聞候事ニ而茂得心いたし難キ儀者随分押返し存念之程

可申達候右者御為を存候ニ不敬之沙汰ニ無之事

一 御政事向之儀ニ而も心付候義者たとひ役外之事たり共心底十分

ニ可申上候事

四月

四月十日 晴

同 十一日 曇晚雨

一 福渡町作人源助御年貢未納ニ付吟味筋有之年寄組合指添郡代所指出候

一 茅町今出屋庄助与申もの一宮江商ニ罷越留守中之処今朝同人屋根へ古つきニ火を包投上有之少々煙立候を近辺ヲ見付早速消留候段

申出相糺候処何之心懸りも相聞へ不申依之右町并安岡町ら随分氣を付可申旨申付且又非人忍ひ廻り申付右之段左門殿舎人手紙ニ而相達候

一日明兩人江も更廻り等可申付同心組廻り等日夜氣を付候様可申付旨又六江申達候

同 十二日 晴

一福渡町源助郡代所吟味相濟他参留者町奉行所ニ而申渡ス

四月十三日

一因州高草郡加路村嘉右衛門与申者橋本町柳屋太七引受相応之渡世為致度人別人願今日伺相濟大御目付へ相達承り届候 四月廿一日 住宅証文指出ス

一美濃職人町孤独作人善六病死見分申付候一札今日及御沙汰大御目付へ相達候

一來ル十五日昌丸様御髮置恐悦申上麻上下着用登城候様大御目付ら被相達勘定奉行ら通用有之

一万人講張紙ちらし付紙致し度伺出候ニ付左門殿江紙面ニ而相伺候処思召無之ニ付可然取計可申旨大年寄江申遣候文段左之通

木こま年々大キニ相成り候て手にあまりかそへかたく候ニ付格段大キなるこまハ差支へ相成候ゆへ入不申候為其先達而及

御断ニ置候以上

子 四月

同 十四日 晴

一一宮田植祭ニ付今日ら同心組指出候

同 十五日 晴

一昌丸様御髮置恐悦申上ニ付四前時登城例之通大御目付類役一同七間廊下ニ而申上謁太田舎人夫ら御用所江罷出恐悦申上候

一堺町団扇屋太郎兵衛大坂心斎橋筋梶木町玉子屋九兵衛方へ明十六日出立往来廿日計リ之逗留大年寄承り届申出ル

四月十六日 曇 昼後雨

一西新町玉屋栄藏縁類備中国玉嶋戎屋善右衛門三月中逗留之処用事相濟不申六月中逗留日延願出承り届候

同 十七日 晴

一今七ツ過時拙者母義養生不相叶死去ニ付御定式之通服忌引込候段手紙を以太田舎人江相届候

同 十八日 晴

一町奉行郡代方御用向月番近藤伊左衛門引受出火出役之義ハ植木左士相勤候旨通用申来候ニ付部屋目付江其段申渡候

同 十九日 晴

一拙者儀忌御免被成候付今日ら出勤可仕之旨左門殿ら御一名奉書ニ而申来り為御礼彈正殿左門殿へ罷越候

一堺町丸屋幸吉一宮市町ニ付参り懸り大坂さか町十人連万歳芸神主ら被相頼彼地へ罷越致世話度願出伊左衛門承り届相廻ス 請証文 廿日出ス

一拙者忌中引込勘定奉行右兩人引受相勤候旨且又忌御免出勤之趣等夫々組中牢屋三軒屋大年寄江為知小頭江申達候様当番へ申付候

四月廿日 晴

同 廿一日 曇小雨

同 廿二日 晴

一昨夜五前時分元魚町龜屋定次郎土藏出火ニ付出役四過時分引取左門殿江相届大御目付へ供方之内より為相届候

一今朝出火之様子定次郎届書指出ス

一火元定次郎先例之通追込三日伺之上申付候立会小頭又六部屋目付善次

元魚町龜屋定次郎土藏昨夜五前時分出火焼失仕右ハ同日暮時分用事御座候付手燭を「仕候義有之若右之火なと落候而火移り候哉右之外心懸リ之義無御座候段申上候

同 廿三日 晴

一左門殿御不快ニ付今日御城御用向彈正殿被成御勤候右定次郎火元之様□左門殿江昨日申上其節御尋ニ付書付指出候先例書付指出候事無之大御目付江も其段申達候在方と違ひ右訳者御日記へも留リ不申候由

一町講釈諸入用六拾目七歩五厘小日記去ル二月守助方江指出候伊左衛門江相廻し勘定奉行裏判相濟候処守助病中右証文何方□紛失致し候哉不相見候ニ付拙者請取証文仕置先頃印形致し置候処今日伊左衛門江銀札相廻し源五兵衛江相渡ル右ニ付守助請取証文紛失之分者何方より出候共反古ニ相成候事委細ハ勘定附ニ而も承知之事一銀札八匁五歩

右ハ西新町丸屋半兵衛後家孤独扶持当月八日より五月晦日迄之分内貸証文先頃印形致し置候処今日伊左衛門江相廻し源五兵衛江相渡

一京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代清次郎呉服もの売昨日

罷越候由海老屋長右衛門宿切手昨日差出候 翌五月廿日掃届出候

一越中富山板屋理兵衛役介長次郎宗之助又七右三人京町菊屋清左衛門当十一月迄召抱売樂仕せ申度例年之通願出承り届候

一尾州行崎神職吉田十「井弟子家来上下三人永見造酒助殿祈禱被申付例年之通り二十日計り逗留堺町西川屋善助願書指出し承り届候

一林田上之町きし役介嘉七当子拾九歳罷成中ノ町平福屋勤兵衛内縁有之引受養子ニ致し度願出承り届候

一新魚町大坂屋平藏家屋敷北側ニ而表口式間裏行九間式歩役代銀札四百目相極ニかい町鉄炮屋庄助へ売渡し申度願出承届候 五月十三日 売券状出ル

一新魚町野田屋兵■家屋敷南側ニ而表口六間裏行拾式間半老軒役右家屋敷西之方表口四間半裏行拾式間半七歩半役六百式拾目相極ニ皆町鉄炮屋庄助へ売渡し申度願出承り届候右同断

一右家屋敷之内表口老間半裏行拾二間半式歩五厘役式百三拾目ニ相極同町檉野屋茂一郎へ売渡し申度願出承り届候右同断

一大坂南久太郎町堺筋菱屋儀兵衛与申者前々墨筆売ニ参り候処不勝手ニ付同町千切屋八郎右衛門親類之ものニ付小間ものおろし商

右儀兵衛代り出入致させ度候旨宿元魚町笹屋友治へ願出承り届候

一新職人町灰屋佐右衛門去ル歳歳年寄役申付候処病身故役免相願跡役之義ハぬし八郎右衛門へ申付可然旨源五兵衛へ伺出右之通可然取計可申旨申付候

四月廿四日 晴

同 廿五日 晴

一元魚町龜屋定次郎追込指免其段左門殿舎人江手紙を以相達候

同 廿六日 晴

同 廿七日 晴

一 今曉六前時林田上之町出火ニ付出役致し候処遠藤吉左衛門火元ニ而東隣石原（字分チ）類焼早々消留引取懸左門殿江相届大目付へ供方る為相届候事

一新魚町三之助小性町菊太郎桶屋町長吉同町和三郎右ハ博奕参会口書取之

一 美濃職人町沢田屋善藏新職人町米屋佐七右ハ博奕参会申口不埒ニ付吟味中入牢申付候無宿平吉右ハ小性町才吉方住居仕候処相糺候へハ無宿ニ付入牢申付候新魚町治右衛門右ハ先達而博奕参会之指口有之呼出し候処他出致シ此間尋出し候ニ付吟味中手鎖懸ケ組合預ケ申付候

四月廿八日 晴

一 土岐山城守殿御領分英田郡川崎村助左衛門娘きよ当子三十二才ニ罷成東新町田原屋新右衛門養女ニ引請申度人別人願出今日伺相濟大御目付へ相達候承り届候 五月十二日住宅証文出

一 去月中生死人別出入書上左之通  
一 出生拾三人 男子八人 女子五人 外ニ流産者人

一人別除拾人

一 死失七人

差引ノ拾壹人増

一 懐胎拾人

一元魚町紙屋多兵衛妻甲州身延山江参詣先達而相願候処道中足痛仕延引相成候ニ付今廿五日計リ日延願出承り届候

一 桶屋町宝珠屋運治娘当子十二歳ニ罷成惣社宮神主小井健治妻ニ差遣申度此間願書指出し寺社引合相濟承り届候

一 油屋月番三家屋幸三郎実種少々下直ニ相成候ニ付是迄油老升代四匁式歩売之処此度式分下ケ売買致し度惣油屋申合候段届書此間源

五兵衛ノ申出承り置候

四月廿九日 雨

一 西今町南側ニ而三倉屋栄次郎家屋敷表口六軒裏行拾七間六歩六厘役銀札式貫目質物ニ書入来丑二月切町内直屋善吉取次ニ而借り受申度願出承り届候即日本証文出 丑三月請返ス

五月 大

御家老 安藤丹後殿

大年寄月番

御年寄 本多左門殿

藏合孫左衛門

大御目付平井郷左門

朔日 雨

一 船頭町今津屋孫十郎戸ノ昨日迄百日ニ相成今日指免左門殿并郷左衛門江手紙ニ而相届候

五月二日 雨

一 中買ら相場書指出左之通

御蔵米七拾八匁五歩

町米 七拾四匁五歩

一新職人町ぬし辰助方小性町甚次方等ニ而旧臘る正月迄博奕致し候もの共町方并牢内ら呼出し吟味諸口書取之

同 三日 曇

一去々月中生死人別出入書上去月廿八日郡代方相違有之相延置今日指出候

一西新町沖屋庄助餅米三百俵川下ケ願出今日相伺候処存<sup>奇御尋</sup>ニ付当春川留之義飯料不足ニ付指留候訳合ニ而も無之米価高直ニ付候而

ハ商人共一時ニ積下シ跡払底ニ相成弥及高価候故指留候事ニ而雜穀も下直飯料指支無之候事故餅米者積下シ候而も指支無之段委細申上候処御評議之上餅米川下ケ一統指免し候而も「」間敷哉之

旨左門殿ら御申聞被成候故何之指支事無之思召之通り申付候方可然之旨申上候処其通り取計可申仍而ハ雜穀船積同様船積改可申付

餅米川下ケ勝手次第之旨触達し可申付段申上大御目付江も相違候先例取調触達候

一 一宮市場ニ付例之通触流し申付候

一 博奕一件之もの御裁伺書相認候ニ付御中間兩人咎方之儀大御目付江申達候処支配方之調今日間ニ合不申候故延引致し置候

五月四日 曇

一 一宮市町中日々同心組指出今日切ニ而引払ニ付引取日々之所者当番帳ニ相記候故略之

同 五日 朝曇 昼後晴

一端午御祝儀申上ニ付五過時分登城例之通大御目付以下類役一同申上謁太田舍人

同 六日 晴

一新魚町三定屋茂七妻閏二月懐胎四ヶ月届出候処七ヶ月誤「」去ル廿二日出産月取間違届書指出し明七日大年寄手前ニ而叱り置候之通可然取計可申旨申渡候尤此来八日ニ及御沙汰候

一京町田原屋孫十郎商売用ニ付備中笠岡柳屋源五郎方廿日計リ之逗留ニ而罷越申度願出大年寄承り届当人申出候

一組部屋目付中村善次存寄有之候付永々暇指遣候

一同組中山金藏平組小野田金吾存寄有之ニ付番代申付候

一平組三船新次三船孫八右兩人部屋目付申付候

右暇番代ハ書付を以小頭宅ニ而為申渡候部屋目付ハ直申渡小頭立合せ候

五月七日 晴

一從江戸表飛脚到来大守様益御機嫌克被成御座候先月十三日為上使巨瀬六左衛門殿御出御国許江之御暇被仰出如例御拜領もの被成候

段申来且又同十五日御登城被成右御札無御滞被仰上候段申来為御歎来ル九日四時登城可致旨御奏者廻文到来例之通組中牢屋三軒屋

江申触廻勤之義大年寄へ廻文指遣候

一先月十五日御暇ノ之御札首尾能被仰上御懇之以上意御馬御拜領被成候段申来恐悦之「」事為御知大御目付廻文到来是又右同断

五月八日 雨

一 森對馬守殿御預り所勝北郡梶並中谷村忠助倅伊三郎西新町岸田屋

忠助養子願今日伺相濟大御目付へ相達し承届候 此分佳宅証文 四月 五月廿六日出 改三人

一新魚町三定屋茂七妻月取間違之旨及御沙汰候

一 博奕一件御裁許伺書左門殿へ差出候

一 真鏡院様七回御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付且又来ル廿一日晴かう院様廿三回御忌為御知大御目付廻文到来例之通夫々触達候

同 九日 雨

一 是迄郡代内抱足輕江原文藏今日同心組召抱立合小頭部屋目付〔一〕右召抱候段□日登城席故大目付江噂ニ及ひ給扶持渡〔一〕之義勘定奉行申通候

一 恐悦申上ニ付四前時登城例之通七間廊下ニおゐて大御目付以下一同申上尤是迄御留主年ハ太田舍人御奏者方ニ而謁有之候得共已後者御小性頭ニ而謁有之由御小納戸代リ馬場半助出席有之

一 去歲中市郷人別辻先比指出候分丹後殿入用之由左門殿へ御達有之重而御用日ニ指出申事

一 後藤郷助十二日迄五十日ニ相成十三日忌明之旨平井郷左衛門へ申達候

一 二階町へ材木町裏迄御堀石垣生木等町方へ取り可申旨いつも御帰城前取計候段昨日大御目付へ申達作事方江も及通用候

一 新魚町魚屋太郎持来候古道具取壳株不勝手ニ付相止メ船頭町瓜生原屋松之丞相勤申度願出承り届候

一 上紺屋町勇屋喜兵衛借屋藤十郎役介よね同人娘きよ御作事中間佐助方へ引越し度願出承り届候

五月十日 雨 昼後晴

一 御帰城前ニ付御道見分小頭大年寄諸吟味差出候

五月十一日 晴

一 上紺屋町中津屋五三郎牢内ニ而病氣指重兄惣十郎出牢歎出去々々二月福屋市之助出牢之例伺相濟大御目付江相達し惣十郎呼出し申渡之上預り請一札申付出牢取計左門殿郷左衛門江相達候

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代藤七墨壳ニ罷越京町美濃屋平五郎宿切手指出

一 越中富山船橋町松井屋源兵衛倅伊八同手代喜七兩人反魂丹壳ニ罷越右同人宿切手指出

一 伏見町大坂屋利七娘ゆさ林田上ノ町新兵衛方へ養女指遣し度引合相濟伺出承り届候

同 十二日 晴

一 久原道順方去ル八日脇指一腰鏡卷面米五升計り紛失之由書付を以通用有之小頭江申付目明へ得と申聞質屋江壳等其外心懸候様申付候

同 十三日 晴

一 去歲中人別出入辻書上之扣写左門殿へ指出

一 京町塗師熊吉裏御堀足代願出大目付へ相達し作事方へ及通用候

一 御帰城之旨佐用駅江十五疋土居駅江五疋御迎馬指越可申植木左土ゝ通用ニ付大年寄江申付候

一 土居駅江廿疋宿馬之義大年寄江文通申越例之通及御返答可申旨伺候ニ付可然取計候様申達し勝間田へも申越候ハ、同様取計可申旨

伺候故可然取計候様申付候

一 御帰城ニ付町方触出例之通今日指出

一來ル十五日ノ日勤ニ相成候旨左士ノ通用有之

一 東西兩橋筋違橋等涼之義例年之通り触書指出候

一 鍛冶町桂屋源次当正月博奕吟味候節致他出尋申付候処今般罷歸リ吟味之上番方手鎖組合預ケ申付左門殿郷左衛門へ手紙ニ而相届候

且又源次外並之通百日牢舎伺書左門殿江指出候

五月十四日 晴

一 博奕参会当二月牢舎申付候もの共昨日迄百日ニ相成候分左之通今日指免

日指免

坪井町長門屋新吉 同町高砂屋金次郎 安岡町わたや佐助

新魚町磯之丞 桶屋町庄蔵 船頭町鍋屋岩吉事平蔵

小性町安次 二町目留屋太吉 西今町磯屋勘次

戸川町吉田屋宇之助

右指免候段左門殿郷左衛門へ手紙ニ而相届候

一 林田上ノ町庄吉并同人妻娘家内三人西新町丸屋吉兵衛引請人別入願出承り届候

五月十五日 晴

一 伊達与兵衛殿家来山本勘吉同所被引渡候間請取揚屋江入可申旨

大御目付郷左衛門被相達候屋後同所執権中嶋文吾指添駕籠ニ而

被引渡尤先例之通此方同心組三船新次神田定次指向召連参り右

文吾江致□□対請取勘吉大小腰中もの小頭請取文五引取門内ニ而袴

取らせ手鎖かけ呼出し不埒之趣ニ而被引渡町奉行所江請取揚屋申

付候一件者追々可相糺旨申渡揚り屋へ指越候賄者揚屋賄申付候尤駕籠者問屋町人足申付候

一 鍛冶町桂屋源次博奕咎伺之通り取計可申旨左門殿御達ニ付先達

而相伺候分も□□伺相濟候上一同取計可申旨申上候処可然取計候

様被仰付其段大御目付へ相達置候

一 勘吉請取揚屋申付候段左門殿郷左衛門へ手紙ニ而相届候

五月十五日

一 博奕咎牢舎指免候節何ッ参会之咎何日ニ相成候故指免候と相届候様左門殿御申聞被成候

同 十六日

一 今晩八時分安岡町出火ニ付出役歸りかけ左門殿へ相届郷左衛門へ

供方相届候

一 安岡町作人そめ火元類焼作人喜次郎同甚右衛門右そめ東向之家ニ

而表口麿<sup>マキ</sup>燃出家根へ火移り付火之様子申上右ニ付火元咎先例無

之其段申上候

一 近来惣而火早ニ而所々付火躰之事も相聞候ニ付町方鉄棒<sup>カマ</sup>引廻り并

兼而茅町認<sup>マカ</sup>ひ廻り申付置候非人今町迄も相廻らせ外ニ非人二組加廻り可申付旨申上思召無之ニ付其段大年寄江申付候

一 中ノ町小原屋利七所持之家屋敷中ノ町北側表口三間裏行拾七間三

歩三厘役去ル丑正月町内檜物屋伝助口入ニ而東新町岩屋文蔵へ質

物書入銀札百六拾匁借り受候処今般受返候段断出承り置候

一 福渡町源助今日郡代所ニ而身代限り御年貢方へ引渡候様申渡候ニ

付其段相心得町役村方申合取計可申旨申渡候様ニ大年寄江申渡候

一 伏見駅之飛脚到来登城等之事例之通御奏者廻文到来

五月十七日

一 昨夜之林田上ノ町ニ而付火鉢有之右ニ付御城下続在分立番申付候ニ付林田筋へ申付候非人加廻リ上ノ町御家中并組屋敷へ懸ケ相廻リ候様可申付大御目付へ申談其段申付候様孫左衛門へ申渡候

一 明十八日御帰城ニ付町奉行出役近藤伊左衛門御貸人馬之義夫々申通候

一 久原道順方被盜もの書付大御目付之被相渡右ハ此間当人ノ通用ニ付目明共江申付置候其段申達置候

一 山本勘吉治療高島道友申付候

一 河原町千右衛門盜もの引合之筋有之哉ニ付手鎖組合預ケ申付候

五月十八日 曇小雨

一 御帰城ニ付近藤伊左衛門出役立宿山本平右衛門例之場所ニ而御目

見申上名披露有之供方馬口付中間兩人若堂定次儀兵衛是者御使組之当分代り来ル草り取手人鎗持挟箱合羽籠去年御発駕之砌川辺場境目ニ而治部助

江沢田平太夫を以被仰出候ニ付供方不紛御目通り江出し置候

一 今九時御城着被遊御跡之登城御用所へ恐悦申上例格之場所江出役

御機嫌克被遊御帰城只今引取候段左門殿江申上大御目付へ申達候

猶恐悦申上候

一 七間廊下ニおゐて大御目付以下一同若殿様江之恐悦申上候謁御小

性頭太田舍人御小納戸細江武助出席

一 御次江罷越細江武助へ恐悦申上候類役一同

一 今日同心組勤方小頭又六孫八嘉七御先弘重助文蔵掃除見分町分江御懸江住進登八是ハ御使組之当分代人京町江御懸リ住進元蔵京町人留新次玄関当番代リ書役新左衛門

一 今日恐悦ニ付大年寄諸吟味札元以下例之通廻勤罷出候

一 河原町千右衛門と申者盜もの引合之筋有之哉ニ付昨夜手鎖懸ケ組合預ケ申付候猶又追而相糺候上可申上旨左門殿郷左衛門江手紙ニ而相届候

五月十九日 曇

一 今日申上候御用向無之

一 明廿日之御用日丁日ニ相成候旨大目付之被相達候旨勘定奉行之通用之

一 今朝御目覚御機嫌伺大御目付以下類役一同申上候謁太田舍人御小

納戸細江武助

五月廿日 雨

一 今日風邪熱氣有之当病御断植木左士江申遣候

一 大坂玉水町尾張屋七兵衛手代勘兵衛御用ニ付罷越慥成者ニ付請合京町綿屋源七宿致し度願出承り置候

一 東北条郡上高倉村兵助倅惠吉二階町堺屋伊助養子引請申度人別人願出承り届候

一 江見平次長屋文治と申者下紺屋町鳥屋利兵衛借屋江引請申度願出承り届候

一 撰州有馬高辻堂茂兵衛例年之通墨筆卸売ニ罷越中ノ町甲屋幸助宿

切手指出ス

一 明廿一日清雲院様御年回ニ付四時御機嫌伺平服登城致し候様植木  
左土ノ類役廻文ニ而申来候

五月廿一日 雨

一 大御目付以下一同七間廊下ニおゐて筆頭渡部惣右衛門ノ清雲院様  
御年回ニ付御機嫌之旨演之御小性頭小嶋新五右衛門ノ益御機嫌能  
被成御座候出仕之趣可申上申之引取ル

五月廿二日 晴

一 森對馬守殿御預所英田郡竹田村多七娘はな戸川町田外玄妻ニ引  
受申度人別人願出今日伺相濟大御目付江申達し承届候 〔宅証文〕  
五月廿五日出ル

一 上紺屋町中津屋五三郎昨夜病死致し候段申出右ハ病氣指重リ去ル  
十一日出牢兄惣十郎預ケ置候ニ付見分申付候上勝手次第取捨候様  
可申付旨相伺候処可然取計可申旨ニ付見分申付候上為指義も無之  
候ハ、取捨可申付旨申上置候尤大御目付江も相達し部屋目付三船  
孫八見分指向一札取り罷歸り候故勝手次第取捨候様申付候右之段  
左門殿郷左衛門へ手紙ニ而相届候

一 京町原田屋福次博奕参会场所行候等之義御尋ニ付昨日相糺去亥十  
二月初旬新職人町ぬし辰助方ニ而合仕候段付紙致し指出候  
一 増見右門ノ律令之義ニ付被仰出候事有之

五月廿三日 曇 晚雨

一 明廿四日五半時御供揃ニ而三ヶ寺江御参詣被仰出中奥目付ノ通用  
申来り大年寄へ先例之通り取調夫々申付候様申遣し御先弘申付置  
候

一 玉置卯左衛門祖母相果服忌引込候段大年寄ノ届出承リ置候

一 備前岡山西中嶋備中屋伊兵衛借家ニ罷在候野頭援部と申者橋本町  
蓬菜屋佐市縁類ニ付当七月迄逗留為仕三味線指南為致度願出承リ  
届候

一 三町目平野屋助左衛門商売鉢用事ニ付因州鳥取三町目橋本屋平左  
衛門方へ罷越三十日計逗留願出承リ置候

五月廿四日 曇

一 土岐山城守殿御領分英田郡井口村弥吉悻源吉同人妻まつ婦夫戸河  
町武本屋みよ親類ニ付引受相応渡世為致度願出今日及御沙汰  
五月廿〇日  
住宅証文出ス

一 森對馬守殿御預所久米南条郡福渡村久次郎娘まつ新魚町弓削屋太  
助養女ニ引受申度人別人願出右同断

一 町方酒屋酒道具夏洗相願候ニ付封印開キ可申指遣哉之儀左門殿江  
申上候処例之通可然取計候様御指図ニ付大御目付へ申達し承り届  
候旨申渡

同 廿五日 曇小雨

一 河原町作右衛門遂吟味候処金廿五両盜取り候義相違無之ニ付口書  
取之入牢申付左門殿郷左衛門へ相届候

一 伏見町田野村屋与七右金紛失之始末相糺口書取之其外瓜生原屋平  
吉高瀬屋文吉等一ト通り相糺へとも為指義も無之申ニ付口書不申  
付候

一 新職人町年寄灰屋佐右衛門年寄役免願ニ付指免跡者先考人ニ而可  
相勤由申出候

一 橋本町山形屋喜八年寄役免願ニ付指免候林田町角屋久左衛門婦役

申付同町下地常盤屋丈右衛門塩屋七三郎右三人ニ橋本町と両町相勤候様申付候

一 永見造酒助殿家来部屋ニ而三月比博奕会合致し候由左之者共書付執権松本正藏四時後持参右之内仙右衛門ハ今日牢舎申付残三人預ケ取払可申元藏重助文藏指向候

河原町仙右衛門 橋本町嘉助 原田屋嘉四郎

能勢屋岩次 元平 是ハ兵右衛門家来之由 幸内 是ハ佐々木清之家来之由

伝助 永見殿家来 金平 同断

五月廿六日 晴

一 能勢屋岩次郎預ケ申付原田屋嘉四郎と申者福次事ニ付先達而狂奔之者橋本嘉助と申者ハ同町ニ無之難相知候由ニ付小頭又六永見殿執権ヘ指向問合候処名面違ひ佐助之由右之者他出致し候ニ付尋組合三人指向置候

一 美濃職人町沢田屋善藏吟味中牢舎之所病氣暫之絶食ニ付甚勞し候由出牢預り之歎親善助ヲ指出候今日伺相済大御目付江申達出牢之上預り一札取出牢申付其段左門殿郷左衛門江相届候

一 永見造酒助殿小者博奕致し候ニ付請人江預ケ被置町奉行ヘ引渡之儀御同人ノ伺有之間引渡之節同心組指向之具候様ニと申事ニ候間其段「」候様郷左衛門ノ申聞候

一夜ニ入郷左衛門ノ左之通申来ル

左之者共博奕参会致候ニ付町奉行所ヘ引渡候様被仰出夫々江相達候付御請取猶又御糺之上宜御取計可有之候右可申達御用番差

図ニ付申達候

永見造酒助

小者 伝助

金平

佐久間兵右衛門

小者 十兵衛

佐々木清見

長屋罷在候

金次

右四人

一 永見造酒助殿ヲ執権松本正藏使として罷越小者伝助金平御引渡申度伺相済只今大目付郷左衛門罷越申聞候右ニ付御引渡可申之処容子次第ニ及深更候故明朝御引渡し可申哉可然様御差図被下候様尤其節同心組御指向被下手鎖為杯御指越被下候様申来相応及返答尤明朝可然ニ付五半時ノ組指向可申旨正藏ヘ申談置候

一 佐久間兵右衛門殿ノ中小性使福田甚藏罷越小者十兵衛博奕参会之儀ニ付御引渡申候様伺相済候間御引渡可申今夕引取可被成哉明日ニも可被成哉之旨申来り相応及返答明朝五時半時可然申旨且同心組指向具候様にとの事ニ付其段も承知之旨及返答候

五月廿七日 曇雨

一 早天佐々木清見入来長屋住居金次博奕参会ニ付引渡可申同心組指向具候様申之并手鎖も為持相廻し具候様申聞承知候趣及返答候

一 佐久間兵衛門殿ヲ福田甚藏使として罷今日引渡組指向候砌手鎖壹口為持相廻し具候哉申来り承知之旨及返答候

一昨夜御達し有之候内山下方博奕打人等四人今日請取可申組指向申候右之節手鎖懸ケ行通之義田町御門物頭中江御差図可被下旨郷左衛門江申遣候

五月十七日

采女 印

右宿中

一永見殿江今五時分重助嘉七文藏登八指向候処請人指添執權松本正藏相添罷越造酒助殿被引渡候趣口上有之対面之上相応及返答候

国造北嶋殿

脇坂淡路守

一佐久間兵衛門殿江同刻定次磯兵衛指向候処請人并中小性指添罷越右ハ玄閑ニ指置及対面候□請取候段申遣申候

国造千家殿

一上紺屋町南側ニ而伊佐美屋喜兵衛家屋敷表口三軒裏行拾七間本役

右家代銀札四百目ニ相極メ町内作人十吉江売渡度願出承り届候

一佐々木清見へ嘉七文藏四時分指向請人同断組指添罷越右ハ小頭江

売券状  
同世日出又

五月廿八日 曇雨

応対申付請取

一伏見町田野村屋岩次呼出し右五人追々相糺候処岩次右八人之外

橋本町後藤屋龜同町黒茶屋伊之助河原町髮結万吉上ノ町忠助と合

合之由申之追々相糺候処合二夕ニ而右之通りと相聞片付候分ハ

口書取申候四人と小者等ハ手鎖懸ケ請人預ケ申付且又岩治義ハ手

鎖懸ケ組合預ケ申付候其段左門殿郷左衛門へ手紙ニ而相届候

一亀伊之助万吉忠助へ組四人指向預ケ申付候様申合遣候処何レも他

出致し尋申付候尤忠助者上ノ町御藏番当日者平内渡り屋敷へ住居

致し候様申出候

一江戸表る雲州国造江之御用物御証文送り来り即刻送り出し可申之

処院庄川船渡し相<sup>留</sup>リ之由少々延引右之断書致し刻付ニ付先宿へ

相送り候段申出候右文段左之通

御用物尅固從江戸至出雲国大社国造北嶋国造千家所迄急度可相

届者也

寛政四子

相届候

一四月中人別出入書上左之通り

出生五人 男子貳人 女子三人

人別入六人

人別除四人

死失十二人

指引五人減

懐胎貳拾人

一下紺屋町万性院諸人除疫為祈禱来月八日迄十日迄三日之間護摩修行致し度願出引合之上承届候

一下紺屋町文珠院例年之通来ル六月七日迄祇園会中御戸開除疫祈禱願出右同断

一二階町常宝院二階町不動堂并鎮守疱瘡守護神江灯明之施主御座候

ニ付来月七日迄同十四日迄除疫為祈禱護摩修行致し度断書指出右

同断

五月廿九日 晴

一山本勒吉呼出し相糺候上口書取之

一明後朔日御目見被仰付候ニ付御徒格已上并小従人已上嫡子之面々且又小従人以上之隠居并御目見相濟候拾五歳已下之面々ニ至迄麻上下着用五半時揃登城可致候旨御奏者廻文到来追而御帰城御供之面々も出仕可有之候且又御城着御当日御目見相濟候面々并御次勤之面々者役懸り之外出仕ニ不及候

同 廿日 晴

一今晚土用御機嫌伺朔日謁有之旨御奏者廻文到来寒暑御機嫌伺之御定同断相廻り別紙写し置候

一二階町組屋源左衛門酒楯八本玉林綿屋勘兵衛へ売渡旨願出候へとも右勘兵衛買取醬油等商可申ものニ無之ニ付願出指戻し候

一桶屋町桶屋善兵衛新兵衛堀田相模守殿御領分西々条郡高山村喜左衛門方ニ而杉木菅本買取候処右根伐り之節土蔵之屋根少し損候由杉木相渡不申西吉田役所江以添輸願出度願出今日伺相濟大御目付江申達

一永見殿小者伝助金平呼出し口書取之

一安岡町大和屋与三兵衛家屋敷表口三間小半裏行拾四軒半六步五厘

役右屋敷之内裏方東西三間小半南北八間式步役付ケ代銀百目相極

町内岡崎屋与次兵衛江売渡申度願出承り届候

六月七日  
赤券状出ス

一東南条郡太田村その娘つた新魚町松岡屋十吉借屋磯之丞妻ニ引受

申度人別願出承り届候

一御帰城御当日御目見無之ニ付明朝日宮嶋之間ニおゐて御目見御手

慰計被下置候旨御小性頭小嶋新五右衛門より近藤伊左衛門江達し有之拙者江も同人ら通達有之

一新魚町江相渡有之候龍吐水持歩働人十四人八人者手ニ申付置候処十四ニ而者働兼候段申出候故下地廿二人「」手桶出し候人数之通リ右働手方へ懸ケ申度且又兼而出火之節大年寄三人江沓ケ所二人ツ、之人足指出候処如何致し候哉玉置江者二人罷越齋藤藏合江者老人ツ、罷出右出人足老人ツ、減居出町も難相知二人ツ、罷出候処老人ニ而ハ指支難儀致し候ニ付右新魚町八人手桶之内二人右方へ引分六人龍吐水之方へ相加候而も指支ハ無之哉之旨同町年寄江も承合候処○右之通り取計申度旨伺出兼而八人之手桶も用立不申是迄不殘龍吐水懸り候由下地大年寄問合ニ而取計置候事故存寄之通りニ取計可申旨申渡候尤古例取調元出方之所江相戻し候様追々取計可申其内ハ右之通り致し度且又龍吐水外町江「」相渡し候ハ、其節新魚町之廿二手桶違不申様取計「」委細申渡置候

六月 大

御家老 永見造酒助殿

大年寄

御年寄 小須賀一学殿

月番

大御目付渡部惣右衛門

斎藤孫右衛門

朔日 晴

一 御目見ニ付五時登城宮嶋之間ニおゐて伊左衛門と拙者兩人一列之御目見御手慰計被下置候

一 暑中御機嫌伺大御目付以下類役一「七間廊下ニおゐて申上若殿様江も同断謁小嶋新五右衛門

一 伊左衛門と兩人居残り若殿様江御城着之恐悅申上候 但し御当日兩人出役申上無之ニ付

一 引「之処勘定奉行の演達左之通

大目付口達  
大守様来歳御厄年被為当候依之御家中一統於八幡宮御祈禱申上御札差上候事ニ候此段永見造酒助殿被申聞候ニ付申達候

但御祈禱料之義ハ追而可相達候

上右仰付候筋ニ而者無之御用所被仰談候処及演達候趣渡部惣右衛門江申聞候以上

六月朔日

一 中ノ町茶屋孫三郎借屋伊勢屋弥助妻きた兼而経行不順月取間違断出承り置候追而出産之節申出候事

一 桶屋町西関貫番人八右衛門を元魚町松屋義助打擲致し尤昨夜半之比之由今朝孫左衛門申出糺之上届書并口書指出候

同 二日 晴

一 因州鳥取本寺町市場屋七郎右衛門妹いと下紺「河内屋休吉借屋柳弥妻ニ引受申度人別人願今日伺相濟大御目付へ相達し承り届候

六月十一日  
証文出又

一 来歳大守様御厄年ニ被為当候処今般者若殿様初御役介様方ら卷台

東西御家中卷台市郷卷台右三台限りニ被成度思召之由御上之分者今日寺社取次八幡宮神主へ申渡御家中之分ハ造酒助殿ノ使者を以同社江被相頼候ニ付市郷之分大年寄大庄屋合近々御祈禱申上度旨願出候様申渡上之分并御家中之分御祈禱料ハ同社江尋若殿様初上々様方之分銀式枚御家中銀三枚申上之通りニ相定ル市郷之分ハ拙者当時一所へ相勤候事故八幡神主へ承り合置候付追而可申達之旨も大年寄へ申渡候

一 郷中出生近年減少ニ付取調取計方相伺候処町方之分も取調見可申猶町方役人共考も可有之相調候様一学殿ノ御申聞候付大年寄江近年生死人別出入卷ケ年ツ、辻々書出候様右達申付候

一 瀧本屋平四郎借屋ニ居候甚蔵薪森原村猶右衛門懸り合ニ付先年入用銀六百目有之右年寄「取替ニ而相濟候処其段右払方も出来兼「今般家質入ニ申上候式百目相濟残り四百目「勸弁之義歎出町方万人講利分の方ニ而相濟「惣町ノ助候道理ニ取計可然之旨先月孫左衛門与申談申置今日願出可然取計可申旨孫右衛門へ申渡候

一 牢内仙右衛門呼出し博奕之ケ条相糺口書ニ下札申付候

六月三日 晴  
一 京町田原屋福七商用ニ付撰州明石わさび屋伊右衛門方へ往来三十日逗留罷越度願大年寄承り届当人申出候

一 新魚町磯之丞妻昨日月取間違断出候処ハ一昨晦日妻引受之願指出昨日六ヶ月之月取間違出候而ハ兼而引取居候事付不埒ニ付相糺申出候様申付候処今日大年寄る口書取り指出候

六月四日 晴

一 永見造酒助殿小者部屋博奕一件御裁許相伺候処伺之通取計可申旨被仰出候

一 先達而相伺候旧臘当正月迄之博奕参会もの伺相濟尤無宿平吉五十敲之上御領分追払可申付旨御用席ニおゐて大目付渡部惣右衛門出席一学殿を被仰渡候

右敲弘之義明後六日取計可申旨惣右衛門申達候尤郡代所江被仰渡劇敲も同日取計候積「」申達候

一 御家中小もの等御裁許相濟候上ハ役筋を夫々可申通筋今般取計相濟候上其主人江夫々可申遣由ニ付惣右衛門へも其段申達手紙ニ而申遣候積り申談候

一 近年被仰付候洪袴着用之義紛數類も有之様相聞候間猶又心得違無之様支配下江可申渡惣右衛門を申達有之書役且又小頭又六江申渡組中牢屋三軒屋江入念申付旨申渡候

一 牢内不メリニ而自然と扇類之品ニ而も入候様相聞氣を付候様惣右衛門を申聞右之趣承り候ニ付不時之牢凌申付候積り致し置候間何分メリ方取計可申旨申達置候尤今日穢多頭九郎右衛門郡代方へ呼出手配申付候

一 今日被為召宮嶋之間ニ而御用向被仰付候

六月五日

一 今日小頭組中牢さらへ申付候処格別之手懸り無之

一 小性町紅屋幸吉役介伊八松田伊八与相改黒田右近江奉公致させ度人別除願出承り届候

一 西新町升屋勘助所持家屋敷表口四間半裏行拾七間半役代銀札老貫

四百目相極町内高松屋忠右衛門へ売渡し申度願出承り届候  
六月十日家売  
証文出ル

一 大守様来丑年御厄年ニ付惣町を八幡宮へ御祈禱相頼御札指上申度伺出承り置候

一 明六日牢屋并役所向取計方夫々手配申付候

一 二階町伊勢屋庄左衛門明六日立岡山へ罷越度申出候

六月六日 晴晩向雨

一 牢屋ニおゐて無宿平吉五十敲之上御領分追払読渡し書役小頭組共へ夫々指出ス

一 八出住居帳外佐右衛門鼻そき御領分追払且又鍛冶町吉左衛門五十

敲居村弘右ハ郡代下代読渡立会御徒目付中尾嘉兵衛目付組

一 博奕御裁許入牢左之通

永見造酒助殿

小者

伝助

金平

右八部屋ニ而博奕百五十日牢舍伺

佐久間兵右衛門殿

小者

十兵衛

佐々木清見

長屋住

金次

伏見町

田野村屋

岩次

小性町

菊次

桶屋町

長吉

同町

和三郎

新魚町

三之助

同町

治右衛門

鍛冶町

桂屋源次

新職人町

米屋佐七

右ハ参会ニ付百日牢舍伺

一右取計相濟登城之上ニ学殿并渡部へ相達造酒助殿江別間ニおゐて

伝助金平咎牢舍取計之趣申上候

一佐久間殿へ十兵衛咎牢舍申付候旨手紙を以申上候尤登城之御当番

組ニ申付遣候

一佐々木清見長屋住金次咎牢舍申付其段手紙ニ而通用右同断

一京町多賀屋平三郎妹真嶋郡勝山町且六郎左衛門養女ニ差遣し申度願出今日伺相濟大御目付申達し承り届候

一二階町組屋源左衛門所持之酒榼ニ本醬油榼ニ相望候故新職人町備前屋和兵衛へ売渡し申度願出今日右同断

一妹尾新吉備前岡山崎町車屋六大夫へ七日ニ出立罷越往来十日逗留相願伺相濟右同断

一惣町々来丑歳大守様御厄年御祈祷八幡宮ニ而相願御札指上申度申出今日一学殿へ相伺候処可然取計候様被仰出其段大御目付へ申達候且又孫右衛門へ伺相濟候間大庄屋申合御札一台指上候様申付候

御祈祷料之義ハ寺社頭々八幡宮神主へ及相談市郷ニ而銀五枚と相極其段取計可申旨申渡候

一出雲国能義郡加茂村清左衛門悻嘉藏妻子母共四人丹州篠村々送り来り町方無滞送り出し候段申出候尤昨日郡代所へ申出送り通し候様大年寄へ申付置候

六月七日 晴

一元魚町油屋与三兵衛孫高島道友義用事御座候ニ付播州飾摩郡木場村三木恭庵方へ明八日出立往来七日計リ之逗留願出承り届候

一祇園会ニ付大灯笼ともし候段申出承り置候

同 八日 晴晚自雨

一山本平右衛門病身ニ付役免願出指出し今日相伺置候尤悻甚蔵跡役申付先例之通り平右衛門帯刀指免申度之旨申上置候

一祇園会场戸開常宝院方疱瘡神へ灯明護摩等夏拔ニ付夜分参詣多く御座候故四つ迄二階町北関貫開キ立番致し度同町々申出類例も有

之候事故可申付旨相伺候処可然取計可申旨御差図ニ付大御目付申

達候孫右衛門へ右之通申付候様申渡候

一市郷人別請書出来ニ付今日印形致し候

六月九日 雨曇晴

同 十日

一御用所江申上候御用向無之

一御用所ニおゐて左之通被仰渡大御目付出席

札元山本平右衛門儀近年病身ニ罷成役儀難相勤趣ニ付願

之通札元役被指免候右平右衛門依勤切悴甚蔵義札元役申

付候尤御擬作是迄之通被下之候且又平右衛門義役義無恙

相勤候ニ付帯刀御指免候

一引取奉書を以父子共呼出し申渡候

一來ル十二日九時嘉祥御祝儀習礼有之間登城可致之旨左士と通用

有之

一宮脇町古川屋さか持来り候古道具取売株福渡町飛佐屋儀八商売致

し度譲り請願出承り届候

六月十一日 晴

一山本平右衛門札元役指免悴甚蔵へ札元役昨夜申渡候段一学殿惣右

衛門へ相届候

一明十二日泰安寺江御仏詣被仰出大年寄御先弘申付候

同 十二日 晴

一今日嘉祥ノ習礼有之

一美濃職人町沢田屋善蔵快氣之旨申出今夕夜廻リニ手錠懸候様申付

候

一新魚町北側伊部屋平吉家屋敷表口三間式歩半裏行拾二軒老軒役代

銀札五百目相極組合秤屋甚左衛門へ売渡し申度願出承り届候

六月十九日 売  
券証文出ル

六月十三日 晴

同 十四日 晴

一不快ニ付今日当病御断左士江頼遣し候尤申上候御用向無之

同 十五日 晴

一西吉田江添輪を以指越候桶屋町善七新兵衛杉木請取候一件内濟致

し候段右書面并西吉田返輪昨晚指出し請取置候

一勝間田町大屋文吉綾部村多四郎娘さく引受借屋ニ居申候若狭屋源

蔵妻ニ致し度同人引受人別人願承り届候

同 十六日 晴

一今日嘉祥御祝儀之処不快ニ付当病御断左士江頼申上候御用向無

之

一安岡町戸嶋屋長兵衛娘五年已前二宮村庄七悴善吉妻ニ指遣し候処

善吉去死致し候付右娘引受申度人別人願承り届候

一伊勢屋庄左衛門被盜もの、内預ケ有之切し其外売懸代郡代所る相

廻り今日庄左衛門へ相渡候様申付候

六月十七日 晴

一小性町長吉当正月同町田中屋甚次方ニ而博奕参会咎半舎昨十六日

迄百日ニ相成昨日指免し一学殿惣右衛門へ手紙ニ而相届候

一今夕観音参詣多く候故例年之通宮脇町関貫宵之内開キ立番申付候

段一学殿へ手紙ニ而申上惣右衛門へ同断相届候

同 十八日 晴

一 美濃職人町さわた屋善藏吟味中牢舎之処病氣ニ付相願先達而申出  
預ケ置今般快氣之旨申出ニ付咎牢舎今日申渡一学殿惣右衛門へ手  
紙を以相届候

一 不快ニ付今日左士江頼遣し当病御断申候

一 西吉田へ指出候桶屋善七新兵衛罷歸り候返書到来之分今日一学殿

江指出候

一 此節市郷静謐ニ相聞候故町方夜廻り并非人加廻り相止メ候様取計  
可申旨左士を以申上相止メ候様ニ大年寄江申付候

一 出雲国松江京見世法心播州国分寺より送り出し郡代る昨日通用夜  
中町分送り出し候段大年寄へ申出候

六月十九日 晴

一 明廿日五つ半時御供揃ニ而地藏院へ御仏詣被仰出其段大年寄へ申  
付候

一 鈴木忠之進る柳ノ土手小屋ニ雄猿居申候て只今御対面所へ召連罷  
出候可申付旨申来り即刻大年寄へ申付候処雄猿杯少し雌さるわき  
江忝居候迄之由申出其段忠之進へ及返答御対面所江当番ニ申付遣  
候

一 人馬問屋佐助病身ニ付役免願出跡役之義者船頭町板屋八十兵衛へ  
申付可然申旨申出其段取計可申旨孫右衛門へ申渡候

六月廿日 晚自雨

一 今曉八時分二町目出火ニ付罷出候手間取り朝五半時引取候故登城

之上一学殿惣右衛門へ相届候三谷屋与三右衛門真嶋屋忠三郎兩人  
之境る焼出候旨尤急度自火共難相知候へとも付火之様子も心懸り  
無之恐入候段申出兩人追込三日可申付哉相伺候処今日とも限り不  
申義得と相調可申兩人と申ニ而も御不審も相立可申由ニ付猶糺之  
分大年寄へ申付候類焼尾高屋善七福寿屋□兵衛都合四軒

一 茅町岡嶋屋幸助借屋作人定吉并同人母共定吉病氣ニ付孤独ふち被  
下置候処此節定吉快氣故御救入不申断出其段及御沙汰候

一 鈴木忠之進る昨夜申聞候者町方ニ雄猿飼候もの有之候ハ、申出候  
様との事ニ付今日孫右衛門へ申付置候

一 御小納戸細江武助る御前酒指出候檜野屋茂一郎御引替酒売之義内  
分申開候故他国売酒之義大年寄へ調申付存寄之儀共大年寄へ申聞  
置候

一 先年御厄年御祈禱御札指上候節市郷へ御賞有之哉取調明後申聞候  
様惣右衛門る申聞候

六月廿一日 雨

一 船頭町北側ニ而米屋太郎兵衛家屋敷表口二間裏行六間式尺半役代  
銀札百目ニ相極町内瓜生原屋弥吉へ売渡申度願出承り届候  
六月廿三日売券証文出

一 昨日申付置候雄猿惣町ニ飼候もの無之段孫右衛門る申出近日登城  
之節忠之進江可申達候事

一 晩方一学殿左門殿る連名奉書到来御次ニ罷越且又岸権六一名奉行  
被為召候処相勝不申ニ付御請之義頼越一所ニ相勤候

寛政四壬子年

六月月番

御家老

永見造酒助殿

御年寄

小須賀一学殿

大御目付

渡部惣右衛門

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味役 豊岡藤十郎

六月廿二日

一増見右門今日当役被仰付依之松岡治部助左之面々召連来被引渡候

小頭

川端又六

部屋目附

三船新治

三船孫八

室井重助

神田定治

石名元蔵

荻野嘉七

江原文蔵

御使組加人

加藤登八

河野儀兵衛

内抱書役

大脇新左衛門

大年寄

蔵合孫左衛門

斎藤孫右衛門

玉置源五兵衛

諸吟味役

久山勘八

豊岡藤十郎

豊屋喜左衛門

右之外支配之名面左之通

牢番

内田儀助

和田儀右衛門

三軒屋番

中尾清治

中村作治

六月廿三日

一瓜生原屋平吉小豆六拾俵空豆拾俵川下ヶ江原文蔵改ム

一今曉茅町作人利七宅江致付火早速消留候段届書出此段一学殿江及

噂候

一火災沙駄種々浮説有之町方物騒之趣ニ付町内金拝引廻リ并非人加

廻り三組可申付段一学殿江相伺申付候右之旨渡部惣右衛門江手紙  
ニ而申遣候

一 今夕新魚町ニ而為疫病除百万篇致執行候段届出承置候

六月廿四日

一 牢舍人加茂ノ伊助病氣ニ付牢番ノ医者願出孫右衛門へ申付吉武修  
膳罷出候

一 去ル廿日之夕二ノ宮村安治被盜もの書付触流取計候様ニ渡部惣右  
衛門被申聞申付候

一 相濟之願書十三包渡部惣右衛門被差戻候

一 御蔵米七拾四匁 町米七拾匁

一 今夕京町ニ而百万篇致執行候段届出候

一 孤独扶持銀札一封松岡ノ受取封之俣相渡候尤受取差出取置候

一 当役神文被仰付候間後廿六日四時出仕候様渡部惣右衛門ノ申来  
候

六月廿五日

六月廿五日

一 三丁目平野屋助左衛門先達而相願因州江罷越候処夜前罷帰候段届  
出候

一 高瀬屋勘右衛門小麦五拾俵川下ヶ江原文蔵改ム

一 今明日京町使者屋敷ニおゐて惣町宗旨印形取候旨孫右衛門届出承  
置候但大年寄諸吟味立合之由

一 惣郭御堀藻葉取入用銀札貳百八拾九匁分四厘孫右衛門差出候御  
作事江可相渡事

西村儀大夫ノ受取置候

一 左之通先触写孫右衛門差出候

覚

一 賃人足 貳人

一 輕尻馬 壹疋

右者我等就御用明廿二日四時兵庫宿出立作州久世迄相越候条書面  
之人馬無滯次立渡船川越等之場所止宿共無差支様可被取計候此先  
触早々次送久世着之節可被差出候以上

御普請役

佐藤官蔵

子六月廿一日

撰州兵庫宿ノ

作州久世迄

右宿々

問屋 中

年寄

泊付

六月廿二日 明石 同廿三日 姫路

同廿四日 細月 同廿五日 勝間田

但御用ニ寄日限相移候義も可有之候其節ハ追触可差出候

右上下式人宿卷軒用意可有之候尤御定木錢米代相払令止宿候ニ付  
所有合之品ニ而一汁一菜ニ相賄着等聊之品ニ而も馳走ケ間敷義無  
之様可相心得候

右ニ付大年寄方ニ而先例相調候処以前者先触之通ニ而御証文写有之  
候処今般者其義無之候得共左之先例之通被仰付可然孫左衛門伺出

来正月三日

公儀御普請御役人衆中西より東江当町御通行有之候間見苦無之様町々致掃除保頭先を払候様念入可被申候已上

申十二月廿九日 大年寄

町々 三人

右先例書を以一学殿江相伺候処先触之通馳走ケ間敷義不致保頭先を為払其外同心組ハ此方之為警衛差出候様御差図ニ付大年寄并小頭江申付候尤郡代江も致通用候様被申聞其段及演説候

右御普請方御役人通行明後廿七日ニ相成候段問屋より申出候旨孫右衛門届出其段御用番江及噂候

六月廿六日

一新魚町平田屋幸助忬齋助義備前岡山万町美須屋惣七郎養子ニ差遣度人別離願書差出即刻一学殿御聞届相濟其段申達候

一町方物騒ニ付昼夜物頭廻り今日より被仰付候間別而火之元入念候様

可申付并当役ニ而者取損御免之義ニ候得者鳥散成ルものハ即刻捕取可申申迄ハ無之候得共郡代当役之両役ハ御委任之御役ニ候得者

心付候義者無遠慮可取計旨一学殿被仰聞依之孫右衛門江火之元之義相触候様ニ申付小頭江も少ニ而茂鳥散成ものハ召捕可出旨問屋共江申付候様申付候

一渡部惣右衛門より左之通支配之組之者江申渡候様申来小頭江申付候

太守様来歳御厄年ニ付今般御家中一統御祈禱申上御札差上候ニ付而者組中間迄も同様之義ニ候間右御祈禱料御勝手より

割合を以取集可申候

一太守様御厄年御祈禱仕差上右御賞取計之先例調出候様先役江被申聞候由役所認無之大年寄より左之通調出渡部惣右衛門へ差出候

御飛脚到来太守様御厄年ニ付町方より去暮御祈禱徳守宮大隅宮両社ニ而仕江戸表ニ而御披露之処御満足ニ思召候段被仰下候

町年寄共江も申聞候様被仰渡候

安永丙申二月三日

一当役神文無滞相濟

六月廿七日

一五月中人別出入左之通

出生拾壹人 男子五人 女子六人 人別入拾人

人別除三人 死亡拾七人

差引 壹人増 懐胎式拾式人

以来懐胎中ハ差出申間敷旨一学殿江申達候

一六月分番質百五匁豊岡藤十郎差出小頭江相渡

一玉置源五兵衛義明廿八日勝山山田屋六郎次郎方江罷越一両日逗留候段孫右衛門届出承置

一明夕上紺屋町ニ而致百万篇候段届出候

一惣騒ニ付大年寄諸吟味之内壹人つゝ毎夕大保頭召連町廻り可仕段孫右衛門伺出伺之通及差図候此段御用番江及噂候

一御中間平右衛門義元魚町山口屋源治借屋に差置度願書孫右衛門差

出承置候

一川崎村平七娘新魚町借屋者治助養女に引請度願書孫右衛門差出承

リ届候

一内町ハ庇藁葺御法度之所近来間々相見候間此砌火事沙駄(マ)ニ而者為取候様申付度孫右衛門伺出急ニ為取候ハ、可致迷惑候間追々為取候様及差図

六月廿八日

一当日御祝義於七間廊下御小性頭江一統申上候

一松岡治部助御用ニ付遲參之段名札を以新五右衛門江相届候

一安岡町久米屋岩吉借屋ニ居候とみ悴仙次郎義備前赤坂郡足石村ツツセキ兵

左衛門江養子ニ差遣度人別離願一学殿江申達即刻御聞届候

一林田中之町二月屋弁右衛門昨年と所々川々ニ赤芥子植付試候処当年ハ不作候得共一年計ニ而者土地不相応とも難決候付今一年試度

旨願書差出口上ニ而一学殿江申達御聞届済大目附江も及噂候

一下田村川西長助六月七日被盜もの触流候様ニ渡部惣右衛門被申聞

書役江申付候

一御普請方御役人細月ニ而病氣ニ付逗留之旨追々演説有之由問屋と

申出候段孫右衛門相届一学殿江手紙ニ而申達候

一同心組出役先ニ而時刻なれば茶漬香物位之義ハ給候共不苦候得共

酒ハ勿論之義少ニ而も馳走ケ間敷義決而受申間敷追々定書等相渡

可申候得共夫迄ハ右之通ニ致候様敷敷小頭江申付候

一木知ヶ原御番所江印鑑差遣候付御飛脚之もの被仰付候様大目附江

申達候尤先例ハ印鑑と計ニ而名面并御役名無之ニ付今般者御役名

并名面相認但小桁江も差出候是ハ松岡江差遣候

一關所金并番貫渡候候残合百八拾匁九步松岡治部助と相渡受取手形差

遣候

六月廿九日

一瓜生原屋宗兵衛大豆三拾七俵餅米拾七俵川下し改室井重助

一船頭町大工菊右衛門と申もの久世支配所西々条郡「」村和助と申

ものる船板相調右代物致遲滞不埒ニ付当役所江可訴出ニ付添簡取

居候処致内済役所江者不申出相済候処右添簡差戻候付内済之連印

入候間致印形差越候様原村と申越候間其旨取計可申哉之旨孫右衛

門伺出伺之通及差図候

一御普請方御役人今夕勝間田宿ニ而明晦日当所通行之旨問屋と申出

候間孫右衛門相届候

六月晦日

一関貫番貫残当番江申付相渡候

一左之通先触到来之旨大年寄と写差出候付一学殿江相届惣右衛門江

も及噂候

我等病氣ニ付去ル廿五日と三ヶ月宿逗留候ニ付其段右宿問屋

と通達之義申渡候処今廿九日出立勝間田宿江相越未病氣眩と

無之明日日出立之程難計候間猶追触差出候迄人馬止宿等之用意

見合可計申候此追触早々順達可有之候以上

六月廿九日 佐藤宮藏

勝間田宿と

久世宿迄

問屋 中

年寄

一 玉置源五兵衛昨夜勝山ら罷歸候段届ニ罷出候

一 明朝日御役之御礼被為受候付五半時登城仕候様御奏者番中ら奉書  
到来

一 左之通盗人入牢申付候段松岡治部助ら差紙来り則差紙を以牢番江  
申達候

盗人幾治郎子貳拾貳才 同 彦吉子貳拾四才

同 文吉子三拾四才 同 忠藏子貳拾九才

同 幸吉子拾九才 同 由藏子貳拾三才

以上六人右ハ二ノ宮江這入候盜賊也

一 此間致触流候二之宮安治被盜もの町方致吟味候処何方ニも無御座  
旨申出候段孫右衛門相届候

七月 月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田彈正殿

大目附 伊達頼母

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 久山勘八

七月朔日 戌 快晴

一 五半時揃惣登城右門義ハ今日御役之御礼被為請芥子之間御縁座敷  
内々御敷居添ニ而御礼申上候早而於七間廊下小嶋新五右衛門謁若

殿様江御礼申上候  
一 左之通相達候様ニ伊達頼母申聞候

御家老組御城代組其外諸組諸下代以下之者小従人以上を殿付ニ  
致候類有之様相聞不埒之事ニ候何連之組たり共同「義ニ候  
間様付ニ相唱候様急度可被申付候以上

七月

一 木知ヶ原江差遣候印鑑乃井野町奉行福居市郎左衛門白檉仙右衛門  
へ差遣候処承知之旨返簡来候

一 瓜生原屋平吉空豆三拾俵小麦貳拾俵川ヶ申出改石名文蔵

七月二日 快晴

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八例年之通元結卸売ニ来二階町堺屋宿切手

差出承置候

一 桶屋町作人茂兵衛悴鉄治義御中間ニ差出候付人別除之願差出承り届候

六月改ニ入

一 拙者義不快付左之通伺書治部助相頼差出候処伺之通相濟其段孫右  
衛門江申達候様申渡候

二 町目三谷屋与三郎真嶋屋忠三郎火元「吟味申付候処別

紙口書之通ニ御座候一鉢二階上之義ニ而先ニ燃上り候者忠

三 郎方と相見江申候仍而者同人方火元ニ可有御座候得共竈等

有之候方ニ而も無御座一向不審心懸之義無御座左候得者指火

杯ニ而可有御座哉是「何之心付も無御座候得共右之通自

火不審無之事ニ御座候得者全く付火鉢之義ニも可有御座奉存  
候間火元咎ニ者及云申間敷様奉存候此段奉伺候以上

子七月二日 増見右門

一 二町目出火之節鍛冶町新魚町坪井町格別出精仕候間先例も有之義  
ニ付賞遣申度治部助を以伺候処思召無之其旨取計候様大年寄へ申  
渡候

七月三日 快晴

一 先日先触到来之御普請方御役人今朝勝間田表出立備前表江被參追  
而津山表之方江之同役可參候旨被申置出立候段問屋ノ馬方ニ伝言  
申越候付爰元「委細之義申越候様ニと手紙差遣置候段蔵合孫左  
衛門申出彈正殿へ手紙ニ而相届候

一 左之通百万篇孫左衛門申出承届候

四日夕二階町 五日夕安岡町 六日夕林田町

七月四日 快晴

一 今日も不快ニ付松岡江相頼候  
一 左之通博奕宿兩人今朝呼出差免候此段御用「大目附江松岡を以  
相届候

新職人町塗士

去亥十二月并当正月博奕宿

辰助

小性町田中屋

当正月博奕宿

甚治

右兩人咎牢舍昨三日迄百五拾日ニ至今日差免候

七月四日

右小頭部屋目附書役大年寄諸吟味立会ニ而年寄五人組召連出

咎牢舍差免候以来急度可相慎候段申渡候

一 鍛冶町鍛冶五郎右衛門弟宇兵衛義小笠原信「御領分播州赤穂  
郡新田村喜作方江養子ニ差遣し度人別離願差出今日松岡士を以御  
用所江相伺候処伺之通被仰出其旨源五兵衛へ申渡候六月改ニ入  
一去ル廿日之曉二町目出火之節新魚町坪井町鍛冶町格別出精之趣有  
之候ニ付任先例賞詞申度旨御用所江松岡を以相伺候処思召無御座  
段被仰出其旨大年寄宅ニ而取「候様ニ源五兵衛へ申達候

一 坪井町富士屋嘉右衛門役介きよ義川上藤「奉公ニ差出度三ヶ  
年之間為相勤出「為仕候旨願書源五兵衛差出聞届置

一 左之通訴状六通大目附中ノ被相渡候

二階町鳥屋金蔵 二通 内宅通ハ竹之皮願ニ付御作事へ「  
趣申上候外一通ハ御取締ニ不「  
様申上候七月十六日

西新町奈良屋治助 四通 不殘御取上ケ「ニ為旨  
七月十六日申「候

一 備前見嶋太法院山中老常楽院と申山伏聖護院宮御内備前守藤原  
重經雜務法印寛道ノ勸化御免之判物持參玉置源五兵衛方へ參り判  
物之通聖護院宮ノ勸化御免ニ付近国致勸化候併火々急之砌老人之  
義一々相廻候事も難義ニ付町方勸化取集呉候様相願候旨達而願出  
「源五兵衛申出即答ニ右等之願之義何「近年敵敷断ニ被及奉行  
所江被申出「決而「取上ケハ無之筋ニ付乍氣之毒及断「可及  
挨拶旨申達候

七月五日 快晴

七月六日 快晴

一札元山本弥吉三右衛門と改号願書差出御用番差出候処即刻御聞届  
濟其旨源五兵衛へ申渡候尤大目附江茂及案内候

一札元兄習妹尾新吉平兵衛と改号願書差出御聞届取計方右同断  
一左之通彈正殿江相伺候処思召無之

新魚町作人

磯之丞

右吉田村還娘蔦当正月

妻ニ引受置五月迄願出不申段

不束之事ニ候依之追込三日可申付哉

急度叱之上以後入念候様

可申付哉

右組合

町年江

右同九日玉置源五兵衛宅二而小頭部屋目付立合二而中渡候右取計濟二段  
御用番一正殿大目附伊達頼母へ相届候

一河原町仙右衛門御裁許彈正殿江伺置候

一例年之通盆中之御触到来支配之者江申達候

一右同断町方江之御触今日差出候

一八朔割帳面源五兵衛差出候

一去歳末并当年始大年寄献上物代催促中嶋彦左衛門申越源五兵衛へ  
申達候

一先月中之願書渡部惣右衛門江被差戻候

七月七日 小雨昼後晴夜雨

一五半時揃惣出仕於宮嶋間御礼申上候早而於七間廊下若殿様江之申

上新五右衛門謁之

一例年御掃城後大年寄御目見江被仰付候得共御城着之砌御迎ニ罷出  
御目通仕候事故以来一御目見江者不被仰付候間其旨相達候様太  
田舍人申聞大年寄源五兵衛へ申達候

一去月廿日二町目出火之砌非人召捕候無宿者一心懸之義無之段申  
出候付治部助へ致相談追払候様小頭へ申付候

一大坂梶木町河内屋甚七手代權兵衛唐金類売ニ例年之通罷越候付宿  
付之段甲屋幸助届書

一大坂松屋平兵衛例年之通罷越候付宿切手堺屋一助差出候

一牢舍人伊助全快いたし候ニ付吉武修格致休業候段一牢番一届出大  
年寄茂届出候

七月八日 曇夜雨

一例年之通来ル十八日江廿日迄於町会所町寺院宗判取且廿一日江廿  
三日迄御領分郷中寺院宗判取候段寺院名面書を以大年寄源五兵衛  
一出寺社取次山田孫四郎へ相渡候

一馬持廿五人例年之通大豆老俵つ、拜借一度願書差出勘定奉行上

原彦藏へ及噂御用番山田彈正殿江差出候御聞届相濟大目附江願  
書相渡置候 右願書文段ニ近年荷物無頼ニ有之候処ニ年之  
事故以來ハ考認候様ニ字殿被申聞候

一細工町弥七悴吉太郎行跡不宜先月廿五日致出奔候依之儀絶勘当願  
書出御用番彈正殿江差出候御聞届ニ付大目附へ願書相渡置源五  
兵衛へ其段申達候

一去暮并当年始献上物代金式百足源五兵衛差出植原六郎左衛門へ相  
渡同人江受取書取源五兵衛へ相渡候

一昨夜林田上之町ニ付火兩度有之候ニ付別而忍廻リ等人念候様ニ可

被取計旨御用所へ御申候旨大目附伊達頼母申聞候右ニ付氣を付候  
様小頭江申渡候

一 目明松尾屋源之丞病氣ニ付右仮役橋本町豊後屋松助へ申付候度段  
小頭河端又六申出候付其旨取計候様ニ及即答候

一 例月人別改之節懷妊改書差添出候処以来相止メ可申旨先月廿七日

一 学殿江相届置候間其旨心得候様ニ大年寄玉置源兵衛へ申達候

一 例年之通盆中町方為尔相廻り可申段御用番彈正殿江申達大目附伊  
達頼母江も及案内右ニ付御貸人馬被仰付被下候様申達置候

一 例年之通盆中三夜惣町并西大番所横関貫九時迄開置立番付置候段  
御用番彈正殿江相届大目附江も申達置候尤大年寄へ申付候

一 御米千俵御払被成候積候町方扶持米払底等之義ハ無之哉と勘定奉  
行上原彦藏申聞大年寄江相尋候処当年ハ右御手当御用意ニハ不及  
旨申出候ニ付其旨及返答候

一 林田町作人次郎吉家屋敷東新町綿屋忠兵衛へ丑六月切ニ八百匁ニ  
質入仕度旨願書源五兵衛差出承り置候 七月十四日質入証文差出候

一 牢屋払八拾七匁三分式厘牢番〆証文差出候旨小頭差出候処松岡差  
図ニ而後藤松岡増児三人割合ニ而差出候尤右門払分式拾四匁九厘  
之処後藤之分式匁八分六厘不足ニ付合テ式拾六匁九分五厘当一ヶ  
年右門分也右之内拾六匁〆分五厘當時払候

一 来ル十四日盆中廻町之節途中会尺之義大目附江相尋候処檜之間た  
り共不及下馬御用先之断以家来可申旨被申聞候

七月九日 晴

一新魚町作人磯之丞御叱玉置源五兵衛宅ニ而小頭部屋目附立合申渡

候其旨御用番彈正殿大目附伊達頼母へ相届候

七月十日 晴

一 関貫番所之誥并南新座町からたち摘込入用百七拾式匁七分七厘之  
証文出致裏印候

一 上紺屋町灰屋善右衛門下男栄治并吹屋町善十郎方ニ当分罷在候徳  
治郎右兩人烏散もの、由「」預ケ置目明方ニ而致吟味候旨小頭申  
出承置

一 馬持廿五人大豆拝借之証文差出致裏印候

一 牢屋扶持九俵之受取証文差出致裏印候

一 御藏米七拾壹匁町米六拾七匁

一 牢舍人加茂伊助并此間召捕候幸吉病氣之段牢番義助申出玉置源五  
兵衛へ医師申付候

七月十一日 晴

一 手嶋学教訓之入用植村庄助来候節者御上払ニ相成来候処庄助不居  
合候節之入用右躰一ヶ年三百匁計も可有之右入用万人講残リ札五  
貫目余有之無利足ニ而茂渡藤右衛門へ預リ居候右利分と〆内分ニ  
而五朱之利足取右利銀ニ而手嶋学入用払候様後藤守助申付置候由  
以後之処豊屋喜左衛門伺出先致来候通申付候

七月十二日

一新魚町作人磯之丞追込昨日ニ而三日ニ相成候ニ付今朝差免候段御  
用番彈正殿并大目附頼母江相届候

一 牢さらへ申付候所損有之申出候付急々繕被仰付候様大目附伊達頼  
母江手紙ニ而申遣候

但雪隠際板二三枚はねおこしかけ床下ニ懷中鋸巻ツ有之出番  
嘉七儀兵衛

一 上紺屋町灰屋与右衛門下男元久世村善次郎悴栄蔵当子拾八歳此も  
の疑敷義有之付目明召捕吟味中牢番預ケ申付候此段御用番山田彈  
正殿大目附伊達頼母江手紙ニ而相届候尤右栄蔵受人も無之もの、  
由灰屋与右衛門へ牢賄并受人無之もの差置候ニ付他參留申付候様  
大年寄源五兵衛へ手紙ニ而申付候

一 関貫番賃銀百巻五分差出并御払之分三拾四匁八分相渡候

一 細工町大工弥七悴吉太郎義此間御聞届相濟候通勘当之証文差遣候

一 船頭町高瀬屋勘右衛門往来廿日計之逗留ニ而和州大峰江參詣之願  
書出 八月四日夕罷掃候段届出候

一 船頭町米屋藤右衛門右同断願書出

一 来ル十八日町年寄兩人つゝ使者屋敷江罷出宗判取計候旨玉置源五

兵衛相届候

一 安岡町木屋六右衛門悴亀之助兼而不慎醉狂ものニ而親致難義小頭  
川端又六江叱呉候様伝手(マツ)を相頼候由伺出勝手次第取計様及差図  
候

七月十三日 雨

一 櫻野屋茂市御用之酒龍野る取寄候処損し候而御用立不申他所請  
酒売候義ハ御停止ニ而甚迷惑」 「何卒無差支御用之御間も合

候様致度旨河内志津馬申聞松岡治部助并玉置源五兵衛存寄茂相尋  
候処元来下る願出候事ニ者無之天明八戊申年る持高之三步一造ニ

被仰付候節酒屋共可致難義と御憐察之処る他所受酒御停止被仰付

右御用酒少々売候而も何之故障も無之由申出候付左候者右内櫻野  
屋茂市方ニ而勝手次第第商売可仕併右酒と号し紛敷売方致間敷旨酒  
改共江演達致置候様申達并夫々も茂市方ニ致商売如何ニ候者右酒  
引受売遣候様可致之旨玉置源五兵衛へ内々申達御小納戸河内志津  
馬江も其趣及返答候

一 牢内破損書付牢番差出候

一 牢番義右衛門罷出牢中相改并鋸持入候もの致吟味候得共相知不申  
然ル所先日入牢之文吉小玉銀六持入先日吟味ニ付出牢之節相牢善  
心ニ預ケ置候由申候付致吟味候処善心義何ケハ不存候得共紙ニ包  
候もの預リ置此度牢さらへ之節板之穴る下江落置候旨申候付同役  
兩人ニ而致吟味候処相見へ不申候旨届出昨日之鋸旁以不レニ付小  
頭河端又六部屋目附三船新治差遣以後レリ方之義急度申渡候

一 牢屋払割合之旨又六申出拾六匁九分五厘相渡候

七月十四日 風小雨

一 例年之通御用日休日仕無之

一 大目付伊達頼母る十六日御用日出仕ニ相成御用所出仕有之候段手  
紙ニ而為知来勘定奉行郡代江致通達候

一 牢舎人伊助病氣差重候段牢番儀助申出其段松岡治部助へ申遣并容

躰書差出候様大年寄江手紙ニ而申達候無程差出候付松岡へ相廻候

一 林田町若狭屋定七大峰參詣願書出

一 安岡町明石屋庄七小頭場合ニ而被下なしニ目明助申付候由又六申  
出候

一 例歳之通益中惣町為舟致廻町無別条段掃懸ニ御用番山田彈正殿へ

相届大目附伊達頼母へ以同心組口上<sub>二</sub>而相届候

七月十五日

一例歳之通出仕無之

一 林田中之町坂原屋甚兵衛方ニ教山と申祈禱者夜前致止宿候処追而  
付来教山三好忠藏方へかきを越這入大信寺下<sub>二</sub>而召捕忠藏方<sub>一</sub>も  
相届候旨玉置源五兵衛届出双方得与致吟味又候相届候様申付候右  
ニ付目明を出致吟味候様又六江も申付候昼後大年寄并目明<sub>一</sub>の糺書  
差出候処爰元<sub>二</sub>而致悪事候もの<sub>一</sub>ニ而も無御座ニ付内分<sub>二</sub>而相渡可  
遣哉彈正殿江相伺候尤委細之義ハ別紙口書ニ有之但本立教山并女  
耆人都合三人也

右伺之通即刻相濟右之段差含再糺小頭江申付候処引渡不相濟牢番  
預ケ申付候

一 材木町車屋佐五郎大峰參詣願書出 八月八日届届有之

一 牢舎人行重百性市右衛門水腫病ニ付医師願出大年寄へ申付候処中  
村易安差出候段届出候右之段松岡士江及通達候

七月十六日 晴

一 御用日出仕有之

一 牢屋繕所之書付大目附へ差出候

一 御下ケ被成候訴状致付紙返上仕候

一 河原町仙右衛門御裁許存寄書差出候

一 町方之趣御用番彈正殿<sub>一</sub>御尋ニ付其後ハ火付等之沙駄<sub>(ツ)</sub>も無御座静  
謐之旨申上候

一 博奕一件存寄事植木左士を以差上候

一 瓜生原宗兵衛大豆貳拾七俵川下ケ改石名元藏

一 昨日相伺候林田中之町旅籠屋坂原甚兵衛方致止宿候旅僧内分<sub>二</sub>而  
引渡候義も不相整依之左之通取計御用番大目附江相届候

吟味中

牢番預ケ

無宿 本立子ノ三拾貳才

教山子ノ貳拾六才

女 本立妻<sub>一</sub>才三拾五才生國九州

不取計之筋有之ニ付

坂原屋

甚兵衛

組合預ケ

一 五月十五日安岡町その居宅ニ致付火候もの尋出押置候段玉置源五  
兵衛届出即刻同心組差向候処林田上ノ丁源助甥義八と申もの、由  
牢番預ケ申付候其段御用番山田彈正殿大目附伊達頼母江相届郡代  
松岡治部助へ及案内并牢賄被申付候様申達候

七月十七日 曇

七月十八日 曇

一 宮川大橋南側東角之きほうし下金具ちきれ候付右金具大年寄<sub>一</sub>差  
出御作事へ相渡候

一 二階町伊勢屋庄左衛門商売用付上京往来三十日願書出

一 牢舎人文吉牢中へ致持參候小玉銀六ツ牢中繕ニ付今日取出し候旨  
小頭<sub>一</sub>差出郡代懸之者故松岡治部助へ相廻候

一 一昨夕召捕候林田上之丁義八郡代構場所之ものゆ<sub>一</sub>引渡候間以後  
吟味筋之義ハ郡代<sub>一</sub>可申上段御用番彈正殿并大目附へ相届候尤明  
朝同心組并目明差出引渡可申段治部助江談置候

一 此間致返上候訴状尚又委敷主意書いたし差出候様ニ彈正殿被申聞

被相渡候

- 一鳥屋金藏竹之皮被下候ハ、運上可差出訴状右運上と入用と致差引差出候様彈正殿被申聞候ニ付勘定奉行植木左士へ申談相渡置候
- 一手嶋流講釈場入用書豊屋喜左衛門差出受取置候但残銀札八拾七匁六分式厘喜左衛門預り也

- 一久世御代官所貝塚五郎藏芳賀右門内藤丈右衛門と飛脚到来無宿市太郎伺済来ル廿五日御仕置被仰付候付右懸合当町永田屋喜七武田屋山三郎佐伯屋与三兵衛町役人差添廿四日晚方迄ニ可差出之旨申来御用番彈正殿江相伺致承知候旨及返書候大目附江も来書返書共差出候尤大年寄同心組江も申付候 但三船新藏江申付候
- 一御役順御改被遊候御含候旨右順書拝見仕候様御達有之候旨松岡と相廻り存寄無之旨申述松岡江返ス

七月十九日 晴

一久世御代官所江之返書今朝差出候

- 一京町平野屋治兵衛下男与之吉栄藏脇差懸合之義ニ付小頭場合ニ而預ケ置候処疑敷義無之ニ付可差免段又六申出伺之通申付候
- 一吹屋町善十郎方ニ当分罷有候元久世之徳次郎義疑敷義有之候ニ付先日る預ケ申付置候処組合之者立合追払仕候様申付候段又六申出候

七月廿日

- 一桶屋町閑貫番八右衛門松屋義助一件大目附と達之通八右衛門五日追込儀助手鎖懸ケ十日追込と相認大目附伊達頼母江差出候御用番彈正殿と八右衛門三日追込其余者伺之通被仰出候但廿二日可取

計事

- 一此間之訴状取計案差添彈正殿江差出候
- 一旅僧本立一件御裁許伺置候

- 一管子講尺以後二六ニ相成明後廿二日初り後風土記講尺六日廿六日ニ相極来ル六日と相初り候段大目附廻状到来

- 一下紺屋町山伏文珠院当月八日出奔大年寄と届出寺社取次江懸合可申事

- 一船頭町瓜生原屋平吉小麦四拾俵小豆四俵川下ケ申出改文藏

- 一早川八郎左衛門御支配所香々美上村長右衛門娘さと吹屋町河内屋孫市妻ニ引受人別人願差出同廿二日御用所江達候御聞濟ニ付大目附へ申達置大年寄江其旨申渡候 住宅届八月九日有之候

- 一西新町玉屋栄藏備中国玉嶋戎屋善右衛門当四月罷越六月迄逗留願置候処今少用事不相濟候付九月中逗留仕セ度追願大年寄差出承り置候

- 一組屋源左衛門持家船頭町南側表口五間四尺五寸裏行拾間老尺八寸右之家船頭町山北屋伊兵衛江老貫百匁ニ売渡願出大年寄差出承り届候右売券証文翌廿一日差出式拾歩一銀五拾五匁之由

- 一組屋源左衛門持土藏船頭町南側ニ而三間ニ四間之土藏五百匁ニ堺町美濃屋清右衛門へ売渡願出大年寄差出承り届候尤右売券状翌廿一日差出式拾歩一銀貳拾五匁之由

七月廿一日 曇 小雨

七月廿二日 晴

- 一郡代松岡治部助と古川村庄七と申もの牢番預ケ申付候間立合同心

組出候様申越同心組差出候

一 関貫番八右衛門松屋義助今朝大年寄宅ニおゐて叱申渡候小頭部屋目附平組都合三人差出候右取計相濟候段出仕之上御用所大目附江相届候

一 下紺屋町文珠院出奔之義寺社取次山田孫四郎江懸合候所三日尋申付不相知候間其段相届候由ニ付寺社構えものにて候得共町住居人別之ものニ有之候間当役も出奔之段計御用番并大目附へ一ト通り相届候尤嘸門中ノ院跡可相願義ニ付家屋敷并諸道具類ニ至迄組合心付候様ニ大年寄江申達置候

一 坂原屋甚兵衛方ニ致止宿候本立御裁許相伺候処伺之通相濟明日可取計事尤本立教山女都合三人御領分追払宿屋甚兵衛宿株取上ケ手鎖懸ケ十日追込組合急度御叱

七月廿三日 雨 夜風雨

一 昨日伺相濟候本立教山坂原屋甚兵衛義今朝取計小頭部屋目附并出番式人牢屋江差遣本立一類皿之方江送り払候庄屋手形受取来坂原屋甚兵衛分玉置源五兵衛宅ニ取計小頭部屋目附并手鎖懸ケ出番者人差遣候尤御用番大目附江相届候

一 奉書到来御受之定書御奏者中ノ到来写置

一 牢舍人助十郎病氣ニ付医師願出大年寄へ申付候処北山修斎申付候尤夜前取計候 但勞咳之由

七月廿四日 雨

一 町人左之通久世江差出候付拙宅江六半時打寄新三郎立合町人共江左之通申渡候

久世役所江被差向候付山口新三郎指添被仰付候諸事差図を請公辺向之義故万端別而可入念候

右ニ付御手代貝塚五郎藏芳賀右門内藤丈右衛門三人江添簡差遣白木状箱ニ入山口新三郎ニ相渡候

東新町佐伯屋

与三兵衛

同町年年

綱屋 宗兵衛

宮脇町武田屋

山三郎

同町年年寄

佐渡屋 八右衛門

西今町永田屋

喜七

同町年年寄

直屋 幸三郎

御從目附

山田新三郎

駕籠

拵若堂

草履取

両懸挾箱

同心組

三船新治

兩具持耆人

右雜用并同心組兩具持等迄御勝手へ出候ニ付被相渡候様ニ勘定奉  
行へ懸合置御從目附受取參候事

右今朝出立候段御用番并大目附へ相達候

一先日以来町方付火物騒ニ付町年寄廻リ并非人加廻リ等申付置候処

静謐ニ相成候付加廻為相止最早平日之通ニ仕度段彈正殿江申達候

処御聞届ニ付其段玉置源五兵衛へ申達候其旨大目附へも相届候尤

初ら大年寄共も自身心付ニ付毎夜廻リ候処今夕も相止候様申達候

一松岡治部助認差出候博奕過料之書面式冊彈正殿被相渡存寄申上候

様被申聞候

一先日附紙いたし差出候訴状伺之通当人呼出申聞候様彈正殿被申聞

候但鳥屋竹之皮拾度願も不相成筋ニ相極候八月五日ニ申渡

一若君様御誕生被遊候御触到来支配之者へ申達候但町方江者不差出

候事

一仙波門太牢死之義申来哉否岡村安助同中件江尋ニ書状差出候

一牢舍人文吉今日ニ而二廻リ濟候付他医願并勘吉病氣ニ付願出大

年寄江申付候処文吉ハ外科原田春景勘吉へハ北山修斎申付候段申

出候

一西新町伊勢屋重右衛門大坂江明日出立十五日計逗留願源五兵衛差

出承り届ル八月十一日届届有之

一同心組寺証文川端又六差出候

七月廿五日 雨

一牢舍人勘吉病氣ニ付為看病四郎と相牢申付候

七月廿六日 大風雨

一博奕考被仰付候付此間御前江差上候考書御用番彈正殿江差出候

一大風雨ニ付船頭町御制札場近辺之家倒御高札場も無覺束ニ付御高

札相外年寄へ預置候段玉置源五兵衛へ届出御用番彈正殿大目附伊

達頼母江相届候

一玉置源五兵衛罷出候付土俵致用意置候様申付尤同人義罷出見繕居

候ニ付注進候て可致出馬段申達置候

一高石垣并村井前小沢横関貫風損門立不申急ニ繕申付候得共間ニ不

合時ハ立番申付候段尤高石垣ハ竹垣倒候付立番加入申付候段小頭

川端又六申出承り置

一稻荷山木数多中折ニ相成三軒屋往来塞候ニ付取片着申出其段大目

附伊達頼母江申達候

一佐久間兵右衛門殿下屋敷之横之枝折揚屋前へ落候段牢番届出承り

置候

一小性町横丁中之関貫平日ノ切之場所ニ候得とも船頭共川端へ通ひ

候ニ勝手悪敷候間今夕ハ立番付置候段大年寄申出承り置

一河原町仙右衛門家倒候ニ付家内ハ請人方江引取諸道具も年寄へ預

ケ置候段大年寄申出承置候

一桶屋町関貫番八右衛門追込三日ニ而昨朝可差免候処致失念今昼後

差免候様源五兵衛へ申達取計候

一夜九時過大年寄三人罷出水勢も減候ニ付最早致出馬候ニ者及間敷

旨相届候

七月廿七日

一 関貫番八右衛門一昨日可差免候処致失念昨昼後差免候段手紙ニ而御用番彈正殿計へ相届ケ置松岡治部助を以右ニ付恐入差扣奉伺候段相伺候尤昨日可伺処差向候御用向有之候ニ付今朝迄致延引候段申達候然ル処八時比差扣不及其義段大目附伊達頼母（イダヤシノカミ）松岡江申來候段通達有之候

一 牢舎人助十郎不食ニ付引扶持いたし相応之もの調呉候様相願候段牢番儀右衛門申出承り届候

一 四時御供揃ニ而押入筋へ御出被遊候段中奥目附野条金平（ノノエノカミ）申來御道筋掃除大年寄江申付御先私差出候様小頭江申付候但御帰者上ノ丁筋御通被遊御先私ニ不及旨同心組申出候

一 三丁目久美屋十右衛門家表口八間半裏行拾七間式軒役之処并鍛冶町分東西四間半南北七間但三步役之右家元魚町豊屋喜兵衛へ六貫目ニ売渡度願出藏合孫左衛門差出承届候 七月廿八日売券状出  
三步銀三百匁也

一 豊屋喜左衛門養子離縁人別放願書差出承届ル  
一 久世御代官所江差出候町人共子ノ刻過山田新三郎召連罷帰リ何連も届ニ罷出候

一 早川八郎右衛門殿（ハヤカワハチロウ）直書ニ而町人共盗ものとハ乍不存請人も不取質取候段不埒ニ付質物取上ケ代銀損失申付過料三貫文ツ、申付候段申來候

一 御手代貝塚五郎藏芳賀右門内藤大右衛門（イノエノカミ）も右御仕置直達書付を以申遣候旨添状到來

一 山田新三郎廿四日着候旨郷宿を以申込直ニ可罷出支度致候処今日

ハ不及出仕明朝罷出可然候旨郷宿之者申候ニ付任其意翌廿五日早朝可罷出支度候処江町人共御呼出ニ而幸一所ニ罷出内藤大右衛門江懸合候処今般者御差添ニも不及候処入御念候御義八郎右衛門義も可懸御目候得とも御用取込居候付及御断候間宜御挨拶可申旨申付候段申述候由然共罷出候事故詰合可罷在候旨申候得共達而御引取被成候様申聞左候ハ、御裁許相濟候上右御挨拶ニ可罷出哉之旨相尋候処入御念候御義奉存左様之義ニハ無御座候間最早不及御出仕御勝手次第御引取被成候様申聞候間任其意候由双方立合之筋ニも無之ニ付被仰渡書も不写取罷帰候旨山田新三郎相届候尤盜市太郎義八十敲之上追払被仰付候旨及承候由申聞候

七月廿八日 晴

一 是迄詰合候面々式日御祝義申上有之候処詰合計之申上ハ今日と相止候段大目附伊達頼母申聞候

一 一夜前帰着仕候町人共之義御用番彈正殿江相届八郎右衛門殿并手代共差越候來書返事下案差添相伺候委細之義ハ文通扣ニ記置候間略之大目附頼母江も町人共罷帰候段相届候

一 森对馬守殿御預リ所当国英田郡沢村百姓伝四郎弟清助義福渡町作屋庄兵衛引受人別人願書藏合孫左衛門差出御用番彈正殿及御沙駄候処御聞濟ニ付大目付頼母江右願書相渡置御聞届候旨玉置源五兵衛へ申達候 八月十九日住宅届差出候

一 昨日之風損ニ付塀損候故御堀江足代下し申度願書堺町玉置源五兵衛一通京町阿波屋亀吉一通同町畳屋ぶん一通伏見町作人勘吉幸廣後家斎之丞古川屋忠兵衛一通差出右名面書いたし大目附伊達頼母

江相渡左之面々御堀江足代下願差出候旨申述候処其依御作事方へ  
通用有之趣ニ而相濟依而御聞濟候段玉置源五兵衛へ申達候

一六月人別出入書左之通彈正殿江差出候

出生拾五人

人別入四人

人別除六人

死失拾貳人

右差引ノ者人増

一御藏米七拾四匁 町米七拾匁 相場書出ル

一三軒屋番中尾清治母致病死候段相届并往來之倒木取片着無之故出  
棺難成趣申出往來倒木取片着之義ハ此間大目附へ届置候事故直ニ

勘定奉行上原彦藏へ及対談候

一万人講桶小故大ふりニ致度旨久山勘八先日申出治部助并伊左衛門

へ懸合候処御沙駄ニ不及申付候而宜筋之旨申聞候間勝手次第ニ取

計可申段及差図候

一むくろし御薬用ニ付当年々心懸調置候様大目附伊達頼母申聞其

段玉置源五兵衛へ申付置候

一御家中此間之大風ニ倒家并表塀倒候類書付出候様達有之趣ニ付町

方御家之分調出候様玉置源五兵衛へ申達候

一二階町茂渡市之助家屋敷表口七間裏行九間半但五步役右家五百六

拾匁ニ同町荒田屋十兵衛へ壳渡度願玉置源五兵衛差出承届候

壳券状八月十日出廿步一貳拾八匁也

一二階町西側茂渡市之助家表口壹間裏行七間但三步貳厘五毛役也右

家百四拾匁ニ同町丸尾屋長兵衛へ壳渡度願書出承り届候 壳券状八

月十日出 廿分一七匁也

一勝間田町年寄七左衛門病身ニ付退役願差出跡役米屋源右衛門へ可  
申付段源五兵衛申出承り届候

一二階町塗師勘平材木町竹屋勘兵衛御堀江足代下し願書差出其段書

付を以大目附伊達頼母江申達置承届候段申達候

一牢舎人市右衛門病氣易安療治今日ニ而二廻リニ相成候段申出候付

他医申付候処高鼻ニ齋江申付候段大年寄申聞候

七月廿九日 曇

一久世御代官早川八郎右衛門殿并手代江之返書下案昨日昨日彈正殿

江伺置候処御添削被成御返被成候ニ付明日久世江飛脚差立候間御

飛脚之者被仰付被下候様伊達頼母へ申達并來書返書下案共ニ差出

候処今夕飛脚之者取ニ來明朝立申付相渡候

一此間久世江差出候町年寄名面書付差出候様伊達頼母申聞差出候

一於江戸表去ル十九日御女子様御誕生被成候依之明八朔恐悦之申上

有之候間勘定奉行郡代江も致演達候様大目附伊達頼母申來向奉

行へ申達候

七月月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 黒田織江

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 豊屋喜左衛門

八朔丙卯 雨

一五時揃惣出仕之事

一於七間廊下小嶋新五右衛門謁御女子様御誕生恐悦大目附三奉行一列ニ申上候

一紫陽花之間於御縁座敷独礼名披露八朔之御祝義御目見申上候尤年頭之席之通ニ而献上物無之

一於七間廊下小嶋新五右衛門へ謁八朔御祝義若殿様江大目附三奉行一列ニ申上候

一三奉行一列ニ御用所江罷出八朔御祝義申上引懸ニ大目附へ御祝義申述候事

一若君様御名竹千代様与奉唱候間竹之字千代之読付仕間敷大目附御触書到来

一於江戸表先月十九日御女子様御誕生被成候為御知御触書到来  
一牢屋修覆昨日迄ニ而致出来候段牢番届出候

一式日出仕刻限達之間以来被仰出御時刻ニ半刻早く出仕候様中奥目

附シ演説有之候

八月二日 晴

一昨日久世江差遣候飛脚之者受取書取帰候

一新職人町美濃屋佐七借屋ニ罷在候原屋久八郎義備前国盤梨郡稻蒔

村太郎左衛門弟三太夫を養子ニ仕度願書玉置源五兵衛差出御用番

一学殿江申上候処御聞届相濟其旨大目附黒田織江江申達御聞届申

達候 住宅証文同十一日差出候七月改ニ入

一去ル廿六日大風之節家崩町方ニ九軒有之候旨玉置源五兵衛届出差出候委細十七日之所ニ記

一右同断町会所風損届書差出候右同断

一先日以來町方物騒之砌左之町々々寄格別出精夜廻リ相勤候付御賞詞被下度玉置源五兵衛申出其旨一学殿江相伺候処何之通取計候様

申聞其段大目附へ相達大年寄江申付為取計候

東新町年寄長助 猪右衛門 宗兵衛

二階町年寄弥太郎 伊右衛門 忠三郎

河原町年寄 源右衛門

下紺屋町年寄 吉左衛門 勘右衛門

細工町年寄 平治

一上紺屋町□郎作五十九才病氣母八拾四才ニ罷在右病中御救扶持被下置候様願出一学殿江申上候処御聞届相濟右願書大目附黒田織

江江相渡勘定奉行新治江申談相濟内借証文相認させ相頼候

一新魚町三之助入牢後親共半部下し居候ニ付其段差免平日之通商売申付候度源五兵衛申出其旨取計候様及即答候

一先日久世へ差出候町人三人他参留いたし有之候間可差免之旨伺出  
其旨取計候様申付候

一例月之通川切手式枚致奥印

一八月分目明并非人扶持内貸証文二通小頭差出致奥印候

一惣牢修覆昨日出来ニ付喜七磯兵衛差出移かへ取計候

一林田町作人善次四国詣百日之願書差出承届候

一中之町福茂屋磯吉家表口四間裏行拾四間半代銀札百六拾匁ニ同町

大世屋惣十郎へ壳渡度願書差出承届ル 壳券状八月十日出廿分一八匁也

一茅町髮結源吉方江夜前西今町三倉屋栄治郎質物懸合候義ニ付罷越

夫三倉屋方江可参迎致同道寺町江出候処茅町木屋龜之助并鉄炮

町佐々木清見組森口兵治借屋ニ居候源蔵と申もの参懸り龜之助源

吉を致打擲疵付候段大年寄申出即刻疵為吟味同心組部屋目附差遣

并相手龜之助義手鎖懸組合預ケ申付出番兩人差遣し取計候依之三

倉屋栄治郎も組合預ケ申付候様大年寄へ申渡并源蔵義佐々木清見

組借屋ニ居候事故右栄治同様ニ取計被置候様大目附黒田織江江申

達御用番一学殿江も罷越相届候但届書疵所改書別ニ有之依而略之

八月三日 晴

一茅町源吉龜之助喧嘩得与承り糺候処栄治源蔵兩人ニ而源吉両手を

引張龜之助ニ為致打擲候由三人とも同様之義ニ相聞依之三倉屋栄

治へ出番差遣手鎖申付候鉄炮町源蔵義も同様之義故手鎖可申付間

役所江被差出候様ニ大目附黒田織江江申達候処請人兩人 屋根屋嘉兵衛  
鉄屋与八

召連罷出小頭部屋目附為立合吟味中手鎖懸請人預ケ申付候此段御

用番并大目附江相届候

一松屋儀助義昨日ニ而十日ニ相成候間今朝大年寄宅江小頭部屋目附

出番一人差遣手鎖追込差免其段御用番大目附へ相届候

一若狭屋定七大峰江夜前罷帰候段届罷出候

一坪井町福惠屋伊兵衛三十日計之逗留ニ而出坂願出候

同廿三日罷帰候段相届候

一西今町公文屋清左衛門右同断願差出候 同廿五日  
罷帰候

一去ル廿六日大風之砌牢屋破損有之候届書牢番共差出候

一同心組萩原嘉七右大風ニ家潰并室井重助家半潰ニ相成候由小頭江

届書差出候

一先比之大風ニ付綿并日雇等迄高直ニ相成候由小嶋此母を以御沙駄

有之孫左衛門江申付内々承合候処格別之趣も不相聞候得共諸壳物

難洪筋を見懸ケ高壳致候様之義ハ甚以不宜筋ニ付兼而左様之義無

之様ニ町々年寄共江申付可置候旨孫左衛門へ申達候

当三月造酒助殿於長屋博奕参会之者橋本町松田屋佐助同町黒茶屋

伊之助其節出奔いたし尋申付有之候処昨夜罷帰候段孫左衛門届出

組合預ケ申付置候

一例年之通町方宗旨改帳面差出奥書并致両判北郷門兵衛へ差出候人

数合六千九百式拾老人 男三千六百拾七人  
女三千三百四人

八月四日 曇

一町会所并町方崩家牢屋破損同心組漬家之書付大目附黒田織江江差

出候

一林田中之丁坂原屋甚兵衛追込昨日ニ而十日ニ相成候間今朝小頭部

屋目附出番老人大年寄宅へ差遣追込差免候右之段御用番御目附へ

相届候

一 林田中之町平岡屋忠右衛門四十日計之逗留ニ而 出坂明五日出立願書出

一 御藏米七拾九匁米七拾五匁

一 牢番儀助妻今曉出産死胎之旨届出候

一 造酒助殿於長屋当三月博奕参会之河原町万吉出奔候処今日罷帰候

段孫左衛門届出組合預ケ申付候

一 明屋後松田屋左助黒茶屋伊之助河原町髪万吉西新町奈良屋清助二階町鳥屋金藏組合之者召連罷出候様大年寄孫左衛門へ差紙遣候

八月五日

一 京都二文字屋治兵衛茂兵衛兩人到着仕候段相届候

治兵衛ハ丑正月廿四日帰届有之

一 上紺屋町太郎作孤独扶持内貸勘定奉行下代<sup>六女</sup>受取藏合孫左衛門へ相渡候

一 二階町河本屋忠吉義昨年<sup>三</sup>丁目井筒屋弥三郎他国請酒株借受居候処尚又今年<sup>五</sup>寅ノ年迄<sup>三</sup>ヶ年之間借受候追願差出承り届候

一 安岡町倉見宗仙娘御領分東北条郡湯谷村甚平妻ニ差遣度人別離願差出承り届ル

一 鈴木忠之進長屋ニ居候作人与八井妻倅茂七家内三人福渡町増見屋藤吉引受人別人願書差出承り届ル

一 上紺屋町小山屋岩右衛門倅伊八義当国真嶋郡垂水村平八後家へ養子ニ差遣度願但三浦志摩守殿領分也翌六日一学殿江相伺御聞届済

右願書大目附黒田織江へ差出置御聞届之段孫左衛門へ申達候

一 御堀江足代下し願二階町茂渡庄右衛門同町組屋忠三郎同町出雲屋

勘三郎右三人差出書付大目附黒田織江江相渡

一 西新町奈良屋治助髪付座訴状二階町鳥屋金藏南京綿并竹之皮願之訴状差出呼出候御取上ケ不相成段申聞せ候

一 橋本町松田屋左助同町黒茶屋伊ノ助河原町髪結万吉三人呼出遂吟味候処当三月造酒助殿小者部屋ニおゐて博奕参会仕候ニ相違無之段申依之口書取置手鎖懸組合預ケ申付候外並之通咎半舎百日可申付段明日可回事

一 ミなき甚助入牢候処宿困窮ニ而賄得不叶段内意申出御取上ケハ不相成筋故組合町内<sup>五</sup>致世話候様孫左衛門へ申達候

八月六日

一 昨日致吟味候造酒助殿長屋ニおゐて博奕参会之橋本町松田屋佐助黒茶屋伊ノ助河原町髪結万吉咎半舎百日可申付之旨御用番一学殿江相伺候処何之通被仰付退出後申渡取計相濟候段一学殿織江相届候

一 奈良屋清助鳥屋金藏訴状御取上ケ難被成筋為申聞候一学殿へ申達右訴状致返上候処役所ニ取置候様被仰聞候

一 明日射術御覽有之候段大目附<sup>五</sup>廻状到来

一 先日久世役所江差出候町人帰候節洪水之処日を詰罷帰候間組中間へ御酒代被下度之旨山田新三郎申出勘定奉行石田新治へ及噂候

一 昨年御囲米千俵御積替ニ而造酒屋共江拜借被仰付候間当年も拜借仕度何卒少も早く拜借仕度段藏合孫左衛門願出勘定奉行植木左士へ及対談候初納之節なくてハ相成不申由申聞候間其段孫左衛門

へ申達候

一御用所へ治部助拙者御呼出御用番一学殿左之通被申渡候

博奕咎過料之義兩人共存寄申上候処以来治部助存寄候通ニ過

料ニ被仰付候此段対談仕可取計候

一三軒屋中尾清治母之忌中昨日ニ而七日ニ相成候間今日御免取計候様小頭又六へ申達候

一京町田原屋伊兵衛網干へ廿日之逗留罷越度願

一七月式拾歩一銀四百拾五匁玉置源五兵衛差出候旨蔵合孫左衛門左差出

八月七日 曇

一高松屋勘右衛門小麦五拾四俵川下申出秋野嘉七差出候

一万人講ひゝる出来諸吟味三人致持參見届候

八月八日 曇

一二階町茂渡庄右衛門同町組屋忠三郎御堀江足代下し願書黒田織江

へ相渡置御聞濟候段孫左衛門へ申達候

一二階町出雲や勘三郎御堀へ桜之木倒落候を引上度願書大目附黒田

織江へ相渡置候処追而返答可有之由ニ候

一牢舎人幸吉助十郎服薬ニ廻り相濟候間医師被仰付被下候様牢番願

出孫左衛門へ申達候処北山修伯江申付候由

一牢舎人勘吉ハ全快ニ付休葉相届候

一押入上村百性源四郎弟喜助義桶屋町桶屋新兵衛引受人別入願書出

承り届ル 七月改ニ入

八月九日 晴

一森対馬守殿御預り所当国英田郡沢村百性伝四郎弟清助義福渡町作

屋庄兵衛引受人別入願去ル六日差出御用所江及御噂御聞濟ニ付右

願書黒田織江江相渡置候処今日住宅証文差出候

一徳守宮於社地晴天七日勸進相撲興行仕度段浜風岸右衛門願書大年

寄致奥書岡田文九郎差出受取明日可相回事

一多田庄七御用御刀被仰付候処手間人差支候之段申出候旨植木左士

申聞依而大年寄孫左衛門呼出差支無之様ニ可申付旨申渡候

一郡代所ニおゐて今日吟味有之候間同心組立合申来小頭江申達候

一関十治左残三拾九箇川下ケ送状差越候奥印相渡候

一中山金藏番代長谷川百藏願書差出承り届候

八月十日 雨

一植村庄助昨晚京都到着之旨今朝案内ニ罷出致対面講尺勤方之義相

尋及御沙駄（マツ）可及差図之旨致挨拶置松岡治部助へ引合候処此節在方

忙敷故先町方ニ而被仰付候様致度之旨ニ付於御用所一学殿江先規

之通京町使者屋敷ニ而講為相初可然哉之旨相伺候御聞濟ニ付退

出之上豊屋喜左衛門呼出当春之通諸事取計候様申付候尤講尺相初

候義大目附黒田織江江申達置候

一昨日岡田文九郎差出候徳守宮社地ニ而勸進相撲之願一学殿へ差出

候所即刻御聞届相濟大目附へ願書相渡置退出後岡田文九郎呼出御

聞届之段申達候

一先々月二丁目火事之竈数御届ニ相成候間刻付迄も相認差出候様黒

田織江申聞左之通認差出

二丁目於出火六月十九日丑之刻左焼出し

翌廿日辰之下刻鎮火仕候

右焼失竈數四軒

右之通ニ御座候已上

子八月十日 増見右門

一先月廿六日大風ニ而家潰等差出置候処細川越中守殿ニ而ケ様之義御届方委敷洪水并大風等之刻限并田畑家木其外品々之損もの一ツ書ニ御届被成候間以後ハ右之趣ニ相認候様大目附黒田織江申聞候

一二階町出雲屋勘三郎義大風之節桜之木御堀江吹倒候ニ付引上度願書此間大目附江差出置候処御聞届ハ相済引上之節御作事ノ杖突被差出候間勘定奉行へ日限相達可申并御掃城之節も石垣草取候節も以來御作事ノ杖突被差出候間其旨可相心得段黒田織江申聞玉置源五兵衛へ申達置候

一昨年之通御年貢不相済内ハ掛米并切手替仕間敷切手納相始候迄ハ為替米差出候義御停止御触町方計へ相触候様勘定奉行石田新治ノ演説有之町方へ相触候

一一之宮牛馬寄ニ付博奕等之義例年之通之御触差出候尤何方江も不申達候先例也

一金田川院庄川差支候節問屋へ不相知候ニ付往還之人問屋江立寄為知候様被仰付被下候様蔵合孫左衛門申出松岡治部助へ懸合候処不致承知他方之様子聞合候様申聞候付姫路之様子問合候様ニ源五兵衛喜左衛門兩人江申達候

一牢舎人療治差出候外科原田春景ニ廻リニ相成候間田外玄洞差出候

段玉置源五兵衛届出候

一 目明孫兵衛出勤ニ付一昨日豊後屋和助飯役差免候段小頭相届候

一 船頭町船持五拾四船有之年々五拾四人之もの共御廻米賃先借リ巷人前五拾匁ツ、仕候処当年者廿一人ハ船繕仕不為拜借残リ三拾三人拜借願書玉置源五兵衛差出受取置明後日可差出事

一 津川山ニ有之由ヒゞと申木之実油ニ候様昨年被仰付候由此節持出候様斎藤孫右衛門願出松岡治部助へ懸合置候

一 牢屋下番中間伝助大風之砌居宅半潰相成住居不相成是ハ牢屋敷なれとも古来ノ自分普請之由尤中間頭支配ニ付役筋ニ而者構無之由併右難洪御中間頭へ申立候付及噂候旨小頭申聞候

一 例歳之通万人講内貸老貫八百匁証文玉置源五兵衛差出致奥書相渡候

八月十一日 快晴

一 三軒家上下今日ノ草刈取計候段中村作治申出候

一 備中国盤梨郡稻蒔村太郎右衛門弟三太夫義新職人町美濃屋佐七借屋原屋久八郎養子ニ引受候住宅証文差出候

一 船頭町米屋藤右衛門餅米六拾七俵川下ケ江原文蔵出役

一 城州宇治郡黄壁山門前三原友章内用ニ付武田七郎兵衛方江罷越九月中逗留願書孫左衛門差出承り届ル

一 札元玉置卯左衛門備中矢掛中西愛右衛門方へ内用ニ付明後十三日罷越十五日計逗留願書差出明日御用所江可及御沙駄事同廿八日夜前罷候段相届両所へ申達候

一二階町出雲屋勘三郎御堀江落候桜之木明後十三日八時ノ引上申度

届出候明日勘定奉行へ可及対談事

一茅町髮結源吉義疵平愈候段藏合孫左衛門届出候近日可遂吟味事

八月十二日 快晴

一昨日記置候玉置卯左衛門備中矢懸行願出一学殿江及御噂候処御聞  
濟ニ付右願出大目附黒田織江へ相渡置御聞濟之段孫左衛門へ申達  
候

一船持拝借願書御用番一学殿へ差出置候

一先月廿六日大風之砌御堀端之堀御堀江倒候分届出候様黒田織江申  
聞孫左衛門へ申達候

一今夕植村庄助講釈相始候旨豊屋喜左衛門届出承置候

一新職人町岩倉屋伊兵衛娘なか孝状書御用番江差出近例之通銀五枚  
被下候様相伺候処右行状書之内佐久間兵右衛門殿家来神田甚蔵并  
兄之名面有之難取計候間右書面之内右之名面除差出候様被申聞其  
旨孫左衛門へ申述候

一二階町出雲屋勘三郎様ノ木明十三日八時引上候段勘定奉行植木左  
士へ申達候

一中山金蔵番代中山百蔵義二本入扇子持參小頭部や頭同道ニ而目見  
又右ニ付御使組加藤登八差戻候段小頭ノ申述勘定奉行植木左士へ  
及噂候

一綿実油稼玉置源五兵衛組屋源左衛門両人名前ニ而組屋引受仕候処  
双方勝手ニ付又々源五兵衛引受ニ仕度願書差出先例御用所達ニも  
不及大目附へ及噂候趣ニ付黒田織江へ及噂候御用番へ申達候様  
申聞依之一学殿へ申達置候 同廿一日同済申渡候

一牢舎人仙右衛門病氣ニ付医者願出并助十郎ニ廻り相濟候付代医願

出藏合へ申達候 吉武修格申付候由

一若君様御台様御養被成候段御触并御年貢為替米之御触御家中へ出  
候

八月十三日

一船頭共拝借願書一学殿江差出置候処黒田織江ノ去々年去年も拝借  
仕候事哉調出候様申来調候処毎年相願濟候事ニ而者無之天明四甲  
辰年二月天明六丙午年十二月寛政元己酉年三月相願候事ニ付其段  
明日可達候

一黒田織江ノ御堀江堀倒候面々名面書調差出候様申聞孫左衛門へ申  
達候処左之通ニ候

堺町玉置源五兵衛 京町阿波屋亀吉 畳屋ぶん 伏見町古川屋  
忠兵衛 作人齋之丞 同勘吉 幸廣後家 材木町竹屋勤兵衛  
大福 屋熊蔵

一上紺屋町伊佐美屋喜兵衛家内三人当六月出奔仕候旨届出即刻百日  
尋申付候 明日可及噂候

一二丁目林田屋兵助家屋敷南側ニ而表口四間半裏行拾七間但老軒役  
也右家之内東三間口裏行拾七間但御役六歩七厘付右家代銀八百匁  
ニ同町林田屋みねへ売渡度願書差出承り届ル同月廿二日売券証文  
出ル廿分一四拾匁

一下紺屋町原田屋佐七娘はつ去々戌歳太田村伊之助妻ニ遣候処離縁  
願差出承届ル

一牢舎人仙右衛門助十郎代リ医吉武修格申付候段孫左衛門申出候

一 町方酒屋道具夏洗相濟候間封印致具候様願出候

八月十四日 雨

一 於江戸表お姫様御七夜御祝義被為濟候ニ付右恐悦明日申上有之候間例之通惣出御触書致到来尤右ニ付明日月並御礼無之由右恐悦申上ニ大年寄諸吟味札元御目見医師町々年寄役宅迄罷出候ニ付御触町方江差出候

一 昨日之所ニ認置候船頭拜借之年数并御堀江堀倒候書付大目附へ差出候

一 京町吉田屋喜八郎酒樽之内五尺物式本細高三本ノ五本痛候ニ付新ニ拵出来候ニ付痛儘致封印候様願書差出御用所江及御沙駄大目附中へ願書差出一両日之内封印可取計事

一 稻荷山大木去ル廿六日大風之節中折并倒木調出候様ニ三軒屋江可申達候旨小頭江申付候

一 上紺屋町伊佐美屋喜兵衛同人嫁きわ孫もよ右家内三人当六月御願申上家屋敷売払東新町玉屋伊左衛門借屋へ引越候旨ニ候処其後不見懸候付玉屋伊左衛門へ承合候処左様之義無之旨申候左候ハ、其節致出奔候事と奉存候間御届申候間五人組ノ届書差出即刻並之通百日尋申付置其段御用番江及御沙駄大目附中江も申達候届書差出置候

一 御堀江堀之木落居由昨日吟味申付候得共急々相知不申候段大目附へ申達候処尚又致吟味候様ニ被申聞其旨大年寄へ申達候

一 二階町出雲屋勘三郎桜之木昨日可引上致用意相待罷有候処御作事ノ杖突不仕致迷惑候段申出候ニ付御作事奉行へ以後八当人ノ直ニ

御作事刻限等申出候様ニ懸合置其段大年寄へ申達候

一 牢舎人伊右衛門一昨日ノ中風之趣ニ付医師願出其段大年寄へ申付候処北山修伯申付候旨申出候

一 牢さらへ是迄牢番ノ申出候上ニ而取計来候得共左候へ者何連も致用意候間以後ハ程能時節を見合穢多頭九郎右衛門ノ申出不意ニ取計可申段小頭ノ九郎右衛門へ申付候様ニ小頭へ申達置候

一 三倉屋栄治郎組合外ニ而万々困候ノ申出候ニ付町内ノ助相動候様ニ及差図候

一 植村庄助講釈出席百人余も御座候由明後十六日ノ前訓を誦候旨其節ハ拙者義も致出席具候様ニ豊屋喜左衛門願出候

一 御用所江治部助拙者兩人御呼出ニ付左之通御用番ノ被申聞候博奕過料之義治部助存寄之通被仰付置候得共植村正助義ハ下情ニ通し候ものニ候得者尚又兩人ノ得与申聞及相談正助存寄も承

糺可申上之旨被仰付御受申上候

一 新職人町岩倉屋伊兵衛娘なか孝状書此間被仰出候通認直一学殿へ差出候

八月十五日 曇

一 お姫様御七夜恐悦申上御故障ニ付御延引被仰候廻状到来其段大年寄并小頭江申達候尤式日御礼ハ被為受候旨ニ候

一 宮嶋之間御縁座敷中通ニ而席順ニ御礼申上御家老衆御取合早而例之通御役順ニ而御用所江罷出当日御祝義申上候

一 御達有之候間居殘候様大目附中ノ被申聞扣罷在候処左之通於焼火間大目附詰合御用番一学殿ノ被仰渡候尤三奉行席順一ノ所ニ罷出

候

来歳御厄年ニ付御祈祷之御礼差上之披露有之候処一段之仕

合ニ候

右御請筆頭ニ達御聴難有仕合奉存候

右御受申上方内々大目附中ノ演達有之候

右早ニ於御用所大目附出席御用番一学殿左之通被仰渡候

来歳御厄年ニ付御祈祷之御礼差上之奇特之事ニ候此段恐悅

并町方之もの共江ニ不残様可申達候

右早ニ退出小頭川端又六呼出右之旨申渡并書役同心組牢屋三軒屋

可申渡旨以書付申渡候右早ニ而大年寄藏合孫左衛門斎藤孫右衛門玉

置源五兵衛三人呼出小頭又六詰合ニ而右之段申渡并右以書付町方

之者共江無残様ニ夫々申渡候様申達候

八月十六日 曇

一竹千代様御誕生御祝頂戴仕度配當場願出候段昨日大年寄申出候尤

備前ニ而者去ル十二日御誕生并御着帯之御祝而度分被下置候間而

度分頂戴仕度願出候付先例相調候処孝恭院様御誕生之砌者御檢約

中ニ而其節者兼而一ヶ年老貫五百匁と御定被下置候御約束ニ而度々

ニ被下候事無之叔姫様御誕生之節も備前ニ而者御着帯并御誕生而

度分御祝被下候旨願出其節大年寄る備前へ承合候処無相違候得共

此方様ニ而者御妾腹「」御着帯御祝可被下節無之ニ相極其節も御

誕生御祝計被下置候間今般も右御同様之義故御誕生御祝計被下置

候様一学殿へ及噂置即刻御聞濟ニ付其段大目附へ及噂置大年寄孫

左衛門へ御聞届之段申達候但忝度ニ五百匁ツ被下候御定法也尤

勘定奉行へも御聞濟候段及噂候

一京町御門橋枕ニ懸リ候倒堀之木遂吟味候処京町畳屋ぶん堀之木之

由大年寄申出其段大目附へ申達候御作事方へ通達可有之候間御

作事へ罷出受取可申旨被申聞其旨大年寄へ申付候

一皆木屋勘助牢賄宿ニ而いたし参候段申出五人組并町内ノ取計可申

旨先達置候得共甚助義博奕参会と申ニも無之町内ニ為致難義候筋

ニも無之併出牢も難為致人物ニ付先一兩年入牢と先役伺置候義ニ

付急ニも難取計故牢屋賄ニ仕度段一学殿へ相伺候処凡而宿有之も

の猥ニ牢賄ニも難致筋殊ニ死罪ニ不極ものハ牢賄ハ難取計筋惣而

左様之もの永評義ハ不宜節ニ候間始終之御裁許付相伺可申旨被申

聞候

一勝間田町年寄七左衛門病身ニ付退役願跡役栄屋源右衛門へ可申付

先達而伺出承リ届候処其砌る源右衛門病氣「」不申付難相待居

候処昨日致病死候ニ付追而跡役之もの撰伺出可申旨大年寄申出候

一大坂立売堀二丁目播磨屋惣吉と申小間物売例年之通中之町小山屋

与三右衛門方へ昨日罷越逗留之願書差出候十月廿六日罷帰候段相

届候

一信州木曾萩原宿古屋善吉と申木櫛売例年之通中之丁小山屋与三右

衛門方へ罷越逗留願書差出候十月廿六日罷帰候段相届候

一大坂嶋之内大宝町万屋善次郎と申革足袋すいのふ金とうし売勝間

田町山形屋喜兵衛方へ例年之通逗留願書差出候

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛例年之通小間物卸ニ勝間

田町山形屋喜兵衛方へ昨日罷越逗留願書差出候

一 今般御出生被成候御女子様御七夜御祝義被為濟御恐悅明後十八日御徒格以上五半時惣登城御触書到來大年寄并小頭江夫々江相達候様申達候

一 酒盥夏洗相濟候段此間申出候間今日小頭部屋目附差出封印為取計候

八月十七日 雨

一 今日も酒盥封印ニ小頭部屋目附差出候処昨今兩日ニ而封印相濟候段川端又六三船孫八届出候此段明日御用番大目附へ可為御沙駄候  
一 船頭町高松屋武兵衛出奔後家財諸道具部屋目附差出為致封印有之候処右部屋目附致番代當時不相動候間右封印改直ニ部屋目附三船新治差遣諸吟味と致相封印候様ニ申付差遣候処封印仕相濟候段申出候久山勘八も右同断届出候

一 植村正助町講釈屋夜共致出席候

一 明日御誕生之御女子様御七夜御祝義申上御延引之御触書到来其段大年寄并小頭江夫々相達候様ニ申達候

一 去月廿六日大風之節稻荷山木左之通風折有之候段三軒番申出大目附へ差出候

大木根倒之分 拾本

同中折之分 五本

小枝折之分 式拾八本

ノ四拾三本

一 去月廿六日大風之節風損害左之通去ル二日大目附へ差出候

一 河原町北側裏表口三間半奥行三間義助後家宅

一 表口式間奥行三間

同人借屋八助

一 表口式間奥行三間

同人借屋仙右衛門

右三軒棟統ニ而御座候

一 河原町北側表口式間奥行三間

山形屋長七

一 安岡町北側裏桁行三間半梁行二間

作人喜次郎

一 右同断桁行三間梁行二間

角屋武助後家

一 同町筋違橋際桁行三間梁行二間半

作人宇助

一 西今町中之横丁桁行四間半梁行二間

直屋市郎左衛門借屋

一 上紺屋町南側表口二間奥行五間

作人太郎作

一 中之町南側裏桁行四間半梁行三間

香山屋いそ

一 船頭町大手表口四間半三尺五寸奥行一間半

作人忠助借屋

右大年寄差出候

一 同心組室井重助家半潰但拜領地自分家

一 同萩野嘉七家潰但自分地自分家

右小頭差出候

八月十八日 曇

一 造酒屋酒盥夏洗相濟致封印候段御用番并大目附へ及噂候

一 新職人町岩倉屋伊兵衛娘なかに孝御賞候義先日伺置候処伺之通為御褒美白銀五枚被下取計候様一学殿被仰渡候其旨大目附并勘定奉

行へ及噂候処取計候上ニ而大目附へ相届候様被申聞候尤被下銀小

勘者相廻候付明日差出候様大年寄へ申達候

一 船持共拜借先日伺之通相濟右願書大目附へ相渡置其段大年寄へ申

渡候

一 牢屋御制札朽候而見へ不申候間新ニ被仰付被下候様大目附へ申達候処御作事江可申達候間懸合候様被申聞候

一 齋藤孫右衛門義勝山金田万右衛門方へ五六日逗留ニ而明後廿日罷越申度段孫左衛門届出承り届候廿四日帰届

一 梶場橋普請此間取懸り候旨今津屋孫七郎相届置候所尚又出来之段届出候

一 牢屋下番中間居宅破損之義黒田織江相咄置候

一 八木扠底と申ニも無之候得共高値ニ而下々難義仕依之造酒屋共酒仕込今暫御差留被下候様林田町へ願書差出申候右願書ハ差戻申候得共其旨御取計被下候得者氣受宜候間御取計被下候様孫左衛門申出明日御用番江可伺事

一 植村庄助前訓講尺廿日切ニ可仕之旨喜左衛門届出候旨孫左衛門申聞候

一 御葉用むくろし御入用石数村山三立へ相尋候所ニ石五斗御入用之旨申越當時買込干立候得者三割減候由ニ付三石相調候様孫左衛門へ申達候尤久山勘八懸リニ而万人講散し配リ之節備中ニ而相調候筈也但大抵運賃共老石四拾匁位之由

一 材木町針屋政八方ニ差置候無宿吉兵衛諸道具町年寄預り居候間最早被下候得者墓印入用等ニ仕度申出候付一学殿へ及噂候所伺之通被仰付其段孫左衛門へ申渡候

一 皆木屋甚助義先役二三年入牢と伺置候義差而當時害と申程之義も無御座組合致迷惑候計之義ニ候得者先暫此俟ニ仕置可申段一学殿へ申達候所追而相考可申旨被申聞候

一 備中国板倉主水佐殿御領分賀陽郡中田村藤三郎悖新蔵と申者小性町浜田屋善六引受人別入願書差出廿日御用番一学殿へ申達候処御聞濟ニ而右願書大目附へ相渡置候九月三日住宅証文差出候

一 西新町飯綱屋源蔵新七親子西国順礼願書差出承り届ル

一 小性町浜田屋善六悖重治郎大坂上町河内屋喜兵衛方へ三ヶ年奉公ニ差出度願書差出承り届ル

一 細工町大工治助悖三保吉義大熊富太郎殿へ奉公ニ差出申候間人別離願差出承り届ル

一 茅町源吉亀之助三倉屋栄治源蔵并牢舍人灰屋与右衛門下男栄蔵明日可遂吟味候間夫々出役いたし候様達置候

一 松岡治部助へ明日押込盜賊致吟味候間立合組者差出候様申来又六へ申達候

八月十九日 晴

一 昨日伺相濟候孝子呼出於玄関左之通申渡被下もの白銀五枚八寸ニ裁セ同心組当番持出相渡尤詰合大年寄諸吟味小頭部屋目附当人ハ玄関之上へ上ヶ年寄五人組者敷台ニ着座ス

新職人町岩倉屋

伊兵衛娘

其方義親江孝行尽候段

なか

町年寄共ニ行状書を以申出其旨達

御聴候処奇待之至ニ付為御褒美

白銀五枚被下置候弥以孝養相励可申候

右申渡相濟候段御用番并大目附へ相届候  
一 造酒屋共御米積替之分千俵拜借之証文差出致與印勘定奉行へ相渡

候

一 御蔵米七拾七匁町米七拾三匁

一 茅町髮結源吉木屋龜之助三倉屋栄治鉄炮町源蔵喧嘩一件呼出致吟味候

一 入牢者上紺屋町灰屋与右衛門下男無宿栄蔵呼出逐吟味候

一 酒造込暫差留候義御用番へ相伺候処追而御沙駄可有之旨一学殿被申聞候

一 古川村庄七牢賄ニ取計候様松岡治部助る申来小頭引込ニ付部屋目附る牢番へ申達候

八月廿日

一 昨日一学殿江罷越候御用席ニ是迄同心組出役先ニ而酒杯出候義致増長候趣ニ付同心組江者稠敷申付置候間町方江も右之趣触為知候様ニ可仕哉と相伺候処其通取計候様御差図有之候

一 造酒屋共御米千俵拝借之借文勘定奉行石田新治へ相渡候処米切手千俵相渡受取大年寄蔵合孫左衛門へ即刻相渡候

一 造酒屋共酒造込今暫見合候様可申付相伺置候処通一学殿御間届ニ付其段先例之通申達候様蔵合孫左衛門へ申達候

一 町方宗門帳当年直之通扣置来歳間違無之様ニ取計可申旨孫左衛門へ申達候

一 牢さらへ申付嘉七磯兵衛廻りる罷出相改候処別条無之段届出候  
一 同心組昼夜町廻之節帰り届是迄無之事ニ候得とも帰り遅来も難計

ニ付以来出入共相届候様一昨夕る右之通申付候  
一 牢浚も是迄牢番る申出候上ニ而取計候事ニ候得共夫ニ而者致用意

候故何之益も無之筋ニ付以来八不意ニ取計候様小頭江申付夫る穢多頭九郎右衛門江為吞込置候

一 竹千代様御祝配當場来ル廿三日取計候旨孫左衛門申出候

八月廿一日 晴

一 明廿二日廣国院様御証月ニ付五半時御供揃ニ而本源寺へ御仏詣被仰出候旨中奥目附藤堂忠右衛門る通用有之大年寄小頭江例之通取計候様申達候

一 牢番内田儀助病氣ニ付加番人願出其段大目附江相届候処即刻勘定奉行江可申達旨被申聞候

一 去月大風之節船頭町土手御制札場玉垣并家根東之方損候旨書付差出明日大目附へ可差出事

一 伏見町能勢屋源助致病死候段大年寄る届出候

八月廿二日 雨

一 今朝御仏詣五時御供揃ニ相成候段中奥目附藤堂忠右衛門る通用有之小頭大年寄へ申達候出番定治文蔵無滞相濟候段届出候

一 宮脇町阿賀屋助二郎借屋古川屋さか借屋公事願書大年寄差出寺社取次山田孫四郎へ懸合置候

一 植村正助罷出申聞候者町講釈も最早十日余茂相勤殊ニ中庸も三四会ニ而者相濟候間町講釈者是切ニ仕度乍然御約束之通三十日計ハ

逗留可仕候間其中八宅ニ而隨心之者共江解示可申重陽後出立可仕此段及相談候旨ニ付右之段一学殿へ相伺候処上之思召ハ無御座候

間何連正助存寄次第ニ致対談宜取計候様被申聞候  
一 牢舎扶持六俵之内渡証文昨日小頭差出致奥印候

一 牢舎人幸吉病氣全快ニ付休葉幾二郎病氣ニ付葉願助十郎伊右衛門  
二 廻リ相濟候付跡医師儀右衛門願出大年寄へ申達候処北村幸齋申  
付候段相届候

一 組屋忠三郎綿実稼玉置源五兵衛引受仕度願御許容候旨一学殿今日  
被申聞右願書大目附へ相渡其段大年寄へ申達候

一 明日五時御供揃ニ而川辺江御出被仰出御道筋北御門五林田上之町  
通御通行被遊候由中奥目附る通用有之候処町分ニ無之故御先八  
不差出候先例ニ付何方江も不申達候

一 船頭町船持拜借老貫六百五拾匁証文差出致奥印候

一 船頭町今津屋孫十郎参宮三十日計逗留明後廿四日出立願書出ル

一 西新町谷屋富吉家屋敷十一ヶ年已前ニ冲屋庄助取次ニ而質入いた  
し候処此度相濟受返し候届書差出候

一 牢番加人御使組渡部忠助罷出候旨儀右衛門相届候

一 今般御誕生之御女子様御七夜恐悦来ル廿五日五ツ半時揃登城恐悦  
申上候様御奏者番中る廻状来大年寄并小頭江申達候

八月廿三日 晴

一 牢舎人灰屋下男栄蔵呼出口書為致爪印候

一 茅町喧嘩一件源蔵源吉龜之助栄治呼出遂吟味候

一 坪井町福恵屋伊兵衛罷帰候段相届候

八月廿四日 雨

一 植村正助義夜前豊屋喜左衛門を以町講尺中庸相濟候ハ、安樂問弁  
と申仮名書講可申旨申越其段一学殿江申達候尤町方之者共不出精  
ニ付出席候様御触被下候様豊屋喜左衛門内意申出其趣一学殿へ

相伺候処勝手次第ニ可仕旨御差図ニ付蔵合孫左衛門へ申達町年寄  
へ相致演達候

一 昨日遂吟味栄蔵口書を以左之通一学殿へ相伺置候

灰屋与右衛門下男

口書之通当地ニ而悪事仕候義無御座ニ付 栄蔵

領分追払

灰屋与右衛門

出所も不相糺請人無之下男差置候

不届ニ付追込三日

右伺之通被仰出九月三日取計候

一 竹千代様御誕生御祝義配當場へ相渡候請取書一通大年寄差出候明  
日大目附へ可相渡事

一 戸川町作人多七妊娠届延引之届書差出候

一 斎藤孫右衛門唯今勝山五罷帰候段相届候

一 例歳之通播州加古川るねちわく細工手伝九郎兵衛長治郎兩人二階  
町嶋屋藤吉方ニ差置度願大年寄差出承届ル

一 西新町谷屋藤吉家屋敷表口三間裏行拾七間但三步役也右家屋敷之  
内西之方巷間口裏行拾七間但老步役也右之家三百匁ニ同町余野伝

七へ売渡度願書差出承り届ル九月朔日売券状差出候

一 右同人家屋敷之内東之方二間口裏行十七間但式步役也右之分六百  
匁ニ同町高野屋利兵衛へ売渡度願書大年寄差出承り届ル九月朔日  
売券状差出候

一 御家老組下山庄七渡屋敷ニ居候作人文蔵与申もの家内四人勝間田

町清八引請人別人願書大年寄差出承届ル

一松岡治部助〇〇〇村穢多清吉茂兵衛甚吉三人入牢申付候段差紙差越立合新治差出候

一二人宮江押込候盜人六人は迄於他国働振相尋候様御沙駄（てんぐ）有之候段

松岡治部助申聞牢番儀右衛門へ申付候

八月廿五日 快晴

一今般御出生様之御七夜恐悦申上ニ付五半時揃惣登城ニ付五時出仕

一松岡治部助当病断申越御奏者番御使番へ以書付相届ル

一於七間廊下御小性頭小嶋新五右衛門謁大目附三奉行一処ニ今般御

出生之御女子様御七夜御祝義被為濟候恐悦申上早而於同席若殿様

江も恐悦申上退出直ニ松岡治部助当病不參ニ付私名代と申名札御

小性頭江差出名代之恐悦申上尤若殿様江も御同様申上候早而御用

所江三奉行例之通罷出御七夜之恐悦申上候引懸大目附へも右同様

恐悦申上候

一大目附役所江三奉行御呼出ニ而今般御出生之御女子様（女）柔姫様と奉

称候間其段相心得右御同名ニさへ無之候得者名乗号等ニ相用候義

ハ不苦且又御家門様方江も為御知も無御座御取扱御次男様御同様

之旨演達有之候

一右恐悦ニ付御酒御吸物被下置御用所坊主役所前ニ於而頂戴仕早而

右頂戴之御礼大目附役所へ罷出申上統而於七間廊下御小性頭小嶋

新五右衛門へ謁頂戴物之御礼申上候

一大目附役所江被呼出左之通黒田織江る被申達候

同心組萩野嘉七義去月大風之節家潰候ニ付致普請候ハ其節者

八木式儀可被下置候間其節可申出候此段達置可申候

一明廿六日五時御供揃ニ而杉山へ御茸狩被為入御道筋ハ京橋御門〇梶場へ被為入候旨中奥目附山田孫四郎〇通用有之小頭并大年寄へ申達候

申達候

一柔姫様御名ニ差合候名相改候様ニ御触取計候様小頭并大年寄へ申達候

達候

一先日大目附〇被申聞候むくろし三石備中へ申遣候段大目附へ相届候

候

一萩野嘉七へ普請仕候者八木式儀可被下之旨小頭部屋頭詰合ニ而拙者申渡候

者申渡候

一牢番茂助四歳之小兒致死去候段小頭届出候

八月廿六日 晴

一西今町公文屋清左衛門〇罷歸候段相届候

一竹千代様御誕生御祝義配當場頂戴之請取書御用所江致持參其段口上ニ而御用番江申上大目附へ相渡置候

上ニ而御用番江申上大目附へ相渡置候

一左之通口上書大目附へ差出候 九月六日八木式儀整下候

牢屋下番中間伝助居宅先月大風之節吹潰申候先年も八木式儀

被下候義御座候間今般被下候様仕度奉存候已上

八月廿六日 増見右門

一盜賊引入二ノ宮庄七義ニ付以来盜之子ニ而も懸リ合無之候得者御

構不被成其俣ニ而御免被成候思召ニ被遊御座候間以来左様相心得

松岡治部助へも演達可仕候旨一学殿御申聞被成候

一牢舍人仙右衛門全快休葉申出候

一同橋井市右衛門代之医願出申付候処阿部同見申付候由大年寄申出候

一御使組平七郎渡屋敷ニ居候庄兵衛家内三人戸川町角屋庄七引受人別入願書出候承届ル

一七月人別改差出候

出生拾五人 男拾貳人 女三人 人別人 四人

人別除 貳人 死失拾五人

差引ノ貳人増

一竹千代様御誕生御祝義配當場へ被下銀受取五百匁之証文致奥印候  
一河原町平兵衛後家京町阿波屋弥兵衛娘家質流込之願書差出致内濟候様ニ大年寄へ申達候

八月廿七日 晴

一播州網干新在家伊部屋清六と申者老人例年之通塩物并鯉節卸売ニ

参候ニ付逗留為仕候段中之町甲屋幸助宿切手差出承り届候

一牢番内田義助出勤仕候段相届出右ニ付加人御使組明日る差戻候段

大目附黒田織江江相届候

八月廿八日 快晴

一関貫番賃銀百五匁豊岡藤十郎差出候

一玉置卯左衛門夜前備中る罷帰候段相届御用番并大目附へ手紙ニ而

相達候

一村山縫殿丞長屋ニ居候和兵衛家内三人上紺屋町高田屋清治郎引受

人別人願差出承り届ル

一河原町屋根屋平兵衛京町阿波弥兵衛家質内濟不相調ニ付願書差出

候

八月廿九日

一髮結源吉木屋龜之助三倉屋栄治鉄炮町源蔵呼出口書ニ為致印形候

一下紺屋町文珠院跡諸道具勿論家財町役迄常法院引請可申段申候

ニ付相渡旨申出候由大年寄申出承り届引渡一札取置候様申達候

尤藤本十兵衛へも懸合候

一関貫番賃銀算様帳久山勘八差出候一覽之上返へし候

一町方宗門改帳書損有之昨日北郷門兵衛る差戻為相改門兵衛方へ為

持置候

一玉置卯左衛門義一ノ宮市町銀札小売場今日引取候段相届候

八月晦日 晴

一東新町橋本や茂右衛門借屋ニ居候作人友三郎夫婦娘三人雲州秋鹿

郡上伊野村友七方へ引越申度人別離願御用番江差出候処御聞届相

濟大目附へ願書相渡候

一雲州嶋根郡久谷村松右衛門悴角三郎と申もの材木町菊屋与三兵衛

借屋ニ居候勇八引受人別人願御用番御聞届相濟願書大目附へ相渡

置候九月七日証文出ル

享和元酉八月廿三日親元へ指戻候

一去ル廿四日伺置候灰屋与右衛門下男取計伺之通被仰出候近日可取

計候

一二階町組屋忠三郎封印之酒樽五本土屋能登守殿領分勝北条郡上村

重右衛門へ勝間田町桶屋久太郎取次ニ而売渡願御用番へ差出置候

一新米高値ニ付造酒仕込差留置候処昨今七拾貳三匁位ニ相成候間造

酒仕込御免被成候様大年寄申出御用番江相伺候処御聞濟ニ付大目

附へ及噂最早勝手次第ニ造込候様大年寄へ申達候

一 当月廿分一銀九拾三匁大年寄差出候

一 牢屋小買物払残四拾匁三分式厘小頭江相渡候尤一ヶ年ニ五拾匁ハ

役所ル相払其余ハ御上払ニ相成候事且又当年ハ後藤松岡増児三人

ニ而割合ニ致相払増児分式拾四匁九厘也此度取かへ置候ニ付暮ニ

三拾匁三分式厘御上払之内ル可戻筈也

一 牢屋井戸かへ入用式匁小頭江相渡候

一 阿賀屋助治郎古川屋宗助借屋明渡一件之義内濟致候様大年寄へ申

渡候

一 市村但見長屋住利兵衛と申もの元魚町羽織屋喜兵衛借屋中野屋伊

助弟ニ付引受人別入願大年寄差出承り届候

一 郡代ル穢多市兵衛甚蔵仁三郎友吉五人入牢申来申付候

九月

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田彈正殿

大目附 小須賀貢

大年寄

齋藤孫右衛門

諸吟味

久山勘八

九月朔日丁酉 晴

一 五半時揃ニ付五時惣出仕於宮嶋之間順席之通植木左士と兩人罷出

御縁座敷真中通ニ而御目見江造酒助殿御取合右早而於七間廊下御

小性頭小嶋新五右衛門へ謁若殿様江当日御祝儀大目附ル三奉行一

所ニ申上直ニ松岡治部助当病不参候名札新五右衛門へ差出尤今日

ハ名代申上者無之右早而御用所江罷出当日御祝義申上候統而引懸

ケニ大目附役所江も右同様申述候

一 訴状三通赤見菅吉を以御下ケ被成明日罷出御直ニ申上候様被仰付

候尤御用金并大工并運上并檜物屋水杓等之事也

一 京町原田屋伊兵衛播州ル夜前罷帰候段相届候

一 講場受取ニ小頭川端又六差出候延引ニ相成候

一 瓜生原屋宗兵衛御殿大豆拾俵大豆式拾五俵小豆四俵川下申出江原文

蔵差出候

九月二日 晴

一 此節新米出米候得共川下ケ御差留ニ付爰元江他領ル差出候米扠底

ニ有之候川下ケ御免被成候ハ、米之入込多可相成趣ニ相見へ候間

何卒御免被成候様仕度古米直段も高値ニ付中々古米を川下ケ仕候

義ハ有之間併万々一右ニ付米高直ニ相成候様之趣ニ候得者其節御

差留被成候へ者相濟候事ニ而故障ニ相成候義ニ者無之ニ付川下ケ

御免被成候様ニ大年寄申出其段御用番へ相伺候処伺之通被仰出依

之川下ケ御免之御触書大年寄へ差遣候尤右之段大目附へも申達候

一 芝居御免之御差合被為在折節大年寄諸吟味共も以後芝居之願株間

屋軟大保頭之内江被仰付一ヶ年ニ壹度ツ、昼芝居仕候得者当地之

者他所芝居へ參候義者御制不被成候共仕間敷さすれば御国之金銀  
他江不出殊ニ右之通芸居座極居候得者一度之芝居ニ五六百匁ハ受

負人ノ差出候間右銀を以大町入用ニ仕候得者夫丈之御救ニ相成全

躰潤ニ相成候故被仰付候様仕度孫左衛門喜左衛門申出候ニ付御直

ニ御沙駄<sup>(マツ)</sup>仕候処思召無之御用所江申出候様御内々御沙駄<sup>(マツ)</sup>ニ付今日

御用番江申達置候 八日之所ニも記置

一 龍吐水今巷ツ町方工面ものニ而相調申度大年寄願出御用番江申達  
置候 四日御聞届也

一 博奕過料之義治部助右門兩人之考書植村正助へ為見正助存承り

候様昨日被仰出其段申達置候旨一学殿江申達候

一 御駕籠之者耆人御箱持三人被召抱候間望之者ハ可申出候様相触可

申尤来ル廿日比目見江被仰付候条大目附中演説有之大年寄へ申

達候尤松岡へも致通達候

一 中之町平岡屋忠右衛門大坂ノ昨日罷帰候段相届候

一 目明兩人扶持三拾四匁六分五厘非人番扶持式拾匁九分半屋扶持

拾七俵同勤者賄代四拾匁例之通小頭差出致與書候

一 例月之通川切手式枚差出致與印候

一 昨日御下ケ被成候訴状中ニ有之候水杓扠底之義致吟味候処元禄十

二年ノ他処御差留ニ相成居候事ニ而當時ニ而者檜物屋七人有之

候依之以来不致出精候得者他処御売買差免候様相成候間随分出来

候様ニ可申達旨大年寄へ申達候

一 酒殊之外不宜候間此節致沙駄置可然御直之御沙駄<sup>(マツ)</sup>ニ付他所酒ニ不

相替宜致出来候様可取計他所酒ノ不宜高直ニも相成候趣ニ而者他

所酒売買差免候間右之心得ニ而入念造酒可致御前酒ニても爰元ニ  
而出来候様致度段申達置候様大年寄へ申達候

一 江戸御勘定西野嘉内殿外ニ御普請役耆人検見御用ニ付明三日東北

条郡堀坂村ノ綾部草加郡野村夫ノ榎村河面村へ順路御座候尤同所

昼後出立ニ而宮尾村江被相移候旨郡代松岡治部助より通用有之寛

政二庚戌年九月十八日検見御役人柘植又左衛門殿通行之先例之通

同心組式人為警衛見江隠ニ差出候様御用番并大目附へ相届小頭又  
六江申付候町方掃除ニ者不及候得共見苦敷無之様ニ大年寄へ申付

候

一 組屋源左衛門酒改役質屋頭役御免被下候様願書差出候跡役者悻忠

三郎へ被仰付可然旨大年寄申出承届ル

一 瓜生原屋平吉御藏大豆式拾俵大豆拾六俵餅米八俵川下ケ申出孫八

差出候

一 米屋龜之助髮結源吉喧嘩一件御用所御存寄被仰出尚又相考候様一

学殿被申聞候

一 中之町米屋善右衛門廿二年已前御用銀五百匁差出候間此節家作難

義仕候段歎出御訴状一通御用番御下ケ被成以後ケ様之訴状ハ御取

揚無之候間不差出候様得与為申聞候様被仰渡右訴状御戻被成候

九月三日

一 左之通今朝小頭部屋目附并追払之出番耆人差出牢屋并大年寄宅ニ

而取計其段御用番并大目附へ相届候

出処も不相糺受人無之下男

差置不埒ニ付追込申付候但三日

灰屋与右衛門

御領分追払

右同人家来

栄蔵

一 蔵合孫左衛門義明四日木山寺參詣一夜泊<sub>ニ</sub>而罷越候段孫右衛門<sub>ト</sub>相届候

一 七半時比江戸御勘定西野嘉内殿并御普請方御役人老人町分無滞被相通候段昼廻之者<sub>ヲ</sub>相届其段御用番并大目附へ相届候

九月四日

一 西今町公文屋清左衛門借屋ニ居候丸屋治兵衛後家義悖与市先年致

勘当置候処心底ニ相直リ候付勘当差免帰住宅為仕度願差出御用番

へ申達候処御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞届之段大年寄へ

申渡候

一 龍吐水町方工面もの<sub>ニ</sub>而相調度事去ル<sub>二</sub>四日申達置候処伺之通取計

候様御用番中被仰付大目附へ及噺置大年寄へ申達候

一 俊明院様七回御忌ニ付配当場被下銀願出御用所へ申達候処御聞濟

ニ付大目附勘定奉行へ及噺置大年寄へ御許容之旨申渡候

一 博奕過料<sub>取</sub>立候義治部助并拙者存寄書植村正助へ為見存寄相尋候

様一学殿被申聞一学殿へ差出候処正助存寄相認封申候而差出候付

其俥一学殿へ差出候

一 茅町源吉亀之助喧嘩一件再考書一学殿へ差出候

一 以来者先例にも不拘一存<sub>ニ</sub>而善悪相極差出候様一学殿<sub>ヲ</sub>茅町喧嘩

一件ニ付被仰渡候

一 西今町直屋市郎左衛門借屋清助今暁少々手あやまり有之隣家打奇

もミ消候段大年寄内々致噺候

一 此間申渡置候檜物屋水杓之義今日申渡候旨大年寄申出候

一手鳴流都講補人御賞詞申達候段大年寄申出銘々も御礼罷出候

御領分追払

一 長田長庵播州龍野<sub>江</sub>四十日之逗留<sub>ニ</sub>而罷越度願差出尤明四日出立

一 昨日差出候組屋源左衛門退役願相伺候処不及御沙駄<sub>先例</sub>ニ付退役

願之通申付跡役大年寄申出候通悖忠三郎へ申付候様ニ大年寄へ申

渡候

一 植村正助町講釈夜前迄<sub>ニ</sub>而仕廻候段届出候付御用番大目附へ手紙

<sub>ニ</sub>而相届候

一 備中国板倉主水佐殿御領分賀陽郡中田村藤三郎悖新蔵と申もの小

性町浜田屋善六引受候所住宅証文差出候

一來ル八日俊明院<sub>様</sub>御法事為御知廻状到来大年寄并小頭<sub>江</sub>相触候

様ニ御触書差出候

一 荷駄馬賃錢高直ニ相成難義候旨訴状差出候旨ニ付右之段相改候様

大年寄へ申渡候

一 植村正助町講尺<sub>相勤候間</sub>補人之面々出精仕候間大年寄<sub>ヲ</sub>出精御賞

被下候様仕度旨豊屋喜左衛門申聞候ニ付其旨取計候様大年寄へ申

付候尤補人名面左之通

一 東新町玉や伊左衛門 中ノ丁二月屋弁右衛門 京町菊屋清左衛

門 元魚町 桃屋伊助 同町羽織屋喜兵衛 宮脇町生駒屋治右

衛門 新魚町櫻野屋茂市 三丁目沢屋孫四郎 八人

外ニ都講豊屋喜左衛門 徳山朴也 北嶋修伯

一 坪井代官瀧口与治右衛門參着庄田伊三郎交代致候案内有之先例之

通及相答候

一 造酒屋共へ入念拵候義申聞置候段大年寄申出候

九月五日 雨

九月六日 曇

一 組屋忠三郎酒樽他領江壳渡度願御聞届相濟候段一学殿被仰聞其旨

大年寄へ申渡候尤願書ハ御用所ニ留ル追而大目附へ可達事

一 牢屋下番中間伝助家潰候ニ付先例之通御救被下候様申立置候処ハ

木式儀被下置候間其旨申渡候様大目附小須賀貢る被申聞其段川端

又六へ申渡候

一 牢舎人川辺村亀吉病氣ニ付医者願出大年寄江申付候

一 牢舎人助十郎代リ医者願出大年寄へ申付候

一 幾治郎伊右衛門兩人ハ休菓申出候

一 茅町喧嘩一件御裁許相濟今日左之通申渡候

追込廿日

療治代七分割合為差出候

療治代相手方為相払

追込廿日

療治代三分之割合

為差出追込廿日

右一件并御家中屋敷へ

立歸候ニ付御暇下追払

西今町

三倉屋栄治

佐々木清見組

森田兵治渡屋敷住

源蔵

右之通小頭部屋目附書役大年寄諸吟味立合ニ而申渡但今般初而  
申渡半切紙ニ相認当人江相渡候亀之助栄治ハ手錠差免相返し候源

藏義ハ出番兩人川向迄送り払船頭町年寄る手形取罷帰候右取計相  
濟候段御用番大目附へ相届并佐々木清見江源藏御裁許相濟候段手  
紙ニ而申遣候追込日数八日之処ニ記置候

一 左之通先触到来候旨大年寄差出候

覚

一本馬 貳疋

一 輕尻 壹疋

右者我々義此度御城米破船吟味御用相濟明二日石州大森曉七ツ

時出立大坂迄罷越候尤掛揚米御払上納銀持參候間於泊々リ触

宿被申付書面之馬於駅之御定之賃錢〔〕取之無滞差出且又一件

乗組之もの共拾七人一同召連候ニ付別宿老軒可被申付候川越舟

渡等有之場所者前宿る相達無差支様可被取計候此先触尼崎る我々

止宿大坂谷町二丁目納屋佐兵衛方へ可被相届候以上

子 九月朔日

上杉彈正大弼御預所役人

刈屋権兵衛

池田仙九郎手代

近藤安蔵

石州大森る 雲州松江通り 伯州米子 作州津山 夫ら播州姫

路 撰州尼ヶ崎

右宿々 問屋

年寄 中

右ニ付御金荷物止宿之節取計先例相調候処安永七<sup>戊</sup>年十一月廿  
八日并天明二寅十一月六日御金荷物爰元止宿之節

同町年寄見舞ニ罷越

同町ノ不寝番兩人差出

隣町夜廻リ申付ル

右之外取計無之尤御用番并大目附へも不相届趣ニ相見へ候ニ付今般も其旨從ひ御兩所江も不相届大年寄へ先格之通取計候様ニ申達候尤右町方取計之義ハ大年寄日記ニ有之候

一「三宝」述之本板行可被仰付哉之旨ニ付存奇御尋被成「仕候処随分左様被仰付可然奉存其内津山年貢之取方至而委敷有之候間此義他方へ出候義ハ如何ニ可有御座御吟味被仰付候様河内志津馬を以申上候

一御家中召仕之者罪有之当役へ相渡候得者主人之手者離候事哉又ハ不離筋之訳相考差出候様先達而小嶋此母を以被仰出尤御日記写御渡被成役所取計之先例并公刃之義迄岡村へ問合候得とも睨といとし候義不相分乍然先主之手ハ不離者と相考候故其段并書を以申上候委細者伺扣ニ認置候間爰ニ略之

一來ル廿一日出羽守様御通行被成候間先格之通取計候様大目附る被申渡候

一去ル四日植村正助差出候博奕過料一件考書御用番ノ御渡被成治部助と兩人致披見猶又相考申上候様ニ被仰渡致披見治部助へ相廻置候

一灰屋与右衛門追込今朝差免候段大年寄る届出其段御用番大目附へ相届候

九月七日

一松岡治部助る当役諸道具諸帳面不残受取引渡相済候

一牢舎「右衛門妻子夏衣ニ而致難義候段願出候付妻子之衣」前る持来候分ハ不残相渡遣候様三船孫八「申付差遣候尤盜賊後拵候衣類ハ相渡申間敷候旨申付候但跡諸道具年寄と相對ニ致候様申付候

一同心組江申渡書昨日於別席一学殿江為御見申候処随分宜候間其旨申渡候様被申聞候付今日不残呼出左之通申渡候

同心組江申渡

一都而服役先ハ可為禁酒時刻過候者香物ニ而湯漬ハ可致取置少ニ而も馳走ケ間敷義ハ為致間敷飯ひ心得違差出し候共堅為断受申間敷候

一一ノ宮市町出役之節も右同断

一御仏参御先私様之格別不障取義ハ可成丈ハ立宿不申付候様ニ可致候

一都而服役先ハ禁酒申渡候得共徳守宮并大隅宮祭礼警固出勤之節者出来合之煮ノ等ニ而神酒差出候義ハ格別之事ニ候雖然不及過酒三献切ニ可致候尤祭礼ニ事寄馳走ケ間敷義ハ為致間敷万一心得違差出候共堅及断受申間敷候

附

万人講出役之節も是迄之致来ニ而不苦候といへとも過酒停止

之事

(貼紙)

「又芝居相模等出役之節も是迄之通一程之」肴ニ而酒少々差出「ハ差免」然又是又過酒停止

一「節定ノ致来之音物并町年寄新役初之音物といへ共一切受申間敷候

但万人講ニ付而之音物ハ是迄之致来之分ハ可致受納候得共其余之送り物一切受申間敷事

右之旨町方江も相觸置候間心得違無之様可相守候已上

九月六日

右ニ付大年寄江も右之渡書之写相渡左之通申渡候

別紙之通同心組江申付置候間町方ニ而も其旨相心得可申候万一心得違候ものも有之於出役先饗応ふりいたしものも有之候ハ、町方之ものも越度可申付候事

九月六日

一明八日五半時御供揃御旅ニ而地藏院へ御仏詣被仰出候御道筋例之通之旨中奥目附野条金平通達有之御饗束御社參御例之通元魚町関貫際江為御固出番差出候様小頭へ申付并大年寄江も例之通取計候様申渡候

一津部長屋ニ居候きく井娘ふミ家内兩人上紺屋町作人庄兵衛引受人別人願差出承り届ル

一雲州嶋根郡久谷村松右衛門忰角三郎住宅証文差出候

一町方差出候諸願書其外之書付類も都而大三折を古来方用候得共当座切之義ハ失隨成義ニ候ニ付以来家質 住宅 家売券 義絶勘当 其外一札類ハ永久取「事ニ候へ」是迄之通大三折ニ相認其余之書キ物願書類ハ不残小三折半紙類之廉紙相用候様為仕度旨於列席昨日一学殿へ及噂候処尤之義存寄次第ニ取計候様被申聞其

旨大年寄へ申達候

一昨日先触来候石州ニ而御城米破船之人々今曉罷通り勝間田止宿ニ相成爰元ニ而者何之差講も無御座相濟候段大年寄申出承置候

九月八日 雨

一雨天ニ付御仏詣御延引被仰出候旨中奥目附通用有之大年寄并出番之組江申達候

一茅町喧嘩一件之者共追込日数龜之助廿日源吉十日米蔵十五日と相伺候処申上之通療治代被下候事故源吉も追込廿日ニ取計之由一学殿被申聞左候へ者三人共同日数ニ不申付候而者不同ニ相成候付何連も十五日ニ仕度奉伺候処最早廿日と伺濟候事故三人とも廿日追込申付候様一学殿被仰聞候

一盜賊仙右衛門御裁許百敲御領分追込妻子も追込跡闕所と伺候処段々思召被仰出尤携無之妻子ハ以後御構不被成旨八月廿六日被仰出依之治部助と尚又遂熟談左候ハ、豊後屋宇助様之有之候ハ以後ハ一段押上死罪被仰付仙右衛門義ハ嗣追込ニ而可然と相伺候委細ハ伺扣ニ有之

剽御領分追込

河原町 仙右衛門

盜賊携無之ニ付左構無之

同人 妻子

一去ル二日芝居御免之義申上置候処芝居之座と申様ニ相成金を取候者御風義ニも相懸リ右ニ寄而町方入用等も減候様ニ相成候得者町之入用ハ町方ニ而公務ニ候得者 在方之折欠を減候様ニ之道理ニ相当リ在方願出候様ニ而者如何ニ付相考申出候様此間彈正殿被申聞候付元来役筋願候義ニ而者無之私義ハ不宜筋と奉存

候得共是非共御免被成候御様子ニ付左候得者一人之潤ニ相成候  
惣町之潤ニ相成候方可然と奉存候付兼而及承居候義ニ付申上候迄  
之義ニ御座候尤治部助江も相談仕候得共在方之障ニ相成候義ニ而  
も無御座町方江被仰付候得共在方ニ而可相願所存無之旨申候右之  
通役筋ニ而絶而願候趣意ニ者無之此間も一ヶ年ニ一ツ二ツも可被  
仰付被仰聞候得共二ツ之所ハ御断申上度は非被仰付候義ニも御座  
候ハ、先一ツと被仰付候様仕度此段ハ申上度奉存候位之義ニ御座  
候間如何様とも思召次第之義毛頭存寄ハ無之旨申上候処右存寄之  
趣私ハ其段御前江御直ニ申上候様被仰聞今日御直ニ申上置候

一 播州網干丸尾屋六三郎例年之通荒物類塩物卸売ニ参候付中町小山  
屋与三右衛門宿切手差出候十一月廿五日帰ル

一 播州網干余陸屋武兵衛例年之通八百屋物并鯉節売ニ罷越候段中町  
小山屋与三右衛門宿切手差出候十一月廿五日帰ル

一 播州網平松屋惣九郎例年之通小間物并晒蠟売ニ参候付中町小山屋  
与三右衛門宿切手差出候十一月廿五日帰ル

一 大隅宮祭礼ニ候処御法事有之候付林田町今夕灯笼挑灯差出候而も  
不苦哉之旨大年寄伺出御三回御忌之節相調候得共何之様子も不相  
見候付夜分之義と申苦無御座先例之通取計候様申渡候

一 明日大隅宮祭礼警固神田定治萩野嘉七江原文蔵河野磯兵衛罷出候  
段又六届出候

一 明日九日札元ニ御役初而之謁六半時罷出候様小頭江申達候処何連も  
御受ニ罷出候

一 六半時札元左之面々罷出大年寄諸吟味立合ニ而於座敷初而謁銘々  
三本入扇子箱持参

武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門 川口藤左衛門  
玉置卯左衛門 山本三右衛門 山本甚蔵 妹尾平兵衛

一 五半時揃惣出仕ニ付五時登城於宮鳴間御縁座敷中通而伊左衛門左  
土石門一所ニ御目見申上候早而於七間廊下御小性頭太田舍人謁若  
殿様江重陽御祝義申上候右早而一連ニ御用所江罷出御祝義申上引  
懸ケ大目附ハ当日之挨拶申述候尤御礼ハ席順御用所江出候ハいつ  
ニ而も御役順也

一 郡代松岡治部助当病ニ付若殿様江申上之節当病御断以名札申上候  
一 明日十日泰安寺江五半時御供揃ニ而御仏詣被仰出候旨中奥目附与通  
用有之小頭大年寄ハ先格之通申付候

一 来ル廿一日出羽守様御通行之砌村山縫殿丞罷出候間先格之通立宿  
并下宿申付呉候様縫殿丞与通用有之

九月十日

一 今日之御仏参少々御風邪ニ被為在御延引被仰出候旨中奥目附藤堂  
忠右衛門与通用有之候

一 俊明院様七回御忌ニ付御布施五百匁被下置候御請書配當場兩人  
差出御用番へ及御噂大目附へ相渡候

一 幾野御代官所稻垣藤四郎殿檢見御用ニ付左之通当町止宿之先触大  
年寄差出候

九月九日

一人足

拾四人

覚

内

四人

駕籠老挺

四人

長持一掉

式人

具足

式人

両懸式荷

式人

合羽籠老荷

式人

竹馬老荷

一本馬

式疋

右者当国方検見就御用稲垣藤四郎明八日明六時播州下三原村出立被致備中国阿賀郡村々江被相越候条書面之■人馬之賃銭請取之無滞可被差出候尤川越渡船有之場所ハ前宿ヲ致通達聊差支無之様可被取計候此先触早々継送於留村可被相返候已上

稲垣藤四郎手代

子九月七日

中沢良左衛門

八日泊り

姫路

九日泊り

佐用

十日泊り

津山

十一日泊り

小坂部

右ニ付先例相調候処御通り筋掃除申付御先扨同心組式人差出直ニ御旅宿近辺ニ立宿取り大文字高挑灯出置子ノ刻る同心組代り合翌朝御先扨相勤候右隣町五町夜廻り相勤大年寄三人共宿江見廻翌朝大番所迄御見送り申候町年寄も見廻ニ参り候町奉行も為見舞罷越帰リ懸御用番へ相届候先例ニ付其段御用番へ相伺候処先例之通取

計候様被仰出大目附江も申達并御退場本源寺大信寺江可被仰付并拙者貸人馬被仰付被下候様大目附江申達候尤郡代も川崎迄出并旅宿へ大御番組御使者御進物も有之例ニ候旨御用番江申上置候尤御止宿ニ候得者本道老人針医老人在宿申付候旨大年寄申聞候并拙者御貸人馬 馬両口 鎗持 挟箱持 合羽籠持 姚灯持二人也若堂老入御使組出候先例も有之嚙故障之節ならん若堂ハ兩人召連候事御代官稲垣藤四郎殿御旅館名面認出候様大目附左被申付左之通書付差出候

御宿

三丁目浜野屋源五郎

御下宿

同町若木屋勘兵衛

御使者立宿

坪井町 沢野屋伝右衛門

但大年左之通も書出候得共是ハ大目附江者不申達候

町奉行立宿

二丁目福永屋藤助

御下宿

同丁小倉屋忠兵衛

御先扨立宿

三丁目一文字屋伊三郎

一御代官到着ニて早速可罷出支度仕居候処大目附小須賀貢川支之趣ニ而昨夜土居佐用御止宿ニも無之旨勝間田川辺大庄屋へ申来候段申出候間大方今夕ニ而者有之間敷候間今夕御止宿之手当相止候様尚又今夕ニも相成申候ハ、為知可申段申来候大年寄も右之趣ニ付勝間田江飛脚差遣可申段申出候  
一今日可致牢凌之旨穢多頭九郎右衛門申出候間今九時出番可差出旨  
一小頭申出其旨申付候処別条無之段出番新治重助申出候  
一牢舎人行重市右衛門休業仕候段牢番届出候

一大工風義不宜至而不精ニ付備前大工入込候様取計可申旨先達而御直御意被遊種々考候得共其旨不申聞他所大工差免候も却而不宜様奉存後藤守助も先達而致教諭候事ニ者有之候得共今一応大工共所存承候上ニ而何連とも申付度御直ニ申上候処如何様とも御用所江申達差図次第可取計旨被仰付今日彈正殿江相同候処勝手次第ニいたし候様ニ御差図ニ付近日大年寄共江可申付事同十二日孫右衛門江大工共呼出右之趣得度為申聞存寄承候様申付候尤先月吞込居候事ニ付孫左衛門喜左衛門為立会取計候様申付候

九月十一日

一大目附小須賀貢の御代官稻垣藤四郎殿今日ニ而も止宿ニ候者左之通之手当ニ可致尤御代官江者以来共右之御取扱ニ可致之旨申来候  
一 町奉行郡代両役共出役ニ不及候事  
一 先私保頭ニ申付候事

一 同心組旅宿近辺ニ夜中相詰候事ハ先例之通  
右之通被仰出候付是迄御代官手代通行ニも為見隠レ同心組兩人ハ差出可申哉手代さへ右之通之御仕向ニ候へ者御代官江者同心組御先私程ハ御差出被成候筋ニ者有御座間敷哉且又先格御止宿之上ハ大年寄三人共御旅館江見舞ニ罷越翌朝御見送りニ大番所江罷出候先格ニ御座候此段ハ如何差図可仕哉と申候処相同候上ニ而可為御返答之旨被申聞御伺中ニも着ニ候者先同心組見江隠ニ差出可申旨申置候

一 御代官稻垣藤四郎殿勝間田駅御出立見請遠見之者罷帰候段七時過大年寄申出同心組孫八文蔵為警衛見江隠れニ罷出候様并直ニ立宿

ニ夜中相詰可申旨申付候大目附小須賀貢江も左之旨申達候

一 稻垣藤四郎殿六時過御到着之旨届出候付御用番并大目附へ申達候  
一大目附小須賀貢の御代官御旅館江大年寄共為見廻不及罷出并明朝見送ニも不及罷出候旨申来其段孫右衛門へ申達候尤明朝御出立之御同心組不及御先私為警衛見江隠れニ差出候様申来候

一 御代官御止宿ニ而も御使者不被差出候間小須賀貢被申聞依之立宿不及申付旨孫右衛門へ申付候

一 御蔵元文五郎今登米初積被仰付候旨届出候

一 孤独扶九拾九匁式分式厘本証文致印形并内借証文九拾九匁致印形勘定奉行下代加藤広治江相頼置

一 植村正助町講尺中入用六拾五匁八分老屋豊屋喜左衛門差出候勘定奉行下代ニ相頼証文相認勘定奉行江相渡候

九月十二日

一 御代官稻垣藤四郎殿今暁七時出立町分無滞被致通行候段同心組并大年寄の届出其段出仕之上御用番并大目附へ相届候

一 御大名方并御代官其外御代官手代都而御用ニ而致通行候囚ニ至迄止宿并通行之節之取計方書調差出候様大目附小須賀貢被申聞大年寄へ申達候

一 総糸試之手法書近藤伊左衛門へ差出候由ニ而玉置源五兵衛差出取置候

一 京都烏丸通六角下ル町ニ文字屋九兵衛手代茂兵衛与七兩人例年之通呉服商売ニ昨日罷越候段京町海老屋長右衛門の宿切手差出候

丑正月廿四日帰届有之

〔麻帳〕  
丑正月廿四日宗兵衛与市婦届有之茂兵衛与七之間違欵

一 明十三日河内志津馬江口清助野村左左衛門三人蒙令牢屋江罷越二ノ宮押込盜賊見申度志津馬ノ案内有之牢番へ其旨申付候

九月十三日

一 公儀御役人検見御用ニ付当町通行左之通先触到来之旨明ケ七時大  
年寄差出候

御朱印

人足式人 馬式疋 從江戸播磨美作国迄上下并於彼地幾度

も可出之是者立会検見為御用西野嘉内被差遣付而被下之者也

寛政四年七月

右宿中

御朱印写遣之候間可得其意候

子 九月十二日 西野 嘉内判

覚

御朱印

一 人足式人

同断

一 馬式疋

内卷疋人足式人ニ代ル

一 御用長持 老棹

賃人足四人

一 賃人足 三人

合 人足 拾三人  
馬 壱疋

右者西野嘉内儀播磨美作国立会検見御用席御林為見分明十三日  
明六ツ時福渡村出立被相越候ニ付書面之御朱印人馬并賃人足無  
滞被差出繼立可被申候勿論無賃之人馬一切出被申間敷候尤泊宿  
ニ而者一汁一菜之外決而馳走ケ間敷義無之様可被相心得候此先  
早々順達於右手村可被相返候已上

西野嘉内家来

大塚半右衛門 判

作州久米南条郡

福渡村

下弓削村

津山町

檜村

関本村

右手村

右町々  
右村々

問屋 中

庄屋

泊り村

九月十三日 檜村

同 十四日 右手村

御証文写

馬疋疋從江戸播磨美作国迄上下并於彼地御用中幾度も可出之是者  
檢見立会御用ニ付御普請役大塚虎藏罷越付而相渡之者也

寛政四年

子七月 越中印

右宿中

覚

御証文

一 馬 卷疋

右者立会檢見御用席御林為見分明十三日曉六ツ時福渡村出立其筋相越候之間書面之馬用意荷物無滞可繼送候勿論渡川等有之場所者前後申合差支無之様可被取計候別御証文写卷通差遣候間得其意此先触早々順達於右手村可相返候以上

子九月十二日

御普請役

大塚虎藏

福渡村

下弓削村

津山町

檜村

関本村

右手村

右町々

問屋

庄屋

中

泊り村

九月十三日 檜村

同 十四日 右手村

右先触而通到来先例寛政二庚戌年九月二日稻生平左衛門殿宮田左吉殿通行之砌同心組先払道筋町々見苦敷無之様ニ取繕申付宮田左右吉殿江者保頭先ニ立無礼無之様申付候処近例并御代官稻垣藤四郎殿通行之節之被仰出ニ付道筋見苦敷無之様ニ大年寄へ申付保頭先を払同心組為警衛見江隠れニ差出候此段御用番并大目附へ相届候処大目附小須賀貢江西野嘉内殿ハ当月三日ニも被致通行其節先例之通同心組見江隠れニ被差出候旨御届有之候処猶又今般先例被申とハ違候段不審申来相調候処其旨無相違全拙者致忘却届違仕候段石田新治を以差扣相伺候尤西野嘉内殿三日ニ被通候節ハ繼人馬無之郡代方為知有之依之寛政二戌年九月十九日柘植又左衛門殿被通候節先払相止見江隠れニハ差出候様被仰付其例を以相伺候処今曉ハ同年同月二日稻生平左衛門殿通行之節迄ハ先払差出此例を以大年寄方申出得度不致吟味不調法ニ相成差扣奉伺候処後刻小須賀貢江石田新治江差扣不及其義旨被仰出候段申来候  
一 出羽守様御通行ニ付為道見分小頭大年寄諸吟味差出候  
一 牢舍人療治中村易安致懸同人義在中へ罷越候ニ付断申出ニ而畑生齋江申付候段大年寄申出候  
一 河原町仙右衛門水かめ損候段大年寄届出承り置  
一 河内志津馬江口儀助野村左左衛門牢屋江罷越相济候段志津馬方手紙ニ而申来牢番儀助方も届出候

一公儀検見御役人御勘定□西野嘉内殿大塚虎藏殿七時比町分通行相濟候段警衛同心組并大年寄問屋目附届出候然ル所御道筋広瀬橋（マツ）ら（マツ）菴田町番所前へ通行之積（マツ）而同心組菴田之町へ差出置候処鉄炮町さいの神前南新座藪際通を桶屋町ら妙願寺通を京町へ被通同心組も漸間を合せ道筋片着させ候得共右故問屋迄ハ保頭先払も無之甚不都合之趣之処大塚虎藏殿問屋へ立寄家来を以被申聞候者御朱印并御証文先触差出川場迄之義も差支無之様申越候御当領江入込候（マツ）而者案内者も無之嚙西野嘉内被通候節者御先払等も御差出も被成候事（マツ）も可有之候得共主人虎藏輕ものとハ乍申御用向ニハ輕重も有之間敷義既広瀬船渡（マツ）而も御当地人足呼出候得共老人も不罷出依之荷物余程水ニ濡致迷惑候何方（マツ）而もケ様之御取扱ハ無之如何様之存寄哉と種々及理談候ニ付問屋兩人全く私共之不調法平日広瀬之方ハ繼立無之処殊ニ定橋之所故此節舟渡ニ相成候処心付不申恐入候段種々及断候得共承引不致其俣罷被通殊ニ虎藏殿ハ至而鹿抹之風情（マツ）而被致步行問屋場（マツ）而も右之取込旁以保頭間ニ合不申保頭繼送不仕右之風躰故町々も心付不申虎藏殿江者始終保頭先払無之恐入（マツ）此俣（マツ）而も難捨置榎村迄も断ニ可差出哉と喜左衛門伺出候ニ付問屋断之致方至極宜无事ニ候申出之通榎村迄も追懸参リ□重（マツ）も一己之不調法ニ取なし詔いたし候様ニ申付置其詔治部助江も及案内其旨御用番并大目附へ相届候翌十四日大年寄届出候ハ夜前榎村大塚虎藏殿旅宿江問屋罷越宿停主を以略之御断申込候処（マツ）今昼被叱候人罷出一往計之懸ケ通候義（マツ）も候得者不申共濟事ニ候得共毎度罷通候義以來御用向差支ニ相成候得

者不相濟義故申達候是迄罷出候（マツ）者不及義入念候義と申さつと相濟候段大年寄届出其段御用番并大目附へ出仕之上御届申候

九月十四日

一福渡町阿賀屋助治郎借屋ニ居候作人藤十郎難病ニ付先達而孤独扶持被下置候処快気仕候ニ付御断之届書差出御用番江及御噂大目附へ相渡置候

一植村正助町講釈中諸人用六拾五匁八分壹厘証文勘定奉行へ相渡置候尤小手形添出（マツ）九月十六日受取喜左衛門へ相渡候

一左之通伺書御用番江差出候処即刻御聞届相濟大目附江も申達置候穢多頭九郎右衛門義兼而志宜出精相勤尚又牢内諸ノリ之義申付置候処行届候趣ニ相見江申候間為褒美闕所銀之内を以鳥目五百

文差遣度奉存候此段奉伺候以上

九月十四日 増兒右門

一孤独扶持銀札証文差出受取之大年寄江相渡委細者別帳ニ記置

一公儀御役人通行御取扱書郡代ら差出右書付役所取計下札ニいたし大目附へ差出候且又左之通大年寄申出候ニ付下札ニ付差出候

一公儀御役人御証文持参以上江者都而保頭先払申付候御証文無之

以下江者保頭不差出候

一出羽守様鶴被下候節も保頭ハ不差出候

一先払（マツ）而者無之候得共囚人通り候節ハ保頭差出候

一隠岐国流人（マツ）者保頭不差出候

一御金荷物（マツ）も保頭ハ不差出候

一龍吐水町方（マツ）而相調候義先日伺濟候所町方（マツ）而難相調趣ニ付先年

魚町へ被下候通龍吐水御勝手方江御頼被下候代金ハ上納可仕候旨  
大年寄願出植木左士江相頼置候但代物左之通

一 六百貳拾五匁 龍吐水巻挺

一 九匁五分 海運賃

一 老匁八分 川運賃

一 御前酒被仰付候ハ造酒屋共申合一本ツも拵御用ニ無之逆も不  
苦候間仕見可申老匁七八分位ニ而者出来可申旨源五兵衛申出其段  
内々相伺昨日源五兵衛へ申付候

一 他所酒御免之義御用所江申達取計候様御内々被仰付御用所江申達  
候所尚又得と相考候様被仰聞候

九月十五日 雨

一 五半時揃ニ付五時登城於宮嶋間例之通御札申上早而御用所江当日

御祝義申上候

一 已来御礼初候為知ハ御小納戸有之筈ニ相極候段植木左士有

演説有之

一 大目附江之朔望不及挨拶年始八朔五節句御祝義申上候様植木

有演説有之

一新魚町鳥屋与三兵衛岡山へ廿日計之逗留ニ而明日出立罷越度願差  
出候

一 鍛冶町宗道大明神祭礼宵祭之旨大年寄届出候

一出羽守様御通行道見分一昨十三日差出候処坂口見隠損大番所橋穴  
アリ候段申出勘定奉行所江申達并大円寺壁覆尾落候段<sup>寺社</sup>取次山

田孫四郎へ申達候

一 福渡町関貫出来候旨一昨十三日勘八届出候

九月十六日 晴

一 明日五半時御供揃ニ而御旅ニ而地藏院江御社參被仰出候間先例之  
通取計候様中奥目附有通達有之小頭大年寄へ例之通取計候様申達  
候

一 造酒助殿小者部屋ニ而当三月博奕参会致候京町原田屋初治出奔仕  
候処夜前召連帰候段大年寄届出呼出遂吟味候処口書之通右連中ニ  
相達も無之外ニ別条も無之ニ付直ニ咎牢舍申渡入牢申付候其段御  
用番并大目附へ左之通相届候

当三月造酒助殿

京町原田屋

於小者部屋博奕致参会候ニ付

初治

咎牢舍申付候 但百日入牢也

一 植村正助町講尺<sup>つゆ</sup>入用六拾五匁八分一厘勘定所下代有相廻し豊屋喜  
左衛門へ相渡候

一 德守宮祭礼之砌為立願元魚町有にわか差出度尤先年差出候□台  
程之松竹台引出度天明五巳年右右台差出候節安永八亥年大沢三平時  
分材木町有造物にわか差出候節内々役所伺出候処にわか之義ハ差  
懸り俄之義ニ候得者可存ものニ者無之と被仰聞候御形を以天明五  
年ニも後藤守助不存躰ニ而内々差免候段大年寄申出安永八年天明  
五年日記見合候処記無之ニ付当年も右之振合ニ取計可然候旨於内々  
及差図候

一 河原町屋根屋平兵衛後家娘まき家質公事遂吟味候京町阿波屋後家  
も呼出置候得とも夜ニ入不遂吟味追而可呼出事

一出羽守様来ル廿一日御通行ニ付左之通御先触到来大年寄差出候

宿々問屋中

以廻状致啓達候出羽守殿為参府来ル十八日国許被致発駕候依之

繼馬四拾貳疋人足貳百三拾人無間違御手合頼入存候尤久世之西

宮迄之内ハ繼馬貳拾五疋繼人足百七拾人入用ニ候則人馬望之人

別板札ニ相記是迄之通銘々江相渡置候尤馬之分ハ老番之四拾貳

番迄致番付置候依之人足手配帳并印鑑遣之候且又右帳面之外入

用之分ハ例年之通紙切手仕出候之間左様御承知可有之候右手配

帳一冊印鑑壹枚充御留置御順達可有之候恐々謹言

右上下江附札

一人足付方手配帳面之通仕来を以人馬相究如此先触仕出し

候処人足付方相増候訳も有之候ハ、其増人足丈ケ増入用

ニ相成候間其御心得を以集置無滞御手合頼存候

一津山明石御領■駅之分ハ繼馬四拾貳疋御手合頼入候

一西宮之伏見迄ハ通し人馬ニ而被致通行候条人馬とも不及

御手合候然共此廻状ハ山崎通り御順達頼入候

九月十二日 雲州人馬方

桑原嘉市

松崎六兵衛

片山良平

瀧 定七

元ノ 藤岡文治

間宮甚藏

伯州溝口駅之東海道通り武州品川駅迄

追啓至時人馬共少々余分之義も可有之候間其節御手合頼入存候

且又同勢多アリハ桑名之宮へ直渡ニ候間佐夜神守万場三宿之分

ハ印鑑計壹枚宛御留置御順達可有之候已上

右先触御用番へ差出大目附江も申達候

一出羽守様御通行ニ付寄馬貳拾疋豊屋喜左衛門申出郡代松岡治部助

へ申遣候

一出羽守様御通行ニ付惣町江之触達例年之通触書差出候

一博奕咎入牢者拾人明朝差免取計候付夫々出役申達佐々木清見長屋

金治受人明六半時御用有之候間差出候様清見江手紙ニ而申遣候

一播州網干余陸屋惣七例年之通八百屋もの卸売ニ參候段中之町高尾

屋勘七宿切手差出候

十一月十六日補ル

一播州網干塩屋伊兵衛例年之通荒物塩物おろし売ニ參候段中之町高

尾屋勘七宿切手差出候

十一月十六日補ル

一中洲川舟渡止リ候付雲州御関札并御金荷中洲賀ニ滞居候間明六時

川端迄馬差越候様御願之旨院庄庄屋へ申越候得共是迄も左

様之義有之候も及断不仕義殊更川明候得者人馬共ニ通行相成候義ニ

候得者坪井之受前之処ニ候得者可及断此度差遣候得者以後之例ニ

も相成候義故奉伺候段豊屋喜左衛門伺出其通及断候様ニ申達候

一出羽守様御通行ニ付中洲賀江先例之通御舟廻候様船頭江可申付旨

大年寄へ申付都而諸事先規之通可取計候旨申付候

一中洲賀川差支雲州御関札御金荷拾貳駄計中洲賀ニ滞同御家中も明

日拾貳駄計有之候処御登せ米積出候様御役人々被申聞御断申候得共無聞届致迷惑候段問屋歎出候旨大年寄申出植木左士へ申遣候所明日之所ハ御廻米延引可申付之旨申来其段大年寄へ申達候

一出羽守様御関札川支ニ而中渚賀ニ滞居人馬之義問屋及断候処院庄御茶屋守願出候者津山問屋右之通及断候処及津受川向之

義ニ候得者先方へ可申通様も無之迷惑候段願出候段大庄屋右郡代所江伺出候由ニ付松岡治部助何卒無差支様ニ差出度ものニ候間致吟味取計呉候様ニ申来依之問屋目附豊屋喜左衛門呼出承り糺候

処六七ヶ年以前久世手代木原勇藏右衛門中渚賀ニ滞中渚賀庄屋治郎左衛門右問屋江人馬差越候様申越御代官手代之義ニ付先役後藤守

助へ相伺候処申出之通此方之持前之場所ニ而無之故可差出筋ニ無之候間及断候様差図ニ付其節者及断候是迄折々左様之頼も有之候得共例ニ相成候故及断来候中渚賀右勝手次第ニ呼寄候筋ニ相心得

候而者後々年之迷惑ニ相成候間以後之障ニ不相成様ニ取計度尤此度之義も中渚賀右問屋へ相頼越と申筋ニも無之今日も人馬聞合ニ中渚賀江問屋右人差遣候処向方ニ而者何之沙駄ツマも無之全く院庄本陣被相頼候義ニ而一己之働振いいたし候事と被察左之振合ニも睨

と相頼れ取計候得者却而致能筋哉ニも申聞一々無余義趣以来勝手次第ニ被呼寄候様ニ相心得後々中渚賀ニ泊引受候様ニ相成候而者弥不相濟筋ニ候間左候ハ、問屋ニ而者中渚賀之頼を不受院庄御本

陣働ニ而馬雇出候振合ニ而先触之馬数御本陣迄差遣向方江者右之趣津山問屋ハ不致承引義故院庄本陣働ニ而雇出候段得与先方并中

渚賀之もの共江も為申聞置尤爰元右雇遣候共受前働ニ無之候間前

ニ雇賃不差遣候而者参り不申事故右足入用院庄本陣入用ニ致駄賃表直ツマニ院庄ニ而相渡候様ニ被仰付右ニ付川端迄遣候得者例ニ相成

候故川端迄ハ不差遣候間向方右院庄迄ハ人ニ而も為送越候様ニ可被仰付并人足ハ院庄ニ而調候義ニ候得者爰元右ハ不差遣候左候得

者院庄本陣ハ外様之御用ハ不承義ニ候得者外々江之例ニも相成間數候間右之段御承知被下候ハ、可申付旨及返書候処治部助承知

之旨可申付由申来候付先触之馬数拾貳疋先此度ハ差遣候様ニ豊屋喜左衛門江申付候

より大庄屋へ

九月十七日

一博奕咎牢舎左之面々昨日迄ニ而百日ニ滿候間今朝呼出差免候其旨御用番并大目附へ相届并佐久間兵右衛門殿佐々木清見江及案内候

小性町菊治 桶屋町長吉 同町和二郎

新魚町三之助 同町完路屋治右衛門

船頭町檜屋源治 新職人町米屋佐七

右塗師辰助方参会

佐久間兵右衛門殿小者十兵衛 佐々木清見長屋住金治

伏見町田村屋岩治

右永見造酒助殿小者部屋参会

九月十八日

一徳守宮祭礼ニ付今夕元魚町二階町鍛冶町戸川町上紺屋町宮脇町細工町材木町右八町例歳之通関貫九時迄開置候段御用番并大目附へ

相届候其外例歳之通取計候旨申述候

一 德守宮祭礼之節元魚町トウキリケウ為願開俄子共おとり差出度去ル十六日内々申出先規之通俄之義故不存分ニ而可相濟程之義ハ勝手次第と及差置候処追々飾等差加へ手重リ候様ニ申出俄と不被申位之拵ニも有之趣ニ候得者願書差出取計候方可然と申達候元魚町鍛冶町兩町為願開俄練りもの芸台引出其上ニ而子共式三人おとり為仕度願書差出御用番江相伺候処御聞届相濟大目附へ及案内御聞届之趣大年寄へ申達候

一 德守宮祭礼内山下江宮川御門ノ引入赤座屋敷ニ而御上覽被遊候間天明二年之通ニ諸事取計候様ニ大目附ノ被申聞天明二年之節相調候処正六時宮川御門へ引込候付其旨ニ取計候様大年寄小頭江申達候

一 於御用所大目附出席左之通被仰渡候

古手屋久治郎義相印被差免候

右御受申上於大目附役所罷帰取計候上又々御届可申上哉と及噂候処最早夫ニ者及間敷候旨被申聞候然ル所今日者御用向差支候付追而可申達候旨及断置候

一 橋本町豊後屋和助弟龜藏義造酒助殿長屋ニ而當三月博奕参会候処欠落仕百日尋申付得尋出不申候ハ、過料可被申付一札取置有之処一昨日迄ニ而百日相濟候得共得尋出不申旨届書差出其旨御用番中へ申達先例之通宿元組合五百文ツ、之過料取可申哉之旨相伺候候其旨取計候様被仰付候右ニ付右一件同類之内ニ弓町忠助と申もの有之是も其砌出奔候ものニ而大目附取計之もの、由ニ及承其旨申達置候

一二町目唐津屋万助妻當三月懐妊御届申上置候処八ヶ月ニ而夜前出産死胎ニ而妻義も即死いたし当人并組合并醫師様書差出少も疑敷義無之旨申出承り置候

一 左之通先触到来

初ハ去ル十三日之通故略之

右者西野嘉内義播磨美作国立会檢見御用席御林為見分明十八日明六時右手村出立被罷越候ニ付書面之御朱印人馬并賃人足共無滞被差出繼立可被申候勿論無賃之人馬一切差出被申間敷候尤泊宿ニ而者御定之木錢米代被相払候間一汁一菜之外決而馳走ケ間敷義無之様可被相心得候此先触早々順達福渡村おゐて可被相返候以上

西野嘉内家来

大塚半右衛門

子 九月十七日

右手村 関元村 榎村 津山町 弓削村 福渡村

右町村々 問屋 中

泊リ村

九月十八日 津山町 同十九日 福渡村

一 左之通御証文先触

御証文 馬卷疋

右文段去ル十三日之通依而略之要用之所計記置

明十八日曉六時右手村出立宿泊付西野嘉内殿之通

御普請役 大塚虎藏

子 九月十七日

宛所右同断

右先触到来之旨御用番へ相届候処右御取扱之御形不定候間郡代申談急々当りを認差出候様被仰出松岡治部助拙者兩名ニ御取扱之当りを付但今晚之処左之通ニ相認差出候処先今夕之所ハ伺之通ニ致候様被仰付候大意左之通委敷之義ハ伺留ニ記依而略之

一御朱印持参先触御勘定御役人江者

同心組先払 隣町夜廻り 大年寄伺

右西野嘉内殿之当り

一御証文先触御普請役江者

保頭先払 同心組為警衛見江隠れ

右大塚虎藏殿之当り

一右之通ニ被仰付候ニ付其旨取計候

一今夕ハ徳守宮宵祭ニ付旅宿林田町之内ニ西町是迄之宿ヲ宜処ニ

申付候様被仰付其旨申付候処西野嘉内殿旅宿ハ林田町山本屋与

三七江申付候大塚虎藏殿旅宿ハ蓬菜屋佐市へ申付候橋本町也

一右御通行并徳守警衛差つとる同心組不足ニ付加人六人大目附へ

申立受取

一是迄右之通御兩人一所之通行ニ而も同心組兩人見江隠れニ而済

来候得共先日之通兩人之遲速有之候得者跡ヲ被来候方ニ者警衛

無之様ニ相成候間今晚ハ同心組二人加人御使組二人都合四人差

出兩人ハ旅宿脇立宿ニ夜中相結九時代リ之もの同心組二人御使

組二人都合四人着之時之通差遣明朝之先払并見江隠れ警衛申付

候尤立宿高焼灯出置候左右二軒之旅宿程隔候得者二ヶ所立宿可

申付筈ニ候得共今夕之旅宿ハ近町ニ而相济候間立宿ヶ所ニ申付候依之宵の内ハ兩人相詰明ヶ番ハ四人相詰候

一 大年寄老人伺ニ罷出候様ニ申達大年寄出候得共町年寄伺者都而勿論之事也

一 在宿医本道北村利齋片岡勇伯針医申付候由

一 今晚之通之御手当ニいたし候而も不足ケ間敷義被申候ハ、此通

ニ被申付候旨相答候様ニ太田舎人ヲ被申聞候

一 先払同心組藪田町迄之受奇ニ者候得共鉄炮町角三枚橋之辺ニ而

開候様申付候夫ヲ庄屋先払也

一 同心組不足ニ付今日六人加人申立受取同心組と打交差出候処明日

も祭礼ニ付不足ニ相成三人申立受取但六前時罷出候様申遣候

一 徳守宮祭礼夜宮警固例年之通小頭卷人平組三船新治室并幸助萩野

嘉七前原才治四人九時ヲ差出候処無別条引取候段四時罷帰候

一 徳守宮祭礼ねりもの様之もの差出内山下へ引込候間付纏ひ立懸り

無礼かさつ無之様ニ可相慎御触大目附中ヲ相廻り候

九月十九日

一 西野嘉内殿大塚虎藏殿六半時比出立町分無滞通行相济候段先払同心組相届其段御用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 徳守宮祭礼七半時比無滞相济候段警固出役之者届出并俄ねりもの

暮時□無難ニ相济候段警固之者届出其段御用番并大目附へ手紙ニ

而相届候

但警固祭礼之方江小頭共ニ五人俄ねりもの方へ四人尤一ツニ二

人ツ、之積都合九人差出候并当宮江五人分一組御徒目附下目附迄差出

祭礼附江六人分一組俄ねりものゝ方へ四人分一組都合五人前也  
但一所二酒式升ツゝ添ル

一古手屋久治江申渡明五時前可取計ニ付夫々江申達候

九月廿日

一 小頭部屋目附大年寄諸吟味詰合ニ而玄関之上江呼出し玄間上之間  
と敷居を隔左之通申渡候

其方義相印被指免候 古手屋久治郎

■■■■

右申渡早而大年寄る書附相渡候尤以後旅行之節者度々御勝手ニ而  
御相印拝借可致焼灯ニ付候而も商売用さやし等ニ御相印相用候義  
ハ不相成候段為申聞候様大年寄へ申達候

一 上田邑東村勘太郎方へ盜賊這入被盜もの触流し致候様大目附る書  
付被相渡大年寄へ申達候

一 小桁船路川浚之義船頭共る願書差出勘定奉行江及対談置候尤絵図  
渡置候 廿八日之処ニ記置候

一 檜之間以上家来町奉行ニ而裁許取計候節者先主江左之文段ニ而及  
案内候様御用所御申候旨大目附小須賀貢申聞候

先達而咎牢舎申付候十兵衛今日差免候此段申達候以上

佐久間兵右衛門殿 増児 右門

御家来中

一 宮脇町阿賀屋助治郎古川屋宗助公事出入西今町野々口屋七郎右衛  
門殊之外出精内濟相整候段大年寄申出「」右七郎右衛門義御賞被  
下度小頭を以申出候骨折之段大年寄る申達候様ニ孫右衛門へ申達候

一於御用所大目附出席左之通被仰渡候

無宿盗人

去ル六月廿日二宮安治方江押込

文吉

盗人頭取ニ付死罪獄門申付候

幾治郎

右同断盗人手引ニ付死罪申付候

古川村 庄七

右同断押取ニ付

無宿盗人 由藏

死罪申付候

常吉

右同断押込同類ニ付永牢申付候

右同断 幸吉

伏見町田野村屋与七相落候金子

河原町

盜取候ニ付鼻刑御領分追扨申付候

仙右衛門

盜賊筋携無之ニ付差構無之

右同人

家財差遣候住居勝手次第之事

妻子

一出羽守様明廿一日御通行ニ付左之通申付候段大年寄申出候

一御小休用意

玉置源五兵衛

本陣詰三人

油屋与三兵衛

平野屋助左衛門

浜野屋惣兵衛

一御奉行所御立宿

西今町 直屋幸三郎

詰

豊屋藤十郎

下宿

同町 京屋

一御徒目附下目附立宿

安岡町 岡崎屋伊兵衛

一御先払同心組立宿

同町 木綿屋清助

一 御使者宿

一同休息所

一同案内

一 在宿医師

一 院庄川船渡

一人馬問屋出役

一 院庄御立見受往還

一天王端往還ヲメリ川土橋御懸リ被遊候ヲ見受

一 筋違橋往還御輿休へ御懸リ被成候を見受

一出羽守様御通行ニ付小頭ヲ役割認出

一 御先払

一 馬駅

一 御頭様御供

一 屋敷当番

斎蔵孫右衛門

宮脇町 生駒屋治右衛門

河内屋武兵衛

門屋八右衛門

中村益安

笹岡休意

御蔵元文五郎

船年寄大坂や治郎右衛門

諸吟味久山勘八

問屋目付豊屋喜左衛門

長八

菊右衛門

七右衛門

川端又六

神田定治

前原才治

三船新治

石名元蔵

萩野嘉七

江原文蔵

中山百蔵

三船孫八

一出羽守様御通行ニ付明廿一日例之通出役仕候段御用所大目附江申

達置候

一出羽守様御通行人足式百三拾人之処一ノ宮祭礼ニ付別而無之依之

無抛耆町江六人ツ、町役ニ申付候段孫右衛門勘八喜左衛門申出候

一 牢屋扶持内借証文六俵致印形候

九月廿一日

一出羽守様御通行ニ付五半時下宿西今町直屋幸三郎方江罷越相扣天

王之端注進ニ而妙法寺前横丁江罷出名披露ニ而御目見申上例年之

通金式百足被下置候押通濟候而直屋幸三郎方江罷帰リ東新町御通

過被成候注進ニ而引取罷帰リ懸直ニ御用番彈正殿御宅江罷越出羽

守様町分無滞御通被成候段相届大目附江者手紙ニ而右同断相届候

但出役被下左之通

一金式百足 町奉行

一鳥目三百文 御先払同心組小頭

一同式百文ツ、 右同断平組式人

一銀式匁ツ、 馬駅江罷出候同心組 平組 式人

一鳥目壹匁百文 惣御船江

一同三百文ツ、 御蔵元并船年寄式人江

一同百文 右同下裁許人老人

一人足式百五拾八人本馬四拾式足入用之旨問屋届出候

一右被下もの、書付翌廿二日大目附へ差出候

一町奉行供若堂マツ兩人 同心組草履取手人 鎗挟箱合羽籠馬口取兩人

一院庄出役郡代ヲ出羽様院庄御茶屋江御着御立両度共注進手紙来ル

一立宿直屋幸三郎方ニ而今般申付之通香物したし物ニ而湯漬差出候下部迄同様掃宅之上御貸人江酒為吞被引取候

一出羽守様江御目見江場所妙法寺前横丁溝と三尺程引込居御打物ニ

而下ニ居土下座名披露松越後守様御町奉行増見右門殿と披露之事

尤暫御目見江御徒躰之者来名札相被持帰リ又来披露直ニ御目録塗

片木ニ裁来御目録受取之頂裁御札申上頂裁物ハ家来罷出受取其節

名札可受取申相渡済ム不及受取書併金式百疋之受取ハ可致用意事

一雲州大社中官西村神太夫と申御師上下四人例年之通旦那廻リニ昨日来候付坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手差出候十二月廿一日罷掃候段相届候

九月廿二日

一学殿乍乍嘶於御用所被申聞候者御仕置もの者都而十月一ヶ月ニ限り可取計差向候義ハ正五九月を除キ取計候様被仰出有之候事ニ

相覚居候得共右之書付得見出不申聡と致候義ハ難申候得共兼而右

之心得ニ致居可申尤今般之二ノ宮押込盜賊も被仰渡者有之候得共

来月取計候様被仰聞大目附中江も及噂置候処大目附中ニ而者一向

右御定ハ不存事之由沙駄ニ候

一橋本町豊後屋龜藏親元組合五百文ツ、過料差出候様大年寄へ申渡候委細者去ル十八日之処ニ記置

一西新町江見屋伝助借屋ニ居候清七夫婦二人林田上之町兵藏引受人

別除願承リ届ル

一安岡町富屋常治妻六ヶ月ニ而丈夫之男子出生月違届出大年寄場合

ニ而叱置候様及差図但七ヶ月以上ハ御叱無之事

一橋本町豊後屋龜藏義ハ永尋申付置候

一新御藏米七拾七匁同町米七拾三匁

一播州網干新在家加賀屋善七弟忠治郎と申もの例年之通老人小間物

売ニ罷越候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手出

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤右衛門と申もの老人例年之通

紺屋形売ニ昨日罷越候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出候

一柔姫様宮參御祝義於江戸表先月廿五日被為濟候ニ付明廿三日於爰

元も御祝被成候間五半時出仕候様太田舍人ノ手紙ニ而申来候

九月廿三日

一柔姫様御宮參恐悦申上今日ハ御延引ニ相成明廿四日五半時登城申上候様太田舍人ノ申来候

一大坂松屋平兵衛昨日罷掃候段堺屋伊右衛門ノ届出候

一松岡治部助ノ狂氣之婦人郷中ノ借牢願出伺相濟候間今日取計呉候

様ニ申来出番申遣候但竹田村与三右衛門後家娘てう子四拾貳才

一木綿屋治助淵崎之伝左衛門へ林山を質ニ取六百匁貸候処不致返濟

公事ニ相成願書差出候同廿八日内済申付候

九月廿四日

一浜風岸右衛門先達而御願申上御許容相濟候於徳守宮社地勧進相撲

之義来月中旬ノ興行仕度右ニ付東西大橋ニ建札仕度段願書岡田文

九郎差出御用所江及御噂候処御許容ニ付大目附へ願書相渡置岡田

文九郎呼出其旨申達候

一浜風岸右衛門義相撲中ハ勿論平日ニ而も他所もの応対之節ハ家業

柄之義余之もの共違他国へ名之知候ものニ御座候間絹服用御免

被成候様仕度段岡田文九郎願出大目附へ及相談候処小須賀貢より

御用番へ被及噂候処不相成筋ニ候旨御差図有之候段被申聞其旨聞

田文九郎へ申達候

一 五半時麻上下着用登城於七間廊下御小性頭謁柔姫様御宮参り被為  
濟候恐悅申上候尤於其席若殿様江も申上候但勘定奉行不殘御用欠  
相届候

一 造酒屋共江八九月比米千俵御貸付被下候処来年る者御取替不被下  
候間其旨造酒屋共江相達置候様大目附御儉約懸り黒田織江被申聞  
其段孫右衛門へ申達候

一 御呼出ニ而三奉行物頭席順ニ一列ニ御用所江罷出御用番山田彈正  
殿左之通被仰渡候

兼而御勝手向年々御不如意ニ被為在候付先達而御儉約も被仰付  
候得共近年打続御物入茂多御大借ニ被為成候ニ付猶又当暮る七  
ヶ年之内諸事稠敷御省略被仰出候間何茂諸事心を付御省略相立  
候様致勘弁可相勤候

一 久山勘八明廿五日坪井江罷越廿七日罷帰候段孫右衛門る相届承り置

一 大信寺家来宗助義西今町今田屋伊助引受人別人願書差出寺社取次

江懸合相濟候上承り届ル 廿八日達

一 上紺屋町金川屋庄七弟太吉出奔届出百日尋申付ル

九月廿五日

一 船頭町今津屋孫十郎参宮る罷帰候段届出候

一 八月人別改左之通尤廿八日差出候

出生拾六人 男子六人 人別入拾六人  
女子拾人

人別除 六人 死失 拾七人

差引八人増

一 此間触流いたし候在方被盜ものニ類し候ものニ付堺町豊屋多助る  
書付差出但黒中立布子巻也右ハ横山村藤治郎る質ニ取候段届書差  
出明日 郡代 中へ可 対談 候

一 式拾貳年已前見付割ニ而御用銀被仰付候者共之内当時甚困窮家屋  
敷売払候面々十三人左之通孫右衛門書出尤困窮順ニ相認候追而御  
沙駄可申事

七百久久仁屋宇兵衛

七百五拾久若松屋徳次郎

壹貫久大庭屋善兵衛

七百久 紙屋善十郎

三百久 柏屋伊右衛門

百久 正木屋八右衛門

七百久 倉敷屋太兵衛

三百久 味噌屋理左衛門

五百久 阿部川屋源左衛門

貳百五拾久 米屋喜右衛門

五百拾久 檜物屋清八

壹貫久 油屋与一郎

五百久 米屋八郎兵衛

拾三人六貫九百五拾久也

九月廿六日

一 茅町喧嘩一件木屋龜之助髮結源吉三倉屋栄治昨日迄ニ而追込廿日

ニ相成候間今朝差免候段御用番并大目附へ相届候

一 左之通以書付申立大目附へ差出候

縛繩 十筋

蒿口 巻本

箱焼灯 二張 張かへ

外二棒二本

右之通被仰付可被下候已上

九月廿六日 増児右門

一 沖村たか井押入村七兵衛被盜もの触流取計候様大目附中被相渡寫  
かへ孫右衛門へ申付候

一 元魚町豊嶋屋伝治二階町山手屋弥太郎他所受酒株借受居候処年限  
ニ付尚又寅ノ八月迄借受度追願差出承り届ル

一 安岡町角屋武助後家屋敷地家守作平組合吉右衛門と公事出入願書  
孫右衛門差出受取置候

一 植村正助上書之内赤子間引之義真情を以取計と申義尋遣度段丹後  
殿御沙駄ニ付申上候所伺之通被仰出候

一 御家中市郷衣服華美并奉公人私底之義考申上候様大目附中御書付  
被相渡候

一 御用達豆腐屋八百屋四郎左衛門江兼而けむり臭無之様豆腐製御料  
理人ノ申付置候処被仰付候通ニ手段ニ不仕昨朝けむり臭き豆腐差

出殊更申方甚不敬至極鹿抹千万之義役筋ノ内々叱候様ニ御料  
理人申聞候付御小納戸河内志津馬江相伺候処先今般ハ内々ニ而叱

置候様被申聞左之通申渡候様孫右衛門へ申付候  
御上リ之豆腐昨朝差出候 八百屋四郎左衛門

一 処製方兼而被仰付之通ニ  
不仕殊更申上方甚不敬至極表立候得者

一 不軽事ニ候得共御膳番ノ内々ニ而噂有之候ニ付  
内々ニ而急度叱申付候段以來鹿末之義無之様

一 精々心付可申候以段可申渡候

一 牢舎人助十郎龜吉全快ニ付致休葉候段双方ノ届出候

九月廿七日

一 去ル廿一日出羽守様御通行之砌人足差支左之通追々取計候処見込  
之通無滞取計相濟依之此一件者始終不相伺今日迄ニ問屋御叱等迄  
取計相濟候ニ付為後日記置候

一 出羽守様今度御通行人足式百五拾八人之処甚差支一向人足出不  
申候右訳ハ昨年御通行之節も人足差支無抛町々江申付一町ノ五

三人も為差出候処並之日雇賃ニ而者参り不申候ニ付過分ニ賃錢  
差遣雇出候由<sup>今</sup>年も右ニ味付問屋江断候得者町雇ニ相成過分ニ

賃錢取れ候と申様之底意ニも可有御座候殊ニ廿一日ハ一之宮祭  
礼ニ付旁以甚差支右之様子乍心付前晚ニ相成候而之義外ニ仕方

も無御座差懸り候義ニ付無抛昨年之様ニ一町江六人ツノ申付賃  
錢之義前以申候而者一向不相調趣ニ付何ケ無シニ右之通ニ取計

候処町ニ寄四五匁之日雇代ニ而漸雇出候由如何為取計可申哉と  
伺出右人足式百人計之義殊ニ直ニ日雇代可受取杯と申振合ニ而

奉伺之間も無之此俣ニ而差置候得者以來差支風義不宣事故難差  
延依之大年寄場合ニ而左之通先取計申付候

町々年寄共江申渡

兼々被仰出も有之殊ニ先日風損之砌も粉類見懸候而致高壳候義  
ハ仕間敷并高日雇賃取候もの有之由差支を見懸ケ不埒之致方不

人情之義左様之義ハ有之間敷義万一差支無抛高直成もの相調候  
もの并高日雇賃候ものも有之候ハ、可申出旨嚴敷申付置候処今

般無抛義とハ乍申不取計之段人足共之前ニ而急度叱置併今般之

義ハ何れニも致約束候事ニ候得者右賃錢ハ約束之通問屋右直ニ相払候間其方共間ニ而雇賃増一錢も遣候事致問敷旨申付置扱人足共江左之通可申渡事

人足共江申渡

右之通兼々嚴敷被仰付有之候処今般御法度を背き御用之義ニ彼是我俥之義申出御差支ニ相成不届候併今般之義ハ何れニも町年寄共不調法ニ而致約束候義ニ候得者約束之通賃錢差遣し受取可申併右約束之通り貪り受取候ものハ御法度を背候事故御咎被仰付候御舍ニ候間銘々受取帳面ニ致印形可申又ハ並之通式百文受取濟候ものハ是切ニ而可差免申渡夫ニ而も貪り約束之通受取候ものハ町所名面相認印形取置申候様申付候

一問屋之小指と申ニ而も無之候得共小指同様之人足之内ニ而頭立常々働も有之もの兩人殊之外出精町中右之通之氣向故兼而雇置候人足も及断一向出不申依之近郷迄夜中相働兩人ニ而六拾人計並直段ニ而雇出候右ニ付兩人江当座之褒美五百文ツ、差遣候不奉伺取計義も恐入候義ニ者奉存候得共是迄左様之義私共場合ニ而及差凶人足賃錢之内ニ而差遣候例も毎度御座候事之由殊ニ外々之聞ニも相成候義ニ付当座ニ褒美取計申候

一右同様之人足之内ニ差支之様子を見受賃錢之趣ニ寄而者可出来筋も可有之杯と申シ町年寄雇之人足共致口入候もの兩人御座候右不働不届ニ付禁足申付置候

右之通大年寄三人諸吟味三人呼出即座ニ取計候様申付候処廿一日終夜取計右人足之内ニ者御家中長屋ものも有之又ハ未罷婦又ハ遠

方ハ参り候者も有之廿一日之夕四五町右之通ニ取計候処一向恐入貪候躰も無之大方駈と約束と申義ニも無之並之通御渡被下候様ニ申聞並之通式勿相渡相濟引続兩三日之内追々右之通ニ取計候処初ニ者御家中長屋ものも多候故彼是申風聞候処追々聞渡り御家中長屋ものも御家中之名前申出ル義も致遠慮其町之もの、様ニ申成罷出一人も貪り候もの無之式百人計之人足不殘並之通式勿ツ、受取相濟候段一昨日大年寄申出依之問屋并小指共追込等伺出右之通無滞相濟候事ニ候得者追込ハ不申付叱置計ニ取計度種々申談候得共町方ニ而も問屋取計不宜旨申触或ハ可申立杯と風聞も有之位之義ニ候得者御叱耳ニ而者以後之御アリニも相成問敷問屋目附共も申聞候付左之通取計候様孫右衛門へ申付候

其方義昨年出羽守様御通行之砌取計方 問屋  
不宜処今年も人足差支ニ相成不出精 佐右衛門  
之段不届候依之急度可申付候得共用捨  
を以追込申付候相慎可罷在候  
但追込五日

其方義出羽守様御先触到来之節取計 同  
方不行届人足差支ニ相成不届之併 八十兵衛  
御通行之砌ハ其方義病氣ニ而不罷出  
候ニ付叱申付候以後出精相働可申候

兼而差支を見懸致高売并不打当之賃 問屋下働小指  
錢取問敷旨被仰出候処今般出羽守様 同様之もの

御通行之砌不動之処ハ人足差支ニ相

成并賃錢ニ寄候而者相集リ可申抔と

不埒之義申出却而町雇之方江致口入

候段重々不届之依之急度可申付候得とも

憐愍を以追込申付候相慎可罷在候

但追込二日

河原町 利三郎

小姓町 虎吉

右ハ去ル廿一日禁足  
申付置候者共也

右ハ廿日之夕骨折人足雇出

五百文褒美遣置候もの共也

右骨折之賃錢ハ追而可遣と

兼而致約束候事故六匁つ、

差遣度段伺出其通申付候

下紺屋町

福渡町 文左衛門

茂兵衛

右之通取計相濟尤松岡治部助江も追込取計之致相談候処後之御聞

ニも可入程之義ハ相伺取計候得共当座切ニ而相濟候義ハ追込以下

之取計事ハ不相伺取計来候近例候旨申聞候付今般之一件ハ無難ニ

相濟候義故不入御聞一己之取計ニ而濟之

一西川役人平沢助八松尾佐久太右久太新役ニ而致交代御案内書状

来ル翌廿八日及返書

一去ル廿四日申渡候造酒屋共へ米千俵御取かへ被下候処来年右ハ御

貸不被下候段申渡義当年上納相濟候上ニ而申渡度旨酒改申出候段

孫右衛門伺出其通申達候

九月廿八日

一芝居御免之御沙駄先日有之依之問屋軟大保頭軟之内江被仰付候ハ、

四五百匁つ、ハ大割入用ニ相成候間其意味申上置候処左様ニ被仰

付候而者芝居座と申様ニ而風義不宜義ニ付不被仰付候段一学殿被

仰聞候元来芝居之義役筋右願候義ニ而者無之度々被仰付候而者風

俗之障ニも可相成候間何れ御免被成候事ニ候ハ、先一ヶ年ニ壹度

ニ被成候様仕度申上置候

一大信寺家来宗助義西今町今田屋伊助引受人別人願差出寺社取次藤

本十兵衛へ引合相濟承届候段今日申達

一在方酒權改ニ例歳之通酒改共明日致出役候段孫左衛門届出承置

一太神楽岡田忠太夫例歳之通武蔵屋甚蔵方江昨日罷越候段孫左衛門

届出御城下相廻候段大目附へ相届置承届候段申達候十月十九日罷掃候  
段相届候

一川支之節駅場江為知候義姫路問屋へ聞合候様申付候処市川川支又

川明之節ハ川場右問屋へ為相知候先例ニ有之由申来候書状孫左衛

門差出候郡代江右之他之例懸合可申事

一牢舎人不快ニ付引扶持願出牢番内々之取計ニ而菓類調遣候算様書マツ

儀助差出候段小頭申出候

一関貫番賃九月小之月分百匁五分久山勘八差出候

一同心組萩野嘉七大風ニ而家潰被下米之義大目附へ相達置候処御蔵

江受取ニ出候様勘定奉行右通用有之其段申達於御蔵受取候

一船頭共小桁川浚願之義植木左士江及対談候処御聞届無之趣之段通

用有之其段申達候

一美濃職人町沢田屋善蔵明朝咎牢舎差免并中之町米屋善右衛門訴状

御聞届無之義可申達ニ付夫々手合申付置候

一牢番儀助病身ニ付番代内意小頭伺出聞届之段申達候

九月廿九日

一左之通兩人呼出申達御用番并大目附へ相届候

塗師辰助方博奕参会之者

昨廿八日迄二而百日二相成候間咎牢

舍差免候

美濃職人町沢田屋

善蔵

十月朔日丙寅 晴

一五時迄登城例月之通御小納戸へ御礼始り候案内有之宮嶋之間御縁側通於中程御家老中名披露ニ而御目見申上候早而於七間廊下御小性頭謁若殿様江当日御祝義申上之早而御用所江一列ニ罷出当日御祝義申上之

先年御用銀差上当時困窮ニ付

訴状差上相歎御聞届ハ難被成筋ニ付

中之町 米屋

善右衛門

以来不願出候様可申聞旨被仰出候ニ付

其段呼出得と為申聞候

一三軒屋破損之届書小頭へ差出大目附江差出候

一当国他役所へ米相場書取ニ来候入用ニ付油紙青繩小勘者へ書付差出受取之御作事江も右挾板之義申達候

一此間大目附へ御渡松岡治部助へ相廻候衣服奢侈并奉公人高給之書付小須賀貢江差戻候処有無共ニ存寄相認差出候様被申聞候

一吹屋町熱田数馬金毘羅参詣願書差出承り届ル

一公儀御廻米止宿之砌番賃惣町へ取立三百匁計差出候処入用者米三俵ニ而相濟右殘金者大年寄共古来へ役徳ニ相成居候処中古殘金引上ケ町方工面ものニ取計候処六七ヶ年已前大年寄被下もの減候節後藤守助差図ニ而又々大年寄取りニ致候様ニ申付今以其趣ニ仕候段内々申聞置度旨豊岡藤十郎を以申出承り置候

一万人講之駒小ク仕候様例年之通触流取計候段豊岡藤十郎申出候

一此間触流いたし候盜ものニ類したる布子豊屋多助方ニ質ニ取居候旨申出候郡代江懸合可申事

一此間豊屋多助へ差出候盜ものニ類したる物書付郡代江相廻候処当人差遣見改候処無相違旨ニ付右質物差出候様ニ大年寄へ申付候

一牢番内田儀助病身ニ付番代仕度願書差出承り届候

一万人講糊少々致広道杯付かへ候ニ付商内場所先規之通割渡可申旨  
久山勘八申出承届ル并講元十月月番櫻野屋茂市十一月高雄屋藤助  
十二月浜野屋宗兵衛相勤候段届出候

十月

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 豊岡藤十郎

一御手廻御駕籠被召抱候間又々当月廿日比迄ニ触流取計候様大目附被申聞触書差出候

一御仕置者有之節<sup>者</sup>以来左之通被仰出候旨大目附中<sup>ル</sup>御書付被相渡候

一御道具御試有之候節大目附<sup>江</sup>被仰出大目附<sup>ル</sup>其段町奉行<sup>江</sup>申達之於牢屋取計可申事

一御家中之面々道具試候節<sup>者</sup>死罪有之候節同心組<sup>江</sup>御家中之面々<sup>ル</sup>相頼候<sup>者</sup>胴取埋不申其俵差置可申候

一表奥共御医師開臟いたし度候<sup>者</sup>其段支配頭へ申出支配頭<sup>ル</sup>其人物見立候上町奉行所へ申談於牢屋取計可申事

一右何れも同心組<sup>者</sup>人罷出其余<sup>者</sup>穢多共申付取扱致させ可申事

一御領分之者死罪有之候節<sup>者</sup>試開臟共ニ無用之事  
一兼田ニ<sup>而</sup>打首有之候節御道具御試開臟共ニ胴右同所<sup>ル</sup>牢屋へ取寄可申事

十月三日

一当国土屋主税殿領分勝北郡新野西下村庄蔵甥為治と申もの当子ノ  
三拾六歳ニ罷成候右為治石名元蔵従弟ニ付厄介ニ引受度願差出承

リ届ル

一牢番内田儀助番代利兵衛目見<sup>江</sup>申付小頭部屋目附兩人詰合儀助同役儀右衛門同道ニ<sup>而</sup>式本入扇子披露於座敷謁ス

十月四日

一<sup>二</sup>ノ宮押込并仙右衛門仕置明後六日ニ可取計旨一学殿<sup>江</sup>申上候処御障有之候ニ付当月中旬後相伺候様被申聞候

一御蔵米七拾六匁五分町米七拾貳匁五分

一屋根屋阿波屋家質一件明五日致吟味候付五時左之面々呼出候様大年寄へ申達候

屋根屋娘まき

阿波屋後家

弥兵衛伴定右衛門

菊屋清左衛門

塗師屋甚七

大工久七

坂本屋吉之助

二文字屋徳左衛門

年寄源右衛門

吉田屋喜八郎

若松屋善左衛門

加茂屋平左衛門

多賀屋才三郎義ハ今晚呼出直ニ内々ニ<sup>而</sup>相尋候得共一向無存趣申候

一牢凌申出番兩人差出候処無別条段届出候

一安岡町作人作平村永屋藤右衛門公事一件元来不埒之事共ニ付致内

濟候様ニ孫左衛門へ申達願事差戻候

一豊屋多助方ニ質ニ取候被盜もの布子<sup>ツ</sup>差出郡代所<sup>江</sup>為持遣候

一船頭町御制札場普請有之御制札町年寄<sup>江</sup>被預候ニ付預り置候段大年寄届出候

年寄届出候

一上田村勘太郎被盜物女着布子<sup>ツ</sup>沖村なか被盜物男着布子<sup>ツ</sup>豊

屋多助差出郡代松岡治部助へ相渡候<sup>ル</sup>右之段大<sup>目附</sup>相達<sup>ニ</sup>不及

旨松岡申候付不相達候

十月五日

十月六日

一竹田村借牢之女腹痛いたし候段届出郡代<sup>江</sup>申遣大年寄へ医師申付候

一西川役人平沢助八松尾佐久太<sup>方</sup>米相場書頼来及返書候

一松岡治部助<sup>ル</sup>穢多岩三郎友吉出牢申付候段差越來牢番<sup>江</sup>以差紙申

達候

十月七日

一 牢舎扶持当四月朔日と九月廿九日迄五拾四俵六升七合五勺本証文致奥書小頭ニ相渡候

一 右同断八俵内貸証文致奥書候

一 中山百蔵請状差出候

一 小野□金五郎番代為治差出度願書聞届申達

一 御近領江相廻候米相場書挾板御作事方江当月末迄ニ出来候様書付相渡置

一 右同断油紙青繩差札荒物方へ書付相渡受取

十月八日

一 御代官青木義作近藤宗兵衛る町作御年貢取立ニ付若不納之者も有之候ハ、手錠可申付間前以右断申候段手紙到来

一 来ル十五日万人講ニ付御高札式本三ツ道具巻組御幕三張大文字付挑灯三張但台共拜皮式拾寄棟廿五本例年之通拝借仕度書付差出候

ニ付大目附中へ差出置候

一 紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代政右衛門源兵衛利八与申三人

例年之通挽折敷売ニ昨日參候段京町田戸屋宗十郎る宿切手差出候

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代清四郎彦十郎与申もの二人例年之通

茶挽類売ニ昨日參候段京町田戸屋宗十郎る宿切手差出候

一 牢舎人御仕着数拾六代九匁五分る拾四匁五分迄之品合式百七匁五

分小頭取計質屋る取寄致御買上今日牢屋へ相渡候

一 橋本町豊後屋亀藏義不尋出候付宿元組合之者過料五百文ツ、九月

廿二日申付置候処今日右五人分合□式拾四匁大年寄差出候

一 西今町鳥羽屋源十郎所持屋敷表口三間裏行拾五間但五步役也西隣ハ豊岡藤十郎東隣ハ源十郎居宅也右家坪屋音四郎取次ニ而質物ニ書入銀札老貫目借り来ル丑七月切質入願差出承り届ル同日証文差出候

一 三丁目年寄福永屋助右衛門病身ニ付退役願差出跡役ハ佐和屋孫四郎是迄戸川町年寄相勤候間同人義三丁目年寄ニ申付戸川町年寄孫

四郎跡役ハ三丁目浜野屋源五郎申度旨申出申出之通承届取計候様ニ申付候

一 伏見町野瀬屋源助年寄相勤候処致病死跡役人物外ニ無之ニ付同人

悴勇次郎ニ申付度旨申出承り届

一 大久保加賀守殿領分当国久米北条郡山手公文南村五郎兵衛娘二階町荒田屋十兵衛借屋ニ居候龍田屋栄助妻ニ引受度人別人願差出及御沙駄承り届ル

一 元魚町東側ニ而桶屋伊助家表口五間裏行拾七間但シ巷間役也南隣ハ山口屋源治北ハ御堀端二階町江通り筋也右裏行之内東北六間半

南北五間三步役之所銀札式百匁ニ相極二階町久保木屋嘉兵衛へ売渡度願差出承り届ル同九日亮券状出ス

一 牢舎人操かへ入替昨日申付候

一 ヒ、之実吉斗四升三合津川小番る孫右衛門へ差越代七匁之由孫右

衛門届出郡代江懸合勘定奉行植木左士へ申談置候

一 小嶋新五右衛門る近日御仕置物有之候ハ、宇田川玄隨開臟被仰付候右之節玄隨弟子戸川町田外玄洞元魚町高島道友召連參候段案内

有之候并人臆取候ハ、於牢屋穢多共ニ于立申付候様被申聞候尤右  
入用之道具ヲ玄隨ヲ可相廻候旨被申聞候

一 明九日五時御供揃ニ而奈良沢御茸狩ニ被為入御道筋二階町御門ヲ  
八百屋町本町通御通り被遊候段中奥目附ヲ通用有之大年寄小頭江  
例之通申付候

一人馬間屋駅■米拾貳俵之処暮渡候分六俵証文小頭差出致奥印候  
一 今般御儉約ニ付御年限中御礼式相止候御触書到來委細者御触留ニ  
記置候

一 以來御用日左之通六才ニ相成候段大目附中ヲ被申聞候段松岡治部  
助ヲ通用有之

五 十 小ノ月ハ廿九日出仕 御用所四時出仕之事

五 十 昼後 管子講尺

五 日 廿五日 後風土記講尺

一 是迄米高直ニ相成候得者川留被仰付候付米商人共川留を恐れ他領  
ニおゐて買留又ハ早々川下江積下置候趣甚風義不宜捨置候ハ、來  
度払底自然と高直ニ相成且ハ当地之衰微ニ相成候事故右之風義取  
直し候様仕度左候得者川下不申付旨不申渡候而者右之疾不相直候様  
奉存候以來格別之凶年又ハ米払底之節ハ格別之事ニ候得共相場合  
外々と触合高直と申ニ而者川留申付候事ハ致間敷旨相触左候ハ、  
米式千俵來五月迄御払御差延被下候様仕度御用番へ相伺候候後刻  
大目附平井郷左衛門ヲ右之義勘定奉行へ得与及相談可申聞尤以來  
川下ケ不申付と申義ハ不宜旨被申聞候右ニ付主意申候処明後日書  
付差出候様被申聞候

十月九日

一 今日御出御延引被仰出候段中奥目附ヲ通用有之夫々江申達候

一 小野田金五郎番代為治目見江申付小頭部屋目附兩人詰合式本入扇  
子披露遂謁候

一 右番代相濟候付御使組加人明日ヲ差返候段勘定奉行大目附へ手  
紙ニ而申遣候

一 紀州高野山宝蓮院上下式人例年之通且那廻り罷越候段材木町正木  
屋才兵衛宿切手差出候

十月十日

一 川留之義一昨日存寄申候所書付差出候様平井郷左衛門申聞今日右  
書付同人江差出候尤伺扣ニ認置候付略之

一 來ル十五日万人講ニ付諸事先例之取計候旨御用番江相届大目附江  
も右同断申達并出役御貸人馬被仰付可被下并同心組加人拾四人御  
渡被下候様申達候

一 因州喜多郡鹿野村林右衛門去亥ノ十一月万人講之節廿一番上り札  
有之候処合鑑を落し得不受取木駒も柳ノ木ニ而拵來筆者も又々相  
頼合印ハ自身ニ致候旨毛頭無相違ニ付相渡候様其節申出相糺候処  
相違も無之義ニ者候得共正合鑑無之相渡候義ハ不致様先例申付も  
有之依之不相渡候処当正月も敷出候得共不相濟候処又々今般相敷  
出候間先格無之義ニ者御座候得共余リ不便成義ニ付最早落合鑑捨  
出候ものも有之間敷ニ付御渡被下候而も以後之ハさへ付置候得者  
苦かる間敷旨講元并大年寄伺出尤右御聞届被下候ハ、天明五乙巳  
年十月十五日備中玉嶋金治と申もの四拾四番上り札有之彼義も先

年庄屋之印形迄取来候得共相渡不申有之候間彼義も同様ニ取計具候様講元共申出依之御用番江相伺候処無相違事ニ候者相渡候而も可然候間右之由来委敷相認以後拾合鑑持出候もの有之候共向方へ引受当所之厄介ニ懸ケ申間數万々一拾出候者正利ニ候者向方ニ而右銀札弁へ可相渡為其庄屋印形取致持參候旨役人同土之懸合ニ一札為相認相渡候様取計可申段一学殿被仰聞右之段源五兵衛へ申渡候一古手屋久治太刀屋と家号相改度旨願書差出此間御合印御免被成候事故御用番江及御樽大目附江も右願書相渡置候一奉公人口取計之考源五兵衛へ相違候

十月十一日

一煙管屋長兵衛妻死胎出產遂<sup>吟</sup>味候処相違無之旨届書差出候

十月十二日

一明十三日戒善院様御忌日ニ付五半時御供揃ニ而泰安寺へ御參詣被仰出候段中奥目附と通用有之小頭大年寄へ申達候

一町作年貢催促之ものへ町々年寄宅ニ而酒肴等差出来候旨ニ付御代官江致相談候処存寄無之旨返書来依之同心組出役先同様之取計ニ致様大年寄へ申付候

一京町田原屋伊兵衛商売用ニ付三十五日計之逗留ニ而因州鳥取江罷越候願書差出

一役所倉物多ニ相成人物無之ニ付弘長持代拾五匁ニ而闕所銀之内を以相調度旨大目附江及樽候処承知ニ付相調候

十月十三日

一及井野御預り所久米中村座頭城久米当益前西今町永の屋安之丞方

江調物ニ来致持參候風呂敷包老ツ琉球三枚下見世〔〕差置致紛失遂吟味候処竹田村清八取紛之持帰り候由右紛失もの引渡懸合殊之外六ヶ敷相成及井野役人津田与一左衛門と添簡持參願出候ニ付其旨御用番江及御樽置委細之義札之上可申上候旨申上置候

一於徳守宮社地勘進相撲中諸事為相慎万端御役介ニ懸ケ申間數証文浜風岸右衛門差出岡田文九郎と差出受取置

一明十四日文照院様御証忌日ニ付五半時御供揃ニ而泰安寺江御參詣被仰出候段中奥目附と通用有之小頭并大年寄へ例之通申達候

一玉置源五兵衛義今日勘定奉行中る御金貸付取計被仰付候旨源五兵衛届出候

一半舍人御仕着山本勘吉分不足ニ付又々拾四匁五歩ニ而相調小頭と相渡候

十月十四日

一木屋太兵衛義出火之節出役有之御道具下り居候節ハ御道具持出し候人無之難義仕候付其節計出役御免被下候様御用番中被仰聞相糺候処銀札場へ相結候耳ニ而為差御用向も無之哉之旨ニ付右人数之内内三人致不足候而も差支之筋ハ無之哉と大年寄へ申付候処札元江懸合銀札場奉行中江も申達候処何之差支も無御座段申出候付御道具下り居候節計出役御免と申もの度々届懸合等も入六ヶ敷ものニ候得者右之趣差支も無之事ニ候得者家業柄之義ニも候間一向太兵衛義ハ平日たり共出火之節銀札場詰被差免候而可然様奉存候旨一学殿江罷越申達候

一先達而相願御許容被成候徳守宮於社地勘進相撲明後十六日と始始

例之通大鼓打廻候旨岡田文九郎届出其段御用番并大目附へ相届候

一久世御代官早川八郎左衛門殿手代貝塚五郎藏芳賀右門へ当十五日

と晦日迄之米相場上中下三段相糺為知具候様飛脚差越相答及返書

来月朔日取ニ被差越候様申遣候

一万人講ニ付御使組加人拾四人来小頭を役割申渡書付差出候

一万人講ニ付旅人可入込候間旅籠貪り取不申様ニ大年寄へ申達候

一万人講ニ付更廻り元藏孫八差出候

十月十五日

一万人講ニ付出役町奉行郡代松岡治部助御徒目付河村市兵衛下目附

小頭并平組御省略方井口恵左衛門大年藏合孫左衛門大庄屋植月全

助同心組小頭書役平組役割左之通

屋敷番式人 朝昼晚宵夜半更廻り 加人六人

講場出役同心組七人加人式人右出役之内と三拾番突濟候得者

当日銀札渡場へ兩人相廻す

御貸人足若堂式人鏈持挟箱合羽籠馬口式人

寄札高壹万三千七百六拾六枚 但五匁札

此銀札 六拾八貫八百三拾匁

内式拾貫六百四拾九匁 三步ニ引

残る四拾八貫百八拾壹匁五拾番ニ割

壹番 貳貫七百五拾三匁貳步

拾番 貳貫四百七拾七匁八步八厘

貳拾番 右同断

三拾番 八貫貳百五拾九匁六步

四拾番 拾番貳拾番之通り

五拾番 五貫五百六匁四步

間々 五百五拾匁六步四厘ツ、

右之通興行相濟四拾四五番目突仕廻候節引取引懸ケ御用番小須賀

一学殿江届ニ罷越大目附太田舍人江者以手紙相届尤郡代連名也

出役之面々不残相濟候段届出候尤今日残雖廿一本有之旨相届候右

寄札高追而御用所へ差出候

一以来御用日左之通ニ被仰出候旨上原彦藏を通用有之

四 七 十 但正月十二月廿七日之処ハ廿八日ニ相成

例月晦日ハ翌月朔日ニ相成ル

一木屋太兵衛出火之節銀札場出役差免候様ニ御用番を御達有之候旨

上原彦藏を通用有之

一来月万人講者大寄ニ付働手人数増候様治部助を連名ノ何有之候処

伺之通被仰出候段彦藏を通用有之

一公保田村弁吉被盜もの触流し取計候様大目附を被相渡候段彦藏を

通用有之

一万人講文句帳御小納戸を差出候様申来当番を講元へ差遣直ニ差上候

一德守宮於社地勸進相撲有之候処此度ハ御家中見物勝手次第被仰出

候御触到来支配方へ差出并町方江も右之趣為知触差出候

一明日相撲有之ニ付同心組致不足式人加人大目附へ申立候

十月十六日

一万人講翌日ニ付先例之通朝晚宵更昼夜四度廻り差出并残雖渡場へ

小頭并平組兩人差出候

一二ノ宮並松根御御私ニ相成候間入札触流し候様郡代ノ頼来申達候  
一御蔵米七拾七匁五步町米七拾三匁五步

一万人講殘雖四枚有之候段小頭届出候

一徳守宮社地勸進相撲今日初日警固兩人差出候段無別条札数千百枚  
有之由届出候

十月十七日

一二ノ宮押込盜賊御仕置明後十九日可取計哉之旨相伺候処何之通取  
計候様一学殿ノ手紙ニ而申来其段大目附へ手紙ニ而相届候尤右立  
合出役六時出宅之旨申遣候

一右之通御仕置取計候様被仰出候段郡代申遣并古川村庄七義ハ郡代  
ノ申渡被取計候様ニ申遣且又出役先禁酒申付置候間其節川崎庄屋  
ニ而右之心得ニ取計候様ニ申達候

一御仕置もの宇田川玄隨願ニ寄而開臟被仰付右ニ付嶋崎同栄河合玄  
碩丹治隆玄川嶋修安罷越度段御聞届被成候間其旨相心得可申段太  
田舎人ノ被申聞候

一万人講致勘定候処八拾六匁五分三厘過銀有之候由久山勘八届出候  
一木屋太兵衛へ申渡有之候間明朝五時呼出候様大年寄江申達小頭江  
も例之通出役申達候

一京町田戸屋宗十郎紀州黒江江売用ニ付四十日計之逗留ニ而明十八  
日出立願書差出候

一被盜もの触流相濟候書付数通大目附へ差戻し

一管子講釈以後四七朝五半時揃五時過出仕ニ相成候段上原彦藏ノ通  
用有之

一觀進相撲無別条入札式百六拾八枚之由警固出役相届候

十月十八日

一大年寄諸吟味小頭部屋目附結合ニ而於玄関左之通申渡候

其方義火用出役被差免候 木屋太兵衛

右取計相濟候御用番并大目附へ相届候

一明十九日二ノ宮押込盜賊御仕置ニ付獄門台二ツ同釘式本檢札式枚  
申付置候様大年寄へ申達候但獄門台ハ鉄から屋□□□□ニ而拵釘  
ハ鍛冶頭江申付檢札ハ檜物屋へ申付候事之由

右ニ付藏多共之義ハ小頭江手配申付首切刀ハ牢番木屋太兵衛へ致  
持參申付候事

一井岡道安も明日開臟ニ罷越度願出御許容被成候段小嶋新五右衛門  
ノ通用有之候

一勘進相撲無別条入札三百四拾四枚之由警固出役届出候

十月十九日 時雨

一二ノ宮安治方へ押込候盜賊一類左之通於兼田御仕置取計之出役明  
六時出宅御徒目附河村市兵衛下目附富田弥助同心小頭川端又六書  
役大脇新左衛門部屋目附三船新治平組三船孫八石名元藏神田定治  
江原文藏立合書役読渡之

獄門

無宿盜賊 文吉

幾治郎

打首

〃

忠藏

為吉

由藏

右同断

古川村 庄七

是ハ郡代下代読渡之

右六人於兼田取計之

永牢

無宿盜賊 幸吉

是ハ昼後町奉行宅ニ而申渡之

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

右御仕置もの御試ニツ開臈一牢屋へ取寄於牢屋取計之右ニ付平沼

平馬并岡道安宇田川玄隨嶋崎周栄河合玄碩丹治隆玄川嶋修安町医

田外玄洞高皇道友牢屋門差通候様牢番江申付候尤於御仕置場取計

之右ニ付大段物諸人用不残向方之取計也然共同心組老人附置候且

又人膽為御取被成干立於牢屋可取計之旨新五右衛門へ通用有之牢

番へ申付候於兼田も村山縫殿丞西村橋五郎信沢茂十郎試度旨同心

組江頼有之候由相濟候迄同心組老人相結候古川村庄七胴ハ試不相

成候段申達即刻取埋させ候事

兼田ニ而獄門番穢多共三日三夜相結候処此節薪出無之差当り迷惑

之段牢番願出追而者先例相糺可申付候得共先今夕之処ハ牢番共

る取かへ遣候様ニ申達但例ニ者不相成旨申渡候

一東新町肥後屋長助娘死躰女子出産遂吟味候処無相違旨糺書数通大

年寄差出候

一太神楽岡田忠太夫罷帰候段大年寄届出候

十月廿日

一勘吉義殺害之妻之両親を助命願郡代所江差出候ニ付大和塀屋伝兵

衛先例之通髪を切御領分追払被仰付候様伺書差出候

一米川下致間敷義先日存寄書差出候得共先是迄之通ニ致候様ニ可申

達旨御用番中被申聞候段太田舎人へ被申聞候

一綿実稼水車御用車と申躰ニ仕度源五兵衛差出并右ニ付生綿屋治助

團扇屋太郎兵衛大坂へ致内通不届之段御用番相伺候処右願濟候趣

大坂江懸合可申并兩人義ハ致吟味候様御差図有之候

一俊明院様御法事ニ付寺院へ敷出候御勘氣之者共先日附札ニ而申上

候通御免被成候間申渡候様ニ大目附へ達有之候

一他所人入込無願ニ致逗留不埒ニ付相改候様大年寄へ申付候

一桶屋町広瀬屋庄藏困窮ニ付拜借之願投弁いたし心得違之段申聞候

様大年寄へ申付候

一御上り豆腐又々折々不宜旨御料理人申聞候付内々ニ而心付候様大

年寄へ申達候

一昨日仕置之首ニツ黒焼ニ被仰付候間明早朝ヲサ谷へ穢多ニ為持遣

候様平沼平馬へ申談小頭江申付候并人切場陰火之義相尋候様同人

江申達候

一茅町源吉療治代拾六匁栄治龜之助受取相渡候段大年寄申出候

十月廿一日

一大久保加賀守殿領分当国久米北条郡山手公文南村五郎兵衛娘志う

二階町龍田屋栄助妻ニ引受願去ル八日差出候処今日住宅証文差出

一御蔵米七拾八匁五步町米七拾四匁五步

一勘進相撲無別条大札五百四拾式枚小札七拾六枚之由警固届出候尤

今日ハ小頭も差出候

一竹田村借牢之女全快ニ付休薬双方へ届出候

一綿実車稼之義大坂村尾李右衛門へ問合申遣候

一生綿屋治助團扇屋太郎兵衛吟味ニ付明五時呼出申付候

十月廿二日

一水車稼之義上方江致内通候趣ニ付生綿屋治助團扇屋太郎兵衛呼出  
遂吟味候

一屋根屋娘阿波屋後家并右懸合定右衛門菊屋清左衛門大工久七坂本  
屋吉之助吉田屋喜八郎加茂屋平左衛門呼出遂吟味候

一勸進相撲無別条大札六百式枚小札百刃入候由警固届出候

十月廿三日

一戸川町喜兵衛妻妊娠中病死吟味書差出候

一大坂松屋平兵衛参候段宿切手堺屋伊助差出候同廿八日罷掃候

一勸進相撲無別条大札四百拾九枚小札七拾三枚之由警固之者届出候

一去ル十五日万人講残札三番廿八番今日相渡小頭立合申付ル

十月廿四日

一勸進相撲今二日仕度追願岡田文九郎差出御用番江差出候処御聞届  
相濟其旨岡田文九郎江申達候

一牢番儀右衛門利兵衛居宅破損書差出大目附江相渡置候且又右両人  
居宅這入口戸無之ニ付願書差出大目附へ差出候処是迄無之相濟来  
義故此節御儉約ニ付御取上ケ無之候間矢張障子ニ而致堪忍候様被  
申聞其段小頭江申渡候

一酒直段書付小嶋此母を以差上候

一水車一件吟味中生綿屋治助團扇屋太郎兵衛組合預ケ申付置候段御  
用番中江及御沙駄置候

一山本勘吉御裁許伺之通髪を切追払取計候一学殿被仰渡候依之勘吉

仙右衛門義明日取計可申段御用番江相届大目附へ立合被差出候様  
申達候尤右之手配小頭并大年寄へ申達置候

一勸進相撲無別条大札三百四枚小札九拾枚入候由警固之者申出候  
一京都二文字屋手代治兵衛罷越候段海老屋長右衛門宿切手差出候

一橋本町松屋忠助常盤屋善兵衛後家徘徊御免歎出候間考差出候様一  
学殿へ御書付被相渡候

十月廿五日

一左之通於牢屋取計御徒目附山田新三郎下目附二字分り茂藏小頭川端又

六書役大脇新左衛門部屋目附三船新治立合書役ノ誑渡尤山本勘吉

ニ者御徒目附下目附立合無之

田□屋「」落候金子式拾五刃 河原町 仙右衛門

盗取候料ニよりて刷御領分追払

新縁之妻致殺害下手人可相成処 伊達与兵衛殿家来

女之両親助命歎出候付髪を切 山本勘吉

御領分追払

盗賊筋携無之ニ付住居徘徊御勝手 河原町仙右衛門妻

次第申渡右金子盗取候以前ノ持 茂よ

来之家財程ハ差遣候 同人娘 熊六才

同人俸 幸吉三才

右大年寄宅ニ而申渡候尤盜もの并其後相調候家財ハ売払

差出候様申付ル右諸道具仕分ニ部屋目附三船新治差向ル

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

右兩人皿江送り私庄屋手形出番取帰ル尤勘吉義御裁許之段与兵衛殿家来江手紙差遣候段乙四郎返書来

一無宿盜賊与吉入牢郡代差紙来其旨取計

一右与吉盜もの懸合ニ付二階町与三郎吟味并右ニ付質屋共吟味大年寄へ申付候

一久保田村弁吉被盜もの触流し之品無御座旨大年寄申出候

一明日左之面々呼出候旨夫々江手配申達

筑後屋安右衛門 灘屋弥十郎 柿屋市之助 鍛冶や伝兵衛

中野屋佐助 弥兵衛倅定右衛門 菊屋清左衛門 多賀屋才三郎

二文字屋徳左衛門 河原町源右衛門 屋根やまさ 阿波屋後家

十月廿六日

一左之通大年寄諸吟味小頭部や目附立合ニ而申渡し

元魚町檜物屋清八倅藤吉義徘徊御構 新魚町灘屋

之処旦那寺々欺出候処今般俊明院様 弥十郎

御法事御赦ニ付徘徊被差免候此段可申達候

荒木義右衛門母義右同断ニ付徘徊 船頭町柿屋

被差免候此段可申達候 市之助

林田上之丁字兵衛義右同断ニ付徘徊 東新町鍛冶屋

被差免候此段可申達候 伝兵衛

右同断ニ付掃町宅 元伏見町筑後屋

被差免候 安右衛門

右申渡取計相濟候段御用番并大目附江相届候

一御蔵米七拾九匁町米七拾五匁

一屋根屋平兵衛娘阿波屋弥兵衛後家さよ弥兵衛倅定右衛門菊屋清左

衛門二文字屋徳左衛門河原町年寄源右衛門多賀屋才三郎右七人并

水車懸り生綿屋团扇屋一<sup>件</sup>ニ付二階町中野屋佐助呼出逐吟味阿波

屋後家并定右衛門口書取候右立合例之通

十月廿七日

一乃井野役所添簡有之候久米中村城久米今町永のや安之丞江懸合

之一件致内濟候間願書下ケ遣候様願下ケいたし御用番江申達承り

届及返書

一常盤屋善兵衛後家并目明忠助義徘徊御免之義今般御法事ニ付旦那

寺々欺出考差出候様此間御用番被仰聞相調候処兩人共未年数も無

之義故先御取上不被成筋と申上候処忠助義ハ其旨ニ而も可然候得

共善兵衛後家義ハ御免被成様候ニ者相成申間敷哉今一応相考候様

被仰聞候

一二階町与三郎并質屋被盜もの調書差出郡代所江相廻候

一勸進相撲無別条入札五拾壹枚小札式拾六枚紙札式百五拾枚之旨警

固之者届出候ノ三百式拾七枚也

一材木町年寄武兵衛上書町方之もの家持借屋もの、差別付候ハ、風

義可相直考先達而差出候得共全躰左之義ニ者候得共俄ニ取計候ハ、

人氣立不可然も可○之義と申達置候

十月廿八日

一当役被仰付初而牢屋見分罷越小頭部屋目附兩人付添罷出候尤若<sup>3</sup>

一人同心組草履取計ニ而罷越候右席ニ穢多頭江詮儀場於庭左之通小

頭又六匁為申渡候其段大目附江相届候

其方義兼々勤方宜尚又諸ノリ  
申付候処行届候趣ニ付為褒美

穢多頭

九郎右衛門

鳥目五百文差遣之

一明日於御対面所相撲御覽被遊候間御家中妻子組中間ニ至迄勝手次第罷出候様大目附廻状到來依之組中間江相触候

一勸進相撲無別条今日切ニ而相濟大札百貳拾壹枚小札三拾七枚紙札貳百貳拾壹枚之旨警固之者届出候

一人別改左之通但九月份也

出生拾九人

男九人  
女十人

人別入四人

人別除貳人

死失拾三人

指引ノ八人増

十月廿九日

一今日於御対面所相撲御覽被遊候間大年寄ハ拜見被仰付候間其段申達候様大目附ノ申來以切紙申達候

一備前岡山小畑町鼠屋甚八今朝罷帰候段堺屋伊右衛門相届候

十月晦日

一大年寄共昨日相撲拜見被仰付候御礼廻勤可仕哉之旨伺出候付致廻勤可然及即答候

一林田三三右衛門御使組難波藤治長屋ニ居候治助并妻娘右三人二階町

山手屋借屋ニ居候水田屋太助悴ニ付引受人別人願差出承り届ル

一講元浜野屋宗兵衛病氣故障之節悴嘉市郎名代ニ差出度願書差出承

り届置候

一伏見町田の村屋与七仙右衛門ニ被盜候金子拾匁銀札七拾六匁三歩

大年寄ノ相渡右受取書差出候

十一月

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 山田彈正殿

大目附 平井郷左衛門

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 豊屋喜左衛門

十一月朔<sub>丙</sub>申旦 晴

一御吉日ニ付麻上下着用登城今日者御譜代之面々恐悦申上有之ニ付当日御祝義申上無之且又御年限中ニ付被下物無之依之平日御用日出仕之通也

一福渡町福渡屋儀助弟善助義立願付千ヶ寺參詣二百日相願候処尚又

追願百五拾日願書差出承り届ル

一美濃職人町三笠屋伊右衛門義堀田相模守殿領分当国大庭郡下福田

村丈右衛門悴新右衛門夫婦來丑ノ九月迄留置かせ染手伝為仕度願

書差出承り届候

一妹尾平兵衛印形致落失依之相改候段印鑑差出受取置候

一下紺屋町大工佐助妻妊娠七ヶ月ニ而夜前致病死候段医師容鉢書を

以大年寄相届承り置

一 常盤屋善兵衛後家こま義徘徊御免御歎之義先御取上ケ無之方と先日申上候処今一応相考候様一学殿被申聞候付十一ヶ年之内四度悪事仕候段相認又々差出候委細者同扣ニ認置候

一 二階町徳山朴也義養子井口春齋離縁仕福渡村江差戻度願書差出御用番江及御尊願書大目附江相渡置御聞届之段申達候十月改ニ入

一 雲州出雲郡下庄原村住田屋林三郎悻新助并同人弟嘉兵衛右両人桶屋町又五郎引受人別人願書御用番江申上御聞濟之上大目附へ願出相渡置候上御聞届之段申達候 同十六日住宅証文差出候 十月改ニ入

一 西今町米屋利助養子離縁仕親元三浦志摩守殿領分真嶋郡垂水村江差返候段願書差出御用番江及御尊願書大目附へ相渡置御聞届之段申達候但し養子名面龜之助十月改ニ入

一 例年之通米三段相場致奥印久世及井野丹州久美浜御代官所江差遣候右同断ニ而無奥印西吉田江差遣候其外平均相場書坪井西川勝 野村權九郎殿也

山備中小坂部江無奥印ニ差遣候但小坂部者水谷信濃守殿内鈴木甚大夫江尤江戸御留主居江頼遣候

右相場書上中下三段相場ハ御代官所之義尤向方右頼来候ニ付先々右町奉行致奥印遣来候事ニ候得共私領方平均相場ハ先々ハ無奥印差遣候処大沢三平在役中書役仮役之者風与不残致奥印差遣候由其後ハ不残町奉行致奥印差遣来候処後藤守助在役中私領方江者御名程相除肩書ニ津山町奉行と相認来候由ニ候得共今般拙者存寄ニ而御代官所江者古格之通致奥印差遣私領方江者都而奥印相止大年寄ニ差出候俟ニ而差遣候

一 山本勘吉牢賄仕切証文小頭差出致奥印

一 牢舎扶持八俵内借証文致奥印

十一月二日

一 郡代松岡治部助右例年之通久世御代官所御廻米川下ケ申来候間中揚ケ番人申付置候様通用有之候ニ付大年寄江例年之通番人申付候尤番所者郡代右御作事江申達御作事方右拵候由

一 錢相場百弍文届出候

一 来ル十八日万人講之節ひゝる場一軒増都合四軒ニ致候段豊屋嘉左衛門伺出承り届候右ニ付同心組式人銀札場手代老人出役増候段勘定奉行へ可懸合候尤右ニ付棒突も六人増候ニ付はつひ拝借増候段申聞候

十一月三日

一 牢舎人行重村伊八同市右衛門義郡代右出牢申来立合重助差出候

十一月四日

一 森对馬守殿預り所当国勝南郡飯岡村弥平次弟藤吉義美濃職人町三笠屋伊右衛門引受人別人願御用番御聞届相濟大目附江相渡置御聞届之旨大年寄江申達候十月改ニ入 十二月廿日住宅証文出ル

一 白銀屋平助義八ヶ年以前母致勘当候処此節病身ニ而難義仕候付平助悻岩治引受養育仕度歎書差出御用番御聞届相濟大目附へ相渡置御聞届之旨申達候

一 明日非人共捕手御透見被遊候間四半時御対面所江召連罷出候様御小納戸河内志津馬右被申聞候ニ付右手配小頭江申付并小頭目明召連罷出候様申付候 同七日此義御無用被仰出候

一 牢之入替申出候付昼廻之者差出二番三番之者を六番之揚屋江打込

ニ入ル

一最早世上物騒之時節ニも相成候間非人加廻リ并町方も右手当可申付旨御用番江相伺候処御聞濟ニ付大目附江も申達置大年寄へ例之通申付候并町方江も鳥散成もの不差置様ニ相触候様申付候

一目明扶持非人扶持証文大年寄差出致奥印

一西一ノ宮伝蔵被盜もの触流し大目附被相渡写取触流申達候

十一月五日

十月改ニ入

一西新町玉屋■■栄蔵借屋ニ居候庄吉夫婦二人林田上之町宇兵衛方へ引越申度人別除願差出承リ届ル

一東新町肥後屋長助娘妊娠届仕置候処病氣ニ相極候段医師容躰書を以届出叱置可申伺出候

一宮脇町福松屋和助後家孫子ニ付大坂上町堺屋友七夫婦来丑二月迄逗留為仕度願差出承リ届候 三月四日帰リ届ル

一中買頭河内屋安次郎金右衛門と改号願差出承リ置候

一十月分式拾分一銀拾匁差出候

一長田長庵四十日計逗留ニ而備前行願差出

一野瀬屋源助江在方犯もの買込取計親源助通ニ申付候由青木義作と昨日案内有之

一非人加廻リ三組但上之町新座町東西外ト町廻リ候様申付候段大年寄る申出候

一町方夜廻リ左之通申付候段大年寄る申出候

一内町関貫御座候町廿式丁此分拾壹町ツ、ニ分ケ拾壹町申合相廻リ毎夕四ツ時と明六時迄一夕一町と四人差出式組ニ仕候而

拾一町を相廻り申候

一下紺屋町 細工町

一林田六丁

一西今町 茅町 安岡町

右町之者毎夕式人つ、一町切ニ夜廻仕候

右ハ拾壹町廻りと申名目ニ相成居候尤番所有之候町々江者番人共別而入念相動候様ニ申渡置候由

十一月六日

一惣町軒数并人別改一学殿差出候様昨日被申聞大年寄へ申付候処左之通差出明日一学殿江可差出

天明八戌申年十一月改

一家数 千五百五拾式軒

一家持竈数 千式百三拾九軒

一借屋竈数 千六拾三軒

一地子居竈数 四拾九軒

寛政四壬子年四月人別帳

一人數合六千七百七拾五人 但召仕除之

内 男三千五百拾式人  
女三千式百六拾二人

右之内

醫師 三拾八人

山伏 八人

社男 五人

僧 式人

表通  
棟数也

尼 貳人

座頭 貳人

以上

同年同月改口口口非人共

一 人数 百貳拾九人

男 五拾六人

女 七拾三人

小屋数 三拾五軒

寛政四壬子年七月宗門帳面高

一 人数合六千九百貳拾老人

但召仕男女とも

内 男三千六百拾七人

女三千三百四人

右書付翌七日一学殿江差出候

一 伊勢山田河北助太夫名代辻田善次と申御師上下貳人例年之通来候

旨堺屋伊右衛門宿切手差出候

一 前訓講尺朔日（つひ）相始今日迄（ま）而相濟候段豊屋喜左衛門届出候

一 西新町伊名屋忠二郎妻女子出生無程致死去依之源五兵衛喜左衛門

相改候段届出候

一 木屋太兵衛義今般町役廻り之義大年寄伺出候ニ付出火之節銀札場

詰并自身番之外ハ相勤候様及差図候

一 乃井野津田与一左衛門（と）大豆相場付差戻候

十一月七日

一 昨日之人別改書竈数書付差出候処当時之軒数相改差出候様一学殿被申聞其段大年寄へ申出候

一 蔵合孫左衛門不快ニ付月番斎藤孫右衛門相勤候段届出候

一 穢多非人捕手御透見被遊候ハ風義ニも相懸リ不宜旨御直ニ申上候

処御延引被仰出松岡江も及通用

一 西今町中屋定治郎役介和右衛門百日計逗留身延山参詣願差出承り

届ル

一 眞（ま）房付鉄刀差出候様御小納戸細江武助（と）申来差出候

一 近藤伊左衛門長屋ニ居候作人佐七夫婦悴都合三人新魚町野田屋孫

三郎借屋ニ居候平助引受人別人願差出承届ル

一 田外玄洞訴状考差出候様彈正殿御渡被成候

一 酒直段定之義猶又考差出候様一学殿被申聞候

一 川切手奥書例月之通取計

一 博突ニ付咎牢舍申付候伝助金平今日ニ而百五拾日ニ相成明日出牢

取計手当申付候

一 当月万人講ひ（と）る場四ヶ所ニ相成候付銀札場手代一人増出役候様

勘定奉行へ懸合候

一 美濃職人町沢田屋善助前ニ而西北条郡井村利八牛致病死牛主（と）一

札取差添届書差出承り届ケ勝手次第取捨候様ニ申付候

十一月八日

一 左之通呼出申渡候其旨御用番大目附江も相届候

永見造酒助小者

咎牢舍差免候以後急度

伝助

相慎相改可申候

金平

右之段造酒助殿御家来中へ以手紙申達候

一 撰州豊嶋郡池田村月野木町植木屋平兵衛と申者老人例年之通植

木商売ニ昨日罷越候段新魚町鳥屋与三兵衛宿切手差出候

一 斎藤孫右衛門方江森対馬守殿御領分細月嶋津友三郎伯父藤左衛門

と申者罷越当月中逗留届差出候 同廿八日届届有之

十一月九日

一 江州多賀成就院例年之通上下式人旦那廻り罷越候段堺屋伊右衛門

宿切手差出候 翌三月廿三日届

一 入牢穢多茂兵衛今日賄不差越牢番届出郡代江申達候処今日一日賄

申付候様頼来其段申付候右代米追而差越候

一 富沢良藤長屋ニ居候利兵衛夫婦娘三人林田町川能勢屋岩右衛門引

受人別入願差出承り届ル

一 白銀屋安兵衛義五左衛門と改号願差出承り届ル

一 牢浚申付候処無別条段申出候

一 龍吐水代六百五拾式匁六步七厘玉置源五兵衛差出植木左士江致持

参相渡候

十一月十日

一 早川八郎左衛門殿御代官所備中国後月郡西郷原村又兵衛悻大三郎

義草津屋茂一郎引受人別入願差出御用番御聞濟ニ付右願書大目附

江相渡置御聞届之段申達候 同月十五日住宅証文差出候

一 綿実油稼水車聞合之返書大坂る夜前到来御用番江差出候処考付之

上ニ而差出候様被申聞候

一 屋根屋阿波屋家質出入一件御裁許伺御用番中へ差出候

一 田外玄洞家伝葉方差上奇特之段御達有之可然御用番江申上候処右

達早而ケ様之義ハ筋々江可差出筈之訳申達置候様可申付段拙者

御直ニ相伺候様被申聞其段小嶋此母を以相伺候処思召無御座其旨

御用番江申達候処勝手次第取計候様ニ被仰聞候

十一月十一日

一 斎藤孫右衛門無抛用事付四五日逗留ニ而勝山江罷越度月番之義ハ

源五兵衛相勤候段申出承り届候

一 備前岡山小畑丁鼠屋甚八老人例年之通元結卸売罷越候段堺屋伊右

衛門宿切手差出候

十一月十二日

一 久世手代福田源三郎御廻米御用ニ付今津屋孫十郎方江罷越致止宿

候段為知申来入御念候旨及返書候尤先例相伺候得共右之例無之仍

而松岡治部助へ及相談右之通及返書候

十一月十三日

十一月十四日

一 元魚町福永屋源吾郎借屋ニ居候しな義英田郡福本村親類多助方へ

罷帰度人別除願書差出御用番御聞濟ニ付大目附へ願書相渡置御聞

届申達候

一 皆木屋甚助義親類組合町内賄ニ致難義候付出牢親類預ケ禁足被仰

付候様書付を以御用番中江相伺置候

一 酒直段定并他所酒御免之義去ル十日弾正殿江伺書出置候

一 来ル十八日万人講興行御貸人馬并同心組加人拾八人并此度ハ棒突

増候ニ付はつひ并寄り棒六ツ御貸渡被下様ニ大目附江相達候尤小頭罷出受取

一講場見分申出小頭差出候

一植村正助へ赤子間引考尋出候処今日返書来小嶋此母以御前江差上置候

一万人講残札銀札渡因州江庄屋判本見届ニ遣候もの昨日罷帰候段大年寄源五兵衛申出候

一御蔵米七拾八匁五步町米七拾四匁五步

一安岡町北側ニ而鍛冶屋次郎左衛門家屋敷表口三間裏行九間但七步五厘役東隣ハ鍛冶屋長兵衛西ハ御制札場右家屋敷之内東之方表口壹間半裏行九間但三歩七厘五毛役差添右代百八拾匁ニ鍛冶屋長兵衛へ売渡申願差出承り届ル 同月廿七日売券状差出候

一安岡町北側村永屋吉右衛門裏通りニ而作人作平屋敷東西四間半南北七間但二歩五厘役東ハ茅町横丁西隣ハ村永屋恵助右屋敷之内南之方ニ而東西四間半南北三間半但壹歩式厘五毛之役を付代式拾五匁ニ村永屋吉右衛門へ売渡申願差出承り届ル 十二月十五日売券状出ル

一山本藤四郎長屋ニ居候金五郎と申もの林田町上田屋茂八引受人別人願差出承り届候

十一月十五日

一五半時揃ニ付五時過登城於宮嶋之間御目見仕早而御用所江罷出當日御祝儀申上候

一昨年被仰付候津川山ヒ、ノ実当年分一貫ニ者不足候ニ付来年迄貯置油一貫ニ満候而試ニ拵可申段斎藤孫右衛門申出候付其旨彈正殿

江申達置候

一來ル十八日万人講興行兼而伺之通取計例之通出役仕候段御用番江相達候

一因州氣多郡鹿野村林右衛門万人講残札受取村役人印形相濟候間御渡被下候様林右衛門宿中町津田屋善助願書差出相渡候様申付候

一大工共不出精風義惡敷候ニ付相改候ハ、他所大工差免間敷色々大年寄場合ニ而致教訓候得共何連ニも承引不致依之教訓之通示合出来不申段一札取大年寄差出申候右ニ付備前大工入込候取計考致差出候申付候

一万人講之節天明二年ニも申達候通旅籠高直ニ致候故他所もの当地ニ不致止宿惡敷風義ニ付随分正直ニ致旅籠代不貪候様ニ申達候様孫右衛門へ申達候

一孫右衛門夜前高田る罷帰孫左衛門義今日る出勤候旨併当月月番ハ孫右衛門相勤候旨届出候

一先達而宇多四郎兵衛を以被仰出候奉公人口入之義大年寄へ考申付置候処先當時ニ而者出来候もの心付無御座段孫右衛門申出候

十一月十六日

一明十七日恵照院様御証忌日付五半時御供揃ニ而泰安寺江御仏詣御道筋例之通被仰出候段野条金平ノ通用有之大年寄并小頭江申達候然ル所御供頭江口衛助被參明日御仏詣之節兼而御通不被遊候御道筋御通可被成并万人講ニ付旁以御出懸元魚町美濃職人町鍛冶町上紺屋町宮脇町御帰之節南新座町桶屋町新魚町小性町京町御通可被遊併兼而被仰出候而者右之手当ニ致用意平日之趣も知兼候間明朝

万一御通行之程も難計間為心得達置候位ニ而可然旨被仰出候段被申聞依之右之町々商売躰諸色不及取片着失敬無之様ニ可申達旨明早朝大年寄へ可申達事

一松尾円八右楮川下致奥印候様申越小桁未知ヶ原両所手形致奥書候一明朝牢舍人松田屋佐助黒茶屋伊之助髮結万吉差免并町医田外玄洞達有之候ニ付呼出右手当夫々江申達置候

一牢舍人儀八与吉致吟味候間差出候様郡代与申来立合差出夜五ツ時帰牢立合文蔵元蔵

十一月十七日

一今日之御仏詣少々御不例ニ被為在御延引被仰出候段中奥目附野条金平与申来大年寄并小頭申達候

一大年寄諸吟味小頭部屋目附立合ニ而左之通申渡出仕之上御用番并大目附へ相届候

咎牢舍差免候  
以後急度可相慎候

橋本町 松田屋佐助  
同町 黒茶屋伊之助  
河原町 髮結 万吉

右八当三月造酒助殿小者部屋ニおゐて博奕参会之者共也八月六日入牢申付昨日ニ而百日ニ満候付今日差免候

家伝薬方訴状中ニ差上奇特ニ候 町医 田外玄洞

早而右等之義ハ訴状中ニ可差上  
筋ニ無之封ノ支配頭江可差出義ニ候間以来心得違無之様ニ可致候

右玄洞も於白砂申渡候得共町医之義ニ付少し差別を付年寄同様ニ

むしろの上ニ縁なし琉球を敷夫江着座為致候尤年寄五人組同道也

一土井大炊頭殿領分当国久米南条郡上初村治郎右衛門弟要治郎義三船八郎右衛門養子ニ引受人別人願差出候御用番御聞届相濟右願書

大目附へ相渡置御聞届申達候同月廿六日住宅証文差出候

一御代官稻垣藤四郎殿支配所播州佐用郡広山村治郎左衛門倅庄右衛門と申もの橋本町柳屋多七引受人別人願書差出御用番御聞届相濟

願書大目附へ相渡置御聞届申達候 十二月十九日住宅証文差出候

一堀田相模守殿領分当国勝南郡長田村百性伝蔵倅重蔵同人母并弟金蔵右三人戸川町岩見屋孫兵衛引受人別人願差出右同断取計済

十二月朔日住宅証文出

一勝間田町山形屋喜兵衛借屋ニ居候庄八并妻倅猶吉乙吉右四人御家老組下山庄七長屋へ引越候ニ付人別離願差出承り届候

一小麦高直ニ相成引合不申候間温鈍式歩盛立ニ仕売度段温鈍屋共願

書差出承り届候尤下地拾八文盛ナリ右ハ御用所へ不申上古格也

一皆木屋甚助伺之通親類預ケ取計候様彈正殿被仰出候近日可取計事

一万人講講元与増人名面書差出候

一屋根屋阿波屋一件御裁許御用所御為知書御渡被成尚又相考候様ニ被仰聞候

一万人講ニ付同心組并加人役割書付小頭差出候尤今夕之更廻り定治文蔵差出候

一此間差出候酒直段定書付差出候席ニ付同様之事故先被仰聞候他所酒御免不苦哉之旨書添差出候処御催促無之義を申上候段御不審ニ

付他所酒御免之義切取酒直段考計認差出候

十一月十八日

一人講ニ付例之通町奉行郡代松岡治部助御省略方井口惠左衛門御徒目附荒井安左衛門下目附小頭并平組大年寄玉置源五兵衛大庄屋土井喜兵衛同心組小頭書役平組加入御使組拾八人役割昼三度夜三度廻り講場詰同心組九人右之内ノ式人銀札渡罷出候ひ、る場詰八人拙者御使組式人尤御貸人馬先月之通大寄ニ付時刻過夜ニ入候程難依而晩方小勘者へ焼灯持三人申遣候  
寄札高五万三千五百六拾六枚 但五匁札

此銀札式百六拾七貫八百三拾匁

内八拾貫三百四拾九匁 三步ニ引

残而百八拾七貫四百式拾老匁 六拾番ニ割

老番 八貫三拾四匁九步

拾番 五貫三百五拾六匁六步

式拾番 同

三拾番 三拾式貫百三拾九匁六步

四拾番 拾番之通

五拾番 同

六拾番 拾式貫三百式拾匁老步八厘

間々 式貫百四拾式匁六步四厘ツ、

右興行五拾番突仕廻引取懸ニ御用番彈正殿江無滞引取候段相届

大目附平井郷左衛門へ郡代連名ニ而右同様相届候右寄札高追而御用所江

差出候

右出役之面々不殘相濟候段届出候但殘錐四拾八枚有之段申出候

此度之万人講者兼而大寄候心得ニ付松岡治部助同相濟居ひ、る

場二軒之處二軒増四ヶ所ニ相成穢多非人拾五人ツ、講場へ出候処

拾人増式拾五人差出候惣躰懸リ之人数増并日雇代も増遣候筈

巾着切式人召捕夜ニ入追放候

寄高銀札平日ハ講元一新ニ而預リ候処今日ハ夥敷銀札故三人之宅

ニ分ケ預リ申度大混雜ニ付町内ノ立番式人申付呉候様願出承り届

候

物頭佐々木清見講場へ立寄今日ハ別ニ村上清太夫大番所詰被仰付

酒肴先年之通相送り候様ニ申付候

一講場普請出精取計候付三拾匁久山勘八六拾匁野屋茂一郎へ被下

候様取計度井口惠左衛門ノ相談有之存寄無之旨及返答候

一万人講棚之上文句帳并割合書付御小納戸細江武助ノ差出候様申来

即刻差出候

一御檢約被仰出候得共土風不乱候様御触来候

一備中小坂部水谷弥之助殿内中嶋幸左衛門近藤武左衛門ノ米平均相

場江戸表江相廻候為挨拶釜數紙二束来例歳之事ニ而不及御沙駄義(マツ)

之由ニ付相答之及返事候

十一月十九日

一殘錐此度ハ數本有之候ニ付早朝ノ小頭差出候様ニ諸吟味申出郡代

江も其段申通早朝ノ差出候

一万人講上リ札棚合九枚夜前銀札相渡候段今朝重助嘉七届出候

一備中玉嶋金治上リ札有之候処合鑑落不受取候処先日伺相濟村役人

印形相濟候ハ、相渡候様申付置候処村役人印形相濟候段昨日申出

相渡候様申達置候処右金治宿船頭町山北屋伊兵衛五相渡候様願書  
差出承り届候

御領分百性ひろい差出右長四郎講元江尋出無相違ニ付銀札相戻遣  
候段小頭五届出候

一 茂渡藤右衛門残り雖三枚合三貫百四拾四匁七步二厘之預証文当二

一 万人講上り札文句帳講元五例之通差出候

月十五日差出有之候処今般因州鹿野村林右衛門江式拾壹番壹貫四

十一月廿日

百六拾六匁三步六厘相渡候付右預り之内右之数致返上残而式枚分

一 今曉迄同心組更廻り申付候処無別条段申出候

壹貫七百七拾八匁三步六厘之証文差出古証文と引替古証文差戻候

一 酒直段定之義伺之通先是迄之通ニ致置候様ニ彈正殿被仰渡候

一 因州久米郡谷村平六と申四国扁路安岡町大黒屋利兵衛底下ニ臥居

一 他国他領五入込候請酒先年停止被仰出候処今般被差免候間其旨可

相尋候処夜前林田土手ニ而足を踏くしき歩行不相叶宿送りニ而も

申達段彈正殿被仰渡右之段酒改江申達受酒株之もの共江相触候様

致呉候様相願候処同国同村七左衛門并隣村三重村直右衛門と申も

ニ触書を以大年寄江申達候

の安岡町岡崎屋伊兵衛方へ万人講ニ而来居合見合候趣無相違同村

一 昨日申出候因州谷村平六追々朋友も来向方迄送り候相談相止メ岩

之者ニ而連掃度候得共路銀無之ニ付通人足申付呉候ハ、向方ニ而

屋迄駕籠者相頼罷掃候段申出候

駄賃相払可申段相頼候付右之約束ニ而人足申付遣候由明朝出立之

一 豊屋喜左衛門借屋ニ居候小性町久藏と申もの伯州日野郡根雨と申

段大年寄内々届出承り置

所ニ而病氣付尤同道人桶屋町才治と申ものも有之村送ニ相願向方

一 万人講入用御尋被成候付先月差出候諸入用帳赤見昔吉江相渡候

可差遣段大年寄申出其旨及差図候

一 万人講雖合并銀札相渡候処八枚残札有之候段小頭部屋目附平組三

一 公儀御仕置もの被仰渡ニ御老中御名面申述候哉之趣先日御留主居

人之者共届出候

江承り遣候様被仰付申遣候所今日返書来不依罪之輕重御用番何之

一 右同断先月残雖四枚有之其後廿三日ニ式枚相渡尚又残札式枚有之

守殿御差図ニ付申渡候旨申渡候事と申来候依之右返書御次江差出

候処受取ニ罷出相渡是ニ而先月之残札ハ無之相濟候段小頭五講元

候

之一札を取届出候

一 コロリ油之義雲州江聞合御留主居江申遣候所上野介様衆五格別之

一 先達而伺相濟申達置候備中玉嶋金次郎并因州氣多郡鹿野村林右衛

毒ハ無之差障ハ無之專用候由申来候

門合鑑致紛失得不受取候処村役人印形相濟右兩人江相渡候段講元

十一月廿一日

一 一札を取小頭届出候右之段御用番并大目附へ相届候

一新魚町波江と申盲人孤独扶持被下置候処病氣差重り候段大年寄届

一 昨日於講場因州鳥取江崎町長四郎木駒十ひゝる九枚財布ニ入落し

出見届部屋目附三船孫八差遣候所実病ニ相違無之段容鉢書并一札  
取差出候追而御用席ニ御両所江可相届候事夜ニ入相果候段大年寄  
届差候

一二階町源蔵と申もの富場ニ而致売物居候処旅人着物并脇差煙管道  
具預ケ置候所取ニ不来候ニ付講場江相届候段三船新治書付を以届  
出右預リ書取置後日万人講之節致披露候様大年寄江申付候

一他所受酒以前之通差免候段惣町江相触可申旨大年寄伺出触書ニ者  
不及致演説候様ニ申達候

十一月廿二日

一明廿三日皆木屋甚助出牢并安岡町火付出訴染呼出し可致吟味ニ付  
夫々取計申付候

十一月廿三日

一大年寄諸吟味小頭部屋目附立合ニ而左之通申渡其旨御用番并大目  
附へ相届候

其方義憐愍を以出牢親類組合 皆木屋 甚助  
預ケ禁足申付候急度相慎可罷在候

皆木屋甚助義今般憐愍を以出牢中 同人親類組合  
禁足其方共へ急度預申付候随分 八人江  
入念心付為相慎置可申候

一安岡町染并従弟源五郎呼出焼失付火致訴人候段逐吟味口書取置候  
一阿州板野郡鶴嶋浦藍屋喜右衛門手代利兵衛甚蔵兩人例年之通藍玉  
売ニ罷越候段吹屋町沢田屋惣右衛門宿切手差出候 翌四月廿五日帰ル  
一此間一学殿る軒別改左之通大年寄差出明日可差出事

一家数 千五百四拾七軒 但表通様数也

一家持竈数 千貳百貳拾軒

一借屋竈数 千百拾貳軒

一地子居竈数 四拾三軒

右竈数合 貳千三百七拾五軒

一惣町小間数郡代る尋有之左之通大年寄差出候

津山町中惣小間数合五千九百三拾間老尺七寸四分五厘

一十月惣町人別改

出生 拾六人 人別入 七人 人別除 四人 死失 拾九人

右差引ノ増減無之

十一月廿四日

一寒中御機嫌伺惣登城付五半時出仕於七間廊下御小性頭江大目附三  
奉行一所ニ御機嫌伺早而於同席若殿様江茂申上候并退出之節支配  
頭御年寄并寄親江寒中見舞相動候

一二階町与三郎義盜賊与吉ニ被相頼盜もの豊屋多助ニ九又同人ニ

拾七刃材木屋ニ拾三刃都合三拾九刃分質ニ置遣尤先達而口書取候  
処盜賊筋携無之ニ付右質物為相并若又得不得不并候ハ、身代限り為相  
并可申段口書を以御用番中江相伺置候

一寒暑御機嫌伺御用欠并病氣不参之面々ハ出勤之節追而御機嫌可奉  
伺尤暑寒明候上ニ而出勤仕候ハ、御流ニ相成候段被仰出相極候間  
以来其旨相心得可申尤郡代勘定奉行江も演達候様太田舎人被申間  
候

一新魚町孤独扶持被下波江相果候段見届書并容鉢書以御用番并大目

附へ相届候

一伯州倉吉岩倉町与右衛門と申もの千ヶ寺詣ニ而去ル十七日之夕元魚町伊丹屋借屋佐伯屋庄吉方ニ施宿為致候処翌朝病氣発し中風ニ而半身不叶本道針医施治仕候得共急々治候趣ニも無之宿送りニ致呉候様願出候付送り出度願書差出御聞届相濟其段申達尤行臥ものと止宿とハ違も可有之一学殿御心付有之龜末無之様ニ申達候

一先日他所酒受売御免ハ上ノ被仰出候筋ニ而者無之当役ノ伺出候付伺之通被差免候段被仰出候義ニ有之候間其旨相心得候様彈正殿於御宅被仰聞候

一紀州高野山万生院使僧万瑞例年之通旦那廻リニ二人罷越候段坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手差出 二月廿一日 掃届出

一上紺屋町今尾屋佐七持来候古道具取売株坪井町藤屋嘉右衛門讓受相勤申度旨願書差出承り届候

一戸川町竹本屋みよ借屋ニ居候音四郎と申もの去ル十三日罷出行衛不相知段届出先例之通百日尋申付候 寅五月廿二日尋終

一皆木屋甚助出牢伺書親類并組合預ケと相認候様相「」候処親類預ケと計相認組合之二字相落し恐入松岡治部助を以差扣相伺候処即刻不及其義被仰出候

十一月廿五日

一大坂梶木町玉子屋九兵衛用事有之十五日計之逗留ニ而罷越候付堺屋伊左衛門宿切手差出候 十二月八日出立相届候

十一月廿六日

一伊勢内宮藤波神主名代松井奎衛一人例年之通旦那廻リニ罷越候付

二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候 三月廿三日掃

一去ル十八日万人講殘錐廿九番播州揖東郡日飼弥八郎と申もの取ニ来小頭差出相渡候

一来月五日講場見分小頭差出候

一播州余子浜菊屋弥七郎悴源治郎一人例年之通小間物卸売ニ昨日来候段宿切手中ノ丁甲屋幸助差出

一大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七手代宗兵衛と申もの忝人例年之通焼灯張替昨日来候段中ノ丁甲屋幸助宿切手差出申候

一撰州有馬辻堂茂兵衛と申もの例年之通墨筆卸売昨日来候段中ノ丁甲屋幸助宿切手差出候

一昨日伺濟候伯州千ヶ寺与右衛門今日送り出候段届出候

一去ル十八日万人講算様不足三貫三百八拾式匁壹歩一厘有之候段豊屋左衛門届出承り置

一当月万人講相雇候もの共并何れ茂江御酒代被下候義豊屋喜左衛門書付差出存寄無之惠左衛門へ致対談候様申達候尤右ニ付講元江五拾匁増酒代三百疋諸吟味江五百疋被下候様取計可申段惠左衛門申聞存寄無之段及挨拶勘定奉行中江及対談候

十一月廿七日

一酒直段米高直ニ付壹歩上ケ願書差出尤酒直段上ケ下ケハ秋新穀造込之酒売出候節と寒造春売出候節と両度米直段高下有之候得者願出候義ニ而其余ニ米直段高下有之候而も願出候義不相成酒造込之節両度計相願候形ニ而御座候旨一学殿江申上候処御聞濟ニ付壹歩上之義御聞届之段斎藤孫右衛門江申達候

一 御藏米八拾匁 町米七拾六匁

十一月廿八日

一 戸川町作人藤治戸川町北側ニ而表口四間裏行拾七間但一軒役也東

隣ハ野本屋藤右衛門西隣ハ富士屋甚助右家屋敷三百匁ニ相極町内

角屋庄七江売渡度願書差出承り届ル 売券状十二月四日差出候

一番質銀百拾枚匁五步久山勘八差出候

一 船頭町片田屋藤七町作御年貢不埒ニ付手鎖懸ケ町内江差帰候旨御

代官青木義作近藤宗兵衛ノ案内有之

十一月廿九日

一 他国銀札当町ニ而致取扱候ものも間々相聞万人講別之義故大年寄

井町年寄江心得違無之様相達可置旨大年寄申出其旨取計候様申達

候

一 戸嶋村弥一郎娘ゆり安岡町河本林幸妻ニ引受人別人願書差出承り

届候

一 吹屋町山城屋善左衛門借屋ニ居候木屋伝七後家ふさ井娘りへ右式

人林田村政右衛門方へ引越人別除願差出承り届候

一 撰州大坂玉造上木綿町松坂屋定右衛門例年之通唐弓弦卸売罷越候

段東新町船木屋兵助宿切手差出候

一 京町田原屋伊兵衛売用ニ付備前岡山へ廿五日之逗留ニ而明朝日罷

越度届差出候 十二月十六日帰ル

一 諸吟味三人繁多出精相勤候処御擬作無之如何ニ付暮御褒美被下年

ニ付三人扶持つゝ被下置候様彈正殿江申立候

一 豊屋喜左衛門義諸吟味申付る八年數無御座候候得共御相印門松被

差免るハ六ヶ年ニ相成候間当暮苗字被差免候様彈正殿江申立候

一 船頭町片田屋藤七御年貢不埒ニ付手鎖申付候処致皆済候ニ付手鎖

差免候段御代官義作宗兵衛ノ届来候

十二月

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 渡部惣右衛門

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 久山勘八

十二月朔甲廿旦

一 上紺屋町伊佐美屋喜兵衛家内三人当八月致出奔百日尋申付置候処

百日余ニ罷成候処行衛不相知ニ付除帳願出御用所江申達御聞濟ニ

付願書大目附江相渡置御聞届之段齋藤孫右衛門へ申達候 十一月改入

一 因州岩井郡湯村庄右衛門後家井同人娘同妹右三人材木町万屋与三

郎家守清兵衛引請人別人願差出御用番江及御沙駄御聞濟ニ付大目

附へ相渡御聞届齋藤孫右衛門へ申達候 同六日住宅証文差出十一月改入

一 馬持廿五人例年之通老人分大豆式俵半ツ、拝借願差出勘定奉行へ

及対談御用番江相伺候処御聞届ニ付大目附へ願書相渡置御聞届候

段孫右衛門へ申達

一町作御年貢皆済之段御代官青木義作ら相届候

一左之通於御用所大目附詰合ニ而一学殿ら被仰渡候

去亥六月鼻刑之上御領分追払

無宿盗人

申付候処其後立帰所々盗致候

与吉

付死罪申付候

一左之伺之通取計候様御用番中被仰出候段大目附より手紙ニ而申来候

盜賊与吉盜もの質置致取次不

二階町作人

吟味之段叱右代物身代限り相

与三郎

弁可申候

一博奕沙駄有之趣ニ付敵敷友吟味ニ致候様年寄共呼出申達候様ニ齋藤孫右衛門へ相達候小頭江も右同断敵敷致吟味候様申付候

一借牢女病氣医師願出孫右衛門へ申付郡代江及通用

一御登米今日切ニ積仕廻候段姫路屋彦兵衛届出候

一番賃銀算様書豊岡藤十郎差出候

一古川屋宗助借屋明不渡不埒之段受人江引渡候様ニ大年寄ら申付候様申達候

一來ル五日万人講興行ニ付先格之通取計并致出役候段御用番江相届大目附中へ右同断御貸人馬并同心加人拾四人御渡候様ニ申達置候

一大守様少々御不例ニ被為入御目見江不被仰付於七間廊下ニ大目附ら三奉行迄一同ニ御小性頭調当日御祝義申上続而若殿様江も右同断申上早而御用所江罷出当日御祝義申上早而御用向申述候

一山田彈正殿来春御參勤御供被仰付候段演説有之依之類役一同御用所江罷出彈正殿江御祝申述候

一鳳巖院様御法事ニ付明二日五半時御機嫌伺登城有之候段植木左士ら演説有之様

一以来例月人別改ニ三歳以下ハ別ニ相改差出候様被仰出候然ル所例月右之通相改候ハ、繁勞ニも可有之間一ヶ年ニ壹度ニ仕様可申上哉郡代共遂相談追而可申上旨一学殿被申聞候

十二月二日

一鳳巖院様御十三回御忌ニ付御用所大目附三奉行登城於七間廊下御小性頭小嶋新五右衛門調有之大目附三奉行一同ニ罷出御機嫌伺申上候

一孤独御救扶持被下置候新魚町黒田屋藤吉病氣差重候段大年寄届出見届三船孫八差出候所病氣相違無之容跡書并一札取差出候追而不及御沙駄候同四日相届候

一來春御參勤御時節御伺被成候処四月中御參府被為蒙仰恐悦之御事ニ付来ル四日例刻麻上下着用出仕恐悦可申上旨大目附ら三奉行連名手紙来

十二月三日

一先月寄銀式拾五匁式步五厘齋藤孫右衛門差出候

一昨日届出候新魚町黒田屋藤吉致病死候段届出候

一牢浚昨日取計無別条段届出候

十二月四日

一來春御參勤御時節御伺之通被為蒙仰候恐悦申上ニ付御用所大目附

断申上早而御用所江罷出当日御祝義申上早而御用向申述候

一昨日来候新魚町黒田屋藤吉致病死候段届出候

一牢浚昨日取計無別条段届出候

一來春御參勤御時節御伺之通被為蒙仰候恐悦申上ニ付御用所大目附

三奉行麻上下着用例刻出仕於七間廊下御小性頭謁御兩殿様江大目  
附一同ニ恐悦申上候早而御用所江罷出恐悦申上統而御用向弁之

一二階町豊屋喜左衛門家守新吉借屋ニ居候作人源兵衛娘仙石越前守  
殿領分勝南郡周佐村七九郎妻ニ差遣度人別除願御用所御聞届相濟  
願書大目附へ相渡置御聞届之旨申達候 十一月改ニ入

一孤独御救扶持被下候新魚町黒田屋藤吉死去之段病氣見届一札并容  
躰書を以御両所江相届候

一安永五年大御年限被仰出候節大年寄年頭歳末献上之有無太田舎人  
被相尋致吟味候処安永五年大御年限被仰出候間ハ献上相止其後少々  
御引米被仰出候節ハ矢張献上有之候段申達候尤昨亥正月ノ献上も  
の小三折ニ相成候

一年頭町人御目見江名面左之通御奏者太田舎人江差出候

大年寄 藏合孫左衛門 斎藤孫右衛門 玉置源五兵衛

札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門

川口藤左衛門 玉置卯左衛門 山本三右衛門

山本甚藏 同見習 妹尾平兵衛

町医 中嶋宗元 御用達 三船八郎右衛門

諸吟味 久山勘八 豊岡藤十郎 豊屋喜左衛門

御藏元 姫路屋彦兵衛 龍野屋文五郎

一玉林ニ而醤油造込致商売醤油屋共差支ニ相成御差留被下候様願書  
差出郡代江及対談置候

一醬油屋共酉年小麦五拾七匁位仕候節上醤油一升ニ付九歩五厘戊年  
小麦直段三拾五匁位之節一升ニ付上醤油九歩去亥年小麦三拾匁位

仕候節一升ニ付八歩七厘今以八歩七厘ニ致商売候処当時小麦五拾  
七匁位致候ニ付上醤油一升ニ付九歩五厘ニ致商売度直段上ケ願書  
承り届候

一目扶持并非人扶持受取証文致奥印候

一郡代ノ吉原村百性五郎右衛門 五十三才 次郎兵衛七十九才 右二人御年  
貢筋之義ニ付入牢申付候処今日ハ御日柄ニ付牢番預ケニ致置明日  
入牢申付候趣ニ而差紙差越夜ニ入立合喜七差出候

一川下ケ送手形藏合差出例月之通致奥印候

一福渡町作人清助妻去ル二日出産之処月取届違有之候ニ付御定之通  
来ル九日叱可申付段大年寄申出承り届ル

一皿村ユレウト申処ニ而博奕参会有之哉之趣風聞有之候ニ付致鑑察  
候様目明へ申付候様小頭へ申達候

一備前岡山信濃守殿領分備中国浅口郡早瀬村助左衛門悴磯八夫婦二

人京町菊屋清左衛門家守若松屋時尚引受人別入願 同七日同濟大目附へ

相渡置御聞届申達候十一月改ニ入

一明日万人講ニ付同心組加入拾四人罷越小頭ノ役割申渡候尤例之通  
手合申付小頭ノ役割書付差出候

一此間被仰付候盜賊与吉来九日御仕置取計可申段相同候処御故障

ニ付後日相同候様一学殿被仰聞候

十二月五日

一万人講ニ付例之通町奉行郡代松岡治部助御省略方井口恵左衛門御  
徒目附藤田弥市大年寄斎藤孫右衛門大庄屋植月奎助同心組小頭并  
平八人加入式人下目附小頭并平組一人諸吟味三人例之通出役并書役

先頃之通万一大混雜ニ而棚江上り候ハ、同心組致手分東ハ重助數  
右衛門為治西ハ新治文藏南ハ定治嘉七北ハ元藏与三兵衛相制一人  
も講棚江者不上様ニ申付置候処不及其義相濟候同心組加人棚之上  
詰二人ひゝる場詰四人供二人昼夜廻り三度ツ、六人都合拾四人也

御貸馬例之通割場御厩々来ル

三拾番突仕合定治為治渡場へ差出候

寄札高 老万四千六百四拾六枚 但五札札

此銀札七拾三貫貳百三拾匁

内貳拾壹貫九百六拾九匁 三歩ニ引

残而五拾壹貫貳百六拾壹匁 六拾番ニ割

壹番 貳貫百九拾六匁九步

拾番 壹貫四百六拾四匁六步

貳拾番 右同断

三拾番 八貫七百八拾七匁六步

四拾番 拾番之通

五拾番 右同断

六拾番 三貫三百六拾八匁五步八厘

間々 五百八拾五匁八步四厘ツ、

五拾番突之節引取帰懸御用番一学殿江宅江罷越無滞引取候段郡代

同道ニ而相届候大目附江者手紙ニ而郡代連名ニ而相届候

右寄札高書付并棚之上文句帳御小納戸へ差出候并寄札高書付ハ追

而御用所江可差出事 同七日差出

出役之面々不殘無滞相濟引取候段相届候

殘銀貳拾五本有之候処講元書付を以小頭相届候

一来春御參勤御時節御伺之通四月中と被為蒙仰候段御触書到来写取

同心組牢屋三軒家高石垣番へ相触候様小頭江申付候

十二月六日

一万人講上り錐棚合之分三拾貳本相渡候段今朝申出候

一他所大工入込差免候義伺書を以一学殿御宅江差出候

一万人講殘錐相渡候処四番五番貳枚相殘候段小頭又六部屋目附新治

平組重助届出候

一右同断先月殘札之内拾番四拾番五拾貳番三枚相渡残り四枚有之候

段右同断届出候

一錢通用百四文ニ相成候段届出候

十二月七日

一万人講寄札高書付差出候

一人別改ニ三才以下別ニ相改候義一ヶ年ニ老度改ニ被成被下候様郡

代相談之上一学殿江申上候

一福永屋藤助酒樽置所かへ候付封印致直し呉候様願出明日日出役候様

小頭江申達候

一淑姫様御結納被為濟候御祝義頂戴配當場願出候段大年寄申聞候追

而可申上事

一先月万人講之節河原之茶屋ニ衣服脇差預置候もの備中惣社米屋武

七と申ものニ而取ニ出候段大年寄申出吟味之上相渡候様ニ申達候

一孤独扶持八拾四匁七步五厘一毛勘定所る相廻孫左衛門へ相渡候

一馬扶持大豆内貸証文致奥印候

一万人講勘定不足拾三匁六厘有之候由久山勘八相届候

一茅町作人藤助家屋敷北側ニ而表口四間小間中裏行拾貳間五步役也

東隣ハ作人松次郎西隣ハ和奇屋六三郎右屋敷之内表口四間小半裏

行拾間御役四分五厘付代百匁ニ相極同町打穴屋幸吉江壳渡申度右

屋敷地之内裏行北之端東西式間南北式間半之所御役五厘付代銀札

拾五匁ニ田邑屋喜三治江壳渡申度願書差出承り届ル同十八日壳券状出ル

一安岡町久米屋友七壳用ニ付撰州兵庫京屋利右衛門ヘ廿日計之逗留

ニ而明日出立願差出承り届ル同廿三日届

十二月八日

一京都愛宕山長床坊使僧柳意上下式人例年之通旦那廻り来候段小性

町肥地屋繁藏宿切手差出候三月十日罷帰候段届出候

一勢州朝熊岳明王院使僧休可坊義忠坊宝藏坊悦中坊上下八人例年之

通旦那廻リニ来候段小性町肥地屋繁藏宿切手差出候三月十日届届有之

十二月九日

一福渡町作人清助妻出産月取間違叱取計候段大年寄相届候

一錢川下通切手御金奉行ノ申来四拾箇之致裏印昨日遣候

十二月十日

一大久保加賀守殿領分当国久米北条郡神代村松右衛門悱和助伏見町

帯屋伝治引受人別人願御用番御聞濟ニ付大目附江相渡御聞届申達

候

一人別改以来三歳以下別ニ相改出候様去ル朔日被仰出候所其義相止

是迄之通ニ調出候様一学殿被仰出其段郡代江も致通達候

一阿州名西郡桑嶋村平治兵衛手代庄助老人例年之通藍玉壳ニ昨日来

候段京町今出屋半兵衛宿切手差出候丑六月朔日届

一阿州名西郡桑嶋村武右衛門手代次右衛門一人例年之通藍玉壳ニ昨

日罷越候段京町今出屋半兵衛宿切手差出候丑六月朔日届

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛一人例年之通藍玉壳ニ昨日罷越

候段京町今出屋半兵衛宿切手差出候丑六月朔日届

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門老人例年之通藍玉壳ニ昨日參候ニ付船

頭町今岡屋浅右衛門宿切手差出候六月三日届

一阿州板野郡高房村新兵衛一人例年之通藍玉壳ニ昨日来候段船頭町

今岡屋浅右衛門宿切手差出候六月三日届

一阿州名西郡高原村直兵衛手代平左衛門一人例年之通藍玉壳ニ昨日

罷越候由船頭町今岡屋浅右衛門宿切手差遣候六月三日届

一阿州板野郡川端村清兵衛一人例年之通藍玉壳ニ昨日罷越候由船頭

町今岡屋浅右衛門宿切手差出候六月三日届

一越中富山船橋町松井屋源兵衛手代伊八嘉七式人昨日罷帰候段京町

美濃屋平五郎届書差出候

一大目附渡部惣右衛門ノ他所銀札致両替候もの二人銀札場奉行ノ届

出候間御叱取調差出候様被申聞候

一福渡町中嶋屋龜吉家屋敷同町作人惣助買懸候段同町松嶋屋清助邪

魔いたし五人組頭森原屋宇兵衛清助ニ致同意印形不致候段公事ニ

相成願出候処松山屋清助義無法申募候ニ相違無之候間作人惣助ヘ

壳渡候様可申付之旨大年寄伺出其旨取計候様申達候

一掃部頭様御舍弟銀之助様土并能登守殿江御養子御取組被為濟候間

依之尔来共様と相唱候様大目附廻状来写取支配下ヘ相廻候様申付

候

一 大年寄歳末年始献上もの一昨年之通被仰出井町人御目見も一昨年之通被仰出候段御奏者太田舍人<sup>ら</sup>被申聞其段大年寄へ申達候

十二月十一日

一 山田彈正殿主膳と御改号之由ニ付先例之通町触取計可申段大年寄伺出未致承知義ニ付承リ札付候て可申達候旨大年寄へ申置大目附惣右衛門へ承合候処昨日被致改号候段申来仍之先格之通町触取計候様大年寄へ申付候

一 昨日大目附渡部惣右衛門<sup>ら</sup>被申聞候他所銀札両替之御咎先例相調候処両替之員数銀札取上ケ五日追込申付□可然旨致附紙差戻候

一 御藏米八拾壹匁五步町米七拾七匁五步

一 船頭町中背長太郎と菊太郎と致口論相合長太郎面類ニ少々爪中リ

血流出候処長太郎悴藤吉傍ニ有之長太郎申候者親之ケ様ニ成候を見捨ニ致候哉と藤吉へ申候得者藤吉荷之立棒を以後<sup>ら</sup>菊太郎頭を打傷双方引分候段大年寄届出即刻疵見届ニ部屋目附三船新治差出相手藤吉へ手錠懸ケニ出番元藏定治兩人差出疵改一札并容鉢書并菊太郎口書取差出藤吉ニ者手錠懸組合預長太郎菊太郎も組合預ケ申付置其旨翌十二日御用番一学殿へ相届追<sup>而</sup>疵平愈候上吟味仕御裁許可伺申申上置大目附へも相達候

十二月十二日

一 船頭町中背喧嘩一件一学殿江罷越相届大目附江者以手紙申達候

一 銀札場奉行<sup>ら</sup>錢六拾六荷川下手形裏印申来取計候

一 公儀御廻米相濟候段郡代<sup>ら</sup>為知申来候ニ付中端番人為引取候様ニ

大年寄へ申達候

十二月十三日

一 三丁目佐和屋孫四郎所持之造酒株去ル申歳<sup>ら</sup>当子年迄同町平野屋広藏借受居候処亦候当子ノ十二月<sup>ら</sup>酉歳迄拾ヶ年之間借受商売仕度願平野屋広藏差出承リ届ル

一 新魚町西側茂渡市之助家屋敷表口九間半裏行拾七間但尅軒役也南隣ハ海布屋源治北ハ魚屋市郎右衛門右家尅貫五百五拾匁相極同町門屋助七江売渡度願書差出承リ届ル 同廿一日売券状差出候

一 小性町南側浜田屋重治郎家屋敷表口四間裏行拾七間但尅軒式歩役也東隣ハ藤屋弥治郎西隣ハ田中屋甚治右家屋敷三百匁ニ町内作人常藏へ売渡度願書差出し承リ届ル 同十六日売券状差出候

十二月十四日

一 二階町名木屋喜助後家養子土屋能登守殿領分当国勝北郡妙原村善五郎従弟喜兵衛義離縁仕差戻度人別除願書差出御用番御聞濟ニ付願書大目附へ相渡置御聞届申達候

一 林田町鍵屋茂助娘さと義当国早川八郎左衛門殿<sup>大庭郡</sup>支配所上河内村左助方へ養女ニ差遣度人別除願御用番御聞濟願書大目附へ相渡置御聞届申達候

一 徳守宮神主小原主税長屋ニ居候善五郎并同人悴菊次郎右二人戸川町作人磯治役介ニ引受人別入願差出元雲州ものニ而十二ヶ年以前在所を出候由ニ而今更放手形難取勿論右年数不罷帰候間最早離帳ニ相違無之尤主税<sup>ら</sup>も放手紙差越候段申出寺社取次藤本十兵衛へ懸合濟人別入承リ届候段申達候

懸合濟人別入承リ届候段申達候

一 玉置源五兵衛義先達而綿実油稼之水車御用車之名目ニ仕度願書差出候処一兩年稼不相止候而御願筋も出来兼可申之趣右之通中絶仕候義も難致右中絶之間綿実問屋被仰付候得者口錢も有之ニ付相濟申候得共此段被仰付候ハ、右願書御下ケ被下追而向方々改等有之時節至候迄御延被下候様ニ願下ケ申出其段御用番江申上置願書差戻候尤江戸表江聞合申遣考付置候様ニ一学殿被申聞候

一 生綿屋治助团扇屋太郎兵衛右綿実稼之義兵庫江内通之趣ニ付致吟味懸置候処操屋中間歎書差出内通不仕段御受合申候旨申候ニ付組合預ケ差免候様大年寄へ申達候并くりや仲間江も歎書之趣致許容候段申達候様ニ申達候尤御用番江御噂申上相濟候

一去戌十一月十八日万人講六番残錐堀田相模守殿領分西々条郡山城村網治郎受取出候段大年寄申出其段御用番大目附へ及御噂御聞濟ニ付相渡候様申達候尤小頭江も申出次第相渡候様ニ申付候右残錐ハ合鑑を子共ぬふり文字落ニ相成候付先年不相渡致延引置候由也  
一 十一月万人講残錐三番三拾八番 四拾九番 相模 五拾三番十二月残錐四番右五枚合 九貫百五拾六匁四歩 川口藤左衛門玉置卯左衛門兩人江

預ケ取計可申段一学殿江相伺候処宜様取計候様御聞濟ニ付大目附へ茂及噂置右兩人江預申達候様ニ蔵合孫左衛門へ申達候  
一 当月残錐五番請取出候段大年寄申出候間相渡候様申達候

一 大年寄年頭献上物白木台一昨年之台小勘者方ニ取置在之候間不及用意旨小勘者ら申聞候段岡治部助ら演説有之其段大年寄へ申達候 同十七日新二指候様ニ違有之

一 西新町南側柵屋茂兵衛家屋敷表口三間半裏行十七間但大溝切御役

四歩役東隣ハ伊木屋源右衛門西隣ハ富野屋定七右家屋敷中之町平福屋勘兵衛取次ニ而五百五拾匁ニ当子ノ十二月ろ来丑ノ十月切ニ式割之利足ニ而質入ニ仕度願書差出承り届ル 十二月廿一日質入証文差出し  
戊午年七月受返濟

一 福渡町中嶋屋龜吉家屋敷作人宗助へ壳懸候処町内松山屋清助邪魔致候付宗助へ壳渡候様可申付去ル十日申出候処作人宗助ハ大脇新左衛門名代之由ニ而尚又大脇新左衛門名面相願願書差出候付伺置候通ニも難申付旨ニ付右願書并吟味書大年寄差出受取置候  
十二月十五日

一 五時過出仕例之通宮嶋之間御縁座敷中程ニ而御家老御取合ニ而植木左士拙者兩人罷出御目見へ申上早而御用所江罷出当日御祝義申述候

一 大目附黒田織江ら出羽守様御通行駅場入用為見候様ニ昨日申聞候付問屋目附豊屋喜左衛門へ申付小手形為差出織江へ相渡候但高四百式匁八歩六厘也

一 諸吟味苗子被差免候例書差出候様大目附渡部惣右衛門申聞候付直屋市郎左衛門久米屋勘八坪屋蔵十郎并豊屋喜左衛門出身之年数認差出候

一 上田邑南村引乘寺釣鐘安岡町大坂屋宇八方ニ質ニ入受返不申不埒ニ付願書差出寺社取次藤本十兵衛へ懸合候処元来未進ニ付百性共借受質ニ置候事ニ而郡代懸之義ニ付郡代江相渡置候段申聞候付松岡治部助へ懸合置候

一 盜賊与吉御仕置十八九日と昨日伺置候処来ル廿三日ニ取計候様一

学殿を被仰渡候依之大目附へ其旨申達立合差出候様致通用置候

一万人講残雖戊ノ十一月六番当子ノ十一月四拾九番同十二月五番右

三枚相渡候段講元書付を以小頭届出候当年之残雖四枚ニ相成候

一人馬問屋七月ノ十二月迄之小日記大年寄差出致一読差戻候

十二月十六日

一伊勢山田御炊太夫名代西佐助上下式人例年之通旦那廻リニ来候ニ

付堺屋伊右衛門宿切手差出候 翌年三月廿二日帰ル

一備前岡山小畑町鼠屋甚八老人例年之通元結卸売来候ニ付堺屋伊右

衛門宿切手差出候 正月八日帰届有之

一明十七日五時御供揃ニ而三ヶ寺へ御仏詣被仰出候段■中奥目附山

田孫四郎通達有之大年寄并小頭江例之通取計候様ニ申付候

一管子講尺十四日切ニ而年内納ニ相成候段植木左士ノ通用有之

一去ル五日備札兩替致候岡屋安兵衛役介和兵衛と申もの相糺候処元

来久米南条郡南庄村之ものニ而三四年以前当所江来り佐藤彦右衛

門組鉄炮町福田伝藏家守ニ差置夫婦ものニ而右受人安岡町岡屋安

兵衛并同町平吉と申もの受人ニ相立居候処右兩替一件ニ付去ル七

日比伝藏ノ暇差遣受人江相渡受人も手を放し候処当時宗永寺長屋

ニ借宅致居候由ニ付右之段渡部惣右衛門へ相達置候

十二月十七日

一下紺屋町木挽忠四郎後家今朝手あやまりいたし火燧ノ火出蒲団焼

近辺隣町打寄もミ消候段大年寄届出隣町打寄候とハ乍申蒲団計焼

候事ニ而格別外江けむり出候と申程之義ニ而無之ニ付其候ニ而承

り置候

一土居大炊頭殿領分当国久米南条郡下弓削村吉之助姉はつ義新職人

町備前屋和兵衛妻ニ引受人別人願書御用番御聞濟ニ而大目附へ渡

置御聞届申達候 同廿七日住宅証文差出候

一戸川町吉田屋伝藏悴六之丞義兼々不所存ものニ而親類縁者并組合

迄加異見候処不相用出奔致候付親類縁者義絶勘当願書御用番御聞

濟ニ而大目附へ相渡置御聞届申達候 同廿一日勘当証文差出候

一当十一月万人講四拾九番残雖相渡候段御用番江及御噂候

一□年十一月万人講残雖六番相渡候付茂渡藤右衛門預り手形□か

へ差出引替相渡候但壹貫四百七拾七匁八厘之証文也

一贗札師喜七最早四年ニも相成候付追放被仰付可然旨一学殿へ相伺

候処何之通取計候様一学殿を被仰渡候右ニ付来ル十九日可取計事

一左之通於御用所大目附詰合ニ而一学殿を被仰渡之

元太田村重吉義致小盗候ニ付 町奉行江

是迄度々追払申付候処尚又立帰リ所々江

忍入候ニ付百敲之上郡代江相渡可申候

右ニ付来ル十九日早朝取計候間立合被差出候様大目附へ相達郡代

江も談置候

一錢通用百式文ニ相成候段大年寄相届候

一勝間田町吉田屋与三兵衛孫女いち林田村清吉妻ニ遣度人別除願差

出承り届ル

一中之町西屋治三郎借屋ニ居候松井屋和七并妻さじ同娘さよ同悴伊

三郎右家内三人林田上之町藤介借屋江引越度ニ付人別除願差出承

り届ル

一新魚町作人京平妻昨日死胎女子出生玉置源五兵衛久山勘八相改無相違ニ付一札并容跡書差出候

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通小間物并晒蠟売ニ罷越宿切手中之町小山屋与三右衛門差出 正月廿八日届

一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物并鯉節売罷越候付宿切手中之町小山屋与三右衛門差出 正月廿八日届

一播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物并塩物卸売ニ来候付宿切手中之町小山屋与三右衛門差出候 正月廿八日届

一惣町入用割帳大年寄差出致一読差戻候但七月と暮迄之惣入用貳貫百匁也

一ヒゞ之代七刃石田新治と相渡齋藤孫右衛門へ相渡受取書差出候様孫左衛門へ申達候追而受取書新治へ可相渡事 同廿一日受取書差出候ニ付相渡候

一大年寄献上之白木台一昨年之を用候様松岡治部助と演説有之候処又々太田舎人と不敬ニも当り候間新ニ拵候様噂有之候由松岡治部助と通用有之大年寄へ申達候

一西今町北側ニ而玉屋治右衛門家屋敷表口三間裏行拾五間三步役東隣ハ玉屋吉右衛門西隣者直屋市郎左衛門借屋右家屋敷老貫目ニ同町肴屋文兵衛へ売渡願書差出承り届ル 同廿一日売券状差出候

十二月十八日

一御蔵米八拾五匁町米八拾老匁

一借牢女病氣平愈休葉之旨申出候

一御代官所御廻米積切候段今津屋孫十郎届出候

一明朝重吉敲払并贖札喜七追放取計候ニ付夫々出役申達置候尤大目

附郡代江者明日懸合置候且又重吉申渡書ハ郡代所と草案相廻り其通相認させ候

一八木高値ニ相成候付四五町も米川留願出候段昨日大年寄伺出候付惣町扶持米乏數節者格別左も無之事なら者先其俵ニ致置右扶持之有無得与相考其節申出候様ニ及即答候

十二月十九日

一左之通於牢屋取計右立合御從目附河村市兵衛下目附本沢新助同心組小頭川端又六部屋目付三船孫八出番江原文蔵小野田為治書役大脇新左衛門尤書役読渡ス

申渡大意去ル十六日之所ニ記ス

元太田村当時無宿

百敲之上郡代所江相渡候

重吉

一左之通呼出於私宅申渡立合又六部屋目附孫八書役新左衛門読渡候出番文蔵為治

致贖札不届ニ付難差免

元粟井村

ものニ候得共格別之憐愍を以

似セ札師

追放申付候

喜七

右兩人取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

一去ル十一日大目附と先例調被申聞候当月五日万人講之節広瀬橋詰

ニ而備前札致両替候江見平治屋守和兵衛并佐藤彦右衛門組鉄炮町住福田伝蔵屋守儀兵衛義銀札場奉行と安岡町岡屋役介和兵衛細工

町屋根屋嘉兵衛役介儀兵衛兩人ニ而備前札式拾七匁致両替候趣申出候段大目附と被申聞候得共兩人共役介無之ニ付致吟味候様大目付と被申聞候得共此間中致吟味候処兩人共役介ニて無之受人ニ而

右一件出来ニ付暇差出候由ニ而当人住所不相知遂吟味候処和兵衛

受人ハ安岡町岡屋安兵衛同町平吉式人之処江見平治暇差出當時宗

永寺長屋ニ致借宅右受人ハ上紺屋町吉野屋新助ニ而候由儀兵衛受

人茂細工町嘉兵衛并中沢村伝吉兩人ニ而候由右呼出尚又遂吟味口

書取差出候様ニ大目附申来依之明五時分右兩人受人不殘召連候

様ニ大年寄へ申達并伝吉義郡代江懸合且又宗永寺懸り付社取次

藤本十兵衛江も及案内

一川口藤左衛門玉置卯左衛門ノ十一月分万人講殘錐式拾三番三拾八

番五拾三番十二月殘錐四番都合四本金高合七貫拾三匁七分六厘預

り証文大年寄差出候

一御蔵米八拾七匁町米八拾三匁

一老万俵余散切手有之候処町方切手殊之外不自由ニ付メ売候もの可

有之遂吟味候様大年寄へ申付候

一町方食米無之候ニ付川留候様ニ中買共申出候段孫左衛門藤十郎申

出候

十二月廿日

一備前札取扱候和兵衛儀兵衛呼出遂吟味候付仕御断松岡治部助を

以申上候右兩人遂吟味候処兩替ニ而者無御座懇意之者ニ付鳥屋理

兵衛ノ銀札廿七日借り受弓削村茂吉と申ものへ取かへ遣翌日備札

へ受返し差戻候段口書取後日惣右衛門へ差出候

一奈良今井町岡嶋忠兵衛悴庄右衛門一人例年之通墨売ニ昨日罷越候

段京町美濃屋平五郎宿切手差出候

一右和兵衛儀兵衛申口ニ付鳥屋理兵衛呼出相糺候処兩人申口ニ少も

相違無之ニ付即刻被引取候

一船頭町中背長太郎悴藤吉喧嘩一件手錠申付置候処つまつき臥れ封

印損候段大年寄届出神田定治差遣封印改替させ候

一伏見町北側ニ而田邑屋喜七家屋敷表口式間半裏行拾三間御堀石垣

切但半役也東隣ハ道具屋武助西隣ハ松本屋平助右家代銀式百匁ニ

町内道具屋武助へ売渡願書差出承り届ル 同廿七日売券状差出

一三丁目北側真砂屋治助家屋敷表口三間半裏行六間但式歩五厘役也

南隣ハ浜野屋源五郎北隣ハ鍛冶町堺右家町内浅川屋与七取次ニ而

銀札式百匁ニ質物ニ書入月壹歩半之利分ニ而当子ノ十二月ノ来丑

之十一月迄ニ返済之願書差出承り届候 寅五月廿二日受返し済ム

一御領分西々条郡二ノ宮村多七郎姉よね桶屋町宝珠屋運治妻ニ引受

度願書差出承り届ル

一桶屋町大坂屋治郎左衛門所持之他国請酒株去ル戌ノ歲橋本町松田

屋佐助へ貸置候処今般桶屋町大坂屋治郎左衛門方江引戻候願書差

出承り届ル

一桶屋町大坂屋治郎左衛門所持之他国請酒株双方勝手ニ付此度橋本

町松田屋佐助へ相讓度願書差出承り届ル

一安岡町小倉屋七右衛門所持之自国請酒株天明七年より東新町出雲

屋幸吉借受居候処限月ニ成候間尚又当年ノ来ル卯十二月迄借受商

売仕度追願書差出承り届ル

一盜賊与吉御仕置廿三日取計候様被仰付候処来春迄差延候様被仰出

候段大目附中ノ手紙ニ而申来候

十二月廿一日

一 及月迫ニ付為用心町方夜廻リ一町切ニ敵數金棒を手江相渡候様ニ可申付旨大年寄申出候付其旨一学殿江相伺候処伺之通取計候様御差図ニ付其段大年寄へ申付候尤右之段郡代江者別ニ御通用無之ニ付申合宜取計候様ニ一学殿被仰聞及通用候尤大晦迄と申付候一盜賊与吉御仕置延引被仰付候付右質物致取次候二階町与三郎組合預ケ申付置故来春迄ハ難差延候ニ付彼義ハ御裁許取計可申哉之旨一学殿江相伺候処勝手次第取計候様御差図ニ付左之通明日可申付之旨大年寄へ申付候尤追込無之候得者小頭部屋目附者不差出大年寄諸吟味計ニ而取計候先格也

其方義盜賊与吉る度々質物 二階町 与三郎

被相頼致取次盜賊筋携雖無之 与吉風躰ニ而も可為盜物義ハ考も可付候処 無其義不相糺度々質物致取次不吟味之至 不届ニ候依之質物料償ヒ身代限り申付候

一 播州鷹峰山奥住藏人昨日罷帰候段京町花屋届出候  
一 桶屋町福本屋長十郎後家家屋敷去ル未歲質物ニ書入西今町菱屋市之丞る銀札四拾匁借り受候処返濟相濟候段届書差出候  
一 桶屋町分小川町南側ニ而福本屋長十郎後家家屋敷表口五間半右之内西之方表口三間半裏行九間四尺東ニ而表口式間裏行五間但半役也東隣ハ綿瀬屋新助西隣ハ池淵屋才治右家屋敷代銀札七拾匁ニ新職人町谷屋佐七江壳渡度願書差出し承り届ル 同廿四日壳券状差出候  
一 西川大久保殿代官平沢助八松尾佐久太る例歲之通通谷紙千枚寒中為見舞差越及返書候

一番實銀百六拾四匁七分五厘豐岡藤十郎差出候尤右之内来正月半月分五拾匁七分五厘有之

一 備前札取扱候和兵衛儀兵衛御裁許書差出候様ニ大目附被申聞候一先日差出候諸吟味共御賞候義ニ付問屋目附る諸吟味ニ相成候得者

昇進ニ可有之旨大目附被相尋候処御相印門松被差免候後諸吟味ニ致転役候而者品々替り候而者無御座昇進と申程之義ハ無之旨此間致付札差出し置候処相考候得者問屋目附ニ而御相印門松被差免候而も御目見ハ無之諸吟味ニ相成候得者御目見江被仰付候付此所余程之御差別ニ有之候処其義不心付此間卒尔之付札仕差出恐入差拍松岡治部助を以相伺候

十二月廿二日

一 昨日差扣伺置候処新役之義故不及其義以来入念候様ニ被仰出候段大目附中る松岡江申来松岡る通用有之

一 二階町与三郎御裁許昨日之処ニ記置候通取計候段大年寄相届出其段御用番并大目附へ相届候

一 備前札致取扱候和兵衛儀平御裁許書相認大目附へ差出候処右兩人移宅由来書差出候様被申聞候付差出候

十二月廿三日

一 二階町与三郎身代限り壳払候処拾二品ニ而壹匁四分有之右代質屋茂渡市之助豊屋多助へ割渡右兩人る受取書取差出候尤右質代合三拾九匁也依之右質品々兩人る差出郡代所江相廻候  
一 万人講諸人用小日記久山勘八差出候尤十一月分八貫五百拾七匁四分五厘十二月分壹貫九百拾貳貳式歩式厘

一 林田町山本屋与三七借屋ニ居候山勢屋治助并同人母二人伊藤采女組津田平左衛門方江引越度人別放願差出承り届ル

一 備前岡山小畑町鼠屋甚八一人例年之通元結卸売ニ罷越候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候

一 大坂松屋平兵衛小間物卸売罷越候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候 正月八日掃届有之

一 伊勢山田村田三太夫名代高田兵吉上下式人罷越候段堺屋伊右衛門宿切手差出候 翌年正月廿二日掃

一 二階町并筒屋弥三郎所持之他国受酒株町内河本屋忠吉江去ル亥歳右貸置候処今般弥三郎方江取戻候段願書差出し承り届ル

一 京町作人太郎右衛門家屋敷去ル酉年東新町並屋忠兵衛取次ニ而六百匁ニ質入ニ願置候処今般元利相濟取戻候段届書差出承り届候

一 京町南側ニ而作人太郎右衛門家屋敷表口五間裏行十七間但老軒役西隣ハ妹尾屋松右衛門東隣ハ伏見町境ニ而候右家屋敷八百匁ニ堺

町豊屋太助へ売渡度願書差出承り届ル 同大三十日買券状差出  
廿日之所ニ有之ニ重認也

一 三丁目北側横町真砂屋治助家屋敷表口三間半裏行六間但式歩五厘役南隣ハ浜野屋源五郎持家北者鍛冶町堺右家屋敷質ニ仕町内浅川

屋与七江当子ノ十二月来丑ノ十一月切ニ月壹歩半之利足ニ相極銀札二百匁借り受度願書差出承り届ル

一 万人講三度之三歩銀合九拾六貫四百九拾六匁七分八厘之旨大年寄奥印ニ而差出候

一 坪井町藤屋嘉右衛門無株ニ而受酒商ひいたし酒改る制候而も承知不致候ニ付呼出可申聞之旨大年寄伺出其趣取計候様申達候

一 太守様御厄年御祈禱料申来七分七厘差出申候  
十二月廿四日

一 柔姫様御色直恐悦申上有之ニ付御用所大目附三奉行例刻麻上下着出仕於七間廊下御小性頭小嶋新五右衛門謁大目附三奉行一同ニ恐悦申上引統若殿様江も恐悦申上早而御用所江罷出恐悦申上統而御用向弁之

一 堺町小林主水養子仙石越前守殿領分当国勝南郡中原村金藤主殿倅新五郎義離縁仕度人別離願書御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

一 土屋能登守殿領分当国勝北郡平村源右衛門娘みよ義上紺屋町今津屋孫十郎借屋ニ居候唐松屋久治妻ニ引受人別人願書御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

一 二階町阿賀屋文助土藏修覆ニ付御堀江足代下し度願書差出大目附へ差出置承知ニ付其節御作事へ懸合取計候様申達候尤杖突出候例也

一 福渡町中嶋屋亀吉売家作人宗助松山屋清助買論伺出依之清助宇兵衛兩人御叱追込相伺置候

一 牢屋并諸々受取もの致裏印小頭右差出候并当三月盜賊白鵝森召捕ニ岡山へ差遣候入用銀式拾匁未受取今日認出候段勘定奉行へ及斷候

一 以前札元大和田屋御証文差上候段蔵合孫左衛門へ申越候由ニ而差出遂一読差戻候

一 備前札致取扱候和兵衛儀兵衛義尚又治部助へ及相談相考候様大目

附中被申聞尤一学殿も御存寄被申聞尚又大目附へ及相談候様被申聞候付銀札場奉行関十治江兩替ニ而咎候哉又ハ他所札通用ニ而咎候哉承度旨手紙ニ而申遣候所内兩替之様子ニ申越未定ト相分兼候付又々手紙差遣候所拙宅江罷越内兩替ニ而相咎候ニ相違無之段被申聞候

一御領分東南条郡林田村平吉并姉とり同姪とみ右三人京町若松屋幸吉借屋ニ居候辰野屋伊助引受人別人願差出承り届ル

一新職人町南側かみ屋茂右衛門家屋敷表口三間裏行拾四間半但本役也西隣ハ作人市助東隣ハ山本屋忠右衛門右家屋敷代銀弍百匁ニ相極町内白銀屋岩治江売渡度願書差出承り届ル 正月七日買券状出ル

一野村権九郎殿支配所吉野郡小谷村和平姪下男と密通ニ而橋本町旅籠屋松田屋左助方ニ去ル十九日夕致一宿翌廿日罷帰懸を同町豊後屋和助同町藤左衛門戸川町福井屋清助右三人奪取廿日之夕ハ得能江兵衛長屋ニ預ケ置翌廿一日豊後屋和助連出し戸川町婆老人暮之者方ニ預ケ置三人慰候処昨廿三日目明尋出迎之人和平并亀右衛門へ元魚町宿屋笹屋方ニ而引渡一札取之相濟候処其節も豊後屋和助罷越先之宿松田屋左助を相手取及口論廻り定治文蔵并小頭罷越取込置組合預ケニ申付置候由尤右女ハ無滞罷帰候段右三人届出直ニ出番定治文蔵差向右三人手錠懸ケ町内預ケ申付置一学殿江粗相届置大年寄江も預之段尚又申付候様ニ申達候尤翌廿五日大目附へ相届置候

十二月廿五日

一米川留取計之義此節至而扨底之趣ニ御座候而勘定奉行杯及内談居

候所如何様之思召ニ御座候哉御内々上之思召伺置取計度旨一学殿江罷越相伺候処御評義之義ハ上ニ有之義仮令下如何申出候とも夫ニも不拘当役筋考之趣計相認差出候様被申聞依之何連御貯も無御座始終御差留被成候思召ニ候得者此節ハ差留候方可宜と奉存候段書付以手紙差出候処右扨底之訳并御貯米之員数申上候様申来認差出候

十二月廿六日

一橋本町豊後屋和助同町藤左衛門戸川町福井屋清助橋本町宿屋松田屋左助呼出遂吟味和助義腰繩申付松田屋左助他參留申付候

一播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通塩物荒物卸売来候段中之町高尾屋勘七宿切手差出候

一播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋物卸売来候段中之町高尾屋勘七宿切手差出候

一牢凌孫八嘉七差出候処無別条段届出候

一坪井役人瀧口与治右衛門ハ例年之通歳末之為祝義鯉節ニ拾節差越及返書候

一拙者義御用之義有之候間明廿七日四時出仕候様ニ一学殿ハ切紙致到来候

一備前札引替之和兵衛儀兵衛義昨日於御城渡部惣右衛門ハ対談有之申渡之文書他札通用同様之致取扱候御咎ニ而追込三日被仰付可然と相認候様案紙被差出其通相認差出候

十二月廿七日

一船頭町中背長太郎悴藤吉義ころひ手錠損候段夜前届出出番元蔵差

向余り度々之義不審ニ付ころひ之様子為相糺手錠打替腰繩ニ申付候

一茅町森永や伊八方へ廿五日夕盜賊這入詛之染物五品被盜取候段届

出御用番大目附へ及噂触流し取計候

一大三十日之夕例歳之通町中閨貫開立番付置候段御用番并大目附へ

申達置候

一大年寄共例歳之通明廿八日歳末献上もの有之候ニ付献上物御門通

行之義中奥目附へ相届右献上もの台等世話立合目附へ申付置候尤

明日五半時揃之処大年寄献上ものハ御礼後之事故四時出仕申付候

一備前大工入込差免之義伺置候処一学殿御存寄被申上猶又来春も

可被申上ニ付御直御尋も有之候ハ其心得可仕旨一学殿被申聞候

一福渡町宗助清助家売前後争論之義去ル廿四日伺置候処伺之通取計

候様一学殿被仰渡大年寄宅ニおゐて左之通取計申付立合小頭部

屋目附差出候

中嶋屋亀吉家屋敷作人

福渡町森原屋

宇兵衛

宗助松山屋清助買論前後之争

其方等困之受合致候処事起リ

甚不埒ニ付追込申付候 但追込三日

右同断ニ付其方兼而悪心相巧

同町 松山屋

買落可申と申妨甚不届ニ付右家屋敷

清助

其方相調之義差留追込申付候 但追込五日

一拙者義於江戸表御使者相勤候為御褒美金式百疋被下候段一学殿

被仰渡候

一於御用所大目附詰合御用番一学殿左之通被仰渡候

左之通可申渡之候

同奉行江

札元本役申付之

札元見習

御擬作三人扶持被下之候

妹尾平兵衛

勤向繁多之趣ニ付御擬作

諸吟味

三人扶持被下之候

久山勘八

豊屋藤十郎

豊屋喜左衛門

右之通被仰渡札元妹尾平兵衛江者直奉書差遣

諸吟味三人ハ大年寄江奉書遣同道罷出候様ニ申遣猶又大年寄

書以申達候由

右ハ於座敷敷居を隔小頭大年寄兩人立合ニ申達候尤御目見以上

江者部屋目附ハ不立合事也

一造酒屋江御貸渡之切手千俵大年寄取立差出即刻勘定奉行植木左士

江致持參相渡候

一原田屋初治入牢今日ニ而百日ニ成候付明朝可差免夫々手当申付置

候

一万人講三步銀九拾六貫四百九拾六匁七分八厘拙者奥印ニ而講元

相納候処勘定奉行裏印ニ而受取書来り取置候

十二月廿八日

一例月廿八日ハ当日御祝義申上無之候得共当月ハ納之廿八日ニ付当

日申上有之尤今日ハ歳末御祝義申上ニ付五ツ半時麻上下着用出仕

朔望之通宮嶋之間御縁座敷中程ニ而御目見江申上御家老中当日御祝義申上候段取合有之早而御用所江罷出御祝義申上早而御用向弁之引統七間廊下ニおるて御小性頭謁大目附三奉行一同歳暮之御祝義申上統而若殿様江も歳暮之御祝儀申上之

一 大年寄三人四時登城出仕之段御奏者番中へ相届置御礼後裏中之口北北内十畳目ニ大年寄着座九畳目ニ献上之雉子一懸ケつ、塗台ニ居置町奉行七畳目ニ西向ニ着座但猿猴之間江付着座ミチャウタイノ間之外也御奏者番小須賀貢四畳目南向ニ着座其節町奉行少し北へ向キ大年寄共歳暮之御祝義一種差上之候段御取合申御奏者と可遂披露之旨直挨拶有之退出尤大年寄共立合目附役所ニ溜居候事小■使中間を以献上もの取寄相揃置御奏者番江被致案内事

一 左之通今朝呼出申渡候但大年寄諸吟味小頭部屋目附立合例之通  
博奕参会咎牢舍差免候  
京町原田屋  
初治  
以後急度可相慎候

一 札元妹尾平兵衛諸吟味三人申渡并福渡町森原や宇兵衛同町松山屋清助御叱夜前取計并今朝原田屋初治出牢申渡候段御用所并大目附へ相届候

一 真壁村興隆寺被盜もの致触流候様平井郷左衛門被相渡候  
一 川留之義勘定奉行江遂内談候処八千俵も御手当ニ可成ものも有之由ニ相聞候間左候得者川留ニ者及問數旨書付差出候処以外一学殿御氣ニ不入是迄度々被仰聞候御趣意得不吞込旨被仰聞元米町人八百性と違可救節之ものニアラス夫々御救米杯有之杯と申義露見候而者以之外之義及飢渴路頭ニ立候節ハ粥ニ而も焼可被下込も御

救米ハ被下間敷節併其節ハ勘定奉行術之有之候事ニ而救とハ不被申術と申もの、由尚又勘定奉行へ遂熟談候様被仰聞依之尚又勘定奉行へ遂熟談右書上之内俵数を消くり去り其節ハ勘定奉行相応之取計も可有之と認直差出候処御受取被成以後も勘定奉行と遂熟談宜取計候様被申聞候右書両共別帳ニ認置候

一 備前札致取扱候和兵衛儀兵衛御裁許銀札場吟味之通ニ而御咎申渡候様一学殿并平井郷左衛門被申聞依之存寄書差出候尤別帳ニ認置候  
一 造屋屋拜借之切手上納ニ付右証文勘定奉行より被差戻致消印大年寄へ差戻候  
十二月廿九日

一 大年寄共万人講殘錐之内八ヶ年以前巳ノ十月十五日分四拾四番一本三百八匁四分六厘備中国玉嶋金治ニ相渡候ニ付証文認替七貫五百四拾七匁七分八厘之証文差出引替古証文差戻候

一 船頭町中背長太郎并悴藤吉相手菊太郎喧嘩内濟相調願下之歎書差出御用番江申達候処御聞届相濟依之聞届候段大年寄江申達出番卷人神田定治大年寄宅江差向手錠差免候

一 豊屋喜左衛門手嶋流講入用差引書為見候  
一 橋本町豊後屋和助手錠少き段申出打替夜廻ニ申付候同町藤左衛門も封印損候段申出改替申付候  
一 郡代右博奕参会勝部村田邑村下原村之もの共拾四人入牢申来取計候立合為治

一 福渡町森原屋宇兵衛追込今ニ而三日ニ相成候間明朝差免候様大年

寄へ申達候

十二月晦日

一 福渡町森原屋宇兵衛追込今朝差免候段御用番并大目附へ相届候

一 大年寄申出候者船頭町船持五六人御蔵元宅へ罷出此節米川下ヶ多

世上人氣立不宜候間此節老船ニ六拾俵積候故老船ニ三拾俵積と相

極一度積出候者其船ニ者七日之間ハ不積候様ニ致候得者途中帰リ

ハ不致様ニ仕候得者川端之様子も不夥けに今ハ米数も少く見懸夥

敷無之候得者人氣も不立可宜船持共申合仕候而可然義ニも御座候

得共船持共之勝手ニ者不宜義故申合ハ不残行届兼候間右之旨被仰

付候様ニ仕度旨申出候段御蔵元申出至極尤之義奇特之旨大年寄申

出其旨一学殿へ粗申上候処御存寄ニ不叶卒尔之段申候旨被申聞尚

又申出候もの巧之極并何レ軟多く積候哉之処も得度虚実相糺大目

附郷左衛門勘定奉行伊左衛門へも得与遂相談候上ニ而申上候様被

仰聞尚又後刻罷越何れ今日ニ者相談も行届兼候間得度相考相談之

上明後日御答可申上旨申上置候

一 戸川町福井屋清助手錠少々致難義其上封印も損候段申出夜廻リと  
打替申付候

一 牢屋払町奉行払一ヶ年五拾ニ而余ハ御払ニ相成候処当七月取替置

候処三拾匁三分式厘小頭又六匁受取差戻候

一 獄門夜番之もの薪代御払ニ可相成所書落候ニ付右代四匁五分取替

置候

一 御仕置節酒代拾匁三分并同心支度代六分并筆墨紙代式匁拾六匁

八分又六ニ相渡

一年頭大年寄札元諸吟味謁五日ニ可取計旨小頭ニ申達候

一 近年年始供組不召連大年寄へ勤候節計召連候由之処「程ニ者

組可召連候間古格之通差出候様ニ申付候

一 「」一銀十二月分式百拾匁匁七分五厘孫左衛門差出候

一 關所銀銀札百四拾七匁三分銀子五匁匁分御金奉行栗田辰右衛門関

十治宛ニ堅紙ニ相認勘定奉行中江相渡候外ニ差引帳ニ通相認差出

候

一 町方夜廻月迫ニ付嚴敷申付置候処先今夕切ニ而相止申尚又春之趣

ニ寄後日之義ハ追而可申上旨御用番へ相届候

一 十一月人別改

出生 拾九人 男子拾人 女子九人 人別入 拾九人

人別除 拾壹人 死失 拾四人

右差引 拾人増

寛政五癸丑年正月五十二月迄

御 用 日 記

四十六 増見右門

仮役松岡治部助

寛政五癸丑年正月

月番

御家老 永見造酒助殿

御年寄 山田主膳殿

大目附 黒田織江

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 豊岡藤十郎

〔原姓〕  
變死か

〔付連〕  
寛政五癸丑

正月小元乙未旦 晴

一有役之面々卯中刻登城当年者御檢約御年限中ニ付差上被下無之一

昨年之通於黄帝間御礼被為請紫陽花之間御縁座敷中之御量ニ而御

礼申上直ニ御敷居際江摺寄り御流頂戴仕ル但御量目ハ格式之次第

也右早而於七間廊下御小性頭謁御奏者番ニ三奉行迄一同ニ罷出若

殿様江年頭御祝儀申上ル右早而三奉行一同御用所江罷出年頭之御

祝儀申上候段申述之引懸ケニ大目附江右同様及挨拶尤昨年者御留

主年ニ付公私之挨拶申述候様御差図有之候処今年者不及其義年頭

御詞計申述候而も不苦旨大目附被申聞候旨勘定奉行ハ演説有之

一明後三日町人御目見被仰付候付名面相認并差上物納台ニ而差出候

間御門通行之義中奥目附へ申達候

一暮方大年寄罷出町方御静謐之段申出候

一福渡町松山屋清助追込今日ニ而五日ニ相成候間明朝差免候様大年

寄へ申達候

一近年年礼ニ同心組召連候義相止メ大年寄江罷越候節計召連候由ニ

候処元日登城ニ者召連候様申付召計候

一元日ハ五日迄ハ旧例同心組昼夜廻り不致六日昼廻リハ相始候由ニ

付其通申付候

正月二日 晴

一無役之面々卯中刻登城御礼被為受候当役ハ御用初ニ付五時登城町

奉行勘定奉行郡代御藏奉行御金奉行一同ニ御用所江罷出御用初御

祝儀申上候段当役之続而町方御静謐之段申上之続而郡代も同

様申上之早而末席ハ退出引懸ニ大目附江不相替御用初恐悦之段当

役及挨拶尤今年者御檢約御年限中ニ付御酒御吸物者不被下之候

一福渡町松山屋請助追込今朝差免候段御用番并大目附へ相届候

一御藏米九拾匁町米八拾六匁

正月三日 晴

一町人共御目見被仰付候付五時登城町人共も同断大年寄札元町医虎之間南御縁座敷溜居御用達諸吟味中奥目附所之小使部屋ニ溜居差上物御礼席迄ハ其所之小使持運ふ夫ヲ銘々取前ニ居置尤左之通群居為致置御奏者番へ及案内御奏者番見分之上へ御目見江被取計候

大年寄

小三折 壹束 藏合孫左衛門

同 齋藤孫右衛門

同 玉置源五兵衛

町惣代

小三折 三束 藏合孫左衛門

札元

小三折 壹束 武田七郎兵衛

同 茂渡庄右衛門

同 川口藤左衛門

同 玉置卯左衛門

同 山本三右衛門

同 山本甚藏

同 妹尾平兵衛

同 大庄屋拾人

右ハ松之間南御縁座敷外金鷲之間之横懸出候落縁ニ四重ニ群居差上物銘々前ニ居置

町医

差上物無之 中嶋宗元

右ハ金鷲之間真中通南敷居之内

御用達

小三折 貳帖 三船八郎右衛門

諸吟味

同 久山勘八

同 豊屋藤十郎

同 豊屋喜左衛門

御藏元

同 熊野屋文五郎

右ハ裏中之口板敷之間北を上ニ一列ニ群居少し北江向キ竹之間御杉戸へ向ひ差上物も板敷之間銘々差上物前ニ居置右之通群居為致置相揃候段御奏者番中江申達候御藏元姫路屋彦兵衛当病不参断ニ付御奏者番中江相届候御使者江者届ニ不及事御通懸御目見之節町奉行郡代藤之間御縁座敷紅葉之御杉戸際ニ南西向御使番中奥目附之次ニ相詰ル右早而裏中之口御疊之上北向ニ中程右南へ一盃ニ大年寄札元大庄屋御用達諸吟味御藏元四人並ニ群居尤大庄屋御用達之間間中隔群居右之通ニ列居為致御奏者番へ及案内御奏者番太田舍人罷出被謁其節上席右若殿様江年頭御祝儀申上候段申上之但町奉行郡代不及詰合取合候事右早而町医虎之間御縁座敷南右七疊目ニ着座是又御奏者番謁若殿様江右同様申上候事是又詰合不及取合

一右早而於大目附役所御奏者番太田舎人ノ大年寄三人江例年之通雉子三羽ツ、被下置候間先格之通申達候様被申渡退出後切紙を以呼出左之通申渡候

例年之通雉子三羽ツ、被下之候 大年寄三人江

右雉子ハ小勤者ノ拙宅江相廻尤右雉子之内三羽不足ニ付追而小勤者ノ直ニ大年寄宅江可相廻由也

一今晚之御謡初并六日寺社御礼之節三奉行登城仕来候所以来登城不及詰合旨勘定奉行ノ演説有之依之今晚御謡初ニ罷出候

一真壁興隆寺被盜もの、書付触流取計候ニ付平井郷左衛門ヘ差戻候一殿中着服一昨年ノ三日之内麻上下四日ノハ裏付上下ニ相成候事故

同心組屋敷番も是迄ハ五日之内麻上下ニ而有之候得共右ニ准し明日ノ袴着候様ニ申渡候

正月四日 晴

一殿中伺公之面々今日ノ裏付上下ニ相成ル依之屋敷番袴ニ申付候事

正月五日 晴

一大年寄札元諸吟味江先格之通年頭之礼受之屠蘇酒土器ニ而盃遣ハ尤返盃之事大年寄ヘ盃之節ハ小頭詰合札元諸吟味江盃之節ハ小頭大年寄兩人詰合之事但取肴昆布寿留免但三方ニ而

大年寄 藏合孫左衛門 齋藤孫右衛門 玉置源五兵衛

札元 武田七郎兵衛 茂渡庄右衛門 茂渡藤右衛門

川口藤左衛門 玉置卯左衛門 山本甚藏

妹尾平兵衛 山本三右衛門 一人当病不參

諸吟味 久山勘八 豊岡藤十郎 豊屋喜左衛門

一先格之通大年寄同心組牢番三軒屋書役江年礼罷越申込置尤同心組若堂ヲ召連候事

一乃井野津田与一左衛門ノ例歳之通年頭祝書差越及相答并同人ノ先格之通去子ノ年中月々之錢相場一ヶ月平均書付取ニ来差遣候

一夜前新屋敷ニ而元完粟もの、由当時帳外もの六三郎文七元船頭町出生宇吉致喧嘩文七半死半生ニ相成三人とも行衛不相知段大年寄

并久山勘八届出右宇吉ハ船頭町田原屋稻藏借屋又治と申もの、子ニ而幼年之砌川下江差遣候もの、由乍然此節又治方ニ居候程も難計ニ付吟味申付候処又治義も独身ものニ而此節在方ヘ罷越候由ニ

付右又治尋大年寄ヘ申付右始末郡代江も為知候 右又治相尋候処行衛不相知候段同月十五日申出猶又永尋申渡置候

正月六日 晴

一旧格之通御蔵元惣町年寄問屋大保頭目明年礼受之尤小頭部屋目附大年寄諸吟味詰合玄関之上之間江操出大年寄名披露ニ而目出度と

及挨拶但問屋ハ玄関大保頭ハ敷台目明ハ下座敷ニ而敷台江半分懸ル右何連も大年寄名披露 都合人数五拾六人

正月七日 曇

一若菜之御祝儀ニ付麻上下着用五半時登城於宮嶋之間御礼被為受式日之通御縁座敷中程ニ而御礼申上ル尤今日者御用所大目附三奉行

檜之間衆共ニ式日之通宮嶋之間ニおゐて御礼被為受候右早而於七間廊下御小性頭謁若殿様江若菜之御祝儀申上之早而御用所江罷出

若菜之御祝儀申上直ニ御用向申述之上席ノ引

一祇園三位之御札例年之通差上度旨申出候段大年寄伺出御奏者番太

田舎人江申達候所差上候様被申聞其旨大年寄へ申達并来ル十日蔵

合孫左衛門右御札持參登城候付御門通行之義中奥目附山田孫四郎

江申遣置候

一松岡治部助并拙者被為召屠蘇酒被下置候

一御条目并左義長之町触先格之通差出候

一勝山渡部唐兵衛榊原九郎左衛門坪井瀧口与次右衛門西川平沢助八

松尾久太る年頭之祝書到来及相答

一三ヶ寺江年頭御參詣当年ハ御旅ニ而者無御座候得共辻固等ハ一昨

年御旅之節之通ニ差出候様太田舍人被申聞候

正月八日 快晴

正月九日 快晴

一明十日五時御供揃ニ而地藏院江御參詣被仰出御道筋例之通ニ候段

中奥目附野条金平る通用有之小頭大年寄へ例之通申付候

一玉置卯左衛門父惠吉義昨夜致病死依之卯左衛門定式之通忌服引込

候段齋藤孫右衛門届出承り置旦又玉置源五兵衛義忌懸ニ而者無之

候得共縁者之義故二三日之間月番孫左衛門へ相頼候段相届候旦又

蔵合孫左衛門罷出先格札元隠居死去葬送之節大小為持来候間今般

惠吉葬送之砌も為持申度旨申聞候付先格之通取計候様及即答

一西大寺えよう時分船中博奕致流行候事故船持共呼出於船中博奕為

致申間敷と申請一札取候者世上之響ニも可相成ニ付右之通取計候

様蔵合孫左衛門へ申付候処翌十日一札差出候

正月十日 晴

正月十一日 雨

正月十二日 晴

一豊岡藤十郎預り番賃銀昨子ノ年中算様書差出貳貫七百三拾貳匁式分五厘預り有之候

正月十三日 曇

一明十四日四時御供揃ニ而泰安寺本源寺へ御仏詣被仰出御道筋例之通之中奥目附土岐雄助る通用有之大年寄江一昨年御旅ニ而御參詣被遊候節通ニ取計候様申達小頭江も右同様申付右ニ付同心組加入六人御渡候様黒田織江江申達候

一屋根屋阿波屋家賃論之義大目附へ及相談候様一学殿御差函ニ付昨年十一月中旬平井郷左衛門へ懸合置候処去ル十日一向存寄無之不能思慮候間其旨申達候様ニ返答有之依之右大目附返答之趣申述并

膳殿江差出并昨年一学殿御渡被成候御用所御考書返上候

一御蔵米九拾三匁五分町米八拾九匁五分

正月十四日 曇

一四時御供揃ニ而泰安寺本源寺へ御仏詣被遊左之通町固メ差出候

一大年寄三人麻上下着用宮脇町関貫外大番所脇江相詰ル

一御先払同心組式人御平生之通尤御出前御先払見計保頭相廻不

敬無之様ニ心配候様ニ申付ル

一元魚町北関貫御見通し同心組式人内加人啗人大文字黒羽織股立

町年寄一人羽織袴ニ而

一下紺屋町松岡治部助北郷門兵衛辻土橋御見通右同断

一細工町渡部惣右衛門佐藤彦右衛門添屋敷辻右同断

一同町永田有藏前辻右同斷

一宮脇町閔貫外辻右同斷

一西今町東閔貫外辻右同斷

一上紺屋町金川屋庄七弟多吉去九月中旬出奔百日尋申付置候所及百

日候得共未出不申此上御憐愍を以今百日相尋度願出承り届ル

一高島道友和州郡山へ往来廿四五日逗留ニ而明日日出立願書大年寄差

出承り届ル 二月六日罷帰ル

一大年寄申出候者林田辺ニ而搗米屋江米老儀調度申參候もの有之候

所老儀ハ得売不申拾儀余ハ売遣可申と申もの有之由取沙駄(つと)有之候

ニ付右躰之義無之様ニ演説仕置度旨昨日伺出其通取計候様及差凶

正月十五日 快晴

一初之十五日ニ付麻上下着用五半時出仕例之通於宮嶋之間御目見江

申上早而御用所江罷出当日申述之統而御用向弁之上座を退出

一去ル四日夕殺し文七死骸安岡町福嶋屋治左衛門同地右六三郎借受

作り居候畑ニ埋有之候由地主之義故治左衛門を届出候段大年寄届

出候

正月十六日 晴

一御具足御祝ニ付麻上下着用五半時登城於宮嶋間御縁座敷式日之通

御具足御祝義申上之早而大目附格以上ハ宇治橋之間着座御餅頂戴

小従人頭。格以下於竹之間御餅頂戴之尤操出格敷く之御畳目ニ御

台有之右早而於七間廊下御小性頭謁御奏者番を郡代一同ニ罷出上

席を不相御具足御祝頂戴仕難有仕合之旨申上之右早而三奉行御

用所江罷出御具足御祝義申上候段申述之末席を引取

一於御用所主膳殿を新屋敷人殺迹去り候面々郡代申談尋可申旨被仰

渡依之郡代申談目明老人非人四人尋ニ出候様ニ小頭又六江申付候

但目明ハ孫兵衛江申付旅用ハ斎藤孫右衛門取替遣候様小頭を懸合

今日爰元を渡候明早朝備中之方へ參候心得也

一明十七日五時御供揃ニ而地藏院江御社參被仰出御道筋ハ北御門よ

り御出被遊田町御門江御掃被遊候旨中奥目附藤本十兵衛より通用

有之元魚町御見通し辻固小頭并大年寄江申付候

一具足之致祝組中牢屋三軒屋召呼土器ニ而盃遣返盃取着昆布寿留女

右早而具足之餅紙ニ包台ニ居床前ニ差置銘々罷出取之右早而吸物

硯つとふく躰肴ニ而御酒出之本膳ニ引替之牢番中間於台所右同様出之

三軒屋清治書役新左衛門当病不參但書役江者居間ニ而塗器ニ而盃遣

又筈也

一稻荷江明日御參詣被仰出例之通取計様大年寄へ申達候

正月十七日 晴

一稻荷地藏院八幡御參詣被遊候稻荷江御參詣之節ハ橋本町材木町人

留并丹後山辺作人有之事故両町へ相触候由ニ付昨日大年寄へ申達

候

一於御用所郡代町奉行兩人江左之通主膳殿を被仰渡候

津留被仰付候間宜可取計候

右触書昨年之ハ米不自由と有之ニ付当年ハ如何ニ可認哉と主膳殿

江相伺候処明朝不日可被仰出旨手紙ニ而申來候

正月十八日 快晴

一去ル十三日夕茅町森永屋伊八方盗。這入米式儀被盜取候段届書差出

右盜吟味十四日申付置候処非人共召捕下吟味致候処元備中賀陽郡高田村出生當時無宿清藏と申ものニ而去暮同人方ニ而染物盜物候も清藏ニ而有之尤昨年迄森永屋方ニ召仕候もの、由右清藏今朝出番向人差向入牢申付候此段御用番并大目附へ相届候

一御藏米九拾壹匁町米八拾七匁

一米高値ニ付津留申付候段相触候様ニ主膳殿と手紙ニ而申来其趣町触取計候其旨御用番江相届大目附へ町触全文差出候

一昨年吉野郡之女奪取候豊後屋和助同町藤左衛門戸川町福江屋清助右女預居候戸川町豊屋喜兵衛借屋婆りん呼出遂吟味候十二月廿四日之処ニ記有之但松田屋左助ニも手錠申付候

正月十九日 快晴 夜雨

一豊後屋和助同町藤左衛門同町松田屋左助福渡屋清助呼出遂吟味清助ニて口書印形申付候

正月廿日 晴 晚方時雨

一於御用所主膳殿と左之伺之通申渡候様被申渡候

旧臘五日広瀬橋詰ニ而 元江見平治屋敷住

備前札通用同様之致取扱 義兵衛へ

兼而触も有之処不埒至極ニ付 申渡

追込申付候 但追込三日

右請人細工町屋根屋嘉兵衛召連罷出申渡立合小頭又六部屋目附新治書役新左衛門と読渡之書付相渡候

右義兵衛と一所ニ致取扱候宗永寺長屋住和兵衛義ハ役筋ニ而吟味致候得共追込申渡ハ寺社方ニ而有之候

右一件ハ殊之外六ヶ敷大纏れニ相成拙者義も御咎先例之付違之義も有之筋ニ相成右ニ付松岡治部助を以差扣相伺候処即答ニ不及伺出候旨黒田織江被申聞候

一明石屋庄七目明役申付六三郎宇吉尋ニ非人四人差添佐和之方角へ差出尤昨日申付候然ル所錦織と龍田福渡早田備前之加茂巴乘西川油木相尋候処錦織龍田之辺ニ而十四五日比迄ハ居候処其後不相知由ニ而得不召捕廿二日之夕罷帰候段小頭と届出候

正月廿一日 晴

正月廿二日 曇

一大豆三拾俵小麦式拾四俵瓜生原屋平吉船積申出文藏差出候

一大豆七拾俵高瀬屋勘右衛門船積申出文藏差出候

正月廿三日 快晴

一備前札致取扱候義兵衛追込昨日ニ而三日ニ相成候ニ付今朝呼出小頭部屋頭立合ニ而追込差免候其旨御用番并大目附へ相届候

一明廿四日五半時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出御道節例之通之旨中奥目附藤堂惣右衛門と通用有之大年寄小頭江申付候

一御藏米八拾九匁町米八拾五匁

一小麦百式拾俵米屋藤右衛門船積申出元藏差出

一大豆五拾俵空豆拾俵平田屋利助船積申出元藏改

一小麦六拾三俵小豆三俵瓜生原屋宗兵衛船積申出元藏改

一小麦八拾俵瓜生原屋平吉船積申出元藏改

一室井重助妻昨夜出産女子出生之旨依之血忌引込候段小頭又六と届出候

正月廿四日

一管子開講ニ付麻上下ニ而承之

一五半時泰安寺へ御仏詣被遊御先弘差出候

一目明孫兵衛夜ニ入罷婦リ所々相尋候処福本村之内草野と申処六兵衛と申もの方ニ十二日比迄慎居候処其後不相知段届出候

一去十二月人別改左之通差出候尤二月五日御用番江差出候

出生 拾貳人 男七人 女五人 人別入 八人 人別除 拾貳人

死失 拾三人 男三人 女五人 右差引ノ五人減

一去子ノ年中一ヶ年人別改差出

出生百九拾人 男百五人 女八拾五人 他所ノ引受百五拾四人 男七拾九人 女七拾五人

ノ三百四拾四人

死失百七拾五人 男八拾七人 女八拾五人 他所江引越九拾九人 男五拾貳人 女四拾八人

ノ貳百七拾老人

右差引ノ七拾三人増

正月廿五日 晩方雨

一御蔵米八拾貳俵川下今津屋孫十郎申出定治改

一小麦七拾俵小桁治右衛門川下申出定治改

一御蔵米八拾六匁町米八拾貳式

正月廿六日 雨

正月廿七日 曇

一大年寄諸吟味小頭部屋目附書役立合橋本町豊後屋和助松山田左助

米子屋藤左衛門口書印形取候

一盜賊清蔵呼出小頭部屋目付書役立合遂吟味口書取候

一大豆七拾俵小麦拾六俵岩屋文蔵川下申出文蔵改

一小麦九拾俵はかね屋宗兵衛川下ケ申出文蔵改

一大豆六俵四俵小麦七拾九俵船木屋庄吉川下ケ申出文蔵改

正月廿八日 快晴

一今日者初廿八日ニ付麻上下着用五半時出仕於宮嶋之間例之通御目見申上早而御用所江罷出当日御祝義申述之続而御用向弁之上席ノ

退出

退出

一大目附黒田織江ノ左之通演説有之候

御対面所御庭江御家中之面々妻子等召連罷越弁当酒等持參風景を相樂候事勝手次第御茶屋ニ而も無遠慮弁当等遣ひ候義御構無之候尤他之もの同道ハ可致遠慮候勿論御植木等江当リ不申候様

円八ノ可申聞候

一無宿盜賊清蔵義口書之通不届ニ付五拾敲之上御領分追払可申付哉

と奉伺候処後刻主膳殿ノ伺之通宜取計候様被仰出候右之旨大目附

江も及噂置候尤二月六日取計候

一九時ノ三河後風土記講釈初ニ付裏付上下ニ而承之但拙者共義ハ朝

ノ着致懸リニ付麻上下ニ而承之

一魚住蔵人ノ年頭之祝書差越及相答

一番賃銀二月炭代共五拾九匁七分五厘正月半月分久山勘八相納候

一新職人町南側ニ而三丁目沢屋孫四郎家守美濃屋佐七願書表口六間

裏行拾式間但老軒役也東隣ハ覺屋藤三郎西者横丁往来右家屋敷代

銀老貫目ニ相極高島生齋江売渡度願書差出承リ届ル 三月十六日売券伏差出

一二階町井筒屋弥三郎所持之他因請酒株当丑正月ノ来ル巳ノ十二月

迄五ヶ年之間同町山崎屋卯兵衛借受商売仕度願書差出候承り届ル

一安岡町戸嶋屋長兵衛娘さと二ノ宮村伝助妻ニ差遣度人別離願書差出

承り届ル

一高橋伴右衛門長屋ニ居候妻平并妻ミヤ娘その忤万吉娘りき右五人

堺町水田屋与助引受人別人願書差出承り届ル

一安岡町扇屋栄治兄三助去戌ノ正月ノ伯州倉吉江差遣置候処今般罷

婦又々来ル卯年迄三ヶ年之間差遣度願書差出承り届ル

一備前邑久郡山田牛窓大工市兵衛五郎左衛門喜左衛門善助半右衛門

小作与申もの六人例年之通罷越候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差

出候 寅正月十三日掃り候届有之

一大豆九拾四俵瓜生原屋平吉川下申出嘉七為治改

正月廿九日 昼後時雨

一大豆百六拾九俵福本屋新右衛門川下申出孫八元蔵改

一半浚申出去ル廿六日孫八文蔵差出候処無別条認落候故爰ニ記

二月

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 小須賀貢

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 豊屋喜左衛門

二月大朔甲子日 快晴

一当日御祝儀裏付上下ニ而五半時惣登城然ル所少々御不例ニ付御札

不被為受依之於七間廊下御小性頭小嶋新五右衛門謁ニ而当日御祝

儀例之通大目附三奉行一同ニ申上統而若殿様江当日御祝義申上早

而御用所江罷出当日御祝儀申上之統而御用向弁之上席ニ引

一茅町木屋伊右衛門忤龜之助義不所存ものニ付又々勘当仕度願書御

用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置大年寄へ申達候

一伯州久米郡倉吉和氣屋十兵衛并同人妻并忤右家内三人元魚町ろく

ろ屋治兵衛引受人別人願書御用番御聞濟ニ付大目附江相渡置大年

寄江聞届候段申達候 正月改ニ入

三月九日住宅証文差出候

一於御用所大目附出席御用番中ら左之通被仰渡候

町奉行江

木屋太兵衛義御拵方頭取御用達並申付候

菅人扶持加扶持被下之候

白銀屋安兵衛名字被差免候

塗師勘平義名字他所日被差免候

右之段可申渡候

右之通被仰渡退出後大年寄へ右三人麻上下着用為仕召連罷出候様

ニ手紙差遣於玄関小頭部屋目附大年寄諸吟味詰合申渡相濟候段御

用番并大目附へ手紙ニ而相届候

一 東新町西新町問屋共願書差出林田村佐右衛門方去ル四日俵物

數多船頭町三九郎船へ積下候間兼而御停止之通俵物商ひ差止只候

様願書差出郡代松岡治部助へ相渡候処昨年之醬油商買差留候様取

計可申被申聞候此段大年寄へ申聞置候

一 他領物騒之風聞も有之ニ付町方昨年之十一町廻り并非人加廻り等

も申付度ニ而一学殿江申上候処郡代と申合宜取計候様御差図ニ付

松岡江も申談大年寄へ今夕る夜廻り取計候様大年寄へ申付候

一 大豆百式拾俵瓜生原屋惣兵衛船積申出孫八元藏改

一 二階町増原屋かん甥喜助義去子ノ十二月廿日不斗罷出相尋候得共

行衛不相知段届出例之通百日尋申付候

一 二町目林田屋みね家屋敷南側ニ而表口三間裏行十七間西隣ハ三谷

屋与三左衛門東隣ハ尾高屋善七右家屋敷去ル午ノ十一月三谷屋与

三左衛門取次ニ而卷貫目ニ質入ニ致置候処此度受返し相濟候段届

書差出候

二月二日 雨

一 林田上ノ丁火付疑有之義八郡代松岡治部助召連来安岡町染呼出打

合由立合遂吟味候処駈と不相分并義八当分宿いたし候林田上之町

七兵衛夫婦も呼出遂吟味候

一 白銀屋五左衛門苗字中川と改塗師勘平苗字畑と相改候段大年寄相

届候追而御用席ニ御用番可申達事大目附同断

一 借牢之女狂氣大騒之旨申出番嘉七重助差向候

一 正月歩銀五拾匁源五兵衛差出候

一 木屋太兵衛町役之義大年寄伺出御用達之通被差免候段及即答候

二月三日 朝雨 昼後晴

一 他領物騒之趣ニ相聞候付野臥共追払可申付段小頭申出其旨及差図

候

一 宇津木弥右衛門長屋ニ居候市兵衛六拾四才妻わき四拾九才俸市之

助十七才右家内三人西今町磯屋忠七引受人別人願差出承り届候旨

申達ス

一 東新町かう妹しう拾九才此もの林田上之町御中間佐吉妻ニ差遣度

人別離願差出承り届ル

一 林田上之町多助俸源次郎廿七才同人妻さわ廿二才右夫婦二人中之

町紺屋助右衛門引受人別人願差出承り届

二月四日 曇

一 大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛一人例年之通菜種卸売罷

越候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候 四月十五日補

一 植村正助一昨日着候由昨日来対面仕候処在中ら相始候由之噂ニ有

之候

一 中之町桶屋平吉妻永見造酒助殿江乳母奉公ニ罷出候ニ付人別離願

書差出承り届ル

一 今日御用日明五日ニ相成候

二月五日 雨

一 昨日之御用日今日ニ相成候

一 備前国津高郡紙工村常兵衛娘琴元魚町伊勢屋長右衛門俸幸太郎妻

ニ引受人別人願御用番御聞濟ニ而大目附へ願書相渡置御許容之旨

大年寄江申達候 三月九日住宅証文差出

一 盜賊清藏五拾敲追弘明日取計候間立合被差出候様大目附へ申達候  
一 松岡治部助申合去ル朔日左之通書付差出候

当年御祝市郷江も格段ニ被下置候御沙駄難有仕合奉存候依而者  
格別之御赦を以牢私被仰付度奉存候若右躰ニも被為仰付候ハ、  
取扱方夫々当を付御伺可申上候

右之通郡代当役兩名ニ差出置候処今日兩人御呼出ニ而今般御祝  
被下候御上御一己之義ニ而不仁者迄を曲而御助ケ被成候御筋合ニ  
而者無之候間先今般ハ其俣ニ差置候様ニ被仰出候段一学殿被仰渡  
候

一 御用日来ル七日右 半日隔日 管子講尺 三九三月節句ハ 後風土  
記講尺 五日 廿五日 ニ相成候段被仰出候

一 大守様御厄年御祝被奉御合候由ニ付支配方迄之人別書差出候様被  
被仰出左之通差出候

家人内別 自分 妻 悴老人 下女老人 下男老人  
ノ五人内右下女一人町人別入  
支配方人別 書役一人 同心組十人 牢番二人 三軒屋番二人  
高石垣番人一人 右家人内別合五拾式人 内拾九人郷中人  
別入 四人町人別入 残式拾九人

右之通ニ御座候已上  
二月六日 快晴

一 左之通於牢屋前取計候立合御徒目附荒井安左衛門下目付一人小頭  
又六部屋目附新治出番定治為治  
其方義旧冬茅町森永屋伊八方ニ

数日日雇稼いたし其後同人方江 無宿盜賊

兩度迄忍入盜致候段不届之事ニ候  
依之五十敲之上御領分追弘申付候  
立帰於令徘徊者可為曲事者也

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

右清藏森永屋ニ而盜取候米老儀宮脇町田中屋卯兵衛へ壳渡代銀札  
式拾九匁と并賣付油二本柳土手と差出右銀札田中屋卯兵衛江相返  
し右米茅町森永や迄相返候様大年寄へ申付候尤昼廻り見届ニ差向  
受取取置候并森永やニ而盜取候染木綿福渡ニ質ニ置有之候者目明  
共取返し森永やへ可相渡旨申出候付其旨及差図候

一 明七日源泉院様御証月ニ付五時御供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被仰出  
御道筋例之通之旨中奥目附野条金平と通用有之大年寄并小頭江申  
達候

一 玉置卯左衛門義亡父惠吉忌中昨五日迄ニ而半減相濟候付今日と忌  
差免度旨勘定奉行と伺有之御聞届相濟候段近藤伊左衛門と申来一  
学殿江及御沙駄忌差免候間今日と出勤候様ニ奉書差遣候翌七日大目附  
一番賃銀算様久山勘八豊岡藤十郎差出兩人過銀預り合テ八貫九百式  
匁七厘有之

一 例月之川切手孫左衛門昨日差出致裏印候  
一 非人扶持六儀証文昨日致裏印候

二月七日

一 五時供揃ニ而泰安寺へ御仏詣被遊御先弘新治重助  
一 伏見町古川屋忠兵衛御堀端へ建物仕候付御堀江足代下し申度願書

差出大目附へ相渡御聞届ニ付其節御作事江申達杖突差出候様ニ取  
計勝手次第致候様ニ大年寄へ申達候

一森对馬守殿御預リ所当国東北条郡加茂小中原村百性勘三郎伴豊治  
義鍛冶町鍛冶新兵衛引受人別人願書差出御用番御聞濟ニ付大目附  
へ相渡置御聞届之旨大年寄へ申達候 三月五日証文差出候庚申十月十三日除帳

一御厄年御祝被下置候思召ニ付老入老銭匁之積ニ而市中之分認出候  
様大目附へ被申達左之通認差出候

惣町人別 六千九百貳拾五人

但召仕男女共尤昨年之改ニ御座候間  
少々之増減ハ可有御座哉ニ奉存候

〇〇〇〇非人 百貳拾九人 右同断

合七千五拾四人 右老入江 老銭匁ツ、被下置大抵

七貫五拾四匁 右之通ニ御座候已上

二月七日 増尻右門

右ニ付座頭共江も被下之義大目附へ申達候処座頭共江者二重ニ被

下取計候様ニ貢被申聞候

一御蔵米八拾三匁 町米七拾九匁

一大豆百俵高瀬屋勘右衛門船積申出定治嘉七改

一大豆九拾俵小麦貳拾貳俵瓜生原や平吉船積申出定治嘉七改

一小麦九拾貳俵米屋兵助船積申出定治嘉七改

二月八日 雨

一林田上之町長吉妹中之町粟井屋茂市郎妻ニ引受人別人願書差出承  
り届ル

一小性町田中屋甚治郎娘小沢又右衛門江奉公ニ差出候付人別除願差  
出承り届ル

一大豆六拾俵小麦八俵空豆拾俵平田屋利助船積申出新治重助改  
二月九日 晴

一野村権九郎殿御代官所吉野郡小谷村和平姪昨年橋本町松田屋左助  
方ニ致止宿右女を押隠奪取候もの共御裁許口書を以去ル五日相伺  
候処去ル七日伺之通取計候様被仰出左之通申渡候

右一件狼藉ニ付御城下

橋本町豊後屋

一里四方追払申付候

和助

右一件狼藉ニ付町払申付

戸川町福江屋

御家中屋敷鉄炮町寺町差構候

清助

右一件ニ付手錠追込申付候

橋本町松田屋

但追込十五日 同廿四日差免

左助

右一件ニ付追込申付候

戸川町

但追込七日 同十六日差免

りん

右一件ニ付追込申付候

橋本町米子屋

但追込七日 尤吟味申手錠  
申付置候間今日差免

藤左衛門

右立合例之通申渡申渡書付相渡候尤りん義ハ追込計ニ付自分義并

小頭部屋目附引取大年寄諸吟味計ニ而申渡尤大年寄孫左衛門立合

右取計相濟候段御用番并大目附へ相届候 右追込差免度々ニ御用番大目附へ  
相届候

一小麦百貳拾俵瓜生原屋平吉船積申出嘉七為治改

一大豆九拾俵小麦拾六俵瓜生原屋宗兵衛船積申出嘉七為治改

一今日之御用日明日ニ相成候

一今日六半時御供揃ニ而大谷村江御鹿狩御出被遊御道筋京橋御門へ

今出屋横通り真直ニ橋江御被成候段中奥目附土岐雄助ノ昨日申来  
大年寄并小頭江例之通申付御先弘差出候処御帰道藺田町ノ宮脇町  
通元魚町ノ田町御門江御帰リ被遊候段御先弘申出候

二月十日 快晴

一当国真嶋郡勝山玉屋与次兵衛娘坪井町川原屋治助妻ニ引受人別入  
願差出御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候 三月七日住宅  
証文差出候 庚申十月八日離縁

二月十一日 雨

一武州江戸中谷玄明と申僧大庭郡下湯原村ニ而相煩同所ノ送り出候  
宮尾村ノ送り来候間相通候様ニ松岡治部助ノ通用有之其旨大年寄  
江申付候尚又後刻送り出候段届出候

一札元妹尾平兵衛痔疾ニ付撰州有馬江入湯往来三十日之願書差出御  
用番御聞濟ニ付願書大目附へ相渡御許容之段大年寄へ申達候

三月十日罷掃候段届出候御用番大目附へ相届候

一札元玉置卯左衛門悴季久藏義三浦志摩守殿城下金田三郎左衛門江  
養子ニ差遣度人別除願書差出御用番御聞濟ニ付願書大目附江相渡  
大年寄へ御許容申達候

一小性町茂渡庄右衛門借屋ニ居候作人定平妻去九月ノ経行不順妊娠  
ニ相成六ヶ月迄不届出断書差出候追而出産之砌例之通御叱取計可  
申事

二月十二日 雨

二月十三日 雨

一森対馬守殿御預リ所当国久米南条郡全間村庄吉義二階町茂渡市之

助家守佐久屋藤助借屋ニ居候平治弟ニ付同人引受人別入願書差出  
御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置大年寄江御聞届申達候 三月七日住宅  
証文差出  
一札元茂渡藤左衛門悴呉助義撰州有馬へ入湯往来四十日之願書差出  
承り届候 四月十五日届ル

一京都三条通油小路小川東江入所菱屋利兵衛と申もの夫婦二人織物  
一切染物一切之指南仕候ニ付三月時分迄逗留為仕度元魚町笹屋友  
治願書差出為致吟味候処無相違趣ニ付承り届候

一小桁村甚右衛門所持仕候船株老艘船頭町米屋藤右衛門江相讓申度  
旨願書差出承り届船株名面認替遣候様ニ大年寄へ申付候

一茅町吹屋長藏家屋敷表口式間裏行六間巷半役東隣ハ作人文藏西  
隣ハ坂本屋佐助右家屋敷代銀五拾匁ニ町内作人藤助へ売渡願書  
差出候ニ付承り届 同廿四日売券状出ス

一中之町平岡屋忠右衛門撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方江往来四十  
日逗留ニ而罷越度願書差出承り届ル 三月廿二日届届

一御藏米八拾式匁町米七拾八匁

一小頭又六於宅部屋目附立合左之通申渡候様申付候

番所明ヶ不レ之風聞有之ニ付 牢番足輕  
急度叱申付候義右衛門義ハ 和田義右衛門  
古番之義ニ付追込三日申付候 同十六日差免 内田利兵衛

一是迄酒直段諸白巻匁四分売之処去冬寒造仕込之砌米九拾匁台ニ相  
成不引合右酒当月十一日ノ売出候間又々巻分上ケ被仰付候様酒改  
共去ル五日願書差出御用番中江差出候処酒造込入用ノ売出迄之算  
様積書差出候様被仰聞去ル十一日右算様書差出尚又得与申上置候

処伺之通卷分上ケ御許容被成候段御用番中被仰聞右願書大目附へ  
相渡置御聞届之段大年寄へ申達候仍之以後諸白老勿五分ニ相成尤  
酒直段上ケ下ケハ秋造込之砌と寒造込之砌之米相場を以右酒売出  
し候節直段之上下可願出事也右両度之外願出候事不相成節也且又  
是迄ハ直段上ケ願出候而も申出候程ハ不聞届少々上ケ遣候処去冬  
ろハ申出之通ニ聞届遣候事ニ候得者以後不埒之義有之候而者我等  
迄も不相濟酒造之者并酒計之者不埒致候義主人不相知と申候而者  
申訳不相立候間其段急度申渡一札ニ而も取置候様ニ孫右衛門源五  
兵衛へ申付候 同廿七日一札差出候

二月十四日 晴

二月十五日 雨

一 当日御祝儀御礼被為受於宮嶋之間例之通御礼申上候

一 大目附小須賀貢ろ左之通申達候様御書付被相渡候

来ル十九日御厄年御祝ニ付御国中当歳以上之もの江同様ニ御  
酒代被下之候

右者御家中初市郷共召仕男女ニ至迄長屋小者迄不偏様并二重ニ不  
相渡候様取計可申尤召仕者市郷之人別入ニ而茂主人ろ差遣候間奉  
公人之分ハ市郷ニ而除候而可然旨尤右御酒代老人ニ老奴つゝ被下  
置勘定奉行ろ十九日迄ニ被相廻候筈也依之右之段大年寄并小頭江  
申達候

一 西新町川嶋屋十兵衛妹留廿三才東南条郡林田村作人藤兵衛方へ為  
引越度人別除願書差出承り届ル

一 勢州安芸郡白子村形屋仁左衛門手代庄二郎一人例年之通紺屋形売

ニ 昨日參候段堺町西川屋善助宿切手差出 五月十九日帰ル

二月十六日 雨

一 大豆百四拾俵小豆貳拾四俵菱屋太助船積申出元蔵為治改

二月十七日 雨

一 明十八日日上村江兎狩ニ被為入御道筋京橋御門ろ本通西新町之辺  
ろ土手江被為入候旨尤五時御供揃之由中奥目附藤本十兵衛ろ通用  
有之大年寄并小頭江例之通申付候

一 東新町玉屋左衛門京都本願寺參詣往来三十日ニ而来ル廿日日出立  
願書承り届ル

一 三町目浜野屋重郎兵衛悻七郎四郎去ル戌年ろ去子年迄京都

三条高倉西江入所高宮屋徳兵衛方へ奉公ニ遣置候処罷帰候尚又今

丑年ろ来ル卯年迄三ヶ年之間又々同人方江奉公為仕度願書差出承  
り届ル

一 三町目草津屋茂市郎売用ニ付大坂玉子屋九郎兵衛方へ三十日逗留  
ニ而来ル廿日日出立願書差出承り届ル

一 安岡町刻ミ屋嘉助去ル戌年奉願土居村利右衛門方へ奉公ニ罷越  
候所又々三ヶ年之間同人方へ奉公ニ罷越申度願書差出承り届ル

寛政十二年四月十九日罷帰候

一 安岡町久米屋藤七売用ニ付撰州兵庫米屋利兵衛方へ往来廿日逗留  
ニ而明十八日日出立仕度願書差出承り届ル 三月六日帰

一 明十八日日上江之御出御延引被成一宮江被為入候旨中奥目附藤本  
十兵衛ろ及深更申来其旨大年寄并小頭江申達候

一 以後者昼廻之節折々牢屋へ罷越見改申聞候様ニ惣組中江申達可置

旨小頭又六江申付候

二月十八日 雨雪

一今日御出御延引ニ相成候段中奥目附野条金平ノ通用有之

一明十九日御用日御延引ニ相成候段大目附小須賀貢ノ申来候

一伊藤播磨守殿領分備中国下道郡水内村盲女一法と申もの他領新田村ノ送り来候旨川部村<sup>(マ)</sup>申出候段郡代<sup>(マ)</sup>申来候ニ付相通候様ニ大年寄江申達候 翌十九日相送候段届出候

一例年之通町馬見分ニ小頭部屋目附差出候処大年寄於宅相改候段届出并玉置源五兵衛右毛附帳差出候尤右之内式正御用ニ付伝馬ニ罷出并三疋ハ不宜候付仕替申付候由右五疋追而相改候筈也

一今般御厄年御祝市郷江御酒代被下候義以後之御形ニ相成候義ニ而者無之時之思召を以被下置候義ニ候間以後之例ニ者不相成候様ニ可相達旨御小納戸古谷嘉左衛門ノ手紙ニ而申来其旨孫右衛門へ手紙ニ而申達候

一小麦六拾四俵福本屋新右衛門船積申出嘉七文蔵改

一小麦九拾八俵大豆四俵今津屋弥十郎船積申出嘉七文蔵改

二月十九日 晴

一御厄年御祝被下町方之分七貫五拾匁去ル十七日勘定所江内渡仮証文差出受取齋藤孫右衛門江相渡置候然ル所人数四百四五拾人も増候趣ニ申聞得与調出来次第相渡遣候様ニ申付置追而渡高本証文差出可致算様<sup>(マ)</sup>勘定奉行江懸合置候

一右御祝支配之組之者江被下候間今日四時後勘定奉行所江差遣候様ニ右渡方御役人沼本勢左衛門清水九八郎柴田由郎ノ申越候ニ付小

頭川端又六麻上下着用登城御勘定所ニ而十六人分銘々別々ニ包紙差添式拾九匁頂戴仕候尤中村善治後家并悻兩人江原文蔵拝領屋敷ニ居候処此間人数書差出候節調落リ候段昨日小頭申出其段近藤伊左衛門へ申達候所追而可相渡候間取替置候様ニ申越依之式匁取替遣置候依之支配之組頂戴之員数都合參拾匁匁也

但今般之頂戴之御礼ニ者不及廻勤候段兼而大目附<sup>(マ)</sup>演達有之候ニ付其段小頭大年寄へ申達置候然共組中牢屋三軒屋不殘麻上下着用御礼ニ罷出候并大年寄諸吟味右同断御礼罷出候右取替之式匁三月朔日受取之小頭ノ受取書差出候

一東南条郡一ノ宮村東山形伊兵衛悻定次郎当丑十七歲船頭町高瀬屋勘右衛門養子ニ引受人別人願承<sup>三月改ニ入</sup>リ届候

一西北条郡小田中村勘助兵衛悻清助義吹屋町吹屋吉兵衛引受人別人願承<sup>三月改ニ入</sup>リ届候

一千本嶋右衛門長屋ニ居候十藏同人妻同娘同次女右四人西今町直屋善吉引受人別人願承<sup>三月改ニ入</sup>リ届候

二月廿日 快晴

一河原町屋根屋京町阿波屋家質出入一件去八月廿八日願書差<sup>(マ)</sup>九月十六日初而遂吟味其後追々相糺十一月十日御裁許相候候同月十七日御用所御存寄書御渡被成右ニ付猶又再伺書差出候処思召ニ不叶大目附へ致対談候様被仰聞十一月下旬平井郷左衛門へ及対談候処正月十日存寄無之段返答有之依之尚又右再伺書之俟正月十三日主膳殿江伺置候処当月十一日伺之通取計候様一学殿被仰出依之去ル十五日申渡書認相候候弥其通取計候様被仰出今日左之通申渡候

立合例之通書役読渡候

期日住宅証文出ル

一 備前和氣郡下田村百性龜右衛門忰龜太郎并妻○右式人新魚町姫路

屋彦兵衛引受人別人願書御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届

大年寄へ申達候 三月六日住宅証文差出

一 牢屋所々破損書小頭差出大目附へ差出候

一 今般御厄年御祝警女座頭江被下候様御用番中江相伺候処即刻御聞

濟ニ而其旨大目附勘定奉行へ及噂置大年寄へ右被下候段尤般之

被下ハ以後之御形ニ相成候義ニ而者決而無之時々思召を以被下置

候事故以後之形ニ者不相成段急度申渡日記ニも記置候様ニ齊藤孫

右衛門へ申付候

一 大坂山本町大坂屋忠兵衛手代与右衛門源助兩人例年通小間物卸売

ニ昨日參候段坪井町桔梗屋庄右衛門宿切手差出候 三月廿八日掃

一 小麦百七俵高松屋兵助船積申出新治元藏改

一 大豆八拾俵高瀬屋勘右衛門船積申出新治元藏改

一 昨日拙者義御対面所江被為召夜ニ入罷帰候処宮部遠右衛門横関貫

番要助不致出番依之右之段即刻又六江申遣相改候処六半過ニ者罷

出候由不埒之義ニ付先例関貫番咎ハ一夜不調法有之候得者三夜分

番賃取上ケ申付候掟ニ付今朝右之段小頭又六於宅申渡候

二月廿二日 雨

一 京都二文字屋九兵衛手代彦太郎宗兵衛二人例年之通差越候ニ付京

町海七屋長右衛門宿切手差出承り届候 三月十日彦太郎罷掃ル

一 上紺屋町南側ニ而多葉粉屋久四郎家屋敷表口四間裏行拾七間但半

役也東隣ハ津嶋屋源右衛門西隣ハ灰屋与右衛門也右家屋敷五百匁

年久敷出入双方無証抛ニ付

家屋敷可取上筋ニ候得共憐

愍を以相對ニ而売払屋根屋へ

七分阿波屋へ三分致配分候様

申付候

右配分相濟候上双方共五日追込

右屋根屋名前之家相對ニ而

入札ニ取計七分三分ニ配分

いたし可遣候

河原町屋根屋

平兵衛娘まさ

京町阿波屋

弥兵衛後家さよ

但さよ病氣ニ付忰電吉差出候

河原町年寄

源右衛門

京町年寄

善左衛門

右申渡相濟候段御用番 井大目附へ相届候 三月九日右家屋敷四百六拾五匁ニ売

払双方配分相濟候段申出候間兼而伺之通追込申付候

一 札元三本三右衛門忰房四郎因州吉岡へ入湯往来廿五日逗留ニ而明

廿一日出立願書差出承り届候 三月十三日掃

一 明廿一日天崇院様御証月ニ付泰安寺へ五半時御供揃ニ而御仏詣被

仰出御道筋例之通之旨中奥目附土岐雄助より通用有之小頭大年寄

へ申達候

二月廿一日 晴

一 今日之御仏詣御延引被仰出候段中奥目附と通用有之小頭大年寄へ

申達候

一 備前和氣郡下田土村甚吉同人母右兩人小性町浜田屋善六引受人別

入願用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置大年寄江御聞届申達候 三月

二津嶋屋民吉ニ売渡申度願書差出承り届候 三月七日売券状差出

一西今町南側ニ而井口屋利八家屋敷表口三間裏行十五間但四步三厘役也東隣ハ神田屋宇兵衛西隣ハ公文屋清左衛門右家屋敷壹貫八百匁ニ公文屋清左衛門へ売渡申度願書差出し承り届候 三月二日売券状出ル

一江原文藏妻出産女子出生候段小頭又六届出候

二月廿三日 快晴

一町方関貫番質之義左之通去ル十一日一学殿江相伺候処同十三日伺之通被仰出候

町方関貫番以前者町々ニ而取計来右惣町之入用惣辻一ヶ年分合

三貫七百五拾六匁分八厘御座候然ル所拾三ヶ年以前丑年諸吟味役共江申付右番質銀諸吟味役江取上ケ右番所肝腰之取計差置要用ニ無之番所者相止メさせ新ニ田町椿高下ニ番所六ヶ所申付

諸吟味役毎右番質銀相渡申候且又関貫普請も以前者町々ニ而銘々別ニ入用差出修覆等仕来候所丑年以後ハ諸吟味役勘弁

を以右取立候番質銀之内ニ而関貫普請等迄も仕尚又右過銀工面為仕候処此節ニ至リ右過銀八貫九百式匁七厘出来仕候然ル所関貫番古法之通銘々一町切ニ番仕候得者末々之者ハ賃錢不差出銘々

番ニ罷出勝手ニも相成候義ニ御座候其上町関貫番所々相止メ田町椿高下ニ番所申付番質銀者矢張以前之通取立候故旁以迷惑

ニ存奉受も宜無御座候然ル所最早関貫普請も大抵一順出来仕急ニ大普請も無御座ニ付右田町分六ヶ所之入用高一ヶ年分壹貫貳

百七拾五匁ニ御座候所右番質銀年々取立之過ハ一ヶ年一貫貳百貳拾九匁七分御座候間右田町分六ヶ所之入用程差免遣候而も是

迄之過銀八貫九百匁余を為致工面候ハ、右番質銀不足と関貫修

覆料程ハ可有御座ニ付右田町分六ヶ所之入用程差免遣度奉伺候  
一田町椿高下関貫番人は迄受負ニ申付置候処右申上候通番質銀  
上納仕兼候町々も有之候ニ付右之町々江番所壹ヶ所つゝ相渡  
候得者下々勝手ニも相成候義故相渡遣度奉伺候

一高石垣番所者是迄番人召抱置定番ニ申付有之候間矢張是迄之  
通ニ仕置申候

右之段奉伺候已上

二月十一日 増見右門

右伺之通去ル十三日被仰出即日孫右衛門へ申付候処番質銀不納之  
者も御座候付右取立之間差延申昨廿二日左之通申渡候段届出候尤  
来月朔日左之通相改候事

一惣町番質銀取立之内田町分番質銀壹貫貳百七拾五匁以後ハ差免  
遣候

一御家中関貫番所之義町方勝手ニも相成候段願出候ニ付以後ハ左  
之通番所相渡候

一四拾間御蔵横 小性町

一村井庄蔵横 二ヶ所 京町

小沢又右衛門横

一西大番所横 宮脇町

升之馬場へ付候方

一宮脇町武田屋前

坪井町

通り節へ付候方

右之通来月朔日申付候段御用番大目附へ申達候

一番賃銀取計是迄久山勘八豊岡藤十郎兩人之所以後者諸吟味役三人

江申付候間申合月番持ニ可取計之旨去ル十三日申渡候様大年寄へ

申付候

一久山勘八豊岡藤十郎數年勤巧ニ寄田町分番賃差免候様ニ相成候勤

巧之段我等賞置候様ニ大年寄江申付候

一龍吐水町方工面ものニ而相調度去九月二日相伺同日伺之通被仰

出勘定奉行下代広治江自分分相頼大坂へ申遣右代銀六百五拾貳匁

六分七厘玉置源五兵衛受取広治へ相渡置候処八匁三分同人ら差

戻即刻広治寄江差戻置候所右龍吐水去ル十八日致着船大年寄江相

渡候所今般之龍吐水ハ伏見町江預ケ置可申旨申出其通申付候尤是

迄龍吐水ニ水之手定而無之付不行届義も有之ニ付以後ハ左之通可

申付段其旨為差図

一伏見町江龍吐水預ケ 右水之手京町江申付

但伏見町ハ是迄團扇十本差出候所此度龍吐水申付

一新魚町龍吐水 右水之手元魚町

一鍛冶町龍吐水 右水之手坪井町

一東新町团扇拾九本差出来候所今般水之手ニ申付手桶預ケ候

右今般之龍吐水伏見町へ預ケ候事御用番大目附へ申達候

一正月人別出入左之通廿九日差出候

出生貳拾五人 男拾壹人 女拾四人 人別入八人

人別除壹人 死失拾貳人

右差引式拾人増

二月廿四日 曇

橋本町松田

一浪人もの致徘徊拙宅江も候由ニ付早速追立候様ニ目明江可申付旨

小頭江申付候

二月廿五日

一土岐山城守殿領分当国英田郡江見村定平娘東新町吉屋宇吉妻ニ引

受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附中江願書相渡置御聞届候旨

大年寄へ申達候

一左之通吉田屋文左衛門義者城州正法寺万人講ニ付惡事相巧天明元

丑年百敲之上生涯親類預ケ申付候処慎宜ニ付同八年他參留申付

有之蓬萊屋孫市者伏見や茂七打こわし之節其場頭取之趣ニ付天明

三卯年入牢申付同五年已年親類預ケ申付候処慎宜ニ付同八年方他

參留ニ付有之右兩人最早年月も過候事故他參留被差免候様奉伺候

処即刻伺之通相濟左之通大年寄へ申渡候

他參留差免候 中之町 吉田屋文左衛門

右同断 橋本町 蓬萊屋 孫市

右申渡相濟候段御用番大目附へ相届候

一去七月公義御座候而町方触者九月十二日差出候雲州日御崎

觀化左之通先触到着ニ付御用番大目附へ相届候

覚

一人足 三人 一輕尻 壹疋

右者明廿一日松江出立ニ付作州津山迄御免勸化用ニ付而罷出候

条駅々村々人馬宿等差支無之様御手合頼入候以上

雲州日御崎日置肥留

寛政五年丑二月廿日

駅々村々御役人中

一 東南条郡太田村勘兵衛忩勘之助并妻娘家内三人細工町平治引受人  
別入願書承り届ル

一 大坂立壳堀式丁目播磨屋惣吉菅人例年之通小間物卸壳參候段中之  
町小山屋与三右衛門宿切手差出候 五月廿三日備

一 備前小畑町鼠屋甚八一人例年之通元結御二罷越候段二階町堺屋伊  
右衛門宿切手差出候 四月十五日備ル

一 大坂北久太郎町堺筋松屋甚兵衛手代平兵衛一人例年之通小間物卸  
壳罷越候段二階町堺屋伊右衛門宿切手差出候 四月十五日備ル

一 安岡町染訴出候火付疑有之候林田上之町義八義不相分候間此俣ニ  
而御領分追放被仰付可然旨郡代与伺有之拙者義も名面書加差出候

事故一学殿与伺之通追弘被仰付候間申合勝手次第取計候様被仰聞  
候

一 雲州日御崎勸化人致着候段鳥屋与三兵衛与届出其段御用番大目附  
江も相届候 四月十六日備候段届出候

一 牢凌申出昼廻リ之者差向候処別条無之段届出候  
二月廿六日 快晴

一 他所大工入込ニ申付候義度々御内意奉伺候事故色々と存寄申聞候  
得共大工共不心得ニ而得心不致此上ハ無抛義ニ候間被差免候而も

可宜哉之旨去十二月七日弁書差出置候処当月七日御作事奉行勘定  
奉行弁書黒田織江与相相渡存寄申上候様被申聞依之被仰出候処先

ツ上之御仕向御改被成候上ニ而下之不出精を御糺可被成と被仰出

候者至極御尤之節と去ル十日弁書差出候処一学殿与矢張昨年申上  
候通ニ他所大工入込ニ取計候様被仰渡昨年差出置候弁書御返し被

成依之昨年談懸置候備前建部之大工茂七江久山勘八を以懸合候所  
無抛筋申立断申越右ニ付尚又相考候得者是迄在方ハ入込ニ候得共

メリ方申付も無之候而も不埒之義も無之候得者結句棟梁等申付候  
者地大工相手取候ものも出来始終上之御手不離類候ものも此後備

前大工不宜筋も有之候ハ、上江もたれば是可申筋ニ付双方共御構  
不被成方可宜哉と存候付其旨昨廿六日弁書を以相同候処可取計之

旨即刻一学殿与被仰渡仍之左之通大工呼出申渡并他所大工入込ニ  
申付候段町触も差出候

棟梁伊兵衛 組頭重右衛門 同彦左衛門 同新六 同藤吉

同治助

以下平大工 新兵衛 義助 源藏 与十郎 藤右衛門 喜兵衛 喜

其方共不出精ニ 次郎 定吉 伝治郎 六太郎 忠五郎 吉五郎 惣兵

付世上之差支ニ 衛 善七 利八 伝吉 半兵衛 久吉 太助 佐助

者難替他所大工 藤助 平三郎 長治 弥五郎 茂右衛門 多七 伊助

入込申付候以後 致出精候ハ、昨 多吉 政五郎 伊右衛門 庄兵衛 庄藏 久治 嘉

今迄之通他所大 工差留可遣候 左衛門 善助 利兵衛 六郎右衛門 幸右衛門 伝藏

右申渡濟候段御用番并大目附へ相届候申渡ハ別帳記ス

一 植村正助在中講尺昨日迄ニ而相濟今夕与町講尺相始候段昨日豊屋

喜左衛門与申出其段御用番并大目附江相達置候右ニ付町方取計ハ

先格之通ニ申付候様喜左衛門へ申付候

一 今般御厄年御祝警女座頭江被下候段配當場江申渡置候処今日配分可致旨ニ付昨日組頭共参込於他国者御受役御祝と并御厄年御祝

二 ツ被下置既ニ三浦志摩守殿ニ而も右之通ニ頂戴仕候間絶而頂戴仕度配當場共を以大年寄へ願出候得共今般者格別之思召を以御家格ニ者無之処不願出内ニ被下置候程之義ニ候得者二ツ被下候義ハ不相成段大年寄江申付候処猶又夜前左候ハ、未淑姫君様御結納御祝不被下候間何卒此度一所ニ被下置候様惣座頭共願出候段申出右

者未此方様江者江戸表を通用無之事故通用有之次第被下候事と申聞候得とも何卒一応伺具候様ニ大年寄共も申候ニ付夜前一学殿江右之段申上候所御用状并書上ケ類御吟味被仰付候処去八月廿六日淑姫君様御義尾州五郎太様江御縁談被為濟候義者書上ケニ有之候得共御結納之義者未不申参候間近日飛脚之節江戸表江御尋被遣右返書参候ハ、有無共ニ可申聞相濟候事ニ候得者最早不願出内是右可被下旨急度申渡候様一学殿御差函ニ付其段孫右衛門へ申付万一不相用六ヶ敷申候ハ、人足を付一人つゝ送出候様ニ申渡候

一 河原町東側大工屋治右衛門家屋敷表口四間裏行拾七間但半役也南隣者友屋治助北隣ハ伏見町堺大溝也右家屋敷三百七拾九ニ町内田中屋喜七江売渡度願書差出承り届ル 三月五日売券状出ス

一 永井甚太郎長屋ニ居候佐助并同人母右二人三丁目南屋龜藏引受人別入願差出承り届ル

一 安岡町刻屋佐七義小嶋新五右衛門へ奉公ニ罷出人別離居候処今般病身ニ付暇貫罷帰候間又々人別入願書差出承届ル

一 中之町北側阿部周見家屋敷表口八間裏行拾七間但本役也西隣ハ平

岡屋忠右衛門借屋桶屋茂兵衛東ハ横丁通也右家屋敷壹貫八百匁ニ細工町指物屋勘之助へ売渡度願書差出承り届ル 同晦日売券状差出候

二月廿七日 雨

一 座頭共御祝義被下昨日之通稠敷申付置候座頭共被仰出候趣奉畏御請申出候段夜前五ツ時比大年寄申出其旨今日御用番并大目附へ申達候

一 造酒屋共江酒直段願之通御許容被成候事ニ候得者以後ハ別而入念頭司酒計ニ致迄少も奸曲為致不申候様ニ稠敷風義相改候様申付候処依之造酒屋共請一札差出候付御用番へ及御噂候

一 三浦志摩守殿領分真嶋郡勝山町且元碩役介伝助妻悻右三人今津屋孫十郎小性町借屋ニ居候しち養子ニ引受度人別入願差出御用番御聞濟ニ付右願書大目附へ相渡置御聞届申達候 三月朔日住宅証文出ル

一 西今町三倉屋栄治家屋敷去子四月質入ニ奉願候処此度請返し相濟候段届書差出候

一 下紺屋町紙屋庄五郎借屋ニ居候作人伝助同人母并妹三人牢番内田利兵衛方へ引受候ニ付人別離願出承り届ル

一 一乘院万性院来月七日金毘羅参詣願書差出承り届ル 同七日万性院義病氣ニ付不参段断出候二月十三日補

一 上紺屋町円乘院并悻教円坊召連金毘羅参詣之願書差出承り届ル 二月廿八日 快晴

一 桶屋町大坂屋次郎左衛門彦市と改号願差出承り届ル

一 西新町富野屋定七方江去ル廿六日之夕盜賊這入錢箱売酒等盜取候段届書差出即刻右吟味目明へ申付候様又六江申付候右之段翌廿九

日御用番御大目附へ相届候

一番賃銀百五匁二月大之月ノ豊岡藤十郎差出候

一植村正助明昼ノ前訓読候段大年寄届出候

二月廿九日 快晴

一配當場今般御厄年御祝頂戴之御請書一昨日差出御用番中江持出口達ニ而及御沙駄(さだ)右請書大目附へ相渡置候

一東新町紺屋長次郎五十四歳罷成候所六拾六部廻国ニ五年計之逗留ニ而来月四日罷出度願差出届(つ)届ル

一京町北側ニ而河原町屋根屋平兵衛持家屋敷表口三間半裏行御堀切但半役也東隣ハ畳屋ふん西隣ハ二文字屋嘉左衛門右家屋敷代銀四百六拾五匁ニ河原町作人又四郎江壳渡度願書差出承り届尤数年京

町阿波屋と出入ニ相成去ル廿日入札ニ申付候家也 翌日壳券状差出候

一町医高島道友と申外科宇田川玄随推挙ニ而今日登城御目見仕御そ  
一豆御療治被仰付候段右養油屋与三兵衛申出候段大年寄申出候

二月晦日 快晴

一関貫番實例月之通受取ニ出相渡其内小川宮部横町番人要助去ル廿日之夕番所明ケ依之三夜分過料老々八歩引落相渡闕所銀之内へ入置

一吹屋町熱田數馬金毘羅參詣願書出承り届ル 三月十一日掃ル

一西今町三倉屋栄治家屋敷南側ニ而表口六間裏行拾五間但六分六厘役也西隣ハ小嶋屋孫二郎東隣ハ檜物屋八郎兵衛也右家屋敷之内東

之方表口三間裏行拾五間并裏ニ而東西間半南北八間相添外ニ土蔵二ヶ所付御役三分三厘ニ町内永田屋喜七ハ三貫七百匁ニ壳渡申

度願書差出承り届ル 三月二日壳券状出ル

一茅町大工七郎右衛門義先月四日之夕於新屋敷完業者文七と六三郎と申もの殺し右喧嘩一件ニ付六三郎と七郎右衛門脇差預り候由宗

永寺前二助と申もの差口有之ニ付其砌る組合預ケ申付置候処寺社取次藤本十兵衛と右大工七郎右衛門致吟味吳候様演説有之右一件

吟味書不殘相廻候付例之通之立合ニ而右大工七郎右衛門呼出遂吟味候処正月四日之昼文七六三郎と申分有之取扱筋立置七時過比罷

帰其後之義一向不存旨尤脇差六三郎と預候義ハ決而無之旨申候ニ付口書印形申付候右口書藤本十兵衛へ相渡

一河原町社官熱田市正金毘羅參詣願書差出承り届ル 三月十三日掃

一鍛冶町北側東横丁鍛冶治郎兵衛家屋敷表口巷間半裏行五間半老歩式厘役南隣ハ鍛冶喜助北隣ハ鍛冶治郎兵衛所持之家屋敷也右家屋敷式百六拾匁ニ相極同町鍛冶喜平次江壳渡度願書差出承り届 三月六日壳券状出ル

一福渡町南側中嶋屋龜吉家屋敷表口四間裏行拾七間但老軒役也西隣ハ作人岩之助東隣ハ作人宇兵衛右家屋敷七百五拾匁ニ相極同町西

田屋忠助江壳渡申度願書差出承り届ル 三月十六日壳券状差出

一西新町英田屋新治郎借屋ニ瓜生原村伊八と申もの去子ノ二月ノ無願差置尚又右伊八方江同村三十郎と申もの致逗留同町富野屋定七

方盜賊疑有之ニ付相觸屋廻之者差向為相糺候処無相違ニ付組合預ケニ申付置

三月

月番

御家老 永見造酒殿

御年寄 小須賀一学殿

大目附 太田舍人

大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 久山勘八

三月朔甲午旦

一例之通裏付上下着用五半時登城宮嶋之間例之通御目見申上早而七  
 間廊下御小性頭謁若殿様江当日御祝義申上早而御用所江罷出当日  
 御祝儀申述之織江殿極人殿左司馬殿江御祝申述之統而御用向弁之  
 一芝居奉願度旨大年寄申出先月廿三日一学殿江御内意相同候処願書  
 差出相同可申旨被申聞又々近例無之事ニ候得共市中ニ而興行為仕  
 度大年寄申出同廿五日其段相同候処市中ニ而芝居致候共不苦義ニ  
 候間場所ハ勝手次第可願旨去ル廿七日一学殿御差図ニ付其旨大年  
 寄へ及差図候所吹屋町西南詰ニおゐて晴天十五日南京操芝居興行  
 仕度旨ニ階町品屋恵十郎願書去ル廿九日差出置候所御許容被仰付  
 候旨被仰出右願書大目附へ相渡置御聞届之旨大年寄へ申達候尤右  
 之通於市中而芝居致候近例無之享保廿一年辰年四月二階町於燒跡  
 致興行候後無之事故火之元等之義ハ別而入念龍吐水杯も致用意置  
 諸吟味等出役等も為仕可申段申出候趣申上置之尤今般之芝居ハ大  
 保頭共近年御用向繁一向手当等も無之難相勤ニ付内分ハ右大保頭

六人江申付候事ニ候段内意承置候

一御厄年御祝町方人別卷匆つ、被下相渡濟候段大年寄諸取証文左之  
 通差出致奥書勘定奉行へ相渡先日之内貸不足五百九匆受取大年寄  
 へ相渡候

合銀札七貫五百五拾九匆也

内七貫四百三拾四匆

町分人別七千四百三拾四人  
 内男三千九百三拾老人 女三千五百三人

右之内訳

百 式拾五匆

百 非人百式拾五人

内男五拾四人 女七拾老人

- 一東新町 四百三拾匆
- 一中之町 式百九拾壹匆
- 一林田町 百九拾四匆
- 一材木町 百九拾壹匆
- 一京町 三百三拾壹匆
- 一二階町 三百七匆
- 一式丁目 九拾三匆
- 一坪井町 式百七匆
- 一西今町 三百九拾三匆
- 一安岡町 三百五拾七匆
- 一上紺屋町 式百五匆
- 一鍛冶町 式百七拾六匆
- 一福渡町 式百七拾三匆
- 一新職人町 百式拾七匆
- 一西新町 式百八拾九匆
- 一勝間田町 百拾匆
- 一橋本町 八拾七匆
- 一伏見町 百八拾三匆
- 一堺町 百五拾九匆
- 一元魚町 三百六拾七匆
- 一三丁目 百七拾八匆
- 一宮脇町 七拾九匆
- 一茅町 百五拾匆
- 一細工町 八拾九匆
- 一下紺屋町 百四拾式匆
- 一美濃職人町 百六拾匆
- 一戸川町 式百九拾三匆
- 一新魚町 三百六拾壹匆

一 桶屋町 百九拾九匁 一 小性町 貳百四匁

一 吹屋町 貳百五拾八匁 一 船頭町 三百四拾三匁

一 河原町 百八匁 一 七貫四百三拾四匁

一 西新町木和屋源兵衛京都二文字屋九兵衛方へ往来四十日計逗留ニ

而罷越度願書承り届ル 四月十四日帰ル

一 御蔵米八拾三匁米七拾九匁

一 小原村辰之助方へ去月廿二日盜賊這入衣類七品盜取候ニ付町触取計候様太田舍人届書被相渡町触取計候届書追而差戻ス

一 番質銀本証文差出百六拾六匁八分六厘四毛受取大年寄へ相渡

一 孤独扶持本証文差出四百八拾四匁七分五厘孫右衛門差出候

一 黒田織江殿御年寄当役海老原極人大橋左司馬殿御年寄見習被仰付候付町方江為知触差出候

三月二日 快晴 昼後曇夜雨

一 来ル十八日御発駕被遊候ニ相極御道中御条目虎之間ニ御出被置候

間御供之面々拜見可仕旨御触到来

一 堺町小泉主水金毘羅參詣願書差出 同十三日帰ル

一 近々吹屋町西南詰ニ而見セ物有之候間御家中下々迄見物御停止之

御触到来

一 大豆百俵高瀬屋勘右衛門船積申出新治重助改

一 小麦三拾俵大村屋源右衛門船積申出新治重助改

一 小麦三拾俵空豆四俵小豆拾八俵今津屋孫十郎船積申出新治重助改

三月三日 雨

一 上巳之御祝義五半時揃惣登城於宮嶋間式日之通御家老中御取合ニ

而御目見御祝義申上早而三奉行一同ニ御用所江罷出上巳之御祝義申上候段当役之述之今日者御用日ニ付直ニ御用向弁之席上之引取り引懸ニ大目附役所ニ而上巳之挨拶述之早而於七間廊下御小性頭謁若殿様江御祝義申上之

一 船頭町高松屋利助後家かん願書養子武兵衛義四年已前借金増長ニ付致出奔借金方数多致出訴武兵衛義永尋申付置依之家財封印いたし置候所未武兵衛行衛不相知候得共扱人有之借金方自他共ニ不殘八年賦ニ内済相整候ニ付家財封御差免被下候様借金方之済口一札差添願書差出右願書大目附へ相渡置翌四日御聞届申達同六日部屋目附差向諸吟味立合封印開キ相渡候

一 早川八郎左衛門殿支配所当国西々条郡下原村幾右衛門從弟庄七義福渡町浜野屋嘉市郎家守忠助引受人別人願書御用所御聞済ニ付大目附へ相渡置翌四日御聞届之旨申達候 三月十三日住宅証文差出候三月改ニ入

一 植村正助町講尺昨夜迄ニ而相仕廻候段正助申出候間御用所大目附へ申達候

一 安岡町大坂屋喜代八借銀出入五百匁古川村之もの六百匁又貳百匁布原村之もの江貸置右三通証文写を以筋立候様願出郡代中江相渡候処筋立候様可申付候旨被申聞其段大年寄へ申達候

三月四日 雨

一 雲州日御崎勸化寺社取次江願出勸化取集貫度ニ付市郷共懸リ之役人被仰付被下候様願出候由ニ而御用所何も済候由右ニ付大年寄大庄屋ニ懸リ申付候様ニ演説可致粟井郷左衛門之差圖之旨藤本十兵

衛之演説有之依之藏合孫左衛門呼出し右勸化懸り申付候対談可致旨申付候

一播州細月嶋津友三郎伯父藤左衛門と申もの斎藤孫右衛門方江參候付五月迄逗留為仕度願書差出承り届ル 六月六日辨ル

三月五日 雨

一新職人町年寄老人ニ付塗師八郎右衛門年寄帰役申付度大年寄申出其旨及差函

一斎藤孫右衛門娘病氣ニ付京都室町通水上ル青沼宥広方へ五十日計之逗留ニ而召連罷越度願差出御用所御聞濟ニ付願書大目附へ相渡置御聞届之旨大年寄へ申渡候

一御発駕ニ付諸事先格之通可申付旨御用所江相伺候処御聞濟ニ付其旨宜申付取計候様大年寄へ申付候

一船株札五拾四枚取上ケ元之通相認夫々印形相改役所焼印致夫々江相渡候様大年寄へ申付相渡候

一土井大炊頭殿領分当国之内久米南条郡松村藤三郎悴庄吉義茅町坂本屋宇右衛門引受人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ渡置御聞届申渡候同廿九日住宅証文差出候

一目明扶持三拾六匁九分非人扶持五拾四匁五分証文致印形  
一川下大切手例月之通致裏印

一備前国赤坂郡周迺村庄之助姪札元山本甚蔵妻ニ引受度人別人願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡同九日御聞届申達候 (附)

一二階町山手屋弥太郎家守忠助借屋ニ居候せん井同人娘右兩人金田伊右衛門長屋へ引越度ニ付人別離願承り届ル

一京町菊屋清左衛門亮用ニ付大坂道修町伏見屋吉兵衛方江三十日計之逗留ニ而七日出立仕度願書承り届ル 同廿六日辨ル

一東新町安長屋武助義大坂心斎橋筋玉子屋九兵衛方へ廿日計之逗留ニ而来ル十日出立願書承り届ル

一御用所来ル十五日日勤ニ相成管子講尺九日切ニ相成候段大目附中演説有之

一御発駕ニ付町方取計先格左之通大年寄申出候

一京町と東新町迄御道筋見分之事

一二階町と材木町迄御堀側石垣草取之事

一御触書出候事

一御当日ハ勿論前日翌日共別而火之元入念候様非人頭江申付候事

一宿馬被仰出候事

一寄せ馬人馬問屋と伺出候上可申上事

一兼田渡場土橋ニ而相濟可申哉之事

一御先手頭御立宿京町

一御先立御立宿京町

一御徒目附中御下目附中差懸り立宿申来候ハ、取計可申事京町

一諸奉行所御立宿茂渡藤右衛門御供下宿東新町

一御立之砌往還之者兩人松之段御懸り京橋御懸り

一御当日前夜材木町東入口二階町上下元魚町上下戸川町鍛冶町東

巷ケ所右町々関貫小門夜中開置候間立番可申付事

一御当日御通相濟候迄京町と東新町迄之内糞シ持運ひ無用之事

一御立被為遊候後早々御悦御帳付夫々江申達候事

三月六日 晴

一元魚町京屋佐市京都鳥丸通六角下ルニ文字屋九兵衛へ三十日計之逗留ニ而罷越度願承り届ル

一二階町伊勢屋庄左衛門京都麩屋町四条下ル近江屋六三郎方へ往来

三十日計之逗留ニ而罷越度願書承り届 四月朔日帰ル

一京町米子屋文次郎大坂心斎橋梶木町玉子屋九兵衛方へ四十五日計之逗留ニ而明七日出立願承り届ル 四月四日帰ル

一京町田戸屋惣十郎紀州黒江備前屋七左衛門方へ四十五日計之逗留ニ而明七日出立願承り届ル 五月二日帰ル

一西今町公文屋清左衛門大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十日計之逗留ニ而明七日出立願差出承り届ル

一西今町永の屋和兵衛撰州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ四十日計逗留ニ而明七日出立願承り届ル 四月五日帰ル

一二階町河内屋金右衛門讃州金毘羅江参詣往来七日逗留ニ而明七日出立願承り届ル 同十四日帰届有之

三月七日 曇

一二階町豊屋喜左衛門家守新吉借屋ニ居候仕立屋吉三郎娘義森対馬守殿御預り所当国勝南郡河面村伊助嫁ニ差遣度人別離願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達候

一河原町御中間平助後家訴状差上候ニ付太田舎人殿を被相渡右ハ養育致候もの無之及飢渴并近隣之者打殺可申旨ニ付願出候依之相糺候処元來他所ものニ而未人別人も不致候得共平助ハ家持ニ而今ニ右家屋敷ニ住居候処半乱心ニ付度々養子いたし候得共及離縁此節

中間株を護り右株代拾七俵計も有之右之内ニ而借屋等有之組合年寄之世話を以凌居候故當時御救被下候ニ者不及候得共始終者孤独もの故御救可被下ものニ御座候段付紙を以右訴状太田舎人へ差戻候

一御発駕御道見分小頭大年寄諸吟味申付候処見届候段申出候尤京町材木町辺裏御堀端塀無之処有之ニ付急ニ垣ニ而も拵置追而塀ニ致直候様ニ源五兵衛へ申付候

一御厄年御祝ニ付罪人御赦之義郡代中と申合連名ニ而申上候処御一己之義ニ付不仁を御扶被成善人之妨ニ可被成筋ニ而者無之候間御厄年ニ付御赦と申義ハ不被仰付候旨一学殿御申達有之候段治部助ニ通用有之

一黒田織江要人と改号之段大目附ニ通用有之町触差出候

一嶋田辰之丞長屋ニ居候茂七と申もの二階町鳥屋金蔵引受人別人願承り届ル

一西新町広瀬屋新右衛門義此度細江武助へ奉公仕来寅五月迄在府仕度願書差出承り届ル 翌寅五月廿八日帰届有之

一西今町岩見屋伊左衛門金毘羅参詣願承り届

一御用之義有之候ニ付明五時出仕候様ニ玉置卯左衛門へ奉書差遣候稻実屋義十郎美濃出屋清右衛門召出候様大年寄へ切紙差遣詰合之面々罷出候様申達候

三月八日 雨

一昨日御用所大目附太田舎人出席ニ而小須賀一学殿を左之通被仰渡尤今日惠吉忌日ニ付今日申渡候様演達有之依之今朝五時呼出申渡

候右申渡相濟候段御用番大目附江相届候

町奉行江

玉置卯左衛門亡父惠吉義代々奉蒙御国恩候ニ付御書物代銀千枚  
差出御書物御買上御国中之者江拜借被仰付被下置候様仕度旨遣

書相残置候ニ付俸卯左衛門ノ願出候願之通被仰付候間右銀子可

致上納候玉置卯左衛門義亡父惠吉願之趣寄特之事ニ候依之永代

別段ニ三人扶持被下之御合印門松帶刀共ニ被差免候

稻実屋義七郎美濃出屋清右衛門義右同断寄特之事ニ候依之一代

切門松被差免三人扶持被下之候

右之趣銘々ニ御書付相認卯左衛門義ハ於座敷小頭大年寄諸吟味詰

合ニ而申渡義七郎清右衛門義ハ於玄關小頭部屋目附大年寄諸吟味

詰合ニ而申渡之三人共御書付相渡右者当二月五日玉置卯左衛門義

亡父惠吉遺言ニ而銀子四拾八貫匁余差上書物御買上被成御貸渡被

下候様仕度念願之旨口上書并遺書差添大年寄玉置源五兵衛差出候

ニ付御用番小須賀一学殿江差出置候処右之通被仰出候

一西新町大黒屋源右衛門弟又七義此度御雇御使組ニ而宇多四郎兵衛

供ニ出府仕度尤五月中旬罷帰可申旨願差出承り届ル

一御発駕ニ付例年之通町触書差出候

三月九日 快晴

一戸川町竹本屋みよ借屋ニ居候音四郎義去子十一月十三日不斗罷出

不罷帰候段届出其砌百日尋申付置候処<sub>行</sub>不衛不相知候段申出右ニ付

人別離願出御用番御聞届ニ付右届書大目附へ相渡置御聞濟之段申

達候

一林田村分上之町悪水拔大溝凌例年之通東新町西新町中之町三町組

頭共ノ願書差出郡代所<sub>江</sub>及懸合候処向方<sub>ハ</sub>御沙駄<sub>ハ</sub>不及候間当

役所<sub>ハ</sub>及御沙駄御聞濟ニ候ハ、可申付段挨拶有之ニ付御用番中へ

相伺候処御聞濟ニ付右届書大目附へ相渡置郡代へ及通用御聞届之

段申渡候

一新屋敷ニ而当月四日完票もの文七と申ものを打殺候六三郎宇吉

并船頭町又治義尋目明非人ニ組迄差出近国迄為相尋候処行衛不相

知段申出并茅町大工七郎右衛門義右懸合之旨宗永寺前二助と申も

の差口ニ付組合預ケ申付置候所右之通兩人不出義故不相分ニ付右

六三郎宇吉又治永尋申付大工七郎右衛門義も組合預ケ差免可申旨

同書差出候処伺之通取計候様去ル七日平井郷左衛門ノ通達有之依

之左之通申渡候

一小頭江目明并非人頭呼出部屋目附立合ニ而六三郎宇吉并船頭

町又治永尋申付候間不捨置急度相尋候様ニ可申付段申付候

一 大年寄へ茅町大工七郎右衛門組合預ケ差免候間此段可申達并

船頭町又治永尋申付候間其段組合共江可申付段申付候

一郡代ノ穢多清吉茂兵衛甚吉市兵衛仁三郎甚蔵右六人出牢差紙来り

并林田村佐右衛門入牢差紙来牢出入立合新治差向差紙為持遣

一於御用所左之通大目附出席ニ而被仰渡候

町奉行江

三船八郎右衛門義札元役申付候御擬作三人扶持被下之候此段

可申渡候

右ニ付奉書差遣小頭大年寄諸吟味詰合ニ而申渡相濟候段御用番并

大目附へ相届候

一御用達諸吟味座順之義伺置候段伺之通被仰出候段一学殿へ被仰渡候付左之通書付大年寄へ相渡

中之口御目見之座順以後ハ諸吟味御用達御蔵元と御改被仰出候  
此段可相心得候

一西新町英田屋新治郎借屋ニ去子二月ハ瓜生原村伊八と申もの無願先月迄差置右伊八方ニ猶又同村烏散成者三十郎と申もの差留候由富野屋定吉方盜賊之義ニ付相預遂吟味候処不埒ニ付左之通相伺候所伺之通被仰出左之通申渡候様大年寄へ申渡小頭部や目附差向候

瓜生原人別伊八と申もの無願

西新町英田屋

新治郎

借屋ニ差置其上右伊八方ニ烏

散成もの差留不埒ニ候依之追込申付候

但追込五日同十四日追込差免候段向所江相届候

右之通心付薄等閑之至

右組合 不残

依之急度叱申付以後入

右町年寄不残

念候様ニ申付候

右ハ大年寄宅ニおゐて申渡候取計相濟候段御用番并大目附へ相届候

一河原町屋根屋後家京町阿波屋弥兵衛後家家質出入相對ニ而右家屋敷売七三分三ニ致配分候様申付置候処右家四百六拾五匁ニ売払双方配分相濟候段濟口一札差出依之兼而伺置候通左之通大年寄宅ニおゐて小頭部屋目附差向申付候

内濟申付候得共不相用

河原町屋根屋

双方無証拠之義申立

不埒ニ候依之追込申付候

但追込五日同十四日差免候段相届候

平兵衛娘まき

京町阿波屋

弥兵衛後家

右申渡候段御用番并大目附へ相届候

一盜賊与吉御仕置御発駕余日無之御道中之御間ハ差延候先例ニ付御参府後迄差延可申哉之旨伺出先月廿七日差出置候処伺之通取計候様被仰渡候

一火付差口有之林田上之町義八追払并借牢竹田長婦村申付候間右兩人出牢郡代申来今朝為取計候尤牢番預ケニ付差紙無之

一御発駕御道中荷物重く通馬難洪ニ付式疋計増馬被仰付被下候様問屋共ハ歎書差出候得とも難取上筋ニ付荷物ハ軽分通馬ニ可申付候間先今般ハ彼是不申参候様押而申付候尤勘定奉行江も懸合置今年弥難洪候趣ニも有之候ハ、其節評義可致申付置候所勘定奉行申ハ馬数三拾六疋内拾疋伏見迄通馬之由被申聞其旨大年寄へ申達寄馬数調出候様申付候

一新魚町三津屋胡三郎家守吉五郎借屋ニ居候五百助と申もの御中間ニ被召抱候付人別離願書承り届

一御発駕ニ而京町堺町材木町伏見町御堀石垣草取来ル十二日ニ取計候間杖突御出被下候様ニ申出大目附へ相届候

一今日者御首途御祝儀ニ付御供方之面々麻上下ニ而出仕候得共日参御役人の方ハ御構無之平日之通也

三月十日 曇

一来ル十五日御発駕前ニ付御目見被仰付候間御徒格以上且又御目見

相濟候十五才以下家督并部屋住猶又小從人已上之隱居之麻上下十  
德ニ而登城可有之御発駕御帰城前ニ家督番代跡式名跡御加増格昇  
進役義役替兼役被召出等被仰付右御礼不申上候内たり共御見送り  
御出迎等罷出候様被仰出候御触到来尤以來ハ此旨御触無之候間相  
心得候様御奏者番中より御触到来

一御発駕ニ付火之用心并酒之義御城内可為群集候間可相慎先格之通  
之御触大目附江到来支配方江相触候

一明十一日五半時御供揃ニ而地藏院泰安寺本源寺へ御社参御仏詣被  
仰出但服忌断之旨中奥目附藤堂忠右衛門江申来小頭并大年寄へ例  
之通取計候様申達候

一御発駕之砌御先手物頭立宿賄之義物頭中存寄も無之候ハ、昨年江  
定之通禁酒香物湯漬ニ可申付之旨佐藤彦右衛門江懸合候処何之存  
寄も無之同意之旨返答有之候ニ付其旨大年寄へ申付候

一御発駕之砌川部土橋御通行之義大年寄伺出郡代中江懸合候処御氣  
遣無之旨返答ニ付其旨申付候

三月十一日 雨

一京町瀧山屋惣兵衛御堀端塀覆修覆仕候ニ付御堀江足代下し度願書  
差出大目附江差出候処勝手次第御作事へ申出取繕候様被申聞其段  
申達候

一札元玉置卯左衛門義願之通銀千枚上納被仰付難有奉存候然ル所患  
吉後之遣書ニ而金八百両と有之其通用意仕候間何卒此上之乍義患  
吉心願之通八百両御取上被下置候様大年寄を以願出其旨去ル九日  
御用番へ申上置候処最早被仰渡も相濟候事故矢張銀千枚差上候様

取計可申旨被仰渡其旨大年寄へ申渡候

一御発駕ニ付諸事一昨年之通取計候様大目附中江通用有之候

一御発駕ニ付伏見迄通馬拾壱疋勝間田佐用細月辺迄之次馬式拾五疋  
之由御道中役所江之書付勘定奉行江被相廻大年寄へ相渡候処外ニ  
宿用意馬三疋入用ニ付拾四疋寄セ馬願出其段郡代江申達大目附中  
江も及噂候

一朱墨人別増減改書郡代所ニ而仕立今日御用取次を以郡代江差上候

一西今町魅屋元治郎信濃善光寺へ参詣往来四十日逗留願出承り届ル  
四月廿九日罷帰候段届出候

一大坂玉水町尾張屋七兵衛手代又右衛門御用ニ付罷越候段京町綿屋

源七後家宿切手差出候

一西新町庚申六月廿六日受渡し済南側広瀬屋新右衛門家屋敷表口式間半裏行拾式間但式歩半  
役也西隣ハ升屋長治郎東隣ハ藤屋清助并外ニ長屋一ヶ所立物不残  
質物ニ書入同町玉屋栄蔵取次ニ而百五拾匁借受当丑三月江来寅二  
月切式割之利足ニ相極致借用度願差出承り届ル 同廿八日一札差出候

三月十二日 曇

一物社宮市町ニ而近々見せ物有之候間参候義御停止之御触到来写取  
小頭へ相渡候

一播州網干丸尾屋六三郎一人例年之通荒物塩物卸売ニ来候段中之町

小山屋与三右衛門宿切手差出候 六月十四日掃

一播州網干平松屋惣九郎一人例年之通晒蠟売ニ来候段中之町小山屋  
与三右衛門宿切手差出候 六月十四日掃

一播州網干余陸屋武兵衛一人例年之通八百屋物鯉節売ニ来候段中之

町小山屋与三右衛門宿切手差出候 六月十四日届

一信州木曾筑鹿郡敷原宿古屋善吉一人例年之通木櫛卸売ニ来候段中

之町小山屋与三右衛門宿切手差出候五月廿三日届

一吹屋町釜屋藤次郎借屋ニ居候作人吉右衛門妻悴娘家内四人西北条

郡広原分采源と申尼方へ引越候ニ付人別離願出承り届ル

一 下紺屋町長江長庵大坂玉子屋九兵衛方へ六十日之逗留ニ而罷越度

願書承り届ル

一市村但見長屋ニ居候くと申もの下紺屋町作人吉兵衛引受人別人

願差出承り届ル

三月十三日 快晴

一雲州日御崎勸化銀五枚ニ仕切蔵合場合ニ而取替相渡相濟候段請取

書取差出候付右受取書蔵合江差戻置候此段明後日席ニ御用番大目

附へ可為噂候尤向方る頼ニ付勸化帳ニ者銀拾枚と記遣候其段も一

札取置候也

一安岡町岡崎屋善吉後家と岡崎屋伊兵衛出入一件願書差出候付致内

濟候様ニ大年寄へ申達候

一惣社宮市町之間小屋之もの六七人程人形万歳為仕候ニ付右せ話被

相頼候ニ付彼地へ罷越せ話役仕度旨元魚町小原屋新治願書差出寺

社取次藤本十兵衛へ引合之上聞届申達候 同十五日一札差出

一堀田相模守殿領分当国勝南郡新田村伊惣次悴安之丞義西今町橋本

屋義八養子ニ引受人別人願書御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置御

聞届申達候 同十九日住宅証文差出候

一三船八郎右衛門印鑑大年寄差出候

一御中間平助後家訴状遂吟味候処御取上ニ不及段御用所江書付を以  
差戻候

一植村正助町講尺入用三拾卷九分五厘諸吟味る小手形差出拙者証

文相認小手形添勘定奉行へ相渡置候処今日相廻り相渡候置候処豊

屋喜左衛門ら受取書差出候

一今般芝居等も来候事別而博奕相開候而者不相濟候間敵敷申触候様

ニ大年寄へ申達候

三月十四日 雨

一茅町木屋伊右衛門悴亀之助義二月朔日勘当仕置候処伯母響宮脇町

佐渡屋八左衛門方へ立帰リ致酔狂候段町内ら届出番孫八文蔵差

遣召捕<sup>取替</sup>牢番預<sup>取替</sup>テ申付翌十五日御用所大目附へ相届候<sup>取替</sup>入牢<sup>取替</sup>

一河原町屋根屋平兵衛後家京町阿渡屋弥兵衛後家西新町英田屋新治

郎追込昨日ニ而五日ニ相成候付今朝差免候段御用所大目附江相届

候

三月十五日 快晴

一御発駕前御目見被仰付候ニ付式日御祝義申上無之御用所初隠居部

屋住御從格以上麻上下着用五半時惣出仕但今日者御用所大目附三

奉行者御発駕前御目見者無御座来ル十七日ニ御目見被仰付候由也

併麻上下八着用仕候事

一於宮嶋之間御上段御留<sup>御留</sup>主中御用向被仰置候ニ付御用所大目附三奉

行一役つ、御為召御前江罷出候尤大目附中相濟町奉行勘定奉行郡

代と御役順罷出候但例之御礼席へ罷出平伏仕御意ニ随ひ御上段際

迄罷出候尤七間廊下段之下り口ニ脇差脱置候事

一吹屋町西南詰ニ而南京操芸居奉願候処右場所無拋故障出来ニ付河原町明地ニ而興行仕度場所替之願書差出御用所御聞濟ニ付其旨大目附江相届置御聞濟候段大年寄江申達候

一雲州日御崎勸化町方之分寺社共ニ銀五枚差遣受取書取置相濟候段御用所并大目附へ相届候

一大橋左司馬殿十太夫と御改号之旨大目附る通用有之町方江相触候但是迄当役ニ而無之候得者町方へ触ハ不差出例ニ候得共見習被仰付候節も触書差出殊ニ大目附る通用有之義故町触差出候

一河原町御中間平助後家訴状去ル七日糺書差添太田舍人江差出候処一学殿る申上之通先被捨置候ニ付右訴状御渡被成候

一惣社宮市町之間小屋之者人形万歳引受致せ話候ニ付右請一札元魚町小原屋新治差出候段大年寄差出候

一御蔵米八拾四匁 町米八拾匁

三月十六日 晴

一御大名様并御代官公儀御役人当町御通行取計書日記書抜小須賀貢

江差出候

一惣社宮見せ物今日より相始候段勸進元届出出番兩人差出候様ニ小頭江申付大目附江其段相届候御用所江者不相届候尤古格ハ初日ならてハ警固不差出筈之処今日者不案内ニ而相届候故差出候

一大豆六拾九俵小麦五俵瓜生原屋平吉川下申出定治元蔵改

一大豆八拾俵小麦四俵瓜生原屋惣兵衛川下申出定治元蔵改

一勝間田土居駅る例年之通御通行之砌宿馬廿疋差越呉候様ニ申越承知之旨及返書例年之通駄賃ハ其御地ニ而御相對ニ被成候様申出候

一段大年寄申出候

一芝居も来候事故別而博奕之義嚴敷申付候様大年寄へ申付候

三月十七日 雨

一明日御発駕被遊候ニ付御用所槍之間大目附三奉行御目見被仰付候付麻上下着用五半時出仕於宮嶋之間御用所大目附三奉行槍之間御供御用所と順々御目見御手熨斗鮑被下之候平日之御目見江之通植

木左士近藤伊左衛門増見右門三人一同ニ宮嶋之間御縁座敷真中之御量目ニ而御目見御家老中取合御機嫌克御発駕被遊候ニ付恐悦何連も申上候旨被申上平伏仕早而左之方へ膝を向ケ脇差を脱シ御側

へ摺寄御熨斗頂戴之上席立候得者御意を不待直ニ脱釵し扣途中ニ而入替り位ニ罷立頂戴之場座シテ脇差を指し又一同平伏仕其時何連も息才ニと御意有之早而下座を退出右頂戴御礼并恐悦申上ハ無之事

一御用御貯広示人植木左士拙者兩人御預け被仰付候段太田舍人へ被申渡候

一当所る墨出来候間他所取寄之義停止可相触之旨太田舍人へ被申渡

触案文差出置候 如翌十八日其旨相触候様申越候

一御用所御供并旅御用出立之節以来者銘々役所前へ出暇乞挨拶可致町奉行郡代ハ役所不被通候間出浮勘定奉行と一所ニ可及挨拶尤参着之節者昨年江戸表ニ而被仰出候通待受不及出仕候旨太田舍人へ演説有之候

一万人講以後ハ十一月分一ツ御止メ被遊候間其旨相心得候様太田舍人へ被申聞其段為心得内々大年寄講元共江申達置候

一御発駕付明朝出役仕候段御用番江相届御貸人馬大目附へ申達候

一堀田相模守殿領分当国勝南郡中原村伊八倅佐七夫婦二人小性町中  
村屋庄助養子ニ引受人別人願書御用所御聞濟ニ付大目附へ相渡置  
御聞届申渡候 同廿三日住宅証文差出候

一 下紺屋町原田屋佐助借屋ニ居候為本屋義兵衛并妻倅娘三人右六人  
小田中村庄屋清左衛門方へ引越度人別離願書差出し承り届ル

一 東新町南側綿屋忠兵衛家屋敷表口式間半裏行拾七間式分五厘役之  
所右家屋敷并土蔵一ヶ所長屋一ヶ所十一年已前卯之十月林田町辰  
野屋喜助取次ニ而質物ニ売貫式百匁借受候所元利返濟相濟候段届  
一札差出候

一 牢凌申付候処無別条段申出候嘉七為治

一 惣社見せ物無別条段申出尤昨日も右同断申出候且明日ハ御発駕付  
芝居不致候段出番相届候

一 惣社宮芝居小屋之者病氣故障有之候間他所もの四五人呼寄申度勸  
進元小原屋新治願差出藤本十兵衛へ懸合候処御聞届相濟候段申越  
候間承り届之段大年寄へ申達候

三月十八日 朝曇昼後快晴

一 御発駕ニ付七時出宅東新町茂渡藤右衛門方江罷越松之段江被為懸  
候注進ニ而升形江罷出御見立申上候尤御右之方升形之内江罷出供  
之者ニ間程下ヶ跡ニ烈ス御供頭名披露ニ而平伏仕早ニ而押御家老衆  
御通過迄相待御通過後直ニ罷帰リ帰リ懸御用番一学殿江御届ニ罷  
越直ニ登城仕最早御用所御退出ニ付大目附所江罷出御届申達帰宅  
供之者箱焼灯二張 一人半屋下番 若堂一人 定治 馬 両口 鎗

挟箱 合羽籠 草履取 都合拾人 大年寄も罷出候事

茂渡藤右衛門方ニ而湯漬可差出由之処及断茶煙草計帰リ懸ニ而不  
立寄候事下部下宿ニ而者茶漬差出候

一 及井野御預り役人津田与一左衛門水谷今五郎津田銀蔵之先達而銭  
相場付差遣候節之封印差戻及相答但一昨十六日之夕飛脚来り昨朝  
返書差遣候

一 御用日三八ニ相成候段大目附之被申聞候 但管子講尺も有之

一 播州網干余陸屋惣七一人例年之通八百屋もの卸売ニ昨日来候段宿  
中之町高尾屋勘七宿切手差出候六月十四日帰

一 播州網干塩屋伊兵衛一人例年之通荒物卸売昨日来候段中之町高尾  
屋勘七宿切手差出候六月十四日帰

一 昨日被仰出候他所墨売買ハ勿論他所之取寄候義以後停止被仰付尤  
是迄買込貯居候墨ハ七月迄ハ売買差免候得共其後者堅停止申付候  
町触差出候

一 御発駕ニ付兼田獄門取捨候様ニ昨日牢番江申付為取計候

一 御発駕ニ付例之通御先弘小頭一人平組新治一人御掃除見分二人孫八  
京町人留一人重助差出候

三月十九日 曇 昼後晴

一 左之通去ル十六日伺出差出候処一昨十七日伺之通被仰出今朝小頭  
部や目附出番二人説渡書役一人牢屋へ差出為取計候尤相濟候段御  
用番并大目附へ相届候

其方義父伊右衛門并諸親類義絶

元茅町木屋伊右衛門倅

亀之助

勘当之処伯父智宮脇町佐渡屋八左衛門方へ立帰

致醉狂不届候依之御領分追払申付以後

立帰令徘徊者可為曲事候

一 和田村弥吉と申もの咎牢舎申付候段郡代江差紙来依之差紙認昼廻  
る立合候様申付候

一 牢舎人助十郎佐右衛門病氣申出大年寄江申付候処北山修齊申付由  
申出候尤佐右衛門病氣之義江郡代江申遣候

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛一人例年之通紺屋形売来候段勝間田  
町山形屋喜兵衛宿切手差出候

一 播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛一人例年之通小間物卸売  
来候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出候

一 播州網干新在家村加賀屋善七弟忠次郎一人例年之通小間物卸売来  
候段勝間田町山形屋喜兵衛宿切手差出候

一 御使組荒木弁蔵役介権右衛門二階町高田屋治三郎引受人別人願書  
差出承り届ル

一 茅町大工七郎右衛門借屋ニ居候手嶋屋伊助去子三月四国遍路罷出  
候処今以不罷帰旨届出百日尋申付候

一 茅町北側ニ而藤原屋多右衛門家屋敷表口六間式尺裏行八間但五歩  
半役東隣ハ立具屋利兵衛西隣ハ大坂屋喜代八右家屋敷式百匁ニ相  
極大坂屋喜代八江売渡度願書差出承り届 同廿九日売券状出

一 惣社芝居六分札百四拾三枚三分札百八拾三枚之由無別条段出番届  
出候今日者小頭も差出候

三月廿日 曇

一 夜前更廻り申付候処左之町々閑貫不<sub>レ</sub>置候段十助嘉七申出吟味之  
上先格之通申付候様ニ大年寄へ申達候尤先格者過料三百文ツ、也  
尤月行事木札不受取八月行事ニ過料三百文申付候事且又月行事改

候も<sub>レ</sub>リ不見届罷帰候者番人三百文過料月行事叱ニ候

是八月行事木札不受取

月行事不念也

山形屋前  
鍛冶町

右同断 平田屋横戸川町

番人不念 紙屋前元魚町

右同断 嶋屋横二階町

右同断 広嶋屋船頭町

一 椿高下井田町分閑貫番所更廻り小頭又六書役新左衛門江夜前申付  
候処高石垣番所不<sub>レ</sub>居候由申出依之先格之通三夜分賃錢程過料申  
付候様又六へ申付候

一 今般芝居御免被成候ニ付何となく世上殊之外御制度相開候様ニ申  
触趣ニ付博奕相開候而者不相濟義ニ付博奕之義ハ弥堅相守候様ニ  
町触差出候

一 夜前宵之内片原紺屋町八木役右衛門方へ盜賊這入衣類持出候処北  
郷門兵衛前ニ而追落候由風聞有之候ニ付目明へ吟味申付候様小頭  
申付非人廻り之者江も稠數申付候様大年寄へも申達候

一 新魚町分新職人町江之通筋南側ニ而新魚町肥後屋宇吉家屋  
敷表口三間半裏行拾七間但老軒役東隣ハ堺町団扇屋太郎兵衛西隣  
ハ鳥屋与三兵衛右家屋敷此度下紺屋町福住屋吉右衛門取次ニ而五  
百匁之質入ニ書入来寅ノ三月切ニ月老歩半之利足ニ而借用致度願  
書差出承り届ル

一 惣社芝居無別条大札百三拾五枚小札九十六枚売之由出番届出候  
一夜前閑貫番不<sub>レ</sub>リ之処呼出遂吟味候処左之面々不調法之旨口書取  
大年寄差出先格之通何<sub>江</sub>過料三百文ツ、申付候様大年寄へ申付候  
尤月行事九ツ拍子木不打八月行事不念ニ而番人之咎ハ無之事

月行事 鍛冶町 鍛冶 伊三郎

同 戸川町 大工 伊右衛門

同 関貫番 二階町 長助

同 船頭町 久兵衛

長八

元魚町 猶右衛門

右六人夜前不<sub>レ</sub>り不調法ニ寄過料三百文つゝ明朝申渡候筈也

三月廿一日 雨

一坪井町川<sub>■</sub>屋藤助妻雲州ものニ而未人別人不致候処夜前夫藤助四

十間藏へ連出髪を切追放候間右妻致直訴候ニ付藏合孫左衛門ニ下

吟味致候様申付候処右女ハ五人組被預ケ賄入用ハ藤助差出候様ニ

申付藤助義ハ禁足申付置候段届出候藤助義禁足ニ而者 不宜候間組

合預ケニ申付候様大年寄へ申付候尤御用所并大目附江も及御樽置

候

三月廿二日 曇

一惣社芝居大札百貳拾三枚小札八拾六枚売候旨出番申出候

三月廿三日 雨

一因州智頭郡用ケ瀬村玉屋小兵衛娘東新大世屋佐助妻ニ引受度人別

入願御用番御聞濟ニ付大目附中江相渡置御聞届申達候 同廿九日住宅証文差出候

一森対馬守殿御預り所当国勝南郡倉見村仙之助伯母一人三丁目佐和

屋孫四郎引受人別人願御用番御聞濟ニ付大目附江相渡置御聞届申

達候 同廿八日住宅証文差出候

一百姓牢繕ニ付塩詰牢へ昨日移替昼廻り申付候

一御発駕ニ付人馬足銀百貳拾五匁七分六厘有之候旨問屋<sub>ノ</sub>小手形大年寄差出候

一西今町幸屋藤右衛門悴友吉義黒田要人殿江奉公ニ罷出桑山仲四郎と改号仕人別差除候様願書差出承り届

一坪井町浜屋源右衛門<sub>ノ</sub>布原村斉右衛門へ銀札百三拾三匁八厘田地質入ニ貸置并同村兵助へ銀札百五拾匁田地質入ニ而貸置候得共筋

不申段願書差出郡代所江相廻候

一惣社芝居大札八拾四枚小札貳拾八枚売無別条段届出候

三月廿四日 雨

一惣社芝居大札貳拾四枚小札拾壹枚也別条無之今日切ニ而仕廻候段

出番届出其旨大目附へ翌廿五日相届候

一去ル廿日関貫番所致不埒候鍛冶町月行事伊三郎戸川町月行事伊右

衛門二階町番人長助船頭町番人久兵衛長八元魚町番人猶右衛門右

五人過料錢三百文つゝ合拾六匁九分貳厘大年寄差出候

三月廿五日 雨

一近々河原町芝居興行ニ付東西大橋へ建札致度并興行中町方太鼓打

廻度段願書差出一学殿江及御樽候処御聞濟ニ付大目附江も手紙ニ

而申達置御聞届申達候

一右芝居中諸<sub>レ</sub>り火之元等受負証文勸進元差出候并役者名面書付差

出候

一町分ニ而見せ物并芝居致興行候義享保廿一<sub>丙辰</sub>年四月於二階町焼

跡致興行之義有之其後無之事ニ付例無之依之大年寄出役等之義内々

伺出諸吟味役者折々差出見計候<sub>而</sub>も可然義ニ候得共大年寄ハ出役

と申而相詰候も場合不相応之様ニ奉存依之郡代所承合候所在分ニ  
而者大庄屋出役と申姿ニ而罷出候得共詰而者不出折々罷出候所棧  
數席論之義ニ而大庄屋ハ出役と申張御徒目附ルハ折々見廻候事ニ  
而出役と申姿ニ而者無之と互ニ致争論弁書差出有之此砌〔〕伺中ニ  
而被仰出有之候迄ハ先是迄之通ニ致置候様御差圖有之候由松岡治  
部助申聞依之御用番一学殿江相伺候処大年寄出役と申而日々相詰  
候も余り軽々敷如何成もの候様ニ被申聞拙者同意ニ付左候得者諸  
吟味之もの日々見廻り申付大年寄ニ者出役不申付併芝居小屋并諸  
ノリ等之趣者一度位ハ見改置候様可申付哉之旨相伺候処其趣ニ宜  
取計候様被仰聞候ニ付左之通申渡候

大年寄ハ芝居中不及出役併小屋懸ケ并諸ノリ之趣者老度位ハ  
見改可置事

諸吟味役者日々老度つゝ見廻り諸ノリ見届可申事但不及相詰  
候

一小麦拾九俵今津屋孫十郎船積申出孫八為治改  
三月廿六日 兩

一高石垣関貫番賃拾四匁五分藤十郎差出候

一元魚町伊勢屋長右衛門売用ニ付撰州大坂道修町大和屋新右衛門方

へ廿日計之逗留ニ而廿八日出立願出承届 四月十七日附ル

一西新町稻屋忠次郎借屋ニ居候文助并悻三之丞石家内式人林田上之

丁太助方江引越度人別離願承り届

一二階町紙屋兵助娘妊娠之処月取間違不届出病氣ニ而離胎不致死去

ニ付遂吟味当人ハ勿論組合并医師ら一札取差出承り届

一河原町芝居興行ニ付大溝ニ水をせき溜度願出承り届ル

三月廿七日

一撰州豊嶋郡池田村月野木町植木屋平兵衛一人例年之通昨日来候段  
新魚町鳥屋与三右衛門宿切手差出

一二月人別改

出生 式拾三人 人別入 三拾人 人別除九人

死失 九人 右差引ノ三拾四人増

一御藏米八拾五匁五分 町米八拾老匁五分

三月廿八日 曇

一御用日付登城并管子講尺有之

一森对馬守殿御預り所当国久米南条郡山手村和助娘小性町米屋菊次

郎妻ニ引受人別入願御用番御聞濟ニ付大目附へ相渡置御聞届申達

候 四月五日住宅証文出ル

一坪井町川津屋藤助夫婦喧嘩内濟仕度申出候付其旨取計候段御用番

并大目附へ及御囀置候

一左之通申渡候様太田舍人被申聞立合例之通於白砂被申渡相濟候段

太田舍人江申達候

御折袴之御札差上 元魚町亀屋

奇特ニ候此段申渡候 定次郎

一左之通相触候様申達置候処昨日町年寄不残大年寄宅江呼寄演達仕  
候段大年寄申出候右大意左之通

昨年来米高直之所当年も麦作等不宜越并此節之時候之趣ニ而者  
当秋飢饉之程も難計候得者銘々心をひ少々ツ、ニ而も喰延し

候様ニ致覚悟飢饉之手当心懸專要ニ可致并衣服等も追々華美ニ  
者移り易きものニ候得者右之心得ニ而随分質素相守可申候今度  
芝居にも目立候ものハ被召捕候様ニ被仰付候御沙駄(マツ)ニ相聞候間  
別而銘々相慎可申候

一他所墨売買并他所取寄候義去ル十七日差当「」相触候所何とや  
ら墨之座申付候様之取沙駄致候ものも有之哉之趣相聞心得違之事  
ニ候当所ニ而墨製覚候ニ付誰人ニ而も右仕込望之ものも有之候ハ、  
致覚候ものへ申談銘々勝手次第ニ右仕入可致候尤是迄他所墨卸売  
候様ニ延売候様ニ申付差支無之様ニ申付置候間其旨心得違無之様  
ニ演達候様ニ大年寄へ申付候

一公儀御代々様御証月は迄殺生御差留被成候所以後者権現様之外ハ  
御構不被成候間殺生遊山勝手次第「」致候旨御触書到来四月十七  
日計相慎可申事余ハ不苦

一大豆六拾俵植田屋三之丞船積申出定治元蔵改

一戸川町作人長太郎妻男子出生月取間違之義届出例之通取計候様ニ  
申達候

三月廿九日 晴

一貳拾歩一銀拾匁大年寄相納候

一札元山本台蔵嫁娶候処石打致難義候段大年寄へ届出小頭又六平組  
新治為治元蔵十助嘉七差出候処最早毫々散相知不申候段相届候依  
之不相届候

津山郷土博物館紀要第十八号

津山松平藩町奉行日記十二

平成十六年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地  
株式会社 廣陽本社

印刷 岡山県津山市田町二二

